

令和7(2025)年度

製革業実態調査報告書



令和8年3月

一般社団法人 日本タンナーズ協会

一般社団法人 日本皮革産業連合会

目 次

実態調査結果

1. 実態調査の目的と経過	1
1-1. 目 的	1
1-2. 調査要項	1
① 調査手段	1
② 調査対象	1
③ 調査日程	1
④ 調査項目	1
⑤ 調 査 票	1
⑥ 回収結果	2
⑦ 留意事項	2
⑧ 集計・分析担当	2
2. 日本の製革業者の実態	3
2-1. 製革業者数について	3
2-2. 従業者規模別にみる製革業者の現状	4
2-3. 年代別・性別従業者数にみる製革業者の現状	8
2-4. 製革業者代表者の年齢構成	11
2-5. なめしの区分	12
2-6. 主な使用原皮	14
3. 生産販売動向	17
3-1. 国内革種別生産販売枚数・仕向け先別生産販売（月間平均）動向	17
3-2. 革種による用途別・仕向け先別生産販売（月間平均）動向	27
3-3. 主要革種別地域別・用途別月間平均生産販売動向（詳細）	35
① 成 牛 革	35
② 豚 革	44
③ 山 羊 革	48
④ 羊 革	53
⑤ 牛 床 革	57
4. 日本の製革業者の生産能力と生産実績	62
4-1. 生産能力と生産実績	62
① 生産能力と生産実績の経年変化及び操業率	62

② 地区別・革種別生産能力と生産実績	67
③ 革種別なめし工法・なめし製造工程比率	77
5. 日本の製革業者の経営についての意識	78
5-1. 今後の経営について	78
① 経営に対する考え方	78
② 経営に対する考え方の理由	82
5-2. 利益向上に向けての取り組みについて	86
6. 地区別集計	89
① 松原地区	89
② 誉田地区	91
③ 沢田地区	93
④ 高木地区	95
⑤ 御着地区	97
⑥ 川西地区	99
⑦ 大阪他地区	101
⑧ 和歌山地区	103
⑨ 東京地区	105
⑩ 埼玉他地区	107
7. 巻末資料	109
7-1. 生産販売実績	109
7-2. 生産実績内訳	119
7-3. なめし革輸入統計	123
調査票見本	

図表の内容

表 1 - 1 . 実態調査票の回収結果	2
表 2 - 1 . 製革業者数（日本タンナーズ協会会員数）の推移	3
図 2 - 1 . 従業者数別企業数構成比（令和 7 年）	4
表 2 - 2 . 従業者数別企業数構成比の推移	4
表 2 - 3 . 従業者数別企業数と男女別従業者数（令和 7 年）	5
図 2 - 2 . 地区別従業者数別企業数構成比推移	6
図 2 - 3 . 地区別 1 企業あたり平均従業者数推移	7
図 2 - 4 . 年代別従業者数比率（令和 7 年）	8
図 2 - 5 . 年代別従業者数比率推移	8
図 2 - 6 . 地区別従業者年代別構成比推移	9
表 2 - 4 . 従業者年代別地区別従業者数（令和 7 年）	10
図 2 - 7 . 代表者年齢構成（令和 7 年）	11
表 2 - 5 . 地区別年齢別代表者数及び構成比（令和 7 年）	11
図 2 - 8 . なめし区分/全国計（令和 7 年）	12
表 2 - 6 . 関西地区 / 関東地区別なめし区分（令和 7 年）	12
図 2 - 9 . 地区別なめし区分（令和 7 年）	13
図 2 - 10 . 主な原皮使用率（令和 7 年）	14
図 2 - 11 . 地区別主な原皮使用率（令和 7 年）	15
表 2 - 7 . 地区別主な使用原皮（令和 7 年）	16
図 3 - 1 . 日本産なめし革（ひと月あたり平均）生産販売枚数推移	17
図 3 - 2 . 革種別月間平均生産販売枚数構成比（令和 7 年）	18
図 3 - 3 . 主要革種の月間平均生産販売枚数推移	18
図 3 - 4 . 全革種月間平均生産販売枚数における仕向け先比率（令和 7 年）	19
図 3 - 5 . 革種別月間平均生産販売枚数における仕向け先比率（令和 7 年）	19
図 3 - 6 . 月間平均輸出枚数推移（全革種計）	20
図 3 - 7 . 革種別月間平均輸出枚数推移	20
図 3 - 8 . 地区別月間平均生産販売枚数における革種比率（令和 7 年）	22
表 3 - 1 . 革種別地区別仕向け先別月間平均生産販売枚数（令和 7 年）	24
表 3 - 2 . 革種別地区別月間平均生産販売枚数 5 年間推移	25
図 3 - 9 . なめし革月間平均生産販売枚数別企業数構成（令和 7 年/地区別）	26
図 3 - 10 . 全革種月間平均生産販売枚数用途構成比（令和 7 年）	27
表 3 - 3 . 革種別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数（令和 7 年）	29
図 3 - 11 . 革種別月間平均生産販売枚数における用途構成比（令和 7 年）	30
表 3 - 4 . 革種別用途別月間平均生産販売枚数 5 年間推移	31

図 3 - 12. 地区別月間平均生産販売枚数における用途構成比 (令和 7 年)	32
表 3 - 5. なめし革の地区別用途別月間平均生産枚数 (令和 7 年/詳細)	34
図 3 - 13. 成牛革の用途別月間平均生産販売枚数推移	35
図 3 - 14. 成牛革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率 (令和 7 年)	36
図 3 - 15. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率 (令和 7 年)	37
表 3 - 6. 成牛革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年)	39
表 3 - 7. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 5 年間推移	40
表 3 - 8. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年/詳細)	42
表 3 - 9. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数別企業数	43
図 3 - 16. 豚革の用途別月間平均生産販売枚数推移	44
図 3 - 17. 豚革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率 (令和 7 年)	45
図 3 - 18. 豚革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率 (令和 7 年)	45
表 3 - 10. 豚革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年)	46
表 3 - 11. 豚革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年/詳細)	47
図 3 - 19. 山羊革の用途別月間平均生産販売枚数推移	48
図 3 - 20. 山羊革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率 (令和 7 年)	49
図 3 - 21. 山羊革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率 (令和 7 年)	49
表 3 - 12. 山羊革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年)	51
表 3 - 13. 山羊革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年/詳細)	52
図 3 - 22. 羊革の用途別月間平均生産販売枚数推移	53
図 3 - 23. 羊革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率 (令和 7 年)	54
図 3 - 24. 羊革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率 (令和 7 年)	54
表 3 - 14. 羊革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年)	55
表 3 - 15. 羊革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年/詳細)	56
図 3 - 25. 牛床革の用途別月間平均生産販売枚数推移	57
図 3 - 26. 牛床革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率 (令和 7 年)	58
図 3 - 27. 牛床革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率 (令和 7 年)	58
表 3 - 16. 牛床革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年)	60
表 3 - 17. 牛床革の地区別用途別月間平均生産販売枚数 (令和 7 年/詳細)	61
図 4 - 1. 月間平均生産能力/月間平均生産実績 (丸革・全革種計)	62
図 4 - 2. 生産能力に対する生産実績比率推移	63
図 4 - 3. 主要革種別月間平均生産能力/月間平均生産実績 (令和 2 年～令和 7 年)	64
表 4 - 1. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績の対比	66
表 4 - 2. 地区別月間平均生産能力/月間平均生産実績 (令和 7 年)	68
表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の 5 年間推移①	70
表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の 5 年間推移②	71

表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和 7 年実績①	72
表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和 7 年実績②	73
表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和 7 年実績③	74
表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和 7 年実績④	75
表 4 - 4 . 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和 7 年実績⑤	76
図 4 - 4 . 革種別なめし比率 (令和 7 年)	77
図 4 - 5 . 革種別原材料比率 (令和 7 年)	77
図 5 - 1 . 経営に対する考え方 (令和 7 年)	78
表 5 - 1 . 「経営に対する考え方」の 4 年間回答対比	79
図 5 - 2 . 従業者数別にみる経営に対する考え方 (令和 7 年)	80
図 5 - 3 . 地区別経営に対する考え方・回答構成比 (令和 7 年)	80
図 5 - 4 . 休業後の意向 (令和 7 年)	82
図 5 - 5 . 経営に前向きな要因	82
図 5 - 6 . 経営に前向きな要因 (令和 7 年・関西/関東比較)	83
図 5 - 7 . 経営の不安材料	84
図 5 - 8 . 経営の不安材料 (令和 7 年・関西/関東比較)	84
図 5 - 9 . コスト高で採算が取れない要因	85
図 5 -10 . 利益向上に向けての取り組み (全体・令和 7 年)	86
図 5 -11 . 利益向上に向けての取り組み (関西・令和 7 年)	87
図 5 -12 . 利益向上に向けての取り組み (関東・令和 7 年)	87

実態調査結果

1. 実態調査の目的と経過

1-1. 目的

当協会が実施している実態調査事業は製革業の全容を知る上での唯一の資料として、業界の内外を問わず各方面からも大きな評価を受けている。今回も当協会会員のみならず非会員も含めた、全企業を対象に調査を実施した。

調査項目は、例年欠かすことなく行ってきた全体調査である。すなわち生産販売量の変化及び操業率の状況を最重点項目とし、多方面から詳細に分析した。同時に、経営維持についての意識調査も行い、経営者の現在の心境を把握することに努めた。

本調査事業は昭和54年の当協会設立時から行われており、本年度も昨年度に引き続き（一社）日本皮革産業連合会の補助事業として、製革業全体の活動状況の骨格を反映する各データに関して、全体調査に絞り込んで調査を行ったものである。

報告書では、過去の調査結果との比較を重視すると共に、より分かり易く、見やすい形にしている。この調査結果を内部だけではなく対外的にも発信できるように、まずは日本の皮革産業が現在どのような状況となっているのかを一目で把握できる様に、可能な限りグラフで集計結果を表している。

1-2. 調査要項

① 調査手段

調査にあたっては各支部による配布・回収とし、巡回及び持参・面接方式で行った。

② 調査対象

当協会の会員及び非会員の全製革業者を対象とした。非会員の調査には各支部の協力を得て、非会員の方々に協力をお願いした。尚、令和7年8月1日現在の地区別の会員数は下記の通りで、全国合計は昨年272社から12社減少している。

松原	67社	誉田	43社	沢田	12社	高木	56社
御着	22社	川西	10社	大阪他	9社	和歌山	7社
東京	25社	埼玉他	9社			全国合計	260社

③ 調査日程

調査は、令和7年8月1日(金)から8月29日(金)にかけて一斉に行った。

④ 調査項目

本調査事業開始時から一貫して行われている以下の項目に関する調査を行った。

- 1) 事業の概要
- 2) 生産販売動向
- 3) 生産能力及び最近の生産実績
- 4) 経営意識調査

⑤ 調査票

調査票の様式は巻末資料の通り。

⑥ 回収結果

令和4年調査から令和7年調査までの回収結果を表1-1にとりまとめた。これらの全回収数の中には無記入もあるため、各項目の集計数は異なっている。

⑦ 留意事項

生産販売量、生産能力及び生産実績等の項目で集計している数字に関しては、いずれも令和7年1月から7月までのひと月あたり平均の生産販売（出荷）枚数として算出した数字である。1年間の数量、平均数値ではないことを留意願いたい。

⑧ 集計・分析担当

クルーシャルモーメント株式会社

表1-1. 実態調査票の回収結果

(社)

項目 年 度 地区	会 員 数				会 員 提 出 数				非 会 員 提 出 数				回 収 合 計				回収合計に対する 非会員の割合(%)			
	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7
松原	74	74	69	67	74	74	69	67	0	0	0	0	74	74	69	67	0	0	0	0
誉田	44	44	43	43	44	43	42	43	0	0	0	0	44	43	42	43	0	0	0	0
沢田	16	14	12	12	16	14	12	12	0	0	0	0	16	14	12	12	0	0	0	0
高木	63	62	60	56	62	59	60	56	6	2	2	1	68	61	62	57	8.8	3.3	3.2	1.8
御着	25	24	22	22	22	23	22	22	0	0	0	0	22	23	22	22	0	0	0	0
川西	10	10	10	10	8	10	10	10	0	0	0	0	8	10	10	10	0	0	0	0
大阪他	9	9	9	9	7	7	8	9	0	0	0	0	7	7	8	9	0	0	0	0
和歌山	7	7	7	7	7	7	7	6	0	0	0	0	7	7	7	6	0	0	0	0
関西計	248	244	232	226	240	237	230	225	6	2	2	1	246	239	232	226	2.4	0.8	0.9	0.4
東京	33	29	28	25	31	26	28	25	0	1	1	1	31	27	29	26	0	3.7	3.4	3.8
埼玉他	12	11	12	9	11	10	9	9	2	2	0	0	13	12	9	9	15.4	16.7	0	0
関東計	45	40	40	34	42	36	37	34	2	3	1	1	44	39	38	35	4.5	7.7	2.6	2.9
全国計	293	284	272	260	282	273	267	259	8	5	3	2	290	278	270	261	2.8	1.8	1.1	0.8

※会員数は令和7年8月1日現在

2. 日本の製革業者の実態

本調査では、企業数、各企業の従業者数、従業者数の変化、生産販売動向及び操業率、現在の生産販売、経営についての意識等を重点項目として実施した。

2-1. 製革業者数について

日本にある製革業者の企業数について、(一社)日本タンナーズ協会の会員数を元にその推移をみた。表2-1は平成28年から令和7年までの10年間の(一社)日本タンナーズ協会の会員数と、アンケート調査により判明した休業者数の推移である。まず会員の総数の推移をみると、この10年で51社の減少となっている。内訳としては関西の製革業者が35社の減少、関東の製革業者が16社の減少である。こうした減少幅は年々大きくなっている。一方の休業者数は、この10年で一見大きな変化はみえないが、会員数の減少という背景があるということは、実質廃業している製革業者がいる中での休業者数の推移であり、休業者数が維持されていることは、毎年新たに廃業者数と同数程度の休業者数が出現しているということになる。

ここ数年、コロナ禍によって休業することになった製革業者が、再開の目処が立たず、ここに来て廃業のタイミングになった製革業者も多いと思われる。市場における皮革製品の動きを見ても、依然として国内の靴及びバッグメーカーは厳しい状況が続いており、必然と国内皮革製品メーカーを販売の対象とした製革業者の経営も厳しくなっている。この状況下では、従来のやり方(販路展開、製品内容など)ではこうした流れを止めることは出来ず、新たな販路の開拓、これまで以上に付加価値を付けた製品作りを進めていかなければならない。また今後、業界全体として何らかの策を練っていかないとこの流れは止められないと思われる。

表2-1. 製革業者数(日本タンナーズ協会会員数)の推移 (人/社)

地区	年度	会 員 数										休 業 社 数									
		平28	平29	平30	令1	令2	令3	令4	令5	令6	令7	平28	平29	平30	令1	令2	令3	令4	令5	令6	令7
松原		75	82	82	80	75	74	74	74	69	67	12	11	12	14	8	12	13	14	13	13
誉田		48	49	48	48	48	48	44	44	43	43	0	5	8	7	9	11	9	9	8	11
沢田		16	16	16	16	16	16	16	14	12	12	4	4	4	4	4	4	4	2	0	0
高木		67	71	69	65	66	64	63	62	60	56	11	10	9	8	7	7	8	8	10	7
御着		24	26	26	25	26	26	25	24	22	22	1	3	4	5	4	4	3	3	4	3
川西		11	12	12	12	12	12	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪他		10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	2	2	1	0	2	0	0	0	1	2
和歌山		10	10	9	8	7	7	7	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関西計		261	276	271	263	259	256	248	244	232	226	30	35	38	38	34	38	37	36	36	36
東京					41	40	34	33	29	28	25	4	4	2	1	4	1	1	1	1	0
埼玉他		50	58	58	13	13	13	12	11	12	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
関東計		50	58	58	54	53	47	45	40	40	34	4	4	3	1	4	1	1	1	1	0
全国計		311	334	329	317	312	303	293	284	272	260	34	39	41	39	38	39	38	37	37	36

※会員数は毎年8月1日現在

2-2. 従業者規模別にみる製革業者の現状

今回の調査回答企業数261社（休業中の企業を含む）を、従業者数別に1～4人、5～9人、10～19人、20～39人、40人以上の5分類としてその現状をみた。また、休業中の企業は1～4人の企業に含めている。下記の図2-1は、今回の調査回答企業について従業者数別の構成を表したものである。1～4人規模の企業が全体の51.7%（135社）、5～9人規模の企業が29.5%（77社）となり、合わせて10人未満の企業が全体の8割強を占める状況は、少なくとも令和1年からの7年間は継続した結果となっている。その他、10～19人規模の企業が12.6%（33社）、20～39人規模の企業が3.8%（10社）、40人以上の企業が2.3%（6社）となった。

また令和3年調査結果から今回調査結果までの直近5年間の推移（表2-2）をみると、やはり1～4人規模の企業数の減少が目立っており、この5年間で40社近い減少となっている。従業員数が比較的多い企業の企業数は大きな変化はみられない。また企業数の減少によって、全体の従業員数も必然と減少しているが、1企業平均の従業員数は若干ではあるが、毎年上昇傾向にある。

図2-1. 従業者数別企業数構成比(令和7年)
n=261社（休業中の企業数含む）

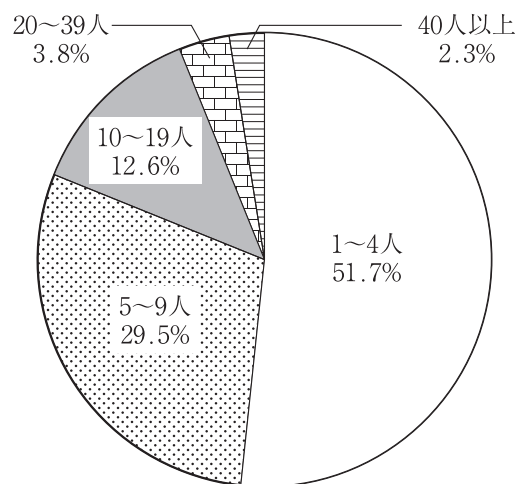


表2-2. 従業者数別企業数構成比の推移

	企業数	1～4人	5～9人	10～19人	20～39人	40人以上	従業者数	1企業平均
令3	305社	174社 (57.0%)	74社 (24.3%)	40社 (13.1%)	11社 (3.6%)	6社 (2.0%)	2,425人	8.0人
令4	290社	161社 (55.5%)	72社 (24.8%)	40社 (13.8%)	10社 (3.4%)	7社 (2.4%)	2,431人	8.4人
令5	277社	149社 (53.8%)	79社 (28.5%)	34社 (12.3%)	10社 (3.6%)	5社 (1.8%)	2,337人	8.4人
令6	269社	145社 (53.9%)	72社 (26.8%)	36社 (13.4%)	10社 (3.7%)	6社 (2.2%)	2,335人	8.7人
令7	261社	135社 (51.7%)	77社 (29.5%)	33社 (12.6%)	10社 (3.8%)	6社 (2.3%)	2,302人	8.8人

※（ ）内は従業者数別の企業数の構成比

表 2 - 3. 従業者数別企業数と男女別従業者数(令和7年)

(社 / 人)

地区	従業者規模	企業数	従業者数			地区	従業者規模	企業数	従業者数			地区	従業者規模	企業数	従業者数		
			男	女	計				男	女	計				男	女	計
松原	1~4	25	45	17	62	御着	1~4	6	9	4	13	関西計	1~4	91	155	69	224
	5~9	17	72	49	121		5~9	10	48	16	64		5~9	64	278	154	432
	10~19	8	62	43	105		10~19	2	13	7	20		10~19	25	210	124	334
	20~39	3	52	29	81		20~39	1	15	15	30		20~39	6	102	54	156
	40~69	0	0	0	0		40~69	0	0	0	0		40~69	2	67	28	95
	70以上	1	47	70	117		70以上	0	0	0	0		70以上	2	102	86	188
	休業中	13	9	6	15		休業中	3	3	0	3		休業中	36	27	14	41
	小計	67	287	214	501		小計	22	88	42	130		合計	226	941	529	1,470
誉田	1~4	20	31	14	45	姫路計	1~4	31	52	26	78	東京	1~4	8	20	3	23
	5~9	11	47	31	78		5~9	25	110	50	160		5~9	9	48	16	64
	10~19	1	12	6	18		10~19	12	107	54	161		10~19	7	67	21	88
	20~39	0	0	0	0		20~39	1	15	15	30		20~39	2	49	10	59
	40~69	0	0	0	0		40~69	0	0	0	0		40~69	0	0	0	0
	70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0
	休業中	11	6	5	11		休業中	10	9	3	12		休業中	0	0	0	0
	小計	43	96	56	152		小計	79	293	148	441		小計	26	184	50	234
沢田	1~4	5	11	1	12	川西	1~4	7	12	7	19	埼玉他	1~4	0	0	0	0
	5~9	4	16	7	23		5~9	1	6	2	8		5~9	4	22	6	28
	10~19	2	11	16	27		10~19	1	5	5	10		10~19	1	9	1	10
	20~39	0	0	0	0		20~39	1	16	4	20		20~39	2	45	16	61
	40~69	1	26	15	41		40~69	0	0	0	0		40~69	1	52	9	61
	70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0		70以上	1	308	130	438
	休業中	0	0	0	0		休業中	0	0	0	0		休業中	0	0	0	0
	小計	12	64	39	103		小計	10	39	18	57		小計	9	436	162	598
たつの計	1~4	50	87	32	119	大阪他	1~4	2	4	1	5	関東計	1~4	8	20	3	23
	5~9	32	135	87	222		5~9	2	8	8	16		5~9	13	70	22	92
	10~19	11	85	65	150		10~19	0	0	0	0		10~19	8	76	22	98
	20~39	3	52	29	81		20~39	1	19	6	25		20~39	4	94	26	120
	40~69	1	26	15	41		40~69	1	41	13	54		40~69	1	52	9	61
	70以上	1	47	70	117		70以上	1	55	16	71		70以上	1	308	130	438
	休業中	24	15	11	26		休業中	2	3	0	3		休業中	0	0	0	0
	小計	122	447	309	756		小計	9	130	44	174		合計	35	620	212	832
高木	1~4	25	43	22	65	和歌山	1~4	1	0	3	3	全国計	1~4	99	175	72	247
	5~9	15	62	34	96		5~9	4	19	7	26		5~9	77	348	176	524
	10~19	10	94	47	141		10~19	1	13	0	13		10~19	33	286	146	432
	20~39	0	0	0	0		20~39	0	0	0	0		20~39	10	196	80	276
	40~69	0	0	0	0		40~69	0	0	0	0		40~69	3	119	37	156
	70以上	0	0	0	0		70以上	0	0	0	0		70以上	3	410	216	626
	休業中	7	6	3	9		休業中	0	0	0	0		休業中	36	27	14	41
	小計	57	205	106	311		小計	6	32	10	42		合計	261	1,561	741	2,302

図2-2. 地区別従業員数別企業数構成比推移

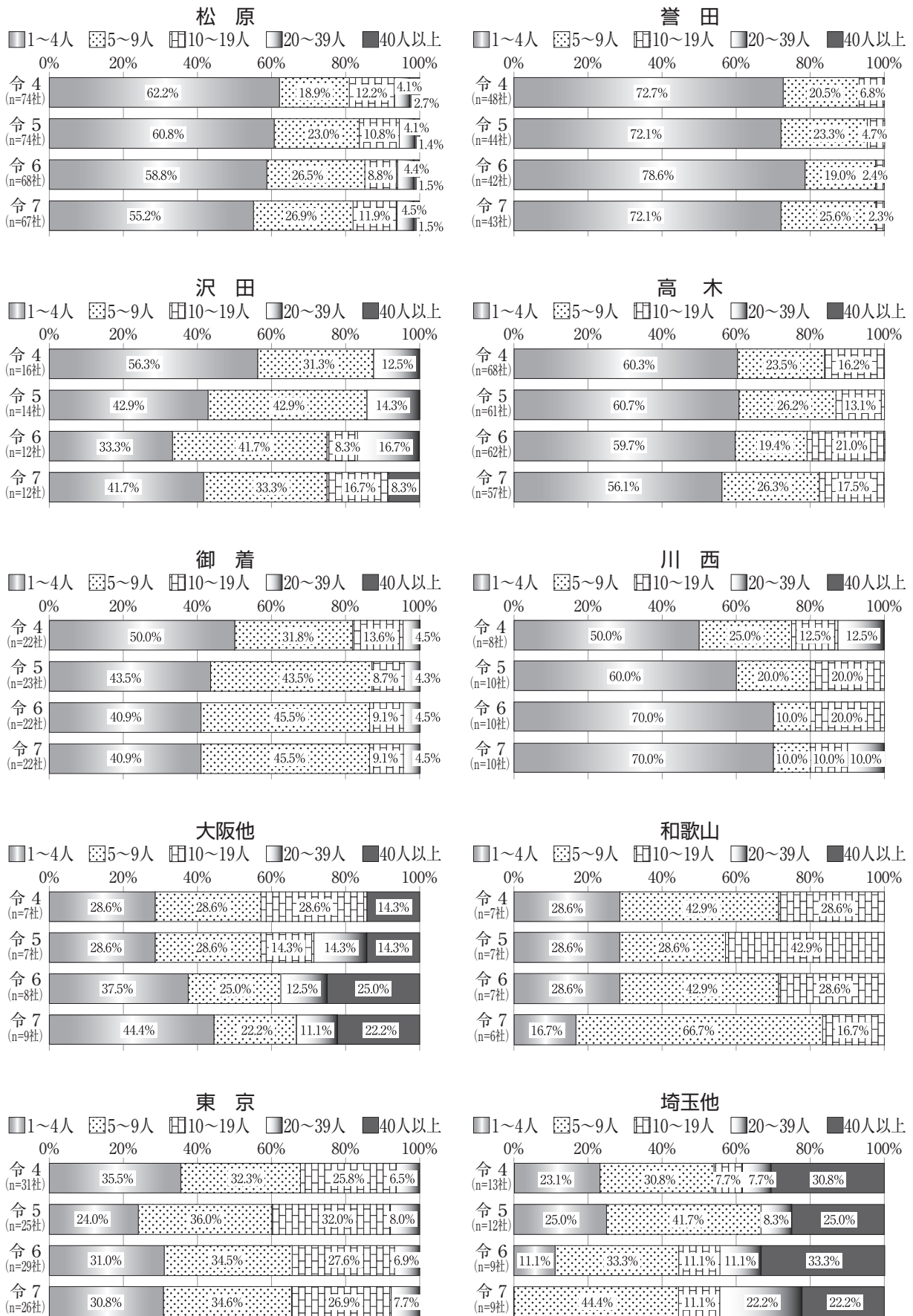
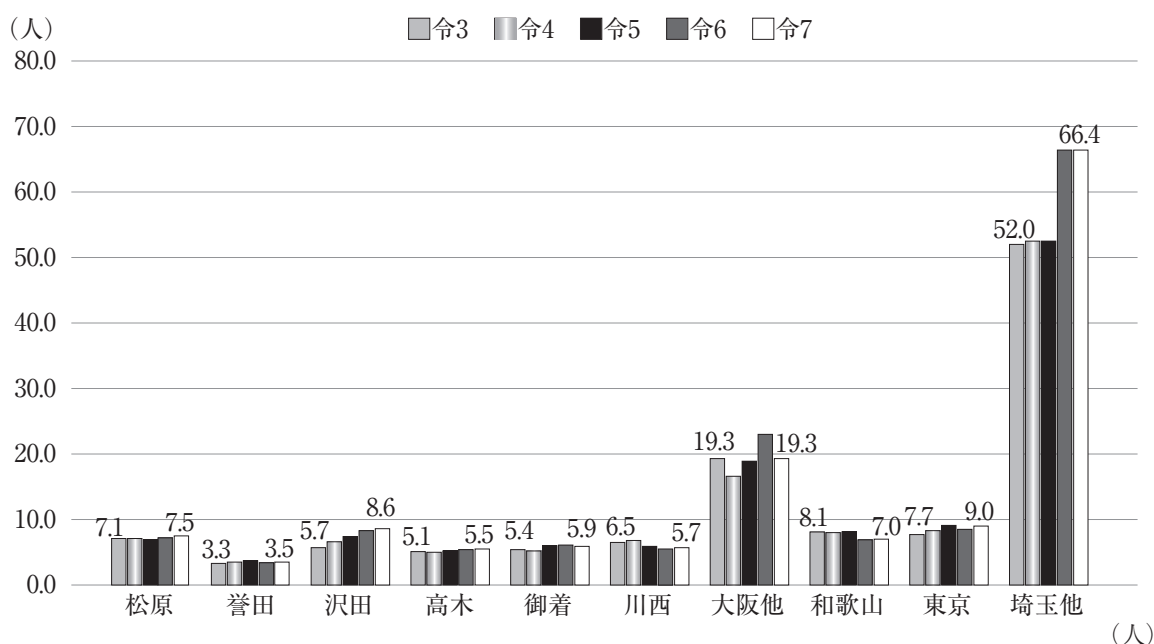


表2-3及び図2-2は、今回の調査における地区別の従業者数別の企業数及び男女別の従業者数の集計と、従業者数別企業数比率の推移を表したものである。前記したように業界全体として、企業数、従業者数とも減少トレンドが続いているが、休業者数が多い地域としては、松原地区、誉田地区、高木地区などが挙げられる。また1社あたりの従業員数が多い地区は、埼玉他地区、大阪他地区が挙げられる。一方で男女別の従業者数をみると、男性従業者数の全体平均の比率は67.8%、女性従業者の比率は32.2%となった。地区別にみると、女性従業員の比率が最も高い地区は松原地区で、女性従業者の比率は42.7%となっている。逆に女性従業者の比率が最も低いのは東京地区で21.4%となっている。

次に地区別に従業者数別企業数の比率を経年推移でみた場合、川西地区、大阪他地区を除く地区は1～4人企業の構成比が年々減少傾向にあることがわかる。逆に従業員数の多い企業の比率が上がっている地区も見受けられるが、その背景には休業している企業の廃業や、小規模企業数の減少によって必然と従業員数の多い企業の比率が上がっている等の理由がある。また逆に1～4人企業の比率が上がっている地区は、5～9人規模企業における従業員数の減少によって、1～4人企業の仲間入りをしているケースもあるなど、一概に善し悪しの判断は難しい。

図2-3は、地区別の1企業あたりの平均従業者数の推移を表したものである。全体的に企業数そのものの減少はみられるため、1企業あたりの平均従業者数が上昇することが予想されるが、令和3年の数値との比較では、川西地区と和歌山地区を除く地区は総じて上昇している。ただ川西地区、和歌山地区とも企業数が増えているわけではなく、且つ1企業当たりの平均従業者数が減少しているとなると、この状況は他地区より深刻に受け止めなければならない。

図2-3. 地区別1企業あたり平均従業者数推移



	松原	誉田	沢田	高木	御着	川西	大阪他	和歌山	東京	埼玉他
令3	7.1	3.3	5.7	5.1	5.4	6.5	19.3	8.1	7.7	52.0
令4	7.1	3.5	6.6	5.0	5.2	6.8	16.6	8.0	8.3	52.5
令5	6.9	3.7	7.4	5.2	6.0	5.9	18.9	8.1	9.1	52.5
令6	7.2	3.4	8.3	5.4	6.1	5.5	23.0	6.9	8.5	66.4
令7	7.5	3.5	8.6	5.5	5.9	5.7	19.3	7.0	9.0	66.4

2-3. 年代別・性別従業者数にみる製革業者の現状

次に各企業の年代を30歳未満、30歳代、40歳代、50歳以上の4分類として、現在の製革業者の従業者の構造をみた。図2-4はその分類を基に年代別従業者数の比率を表したものである。その結果、従業者が50歳以上の比率が53.8%となり、前年の比率(53.4%)よりやや上昇している。

また図2-5で、ここ5,6年の推移をみると、やはり業界の高齢化が進んでいることは明らかである。その高齢者の比率が高まっている一方で、30歳未満の比率も少しずつではあるが高まっていることが表れている。逆に働き盛りである30代の従業者の比率が低下傾向にある。こうした状況を総合的に考えると、30代の従業者が長続きをせず、途中で退職、そして新たに若年層の雇用といった状況が繰り返されている感じが窺えること、またその若年層の雇用においても、外国人従業者の採用が増加しているなどの結果が反映されているとも考えられる。

図2-6は地区別の従業者の年代構成の推移を表したものであるが、規模の大きい企業が存在する地区でもやや傾向は異なっており、埼玉他地区は比較的バランスよく、構成比もそれほど変化なく推移しているが、大阪他地区では30代、40代の従業者の比率が高まっている推移となっている。また企業数の多い地区で、松原地区では30代未満の増加、50歳以上の減少というトレンドであり、高木地区はその逆のトレンドを示している。このように地区ごとにこの状況は異なっている。また表2-4は地区別にその年代別従業者数に男女数を加えたものであるが、松原地区の女性比率、特に20代、30代の合計でも女性の比率が男性よりも高くなっている点は、他地区とは異なる傾向といえる。

図2-4. 年代別従業者数比率(令和7年)
(全国・n=2,302人)

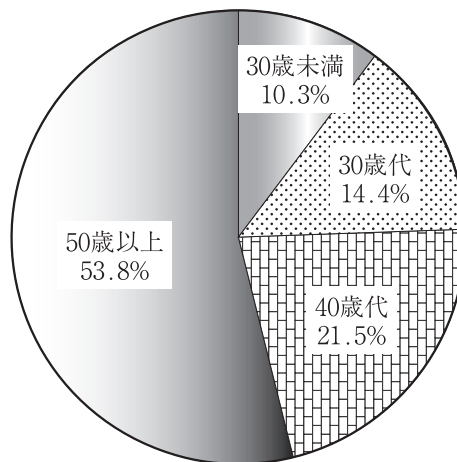


図2-5. 年代別従業者数比率推移

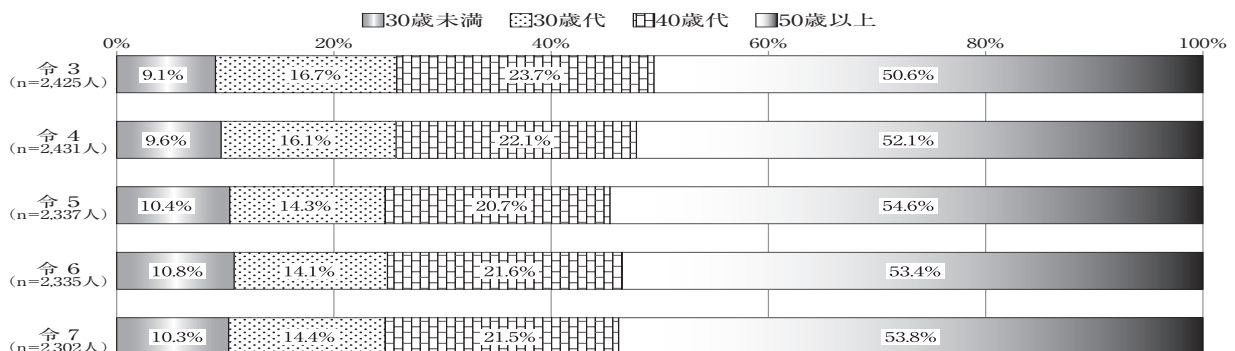


図2-6. 地区別従業者年代別構成比推移



表 2 - 4. 従業者年代別地区別従業者数(令和7年)

(人)

地区		年齢		20歳未満		20歳代		30歳代		40歳代		50歳以上		合 計		
		性別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
松 原	従業者数			24	43	47	34	48	23	168	114	287	214	501		
	年代別比率(%)			13.4		16.2		14.2		56.3		57.3	42.7			
誉 田	従業者数			2	1	7	11	19	4	68	40	96	56	152		
	年代別比率(%)			2.0		11.8		15.1		71.1		63.2	36.8			
沢 田	従業者数	1		6	4	10	12	20	10	27	13	64	39	103		
	年代別比率(%)	1.0		9.7		21.4		29.1		38.8		62.1	37.9			
高 木	従業者数	1		12	6	25	19	35	20	132	61	205	106	311		
	年代別比率(%)	0.3		5.8		14.1		17.7		62.1		65.9	34.1			
御 着	従業者数			2	3	8	4	13	12	65	23	88	42	130		
	年代別比率(%)			3.8		9.2		19.2		67.7		67.7	32.3			
川 西	従業者数			6	1	6	2	10	4	17	11	39	18	57		
	年代別比率(%)			12.3		14.0		24.6		49.1		68.4	31.6			
大 阪 他	従業者数			9	6	24	5	41	10	56	23	130	44	174		
	年代別比率(%)			8.6		16.7		29.3		45.4		74.7	25.3			
和 歌 山	従業者数			1	1	4	1	8	2	19	6	32	10	42		
	年代別比率(%)			4.8		11.9		23.8		59.5		76.2	23.8			
関 西 計	従業者数	2	0	62	65	131	88	194	85	552	291	941	529	1,470		
	年代別比率(%)	0.1		8.6		14.9		19.0		57.3		64.0	36.0			
東 京	従業者数			8	4	21	5	34	9	121	32	184	50	234		
	年代別比率(%)			5.1		11.1		18.4		65.4		78.6	21.4			
埼 玉 他	従業者数	2		60	34	63	24	132	40	179	64	436	162	598		
	年代別比率(%)	0.3		15.7		14.5		28.8		40.6		72.9	27.1			
関 東 計	従業者数	2	0	68	38	84	29	166	49	300	96	620	212	832		
	年代別比率(%)	0.2		12.7		13.6		25.8		47.6		74.5	25.5			
全 国 計	従業者数	4	0	130	103	215	117	360	134	852	387	1,561	741	2,302		
	年代別比率(%)	0.2		10.1		14.4		21.5		53.8		67.8	32.2			

2-4. 製革業者代表者の年齢構成

ここでは日本の製革業者の代表者の年齢についてまとめた。現在、日本のどの産業においても企業の後継者問題が課題となっており、その意味でもここでは代表者の年齢構成に注目した結果、現状の製革業者の状況は図2-7のような結果となった。

代表者の年齢は全国平均（代表者年齢不明企業を除く）で64.7歳（前年64.6歳）となり、前年からの変化はみられず、代表者の交代はほとんどなく、そのまま1年が経過した状況と考えられる。また代表者が70歳以上の企業が全体の34.9%を占めているが、これは前年の35.2%よりわずかに低下している。逆に40代以下の代表者の比率は10.3%となり、前年の10.4%とほぼ変わらない水準である。

表2-5において、各地区の傾向をみると、代表者が70歳以上の企業の比率が40%を超えているのは、沢田地区の50%を筆頭に、松原地区の47.7%、埼玉他地区の44.4%となっている。また地域別の代表者の平均年齢をみると、誉田地区の68.3歳が最も高い年齢となり、最も低いのは大阪他地区で56.0歳となっている。

図2-7. 代表者年齢構成（令和7年/n=261社）

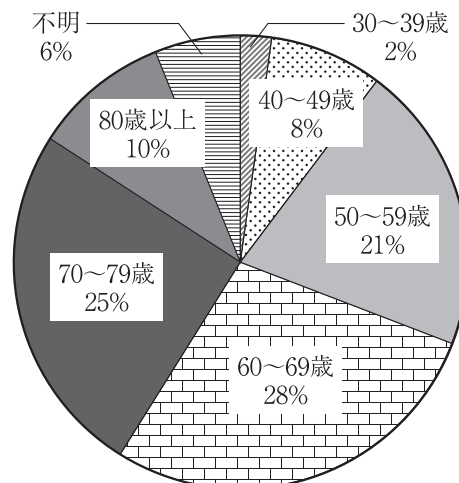


表2-5. 地区別年齢別代表者数及び構成比(令和7年)

(上段：人 下段：%)

	調査数(社)	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明	平均(歳)
松原	67	1 1.5	4 6.0	13 19.4	17 25.4	25 37.3	7 10.4		66.4
誉田	43		2 4.7	8 18.6	8 18.6	10 23.3	7 16.3	8 18.6	68.3
沢田	12	2 16.7	1 8.3		2 16.7	5 41.7	1 8.3	1 8.3	64.7
高木	57	2 3.5	4 7.0	13 22.8	22 38.6	11 19.3	5 8.8		64.0
御着	22		1 4.5	7 31.8	7 31.8	3 13.6		4 18.2	61.5
川西	10		3 30.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0			59.2
大阪他	9		3 33.3	2 22.2	2 22.2	1 11.1		1 11.1	56.0
和歌山	6			2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7		67.7
関西計	226	5 2.2	18 8.0	47 20.8	63 27.9	58 25.7	21 9.3	14 6.2	64.9
東京	26	1 3.8	2 7.7	6 23.1	7 26.9	5 19.2	3 11.5	2 7.7	63.3
埼玉他	9		1 11.1	1 11.1	3 33.3	3 33.3	1 11.1		64.8
関東計	35	1 2.9	3 8.6	7 20.0	10 28.6	8 22.9	4 11.4	2 5.7	63.7
全国計	261	6 2.3	21 8.0	54 20.7	73 28.0	66 25.3	25 9.6	16 6.1	64.7

2-5. なめしの区分

図2-8は、今回の回答企業数156社（無回答の企業を除く）のなめし区分（クロム鞣し/タンニン鞣し/その他鞣し）を集計したものである。その結果、「クロム鞣し」を行っている企業比率は88.5%、「タンニン鞣し」を行っている企業比率は37.8%、「その他鞣し」を行っている企業比率は13.5%となった。

表2-6は関西、関東、全国のなめし区分の集計であるが、関西の企業と関東の企業では、鞣し区分に差があることがわかる。「クロム鞣し」を行っている関西地区の企業は91.5%と高い比率となり、関東地区は74.1%に止まった。一方、「タンニン鞣し」を行っている企業は、関西地区が33.3%、関東地区が59.3%となり、逆に関東地区の比率が高い結果となっている。また「その他鞣し」においても関西地区が9.3%に対し、関東地区の集計では33.3%となっている。もちろんこれには、それぞれの地区で扱っている革種の違いもあり、一概にどちらの地区に対しても善し悪しは判断できないが、昨今サステナビリティの重要性が問われ、製革産業における環境問題が問われる中、製品メーカーから「タンニン鞣し」を要求される機会が今後ますます増えてくると予想されるため、それに対応できる体制を整えておく必要があることは言うまでもない。

また図2-9は地区別に集計したものであるが、「タンニン鞣し」を行っている企業の比率が50%を超えている地区が、御着地区（50.0%）、大阪他地区（66.7%）、東京地区（57.9%）、埼玉他地区（62.5%）の4地区となっている。また東京地区の企業の36.8%で「その他鞣し」が行われている点も他地区とは異なる点である。

図2-8. なめし区分 / 全国計(令和7年 / n=156社)

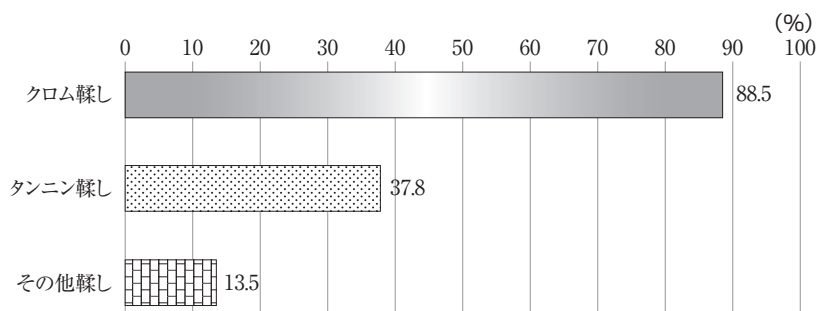
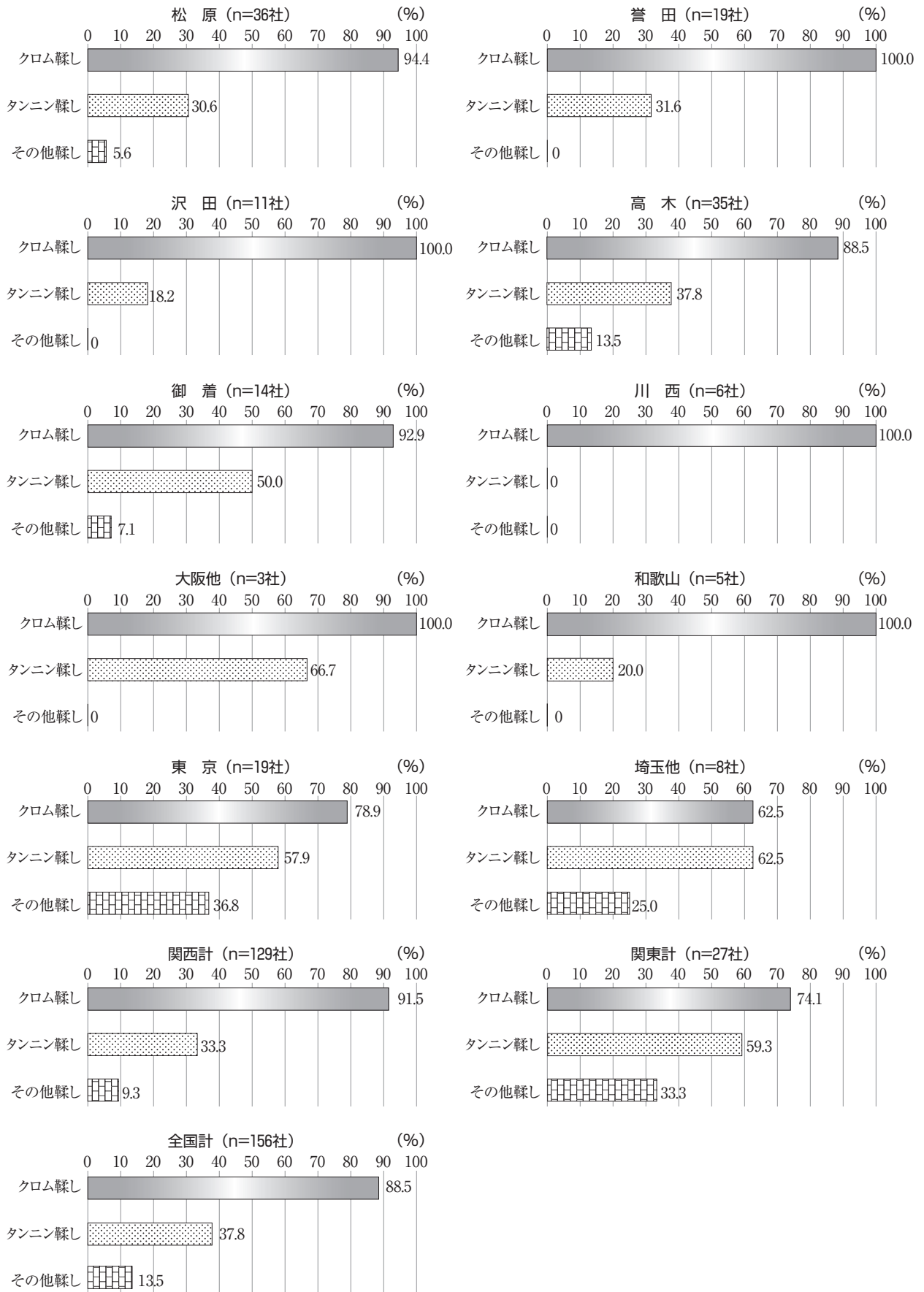


表2-6. 関西地区/関東地区別なめし区分(令和7年 / 複数回答)

地区	なめし区分		クロム鞣し		タンニン鞣し		その他鞣し		回答企業数		無回答
	企業数	比率(%)	企業数	比率(%)	企業数	比率(%)	企業数	比率(%)	企業数	比率(%)	企業数
関西計	118	91.5	43	33.3	12	9.3	129	100.0	97		
関東計	20	74.1	16	59.3	9	33.3	27	100.0	8		
全国計	138	88.5	59	37.8	21	13.5	156	100.0	105		

図 2 - 9. 地区別なめし区分 (複数回答)



2-6. 主な使用原皮

各製革業者で使用している原皮について、図2-10でまとめた。尚、ここでは回答のあった165社の回答を集計している。全体の集計結果としては、「内地調達成牛皮」が全体の61.8%（前年59.7%）の企業が使用、また「外地調達成牛皮」を全体の33.3%（同35.8%）にあたる企業が使用している。それ以外の皮種とは使用率で差があるが、次いで多くなったのは「牛床皮」の16.4%（同13.1%）、「中小牛皮」の12.1%（同13.1%）という結果となった。それ以外の皮種はいずれも10%以下の使用率となったが、「その他皮」を除けば僅かながらも全て前年を上回る使用率となっており、使用する皮種も徐々に幅が広がっているとみられる。

図2-11は地区別の皮種の扱い率をグラフ化したものであるが、牛革の扱いが低い東京地区の構成が他地区とは大きく異なっており、「豚皮」「山羊皮」が並んで扱いが多い皮種となっている。また埼玉他地区では、「成牛皮」と「鹿皮」が同じ比率で並んでトップとなっており、「その他の皮」も満遍なく扱われていることがわかる。また「牛床皮」の扱いにおいても沢田地区や大阪他地区などでの扱いが比較的多くなっている。

表2-7は地区別に使用している原皮の詳細を記載したものであるが、扱いが多い皮種としては、内地調達の「一毛」を77社（全体の46.7%）の企業が扱っており、次いで「ホルス」が65社（同39.4%）という使用率となっている。その他「ヘビーステア」が33社（同20.0%）、「牛床皮」が27社（同16.4%）、「デリーステア」が26社（同15.8%）という順で使用率が高くなっている。また昨年調査との比較をみると、扱いが増えているのは「牛床皮」で4社増、「鹿皮」が2社増といったところが目立つところであり、全体をみても扱いが増えた皮種は6皮種に留まっている。逆に扱い企業数が多い「一毛」や「ホルス」は、それぞれ6社、5社減という大幅な減少となっている。全体を見た場合、8皮種が前年より減少した結果となっている。その他5皮種は前年からの増減がなかった。

図2-10. 主な原皮使用率(令和7年 / n=165社・複数回答)

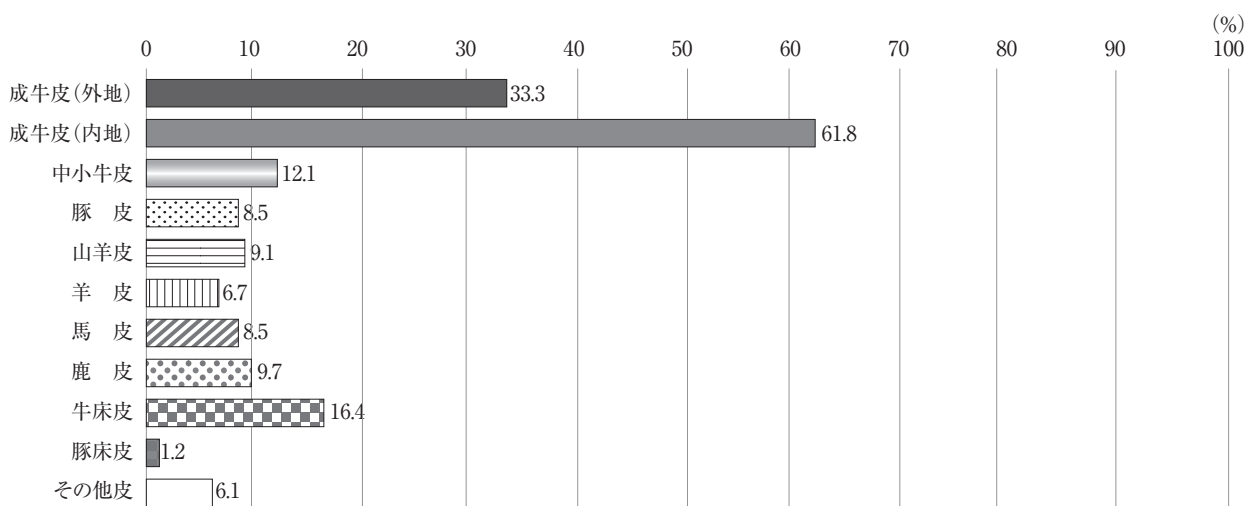


図2-11. 地区別主な原皮使用率(令和7年/複数回答)

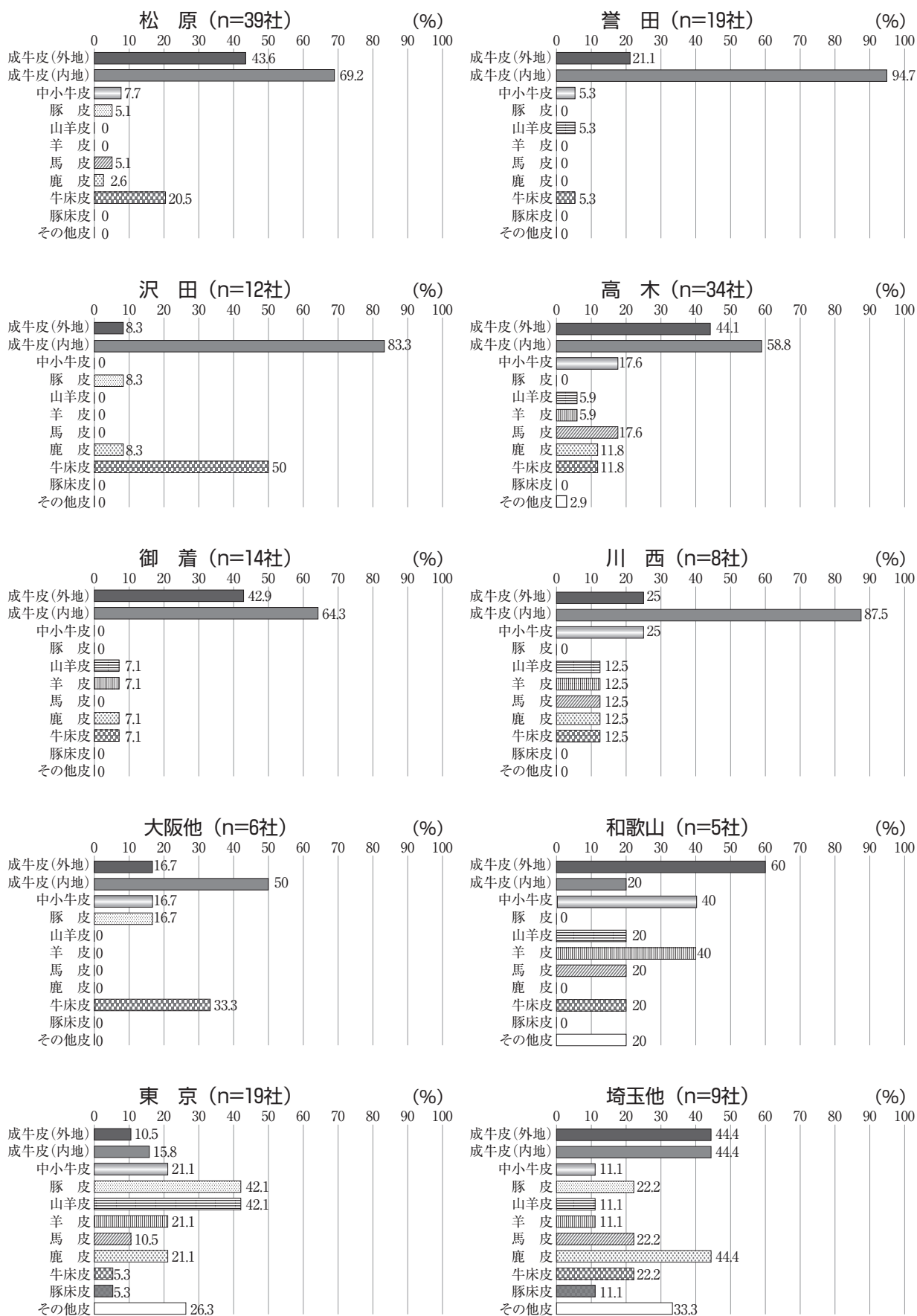


表 2 - 7. 地区別主な使用原皮(令和7年)

上段：回答社数 下段：増減(前年比)

地区	原皮の種類 回答社数	成 牛 皮										中 小 牛 皮	豚 皮	山 (ゴート・羊 キッド) 皮	羊 (シーブ・ラム) 皮	馬 皮	鹿 皮	牛 床 皮	豚 床 皮	そ の 他 の 皮	
		牡 牛 皮 (ブル)	ヘ ビ ー ス テ ア	ラ イ ト ス テ ア	カ ウ ヘ ッ フ ア ー	デ イ リ ー ス テ ア	デ イ リ ー カ ウ	豪州・NZ		内 地	ホ ル ス										一 毛
								ジ ャ ー ジ ー	カ ウ ・ オ ク ス												
松 原	39	1	9	1		10	1			22	15	3	2			2	1	8	0		
			(-2)				(+1)					(-2)		(+1)			(+1)		(+2)	(-1)	
誉 田	19		1			4			1	14	15	1		1				1			
			(-2)						(+1)	(+1)	(-1)	(-1)									
沢 田	12	0	1	1					3	9			1				1	6			
		(-2)								(-1)	(+1)							(-1)			
高 木	34	1	11	1	1	6	0		0	10	17	6		2	2	6	4	4	1		
		(-2)	(+3)	(-1)		(-2)	(-1)		(-1)	(-2)	(-4)	(-1)				(+1)		(-1)	(-1)		
御 着	14	3	5			1			5	8				1	1		1	1			
						(-1)									(+1)			(+1)			
川 西	8					2			5	5	2			1	1	1	1	1			
												(+1)		(+1)	(+1)	(+1)					
大阪他	6	1	1			1			1	2	2	1	1					2			
		(+1)							(+1)	(-1)									(+2)		
和歌山	5	1		3					1		2			1	2	1		1	1		
		(-1)								(-1)					(-1)			(-1)			
関西計	137	7	28	6	1	24	1	0	2	62	71	15	4	6	6	10	8	24	0		
		(-4)	(-1)	(-1)		(-3)			(+1)	(-4)	(-6)	(-1)	(+1)	(+1)	(+1)	(+3)		(+2)		(-2)	
東 京	19		1			1				1	2	4	8	8	4	2	4	1	1		
										(-1)	(-1)	(-1)	(-1)	(-1)	(-1)	(-2)	(+1)			(-1)	
埼玉他	9		4	0	0	1	1			2	4	1	2	1	1	2	4	2	1		
			(+1)	(-1)	(-1)						(+1)	(-1)	(+1)				(+1)	(+2)	(+1)	(+1)	
関東計	28	0	5	0	0	2	1	0	0	3	6	5	10	9	5	4	8	3	2		
			(+1)	(-1)	(-1)					(-1)		(-2)		(-1)	(-1)	(-2)	(+2)	(+2)	(+1)		
全国計	165	7	33	6	1	26	2	0	2	65	77	20	14	15	11	14	16	27	2		
		(-4)		(-2)	(-1)	(-3)			(+1)	(-5)	(-6)	(-3)	(+1)			(+1)	(+2)	(+4)	(+1)	(-2)	

3. 生産販売動向

生産販売量は各企業の令和7年1月～令和7年7月の実績を基に、その1ヶ月の平均量を求めたものであり、文中及び図表の数量は全て丸革での月間生産販売数量である。

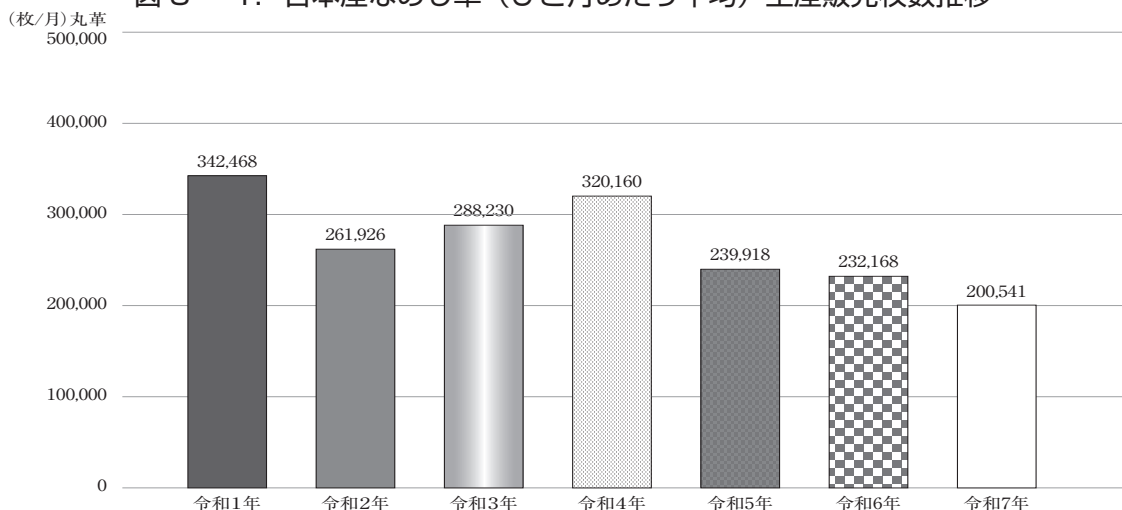
3-1. 国内革種別生産販売枚数・仕向け先別生産販売（月間平均）動向

ここでは、まず全国で生産されている全ての革種の令和7年の生産販売枚数（月間平均）についてまとめた。

令和7年の日本産なめし革のひと月あたり平均の総生産販売枚数は200,541枚/月となった。図3-1は令和1年からの日本産なめし革のひと月あたり平均の総生産販売枚数の推移を表したものであるが、コロナ禍以前から減少傾向にあった月間平均生産販売枚数は、コロナ禍の令和2年に底を打ち、令和3年、4年とやや持ち直しつつあったが、令和5年はコロナ禍をさらに下回るまで減少し、令和6年、令和7年とそこからさらに減少するといったトレンドが継続している。

現在の日本の皮革ファッション市場は、一部の海外高級ブランドの人気の継続しており、売上を伸ばしている一方で、国産皮革メーカーブランドは厳しい状況が続いている。富裕層やインパウンドの消費によってここ数年市場は盛り上がりを見せていたが、それらの消費は海外ブランドへの消費に偏り、国産ブランドへの消費は、一部の人気ブランドを除けば完全に海外ブランドに追いやられている状況にある。またサステナビリティの観点から皮革そのものに対する偏見によるネガティブなイメージが消費者の間で根強く残っており、自動車メーカーやファッションメーカーにおいてもアニマルフリーを掲げる企業が増えているなど、日本の皮革産業にとっては厳しい事業環境が続いている。また根本的な問題として、皮革製品メーカーの生産の大部分が海外で行われていることで、革素材の需要があっても素材の調達が現地で行われるケースはほとんどであることが、日本の製革業者にとっては最大の障壁であるといえよう。今回の調査結果はある意味当然ともいえる結果であり、今後も現在のトレンドが続く可能性が高い。

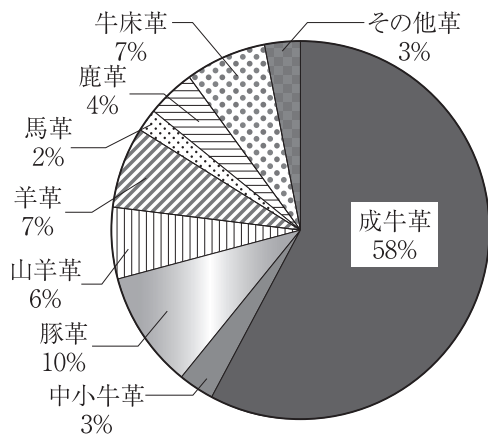
図3-1. 日本産なめし革（ひと月あたり平均）生産販売枚数推移



次に、図3-2は、全国で生産されているなめし革について、革種毎の月間平均生産販売枚数及びその構成比を表したものである。その結果、＜成牛革＞が116,061枚/月（前年116,240枚/月）となり、全体の57.9%を占めた。この比率は毎年多少の増減を繰り返しているが、中期的なスパンで見れば着実に上昇している。製革業者が扱う革種は着実に拡がっているが、日本の製革産業の販売先（ファッション業界）が現状から変化がない場合は、＜成牛革＞の比率はさらに高まっ

ていく可能性が高い。次いで比率が高くなったのは<豚革>で19,730枚/月（同30,645枚/月）で全体の9.8%となった。図3-3でわかるように、<豚革>はここ数年生産販売枚数を大きく落としており、令和3年の生産販売枚数と比較すると66.6%の減少となっている。また今回の調査では全体の生産量の中で10%のシェアを割る結果となった。それ以外では<牛床革><山羊革><羊革>などが1万枚以上の生産販売枚数となっているが、これらもここ数年でみれば生産販売枚数が大きく減少している状況である。その中で唯一、生産販売枚数を伸ばしているのが<鹿革>であり、大きな増加ではないが、毎年着実に生産販売枚数を伸ばしている。

図3-2. 革種別生産販売枚数構成比
(令和7年 /n=200,541 枚)



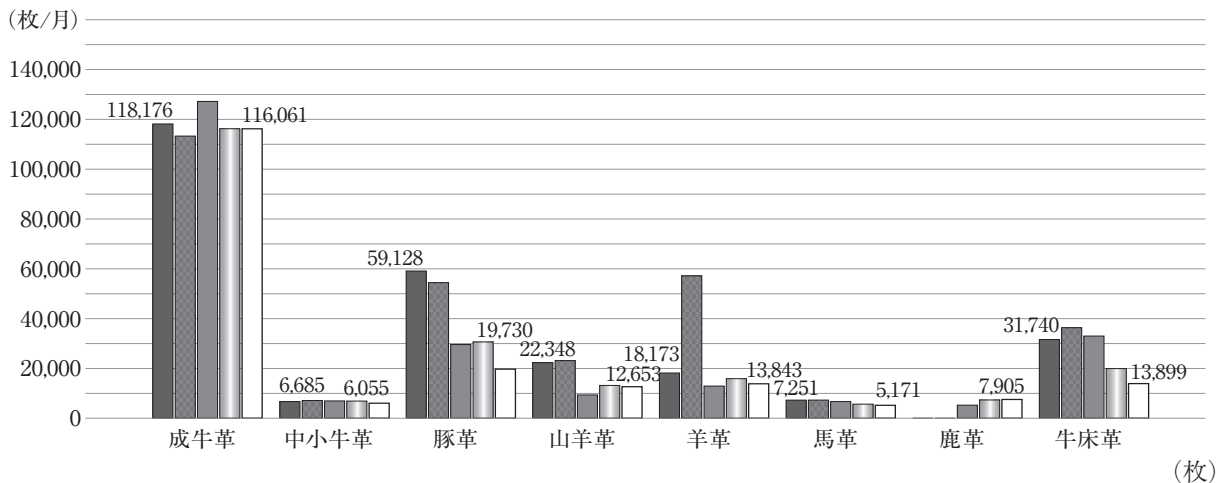
(枚/月) 丸革

全 国	販売枚数	構成比
成 牛 革	116,061	57.9%
中小牛革	6,055	3.0%
豚 革	19,730	9.8%
山 羊 革	12,653	6.3%
羊 革	13,843	6.9%
馬 革	5,171	2.6%
鹿 革	7,905	3.9%
牛 床 革	13,899	6.9%
豚 床 革	0	0.0%
その他革	5,224	2.6%
計	200,541	100.0%

※販売枚数は一ヶ月あたりの平均販売枚数

図3-3. 主要革種の月間平均生産販売枚数推移

■令和3年 ■令和4年 ■令和5年 ■令和6年 □令和7年



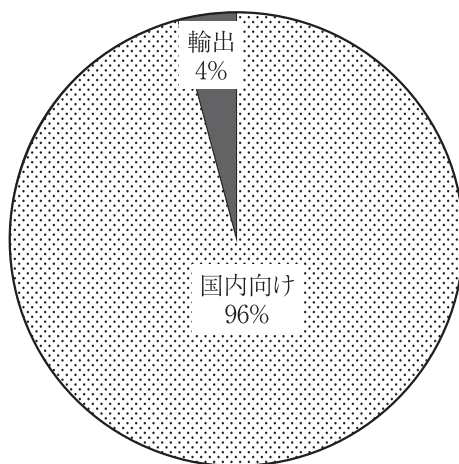
	成牛革	中小牛革	豚革	山羊革	羊革	馬革	鹿革	牛床革	その他革	計
令和3年	118,176	6,685	59,128	22,348	18,173	7,251	※	31,740	24,729	288,230
令和4年	113,292	7,125	54,428	23,119	57,162	7,371	※	36,203	21,460	320,160
令和5年	127,211	6,978	29,598	9,392	12,928	6,718	5,210	33,059	8,824	239,918
令和6年	116,240	6,917	30,645	13,143	15,896	5,627	7,495	19,993	16,212	232,168
令和7年	116,061	6,055	19,730	12,653	13,843	5,171	7,905	13,899	5,224	200,541
令7/令3	-1.8%	-9.4%	-66.6%	-43.4%	-23.8%	-28.7%	-	-56.2%	-78.9%	-30.4%

※令和3年～令和4年の「鹿革」の生産販売量は「その他」に含まれる。

生産されたなめし革の仕向け先として、国内向けと輸出の比率をみたのが図3-4であるが、令和7年の集計においては、国内向け比率が全体の96.5%（193,467枚/月）、輸出比率は3.5%（7,074枚/月）となり、前年調査時より輸出枚数は、数量、比率とも縮小した結果となった。

また革種別に国内向け、輸出の比率をみたのが図3-5であるが、輸出比率に注目すると、今回の調査結果においては<その他革>の22.0%、<山羊革><羊革>の8.7%、<中小牛革>の8.3%などがやや目立つ結果となっている。

図3-4. 全革種月間平均生産販売枚数における仕向け先比率
(令和7年 /n=200,541枚)

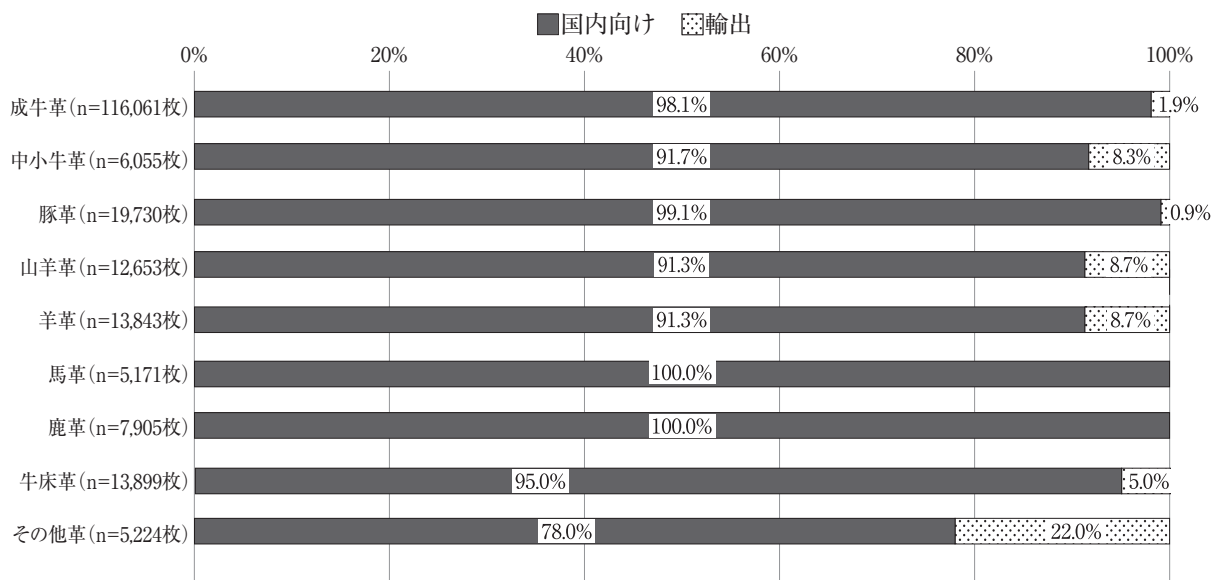


(枚/月) 丸革

全 体	販売枚数	構成比
国内向け	193,467	96.5%
輸 出	7,074	3.5%
	200,541	100.0%

※販売枚数は一ヶ月あたりの平均販売枚数

図3-5. 革種別月間平均生産販売枚数における仕向け先比率(令和7年)



その輸出枚数について、経年変化をみたのが図3-6である。令和2年からの6年間の変化としてみた場合、この6年間のピークであった令和3年当時の輸出枚数と比較すると、令和7年はその15%程度の枚数に過ぎず、特にここ3年はかなり低い水準で低迷している。

また同様に革種ごとに月間平均輸出枚数の推移（図3-7）をみると、その輸出枚数減少の大きな要因となっているのが＜豚革＞の減少であることがわかる。ピーク時から実に99.5%の減少であり、現状はほとんど輸出がなくなった状態といっても過言ではない。同様に＜豚床革＞も大きく減少しており、輸出面では大きな存在感があった「豚」関連の革の輸出がほぼ消滅状態にあることが、こうした結果に繋がっているとみられる。

図3-6. 月間平均輸出枚数推移（全革種計）

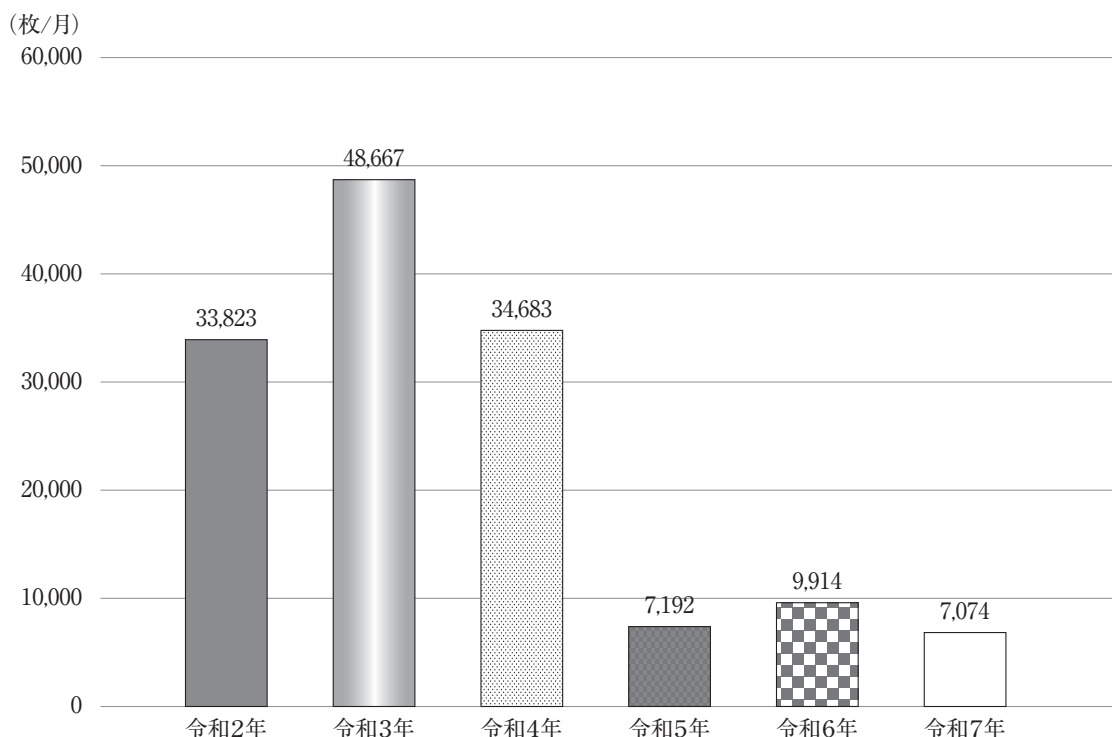
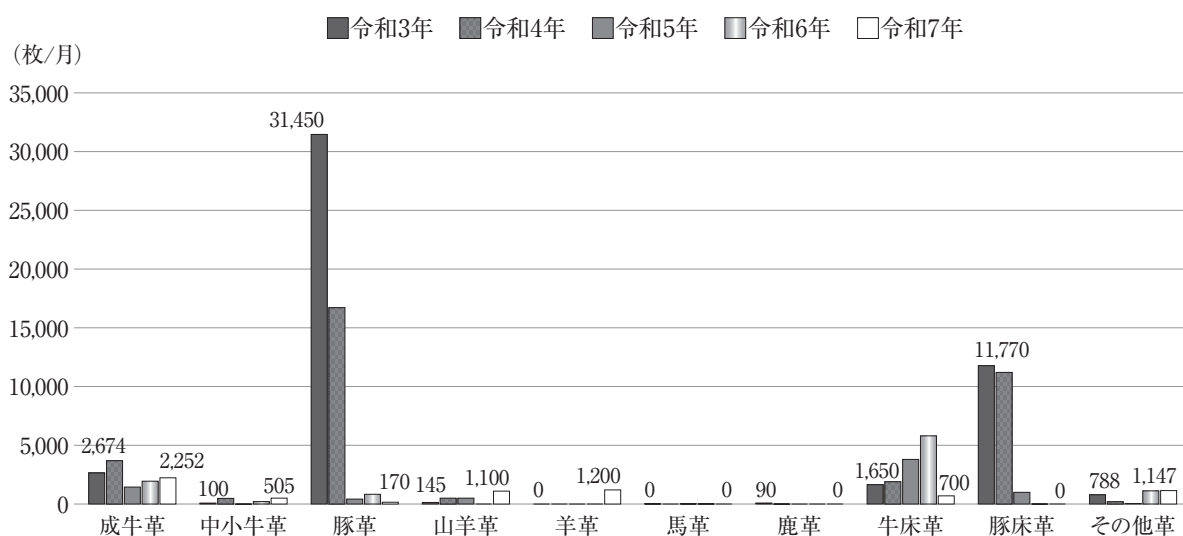


図3-7. 革種別月間平均輸出枚数推移



次に地区別に生産しているなめし革の革種別の月間平均生産販売枚数の構成をまとめた。図3-8は、地区別に生産販売している革種の比率を表したもので、表3-1は革種別の仕向け先別に生産販売枚数を表したもので、また表3-2は生産販売枚数の経年変化を表したものである。

松原地区は製革業者数が最も多い地区であり、〈成牛革〉の生産が最も盛んな地区であるが、令和7年の総生産販売枚数は27,172枚/月で、前年(29,696枚/月)より8.5%減となった。そのうち、〈成牛革〉は全体の88.7%を占めている。生産しているその他の革は〈中小牛革〉〈牛床革〉で、松原地区の製革業者はほぼ「牛」関連の革で占められている。また〈成牛革〉〈中小牛革〉では輸出も行っており、前年より枚数も少し増加している。その生産販売枚数もこの5,6年、〈成牛革〉はほぼ一定の水準で推移しており、安定した供給が行われている。また〈中小牛革〉に関しては少しずつ扱い量が増加している。

誉田地区の令和7年の総生産販売枚数は10,462枚/月で、前年(9,193枚/月)より13.8%増となった。生産の中心は〈成牛革〉で、それ以外に〈中小牛革〉〈牛床革〉〈山羊革〉の生産が行われているが、令和7年では〈山羊革〉の生産販売枚数が増加しており、前年から「牛」以外の革種の扱いを拡げていることがわかる。また〈成牛革〉においては、少量ではあるが輸出も一部行われている。それぞれの生産販売枚数においては、〈成牛革〉は生産販売枚数をやや落としながらも一定の水準で供給しており、〈中小牛革〉〈牛床革〉もほぼ同じような推移となっている。その中で前年から生産が始まっている〈山羊革〉は、前年の600枚/月から令和7年は2,000枚/月に増産している。

沢田地区の令和7年の総生産販売枚数は10,600枚/月で、前年(13,395枚/月)より20.9%減と大きな減少となった。沢田地区は〈成牛革〉と〈牛床革〉の二種が生産のほとんどで、その二種で地区の生産量の97.2%を占めているが、令和7年では〈成牛革〉の比率が高まっている。それ以外には〈豚革〉〈鹿革〉の生産が少し行われている。また〈牛床革〉に関しては輸出も引き続き行われている。生産販売枚数については〈成牛革〉は6,830枚/月で、ここ数年は安定した推移をみせているが、〈牛床革〉に関しては枚数も減少傾向にある。

高木地区は製革業を展開する地区の中でも幅広く革種を扱っている地区で、令和7年の総生産販売枚数は20,438枚/月で、前年(24,749枚/月)より17.4%減となった。高木地区は〈成牛革〉の生産が中心ではあるが、そのシェアは50%を下回る水準である。その他では〈豚革〉と〈豚床革〉を除く全種の革を手掛けており、特に〈馬革〉の生産販売枚数に関しては全国の78.3%を占めている。また輸出に関しては〈成牛革〉を出荷している。その他〈山羊革〉は一定の数量を維持しているが、地区の総生産量は徐々に減少傾向にある。

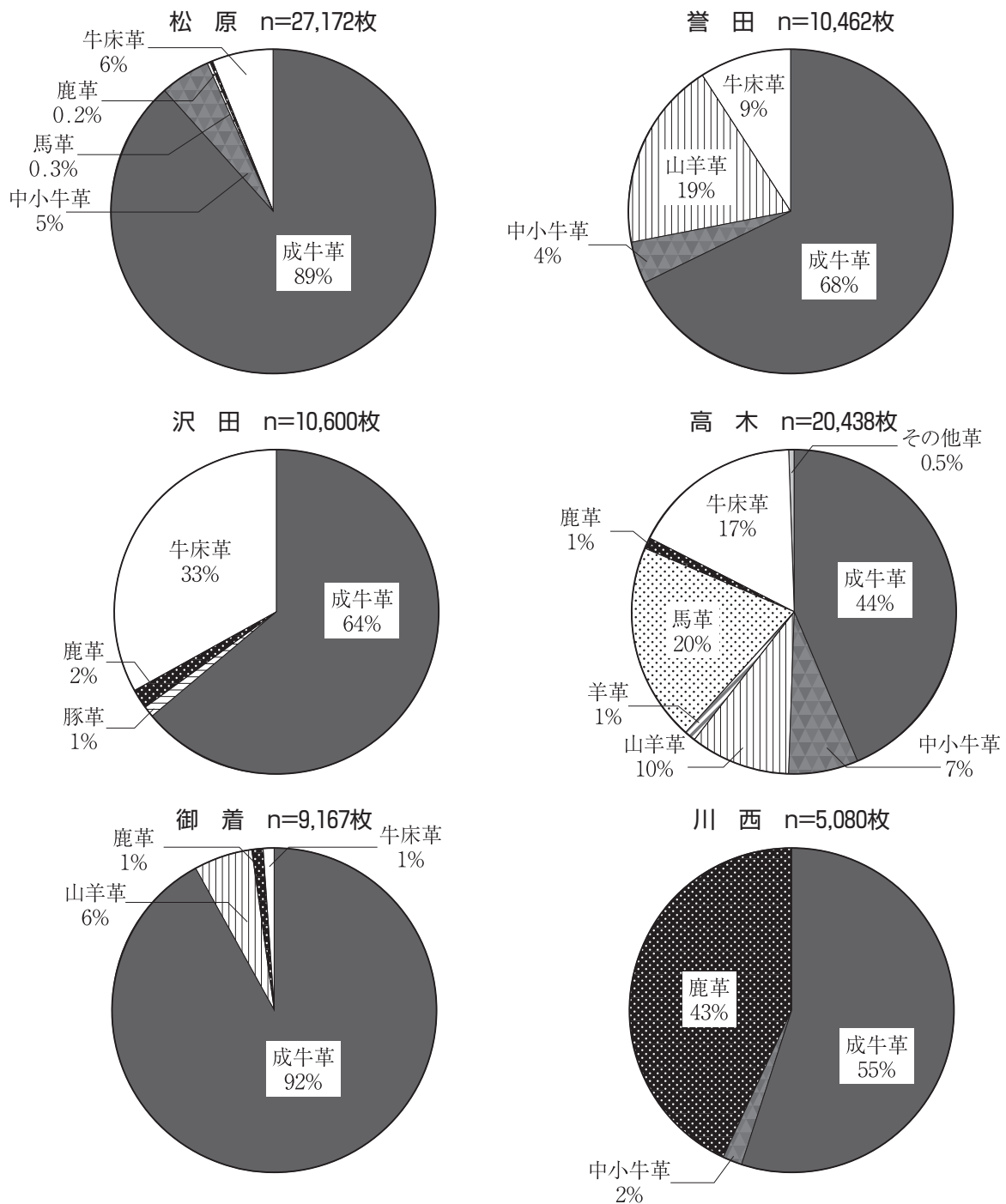
御着地区の令和7年の総生産販売枚数は9,167枚/月で、前年(9,983枚/月)より8.2%減となった。御着地区は〈成牛革〉が大部分を占める構造であり、今回の調査集計でも全体の91.8%を占めている。それ以外では〈山羊革〉〈牛床革〉〈鹿革〉を手掛けている。いずれも輸出は行っていない。ただ〈成牛革〉の生産販売枚数は年々減少している。その他の革種に関しては少量ではあるが安定した供給が続いている。

川西地区の令和7年の総生産販売枚数は5,080枚/月で、前年(4,090枚/月)より24.2%増となった。川西地区は〈成牛革〉と〈鹿革〉の二種の生産販売枚数が大半を占め、それ以外に〈中小牛革〉を生産している構造である。構成比としては〈鹿革〉の構成比がやや上昇している。川西地区も輸出は行っていない。生産販売枚数に関しては〈成牛革〉〈鹿革〉とも安定した供給を続けており、特に〈鹿革〉は供給量も増加傾向にある。

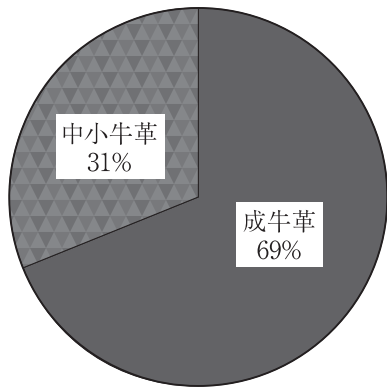
大阪他地区の令和7年の総生産販売枚数は2,600枚/月で、前年(3,103枚/月)より16.2%減となった。大阪他地区は〈成牛革〉と〈中小牛革〉の二種の生産を行っている。その構成比もここ数年

ほぼ変わらず、＜成牛革＞が3分の2、＜中小牛革＞が3分の1といった割合である。また＜中小牛革＞の一部は輸出を行っている。生産販売枚数に関しては二種ともここ数年をみれば減少傾向にある。

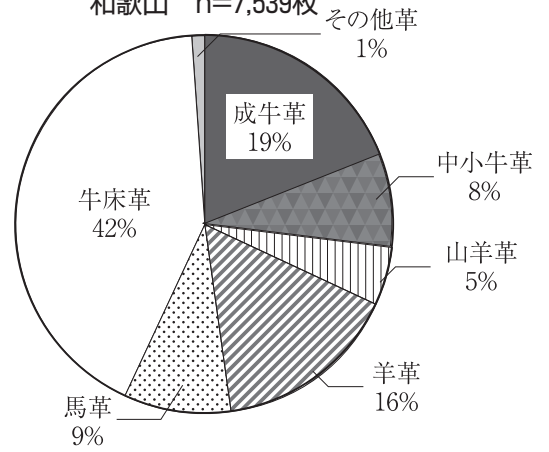
図3-8. 地区別月間平均生産販売枚数における革種比率(令和7年)



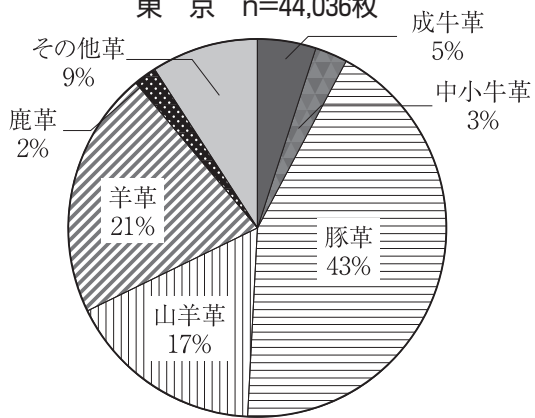
大阪他 n=2,600枚



和歌山 n=7,539枚



東京 n=44,036枚



埼玉他 n=63,447枚

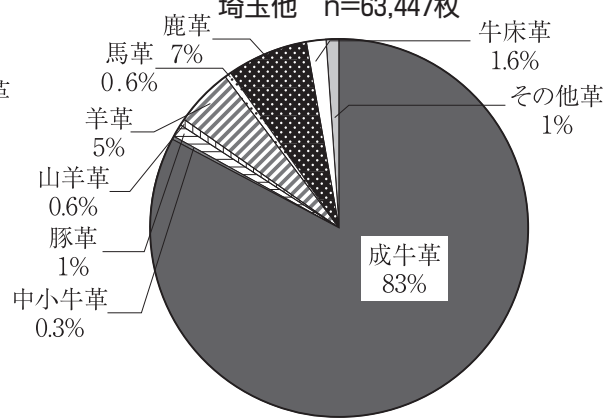


表3-1. 革種別地区別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年)

(枚) 丸革 / 月産

地区	成牛革		中小牛革		豚革		山羊革		羊革	
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出
松原	23,196	900	800	500						
誉田	7,003	100	459				2,000			
沢田	6,830				100					
高木	8,105	852	1,395				2,000		200	
御着	8,417						600			
川西	2,784		96							
大阪他	1,800		795	5						
和歌山	1,424		555				400		10	1,200
関西計	59,559	1,852	4,100	505	100	0	5,000	0	210	1,200
	97.0%	3.0%	89.0%	11.0%	100.0%	-	100.0%	-	14.9%	85.1%
	61,411		4,605		100		5,000		1,410	
	52.9%		76.1%		0.5%		39.5%		10.2%	
東京	2,120		1,250		18,760	170	6,193	1,100	9,433	
埼玉他	52,130	400	200		700		360		3,000	
関東計	54,250	400	1,450	0	19,460	170	6,553	1,100	12,433	0
	99.3%	0.7%	100.0%	-	99.1%	0.9%	85.6%	14.4%	100.0%	-
	54,650		1,450		19,630		7,653		12,433	
	47.1%		23.9%		99.5%		60.5%		89.8%	
全国計	113,809	2,252	5,550	505	19,560	170	11,553	1,100	12,643	1,200
	98.1%	1.9%	91.7%	8.3%	99.1%	0.9%	91.3%	8.7%	91.3%	8.7%
	116,061		6,055		19,730		12,653		13,843	
	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	

地区	馬革		鹿革		牛床革		豚床革		その他革	
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出
松原	70		50		1,656					
誉田					900					
沢田			200		2,770	700				
高木	4,051		132		3,603				100	
御着			50		100					
川西			2,200							
大阪他										
和歌山	700				3,170				80	
関西計	4,821	0	2,632	0	12,199	700	0	0	180	0
	100.0%	-	100.0%	-	94.6%	5.4%	-	-	100.0%	-
	4,821		2,632		12,899		0		180	
	93.2%		33.3%		92.8%		-		3.4%	
東京			853						3,310	847
埼玉他	350		4,420		1,000				587	300
関東計	350	0	5,273	0	1,000	0	0	0	3,897	1,147
	100.0%	-	100.0%	-	0.0%	-	-	-	77.3%	22.7%
	350		5,273		1,000		0		5,044	
	6.8%		66.7%		7.2%		-		96.6%	
全国計	5,171	0	7,905	0	13,199	700	0	0	4,077	1,147
	100.0%	-	100.0%	-	95.0%	5.0%	-	-	78.0%	22.0%
	5,171		7,905		13,899		0		5,224	
	100.0%		100.0%		100.0%		-		100.0%	

表 3 - 2. 草種別地区別月間平均生産販売枚数5年間推移

丸草 / 月産

地区 及び年	草種	成牛草		中小牛草		豚草		山羊草		羊草		馬草		鹿草		牛床草		豚床草		その他草		計				
		枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)	枚数	(%)			
松原	令3	23,635	20.0	260	3.9							50	0.7	*	-	17,620	55.5			220	2.2	41,785	14.7			
	令4	25,684	22.7	850	11.9	1,000	1.8							*	-	18,900	52.2			500	4.9	46,934	14.7			
	令5	27,778	21.8	800	11.5										500	9.6	17,576	53.2					46,654	19.4		
	令6	26,281	22.6	1,200	17.3										500	6.7	1,690	8.5			25	0.2	29,696	12.8		
	令7	24,096	20.8	1,300	21.5							70	1.4	50	0.6	1,656	11.9							27,172	13.5	
誉田	令3	8,437	7.1	200	3.0									*	-								8,637	3.0		
	令4	8,245	7.3	650	9.1									*	-	1,000	2.8							9,895	3.1	
	令5	9,376	7.4	580	8.3											1,400	4.2							11,356	4.7	
	令6	7,113	6.1	380	5.5			600	4.6							1,100	5.5							9,193	4.0	
	令7	7,103	6.1	459	7.6			2,000	15.8							900	6.5							10,462	5.2	
沢田	令3	7,650	6.5											*	-	1,800	5.7							9,450	3.3	
	令4	4,650	4.1											*	-	4,300	11.9			100	1.0			9,050	2.8	
	令5	6,280	4.9			250	0.8							20	0.4	3,730	11.3							10,280	4.3	
	令6	6,645	5.7			450	1.5							200	2.7	6,100	30.5							13,395	5.8	
	令7	6,830	5.9			100	0.5							200	2.5	3,470	25.0							10,600	5.3	
高木	令3	11,687	9.9	1,909	28.6	20,000	33.8	500	2.2	200	1.1	5,292	73.0	*	-	7,920	25.0	10,000	85.0	90	0.9	57,598	20.2			
	令4	15,315	13.5	1,813	25.4					300	0.5	5,336	72.4	*	-	8,403	23.2	10,000	89.3	336	3.3	41,503	13.0			
	令5	10,983	8.6	1,599	22.9			2,000	21.3			5,179	77.1	284	5.5	6,453	19.5			50	0.6	26,548	11.1			
	令6	10,661	9.2	1,592	23.0			2,000	15.2	200	1.3	4,427	78.7	366	4.9	5,303	26.5			200	1.2	24,749	10.7			
	令7	8,957	7.7	1,395	23.0			2,000	15.8	200	1.4	4,051	78.3	132	1.7	3,603	25.9			100	1.9	20,438	10.2			
御着	令3	11,556	9.8	200	3.0			1,200	5.4					*	-	200	0.6			50	0.5	13,206	4.6			
	令4	9,650	8.5											*	-	100	0.3			70	0.7	9,820	3.1			
	令5	9,728	7.6	150	2.1			200	2.1					50	1.0	100	0.3							10,228	4.3	
	令6	9,613	8.3					300	2.3					70	0.9									9,983	4.3	
	令7	8,417	7.3					600	4.7					50	0.6	100	0.7							9,167	4.6	
川西	令3	2,369	2.0	700	10.5									*	-					3,000	23.1			6,069	2.1	
	令4	1,770	1.6	100	1.4			1,500	6.5	1,500	2.6			*	-					1,500	14.6			6,370	2.0	
	令5	2,495	2.0	150	2.1									1,500	28.8										4,145	1.7
	令6	2,490	2.1	100	1.4									1,500	20.0										4,090	1.8
	令7	2,784	2.4	96	1.6									2,200	27.8										5,080	2.5
大阪他	令3	2,557	2.2	885	13.2							80	1.1	*	-									3,522	1.2	
	令4	2,970	2.6	1,510	21.2									*	-										4,480	1.4
	令5	2,730	2.1	1,146	16.4																				3,876	1.6
	令6	2,097	1.8	1,006	14.5																				3,103	1.3
	令7	1,800	1.6	800	13.2																				2,600	1.3
和歌山	令3	1,230	1.0	550	8.2			1,400	6.3	500	2.8			*	-	4,200	13.2			20	0.2	7,900	2.7			
	令4	940	0.8	480	6.7			400	1.7	500	0.9	100	1.4	*	-	3,500	9.7			16	0.2	5,936	1.9			
	令5	1,856	1.5	660	9.5			700	7.5	1,000	7.7	200	3.0			3,800	11.5			16	0.2	8,232	3.4			
	令6	1,520	1.3	585	8.5			400	3.0	1,010	6.4	100	1.8			5,800	29.0			100	0.6	9,515	4.1			
	令7	1,424	1.2	555	9.2			400	3.2	1,210	8.7	700	13.5			3,170	22.8			80	1.5	7,539	3.8			
関西計	令3	69,121	58.5	4,704	70.4	20,000	33.8	3,100	13.9	700	3.9	5,422	74.8	*	-	31,740	100.0	10,000	85.0	3,380	26.1	148,167	51.4			
	令4	69,224	61.1	5,403	75.8	1,000	1.8	1,900	8.2	2,300	4.0	5,436	73.7	*	-	36,203	100.0	10,000	89.3	2,522	24.6	133,988	41.9			
	令5	71,226	56.0	5,085	72.9	250	0.8	2,900	30.9	1,000	7.7	5,379	80.1	2,354	45.2	33,059	100.0	0	-	66	0.8	121,319	51.7			
	令6	66,420	57.1	4,863	70.3	450	1.5	3,300	25.1	1,210	7.6	4,527	80.5	2,636	35.2	19,993	100.0	0	-	325	2.0	103,724	44.7			
	令7	61,411	52.9	4,605	76.1	100	0.5	5,000	39.5	1,410	10.2	4,821	93.2	2,632	33.3	12,899	92.8	0	-	180	3.4	93,058	46.4			
東京	令3	1,935	1.6	1,801	26.9	37,628	63.6	18,908	84.6	13,933	76.7	235	3.2	*	-			1,770	15.0	2,769	27.9	78,979	27.7			
	令4	1,948	1.7	1,542	21.6	52,828	97.1	20,759	89.8	51,002	89.2	10	0.1	*	-			1,200	10.7	5,718	55.7	135,007	42.2			
	令5	1,665	1.3	1,553	22.3	27,948	94.4	6,242	66.5	7,568	58.5	10	0.1	156	3.0			1,000	100.0	7,485	95.7	53,627	22.4			
	令6	1,880	1.6	1,524	22.0	29,595	96.6	9,583	72.9	10,746	67.6	600	10.7	559	7.5					14,787	91.2	69,274	29.8			
	令7	2,120	1.8	1,250	20.6	18,930	95.9	7,293	57.6	9,433	68.1			853	10.8					4,157	79.6	44,036	22.0			
埼玉他	令3	47,120	39.9	180	2.7	1,500	2.5	340	1.5	3,540	19.5	1,594	22.0	*	-					6,810	68.5	61,084	21.4			
	令4	42,120	37.2	180	2.5	600	1.1	460	2.0	3,860	6.8	1,925	26.1	*	-					2,020	19.7	51,165	16.0			
	令5	54,320	42.7	340	4.9	1,400	4.7	250	2.7	4,360	33.7	1,329	19.8	2,700	51.8					273	3.5	64,972	27.1			
	令6	47,940	41.2	530	7.7	600	2.0	260	2.0	3,940	24.8	500	8.9	4,300	57.4					1,100	6.8	59,170	25.5			
	令7	52,530	45.3	200	3.3	700	3.5	360	2.8	3,000	21.7	350	6.8	4,420	55.9			1,000	7.2			887	17.0	63,447	31.6	
関東計	令3	49,055	41.5	1,981	29.6	39,128	66.2	19,248	86.1	17,473	96.1	1,829	25.2	*	-	0	-	1,770	15.0	9,579	96.4	140,063	49.1			
	令4	44,068	38.9	1,722	24.2	53,428	98.2	21,219	91.8	54,862	96.0	1,935	26.3	*	-	0	-	1,200	10.7	7,738	75.4	186,172	58.1			
	令5	55,985	44.0	1,893	27.1	29,348	99.2	6,492	69.1	11,928	92.3	1,339	19.9	2,856	54.8	0	-	1,000	100.0	7,738	99.2	118,599	50.5			
	令6	49,820	42.9	2,054	29.7	30,195	98.5	9,843	74.9	14,686	92.4	1,100	19.5	4,859	64.8	0	-	0	-	15,887	98.0	128,444	55.3			
	令7	54,650	47.1	1,450	23.9	19																				

和歌山地区の令和7年の総生産販売枚数は7,539枚/月で、前年（9,515枚/月）より20.8%減とこちらも大きな減少となった。和歌山地区は他地区とは異なった生産構成で＜牛床革＞の比率が最も高く、その他では＜成牛革＞＜中小牛革＞＜羊革＞＜山羊革＞＜馬革＞など多種を生産している地区となっている。ただ今回調査では＜牛床革＞の比率が前年の61%から42%にまで縮小しており、その分、他の革種のシェアが上がるという結果となった。また＜羊革＞は生産の多くを輸出しており、全国的にも＜羊革＞の輸出を行っているのは和歌山地区だけとなっている。各種の生産販売枚数に関しては、＜牛床革＞が減少傾向にあるが、その他の革種は、多少の増減はありながらもほぼ変わらない量を供給し続けている。中でも令和7年は＜馬革＞の生産販売枚数が増えたのが目立っている。

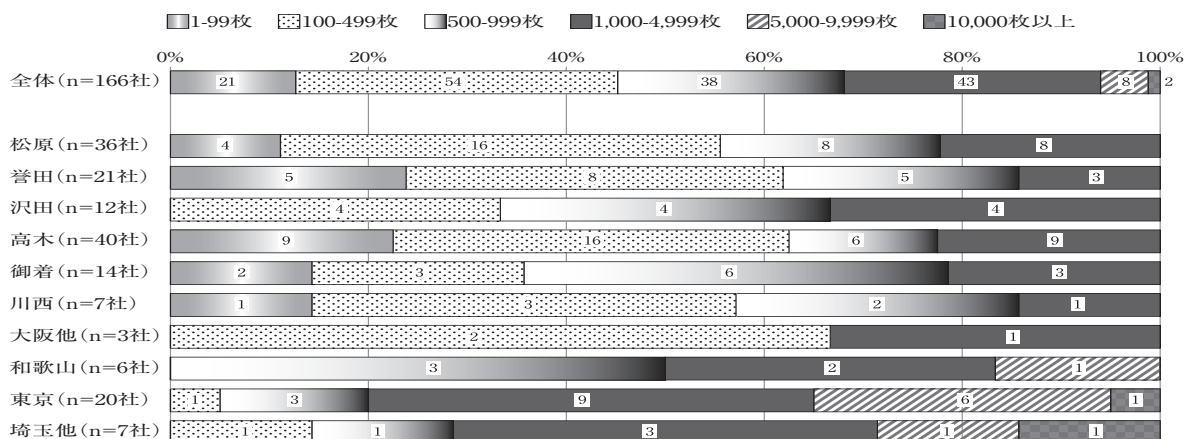
東京地区の令和7年の総生産販売枚数は44,036枚/月で、前年（69,274枚/月）より36.4%減と今回の調査において、地区間では最も大きな減少となった。東京地区は＜豚革＞を中心として生産供給している地区であるが、今回の調査ではその＜豚革＞の比率も前年と同様に43%の比率となった。一方で＜羊革＞と＜山羊革＞の比率がそれぞれ21.4%、16.6%にまで上昇している。また前年シェアを拡大した＜その他革＞の比率は大きく落としている。輸出に関しては＜山羊革＞＜豚革＞＜その他革＞の三種において行われており、輸出量の総計は各地区の中ではトップとなっている。各種の生産販売枚数に関しては、＜豚革＞＜中小牛革＞＜山羊革＞＜羊革＞は減少傾向、＜成牛革＞＜鹿革＞がやや増加傾向にあり、爬虫類などを含む＜その他革＞は年によって突発的な増加があったりしながらもほぼ横ばいで推移している。

埼玉他地区の令和7年の総生産販売枚数は63,447枚/月で、前年（59,170枚/月）より7.2%増となった。埼玉他地区の生産構成比は＜成牛革＞が大半を占めているが、扱っている革種は＜豚床革＞以外すべてを扱っている。令和7年も＜成牛革＞が82.8%というシェアを占め、＜羊革＞は前年からシェアを少し落としたが、その他の革種のシェアは前年からほぼ変化がない。また＜成牛革＞と＜その他革＞の一部で輸出を行っている。また生産販売枚数の推移をみると、＜馬革＞の枚数が減少傾向にある他は、＜成牛革＞を筆頭に、年によっては大きな増減を繰り返しながらも一定の数量を供給している。中でも＜鹿革＞が増加傾向にある。

図3-9は、全体及び地区別に月間平均生産販売枚数別の企業数をカウントしたものであり、月間平均生産販売枚数が100枚未満の企業から10,000枚を超える企業までの分布を表している。

まず全体でみると、月間平均生産販売枚数が100-499枚の企業が54社（前年53社）で最も多く、次いで1,000-4,999枚の企業が43社（同49社）、500-999枚の企業が38社（同33社）となった。月間平均生産販売枚数が5,000枚を超える企業が10社（同10社）となり、逆に100枚未満の企業が21社（同19社）という構成となった。

図3-9. なめし革月間平均生産販売枚数別企業数構成(令和7年/地区別)



3-2. 革種による用途別・仕向け先別生産販売（月間平均）動向

ここでは全国で生産されている全ての革種のその用途別及び仕向け先別の状況をまとめた。

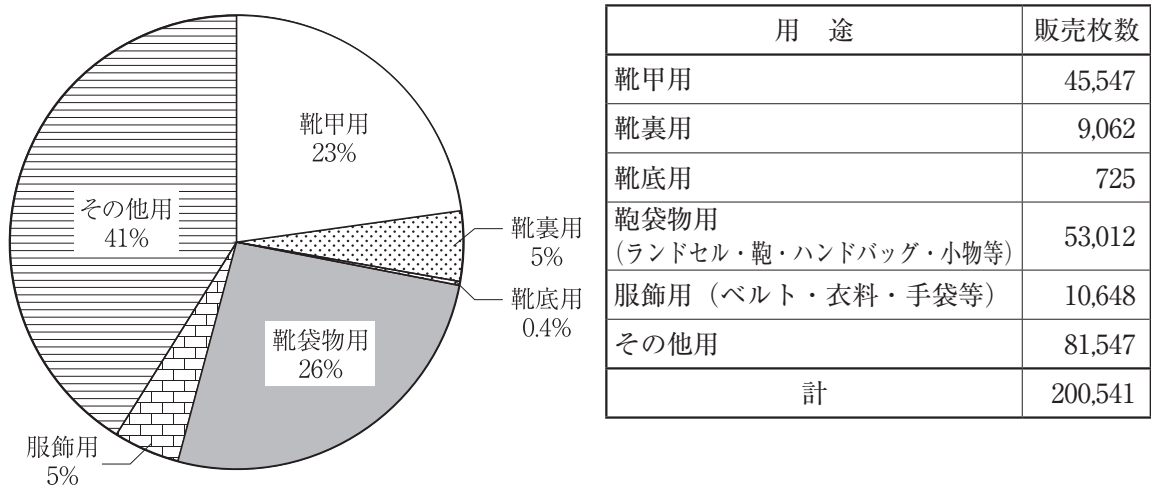
令和7年の生産販売枚数200,541枚/月の用途別の構成比を表したものが図3-10である。その結果、「靴甲用」が全体の22.7%（45,547枚/月）、「鞆袋物用」が全体の26.4%（53,012枚/月）となり、前年までこの2つの用途で50%超を占めていたが、今回の調査結果においては50%を切る結果となった。その分シェアを拡大したのは「その他用」で、全体の40.7%（81,547枚/月）となった。「靴甲用」に「靴裏用」「靴底用」を足して「靴用」とすると27.6%（55,334枚/月）となり、ほぼ「鞆袋物用」と変わらない状況となっているが、これまでの主力用途であった「靴用」のシェアが年々低下している状況が表れている。

その中で最も高いシェアとなった「その他用」の内訳は、「カーシート用」が46,450枚/月（前年43,400枚/月）、「グローブミット等運動具用」が15,034枚/月（同14,124枚/月）などが多く、いずれも前年から増産となっている。それらに次ぐ生産販売枚数となっているのは「工業手袋等安全具用」が6,699枚/月（同11,670枚/月）や「家具、インテリア用」が4,605枚/月（同4,965枚/月）で、こちらは前年より減少している。

図3-10. 全革種月間平均生産販売枚数用途構成比(令和7年)

(n=200,541 枚)

(枚/月) 丸革



その他用途	枚/月
グローブミット等運動具用	15,034
手芸工芸用	947
家具、インテリア用	4,605
カーシート用	46,450
工業手袋等安全具用	6,699
伝導ベルトサドルパッキング等工業用	10
ウェットブルー	0
その他	7,802
計	81,547

次に表3-3及び図3-11において、生産販売されている革種毎の用途をみると、まず<成牛革>においては最も枚数が多く使われている用途は「その他用」であり、<成牛革>全体の57.1% (66,290枚/月) が使用されている。その比率はここ数年少しずつではあるが拡大し続けている。次いで「鞆袋物用」がそれに次ぐ用途で、成牛革の23.1% (26,775枚/月)、「靴甲用」が14.6% (16,990枚/月) となっている。この二用途の枚数は前年から僅かに減少している。「服飾用」は4.1% (4,739枚/月) で、こちらも前年から減少している。また「靴甲用」「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」は輸出も行われており、「その他用」以外の輸出量は前年から増加している。

<中小牛革>の用途は「靴甲用」が最も多く、生産量全体の42.4% (2,567枚/月) が占めている。次いで「鞆袋物用」が26.7% (1,614枚/月)、「その他用」が25.4% (1,537枚/月) と続いている。ただここも「靴甲用」「鞆袋物用」の数量は減少しており、「その他用」や「服飾用」は僅かながらも数量は増加傾向にある。「その他用」としては一部輸出も行われている。

<豚革>の用途は「靴裏用」が37.6% (7,420枚/月)、「鞆袋物用」も37.6% (7,410枚/月) となって、この二種が高いシェアとなっている。次いで「その他用」で13.2% (2,600枚/月) となっている。一昨年では全体の55%を占めていた「靴甲用」は8.1% (1,600枚/月) まで減少している。また輸出は「鞆袋物用」として一部出荷されている。

<山羊革>の用途は「靴甲用」が全体の94.0% (11,900枚/月) を占めており、大部分が「靴甲用」として生産されている。それ以外では「鞆袋物用」「服飾用」として生産されている。また「靴甲用」として生産量の10%弱の量が輸出されている。

<羊革>の用途は「靴甲用」が全体の62.8% (8,700枚/月) を占めており、次いで「鞆袋物用」が16.4% (2,277枚/月)、「服飾用」が12.0% (1,666枚/月)、「その他用」8.7% (1,200枚/月) となった。この構成比は前年からさほど変化がない。また<羊革>の「その他用」に関しては、全て輸出用として生産されている。

<馬革>の用途としては、「服飾用」がトップで全体の42.6% (2,203枚/月) を占めており、生産量も前年から増加した。次いで差なく「鞆袋物用」が41.7% (2,157枚/月) を占めている。一方で「靴裏用」「靴甲用」の生産量は年々減少している。<馬革>に関しては輸出は行われていない。

<鹿革>の用途としては「鞆袋物用」が全体の91.4% (7,225枚/月) を占めており、大部分が「鞆袋物用」として生産されており、生産量もここ数年増加している。その他「服飾用」「その他用」として生産されている。<鹿革>も輸出は行われていない。

<牛床革>の用途は「その他用」が全体の52.7% (7,329枚/月) と最も高いシェアと占めているが、生産量は前年より減少している。次いで「靴甲用」が24.1% (3,350枚/月)、「鞆袋物用」が16.5% (2,300枚/月) となっており、いずれも生産量は減少している。また「その他用」の10%弱が輸出用として生産されている。

<その他革>の用途については、「鞆袋物用」が全体の51.5% (2,692枚/月) でトップシェアとなっているが、前年から大きくシェアを落としている。シェアが大きくなったのは「その他用」で、全体の42.1% (2,201枚/月) を使用している。その他「靴甲用」「服飾用」としても生産されている。また「鞆袋物用」「その他用」の一部が輸出用に生産されている。

表 3 - 3. 革種別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年)

(枚) 丸革 / 月産

用途 革種	靴 甲 用		靴 裏 用		靴 底 用		鞆袋物用		服 飾 用		その他用		合 計	
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出
成牛革	16,588	402	1,242		25		26,425	350	4,689	50	64,840	1,450	113,809	2,252
	97.6%	2.4%	100.0%		100.0%		98.7%	1.3%	98.9%	1.1%	97.8%	2.2%	98.1%	1.9%
	16,990		1,242		25		26,775		4,739		66,290		116,061	
	14.6%		1.1%		0.0%		23.1%		4.1%		57.1%		100.0%	
中 小 牛 革	2,567						1,614		337		1,032	505	5,550	505
	100.0%						100.0%		100.0%		67.1%	32.9%	91.7%	8.3%
	2,567						1,614		337		1,537		6,055	
	42.4%						26.7%		5.6%		25.4%		100.0%	
豚 革	1,600		7,420		700		7,240	170			2,600		19,560	170
	100.0%		100.0%		100.0%		97.7%	2.3%			100.0%		99.1%	0.9%
	1,600		7,420		700		7,410				2,600		19,730	
	8.1%		37.6%		3.5%		37.6%				13.2%		100.0%	
山羊革	10,800	1,100					562		184		7		11,553	1,100
	90.8%	9.2%					100.0%		100.0%		100.0%		91.3%	8.7%
	11,900						562		184		7		12,653	
	94.0%						4.4%		1.5%		0.1%		100.0%	
羊 革	8,700						2,277		1,666			1,200	12,643	1,200
	100.0%						100.0%		100.0%		100.0%		91.3%	8.7%
	8,700						2,277		1,666		1,200		13,843	
	62.8%						16.4%		12.0%		8.7%		100.0%	
馬 革	260		400				2,157		2,203		151		5,171	0
	100.0%		100.0%				100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	-
	260		400				2,157		2,203		151		5,171	
	5.0%		7.7%				41.7%		42.6%		2.9%		100.0%	
鹿 革							7,225		448		232		7,905	0
							100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	-
							7,225		448		232		7,905	
							91.4%		5.7%		2.9%		100.0%	
牛床革	3,350						2,300		920		6,629	700	13,199	700
	100.0%						100.0%		100.0%		90.4%	9.6%	95.0%	5.0%
	3,350						2,300		920		7,329		13,899	
	24.1%						16.5%		6.6%		52.7%		100.0%	
豚床革													0	0
													-	-
													0	
													-	
その他 革	180						2,525	167	151		1,221	980	4,077	1,147
	100.0%						93.8%	6.2%	100.0%		55.5%	44.5%	78.0%	22.0%
	180						2,692		151		2,201		5,224	
	3.4%						51.5%		2.9%		42.1%		100.0%	
合 計	44,045	1,502	9,062	0	725	0	52,325	687	10,598	50	76,712	4,835	193,467	7,074
	96.7%	3.3%	100.0%	-	100.0%	-	98.7%	1.3%	99.5%	0.5%	94.1%	5.9%	96.5%	3.5%
	45,547		9,062		725		53,012		10,648		81,547		200,541	
	22.7%		4.5%		0.4%		26.4%		5.3%		40.7%		100.0%	

図3-11. 革種別月間平均生産販売枚数における用途構成比(令和7年)

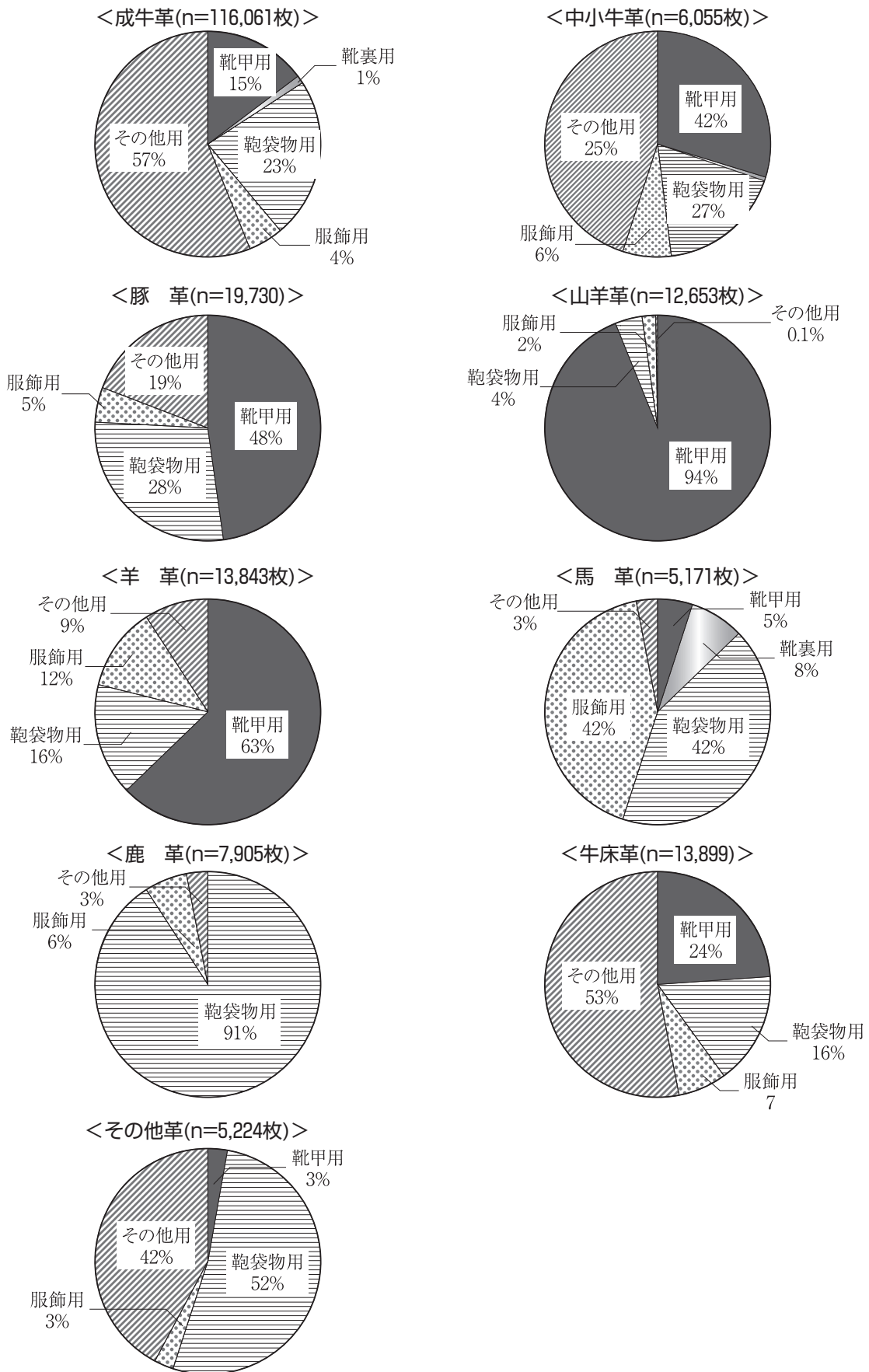


表3-4は革種別に用途別の月間平均生産販売枚数について経年変化をみたものである。その結果、この5年間で全体の生産販売枚数が30%程度の減少となっており、中でも<豚革>、<牛床革>、<山羊革>といったところが大きな減少率となっている。これらの革においてはいずれの用途においても大きく減少している。逆に<成牛革>は全体で1.8%減、<中小牛革>は9.4%減であり、他の革に比べると健闘している状態であることがわかるが、用途別にみると「靴甲用」「鞆袋物用」の数量が徐々に減少してきている。これまでの主力販売先であった国内の皮革製品メーカーの状況がここにも大きく影響しているとみられる。また<鹿革>は5年前のデータがないため、比較はできないが、ここ数年で見ると全体でも増加、特に「鞆袋物用」として着実に増えてきていることがわかる。

表3-4. 革種別用途別月間平均生産販売枚数5年間推移

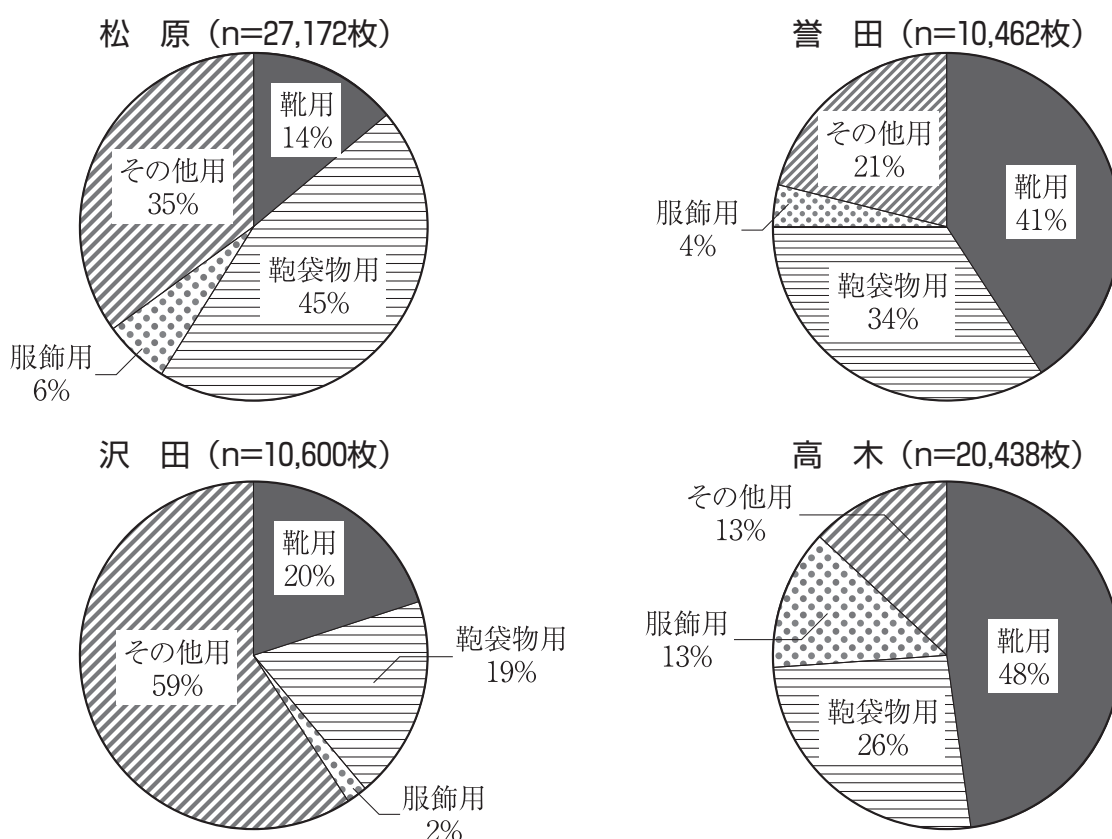
丸革 / 月産

革種 及び年	用途		靴甲用		靴裏用		靴底用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合 計(革種別)			
	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	令7/令6 対比	令7/令3 対比
成牛革	令3	18,077	15.3	567	0.5	275	0.2	31,990	27.1	3,839	3.2	63,428	53.7	118,176	41.0			
	令4	19,263	17.0	710	0.6	160	0.1	34,912	30.8	4,415	3.9	53,832	47.5	113,292	35.4			
	令5	20,252	15.9	865	0.7	95	0.1	34,371	27.0	5,693	4.5	65,935	51.8	127,211	53.0	-0.2%	-1.8%	
	令6	17,973	15.5	942	0.8	105	0.1	26,897	23.1	5,625	4.8	64,698	55.7	116,240	50.1			
	令7	16,990	14.6	1,242	1.1	25	0.02	26,775	23.1	4,739	4.1	66,290	57.1	116,061	57.9			
中小牛革	令3	3,385	50.6					2,636	39.4	392	5.9	272	4.1	6,685	2.3			
	令4	3,645	51.2					2,140	30.0	321	4.5	1,019	14.3	7,125	2.2			
	令5	3,805	54.5					2,059	29.5	303	4.3	811	11.6	6,978	2.9	-12.5%	-9.4%	
	令6	3,347	48.4					1,943	28.1	317	4.6	1,310	18.9	6,917	3.0			
	令7	2,567	42.4					1,614	26.7	337	5.6	1,537	25.4	6,055	3.0			
豚革	令3	12,110	20.5	9,890	16.7	1,500	2.5	7,458	12.6	580	1.0	27,590	46.7	59,128	20.5			
	令4	6,250	11.5	13,167	24.2			15,411	28.3	620	1.1	18,980	34.9	54,428	17.0			
	令5	16,398	55.4	9,380	31.7			2,100	7.1	220	0.7	1,500	5.1	29,598	12.3	-35.6%	-66.6%	
	令6	2,850	9.3	9,415	30.7	500	1.6	14,280	46.6			3,600	11.7	30,645	13.2			
	令7	1,600	8.1	7,420	37.6	700	3.5	7,410	37.6			2,600	13.2	19,730	9.8			
山羊革	令3	17,277	77.3	2,300	10.3			1,583	7.1	1,188	5.3			22,348	7.8			
	令4	20,232	87.5	1,000	4.3			1,751	7.6	136	0.6			23,119	7.2			
	令5	8,601	91.6					786	8.4	5	0.1			9,392	3.9	-3.7%	-43.4%	
	令6	11,829	90.0	300	2.3			948	7.2	66	0.5			13,143	5.7			
	令7	11,900	94.0					562	4.4	184	1.5	7	0.1	12,653	6.3			
羊革	令3	13,137	72.3					2,870	15.8	1,666	9.2	500	2.8	18,173	6.3			
	令4	50,113	87.7					4,563	8.0	1,986	3.5	500	0.9	57,162	17.9			
	令5	6,995	54.1					2,584	20.0	2,349	18.2	1,000	7.7	12,928	5.4	-12.9%	-23.8%	
	令6	10,036	63.1					2,490	15.7	2,370	14.9	1,000	6.3	15,896	6.8			
	令7	8,700	62.8					2,277	16.4	1,666	12.0	1,200	8.7	13,843	6.9			
馬革	令3	584	8.1	855	11.8			4,051	55.9	1,660	22.9	101	1.4	7,251	2.5			
	令4	711	9.6	980	13.3			4,270	57.9	1,199	16.3	211	2.9	7,371	2.3			
	令5	661	9.8	780	11.6	50	0.7	3,570	53.1	1,546	23.0	111	1.7	6,718	2.8	-8.1%	-28.7%	
	令6	264	4.7	850	15.1			2,321	41.2	1,991	35.4	201	3.6	5,627	2.4			
	令7	260	5.0	400	7.7			2,157	41.7	2,203	42.6	151	2.9	5,171	2.6			
鹿革	令3	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-			
	令4	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-	※	-			
	令5	50	1.0	10	0.2			4,456	85.5	518	9.9	176	3.4	5,210	2.2	+5.5%	-	
	令6	100	1.3					6,599	88.0	524	7.0	272	3.6	7,495	3.2			
	令7							7,225	91.4	448	5.7	232	2.9	7,905	3.9			
牛床革	令3	8,800	27.7			100	0.3	1,520	4.8	800	2.5	20,520	64.7	31,740	11.0			
	令4	7,750	21.4	500	1.4	50	0.1	1,400	3.9	2,200	6.1	24,303	67.1	36,203	11.3			
	令5	7,705	23.3	100	0.3			1,906	5.8	785	2.4	22,563	68.3	33,059	13.8	-30.5%	-56.2%	
	令6	6,000	30.0	100	0.5			3,500	17.5	1,300	6.5	9,093	45.5	19,993	8.6			
	令7	3,350	24.1					2,300	16.5	920	6.6	7,329	52.7	13,899	6.9			
豚床革	令3											11,770	100.0	11,770	4.1			
	令4											11,200	100.0	11,200	3.5			
	令5											1,000	100.0	1,000	0.4	-	-	
	令6											0	-	0	-			
	令7											0	-	0	-			
その他革	令3	360	2.8					6,571	50.7	522	4.0	5,506	42.5	12,959	4.5			
	令4	226	2.2					7,216	70.3	2,092	20.4	726	7.1	10,260	3.2			
	令5	16	0.2					6,813	87.1	135	1.7	860	11.0	7,824	3.3	-67.8%	+25.1%	
	令6	610	3.8					14,235	87.8	715	4.4	652	4.0	16,212	7.0			
	令7	180	3.4					2,692	51.5	151	2.9	2,201	42.1	5,224	2.6			
合計(用途別)	令3	73,730	25.6	13,612	4.7	1,875	0.7	58,679	20.4	10,647	3.7	129,687	45.0	288,230	100.0			
	令4	108,190	33.8	16,357	5.1	210	0.1	71,663	22.4	12,969	4.1	110,771	34.6	320,160	100.0			
	令5	64,483	26.9	11,135	4.6	145	0.1	58,645	24.4	11,554	4.8	93,956	39.2	239,918	100.0	-13.6%	-30.4%	
	令6	53,009	22.8	11,607	5.0	605	0.3	73,213	31.5	12,908	5.6	80,826	34.8	232,168	100.0			
	令7	45,547	22.7	9,062	4.5	725	0.4	53,012	26.4	10,648	5.3	81,547	40.7	200,541	100.0			

※鹿革は令和4年度まで集計なし

図3-12では地区別にそれぞれの用途に向けた生産販売状況をまとめた。松原地区の構成は、前年から大きな変化はないが、「鞆袋物用」が全体の45.3%、「その他用」が34.8%となっており、「靴用」は14.4%に留まっている。逆に誉田地区で生産される革は「靴用」が最も高いシェアとなり、41.6%を占めている。「鞆袋物用」が33.9%、「その他用」が20.8%となっており、前年の集計ではそれぞれの用途がおおよそ3分の1になっていたが、今回は「靴用」がシェアをより拡大している。沢田地区は「その他用」が全体の58.7%を占めているが、前年からはシェアを大きく落としており、その分「靴用」「鞆袋物用」のシェアがそれぞれ拡大、特に「鞆袋物用」は前年から10ポイントの拡大となっている。高木地区は「靴用」が48.4%を占め、「鞆袋物用」が25.8%を占めた。この構成比は前年から大きな変化がみられない。御着地区の構成比も前年とほとんど変化なく、「靴用」「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」にそれぞれバランス良く使われている。川西地区は「鞆袋物用」が全体の64.8%を占め、次いで「靴用」19.7%、となり、前年拡大していた「服飾用」は6.6%と再び縮小している。大阪他地区は「靴用」が全体の81.3%を占め、前年からさらに比率が上がっている。その他は「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」に使用されている。和歌山地区は「靴用」が41.5%を占めたが、ここ数年比率が下がっており、逆に「服飾用」「その他用」の比率が上昇している。東京地区は「靴用」が56.9%となり、前年から大きくシェアを拡大した。逆に「鞆袋物用」が26.3%となり、こちらは大きくシェアを落としている。埼玉他地区は「その他用」が80.5%を占め、「鞆袋物用」が16.4%となっており、構成比は前年からほとんど変化がない。

図3-12. 地区別月間平均生産販売枚数における用途構成比(令和7年)



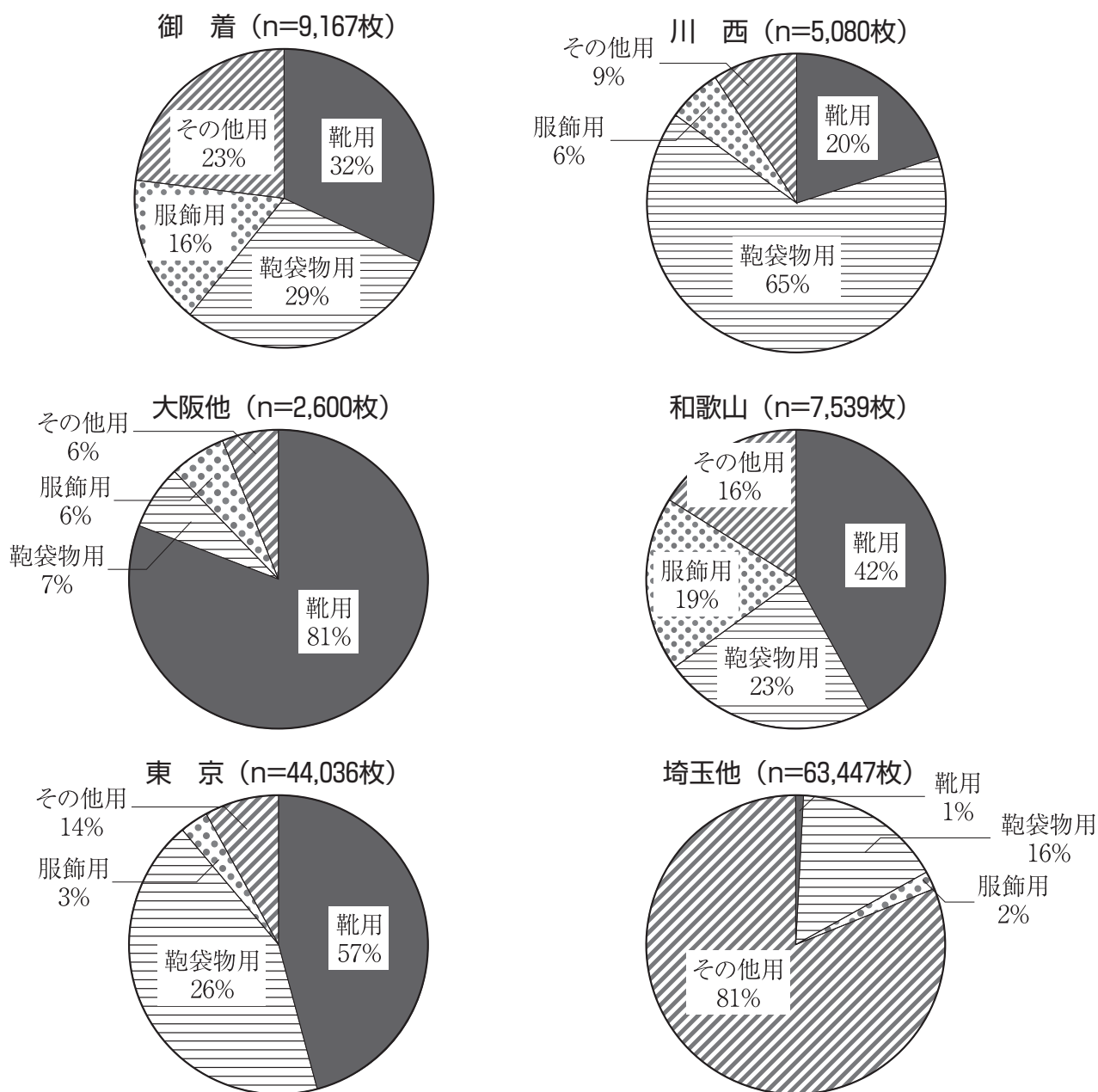


表3-5は、さらに地区別の用途を詳細にみたものである。全体の集計結果としては「カーシート用」が46,450枚/月で最も多く生産されており、次いで「靴甲用」で38,336枚/月、「小物用」で22,852枚/月と続いている。但し「カーシート用」は前年から生産販売量が増加しているが、「靴甲用」「小物用」は前年から生産販売量が減少している。その他1万枚を超えているのは「カバン用」が16,104枚/月、「グローブミット等運動具用」が15,034枚/月、「ハンドバッグ用」が11,446枚/月となっているが、「ハンドバッグ用」は前年から減少している。

また用途別に全国で最も多い生産量となっている地区をみると、「グローブミット等運動具用」の生産は松原地区、「安全・官需靴甲用」「工業手袋等安全具用」の生産は沢田地区、「スポーツ靴甲用」「衣料用」の生産は高木地区、「靴甲用」「靴裏用」「カバン用」「その他用」の生産は東京地区、「ランドセル用」「小物用」「家具インテリア用」「カーシート用」の生産は埼玉他地区がそれぞれトップの生産量となっている。

表3-5. なめし革の地区別用途別月間平均生産枚数(令和7年/詳細) 上段:(枚)丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ペ ルト用
松原	3,909 10.2%						3,909 7.1%	50 1.9%	2,974 18.5%	4,880 42.6%	4,399 19.2%	12,303 23.2%	360 12.3%
誉田	3,750 9.8%		300 8.0%	100 83.3%	200 2.2%		4,350 7.9%	310 11.9%	2,144 13.3%	525 4.6%	572 2.5%	3,551 6.7%	100 3.4%
沢田	520 1.4%	1,520 45.6%			140 1.5%		2,180 3.9%		1,700 10.6%	200 1.7%	100 0.4%	2,000 3.8%	
高木	6,715 17.5%	1,112 33.4%	1,379 36.7%	20 16.7%	660 7.3%		9,886 17.9%	45 1.7%	2,679 16.6%	387 3.4%	2,155 9.4%	5,266 9.9%	317 10.9%
御着	1,357 3.5%		800 21.3%		722 8.0%	15 2.1%	2,894 5.2%		690 4.3%	600 5.2%	1,383 6.1%	2,673 5.0%	950 32.6%
川西	980 2.6%				20 0.2%		1,000 1.8%		814 5.1%	1,300 11.4%	1,180 5.2%	3,294 6.2%	96 3.3%
大阪他	2,105 5.5%					10 1.4%	2,115 3.8%	5 0.2%	75 0.5%	15 0.1%	70 0.3%	165 0.3%	165 5.7%
和歌山	2,350 6.1%	700 21.0%	80 2.1%				3,130 5.7%	850 32.6%	508 3.2%	16 0.1%	390 1.7%	1,764 3.3%	720 24.7%
関西計	21,686 56.6%	3,332 100.0%	2,559 68.1%	120 100.0%	1,742 19.2%	25 3.4%	29,464 53.2%	1,260 48.3%	11,584 71.9%	7,923 69.2%	10,249 44.8%	31,016 58.5%	2,708 92.9%
東京	16,550 43.2%		1,200 31.9%		7,320 80.8%		25,070 45.3%	100 3.8%	3,470 21.5%	3,373 29.5%	4,636 20.3%	11,579 21.8%	58 2.0%
埼玉他	100 0.3%					700 96.6%	800 1.4%	1,250 47.9%	1,050 6.5%	150 1.3%	7,967 34.9%	10,417 19.7%	150 5.1%
関東計	16,650 43.4%	0 -	1,200 31.9%	0 -	7,320 80.8%	700 96.6%	25,870 46.8%	1,350 51.7%	4,520 28.1%	3,523 30.8%	12,603 55.2%	21,996 41.5%	208 7.1%
全国計	38,336 100.0%	3,332 100.0%	3,759 100.0%	120 100.0%	9,062 100.0%	725 100.0%	55,334 100.0%	2,610 100.0%	16,104 100.0%	11,446 100.0%	22,852 100.0%	53,012 100.0%	2,916 100.0%

	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用等	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原	941 14.4%	200 22.0%		1,501 14.1%	7,550 50.2%		460 10.0%		1,409 21.0%		40 0.5%	9,459 11.6%	27,172 13.5%
誉田	280 4.3%			380 3.6%	1,181 7.9%	200 21.1%	200 4.3%		600 9.0%			2,181 2.7%	10,462 5.2%
沢田	80 1.2%	40 4.4%	80 26.2%	200 1.9%	1,480 9.8%	50 5.3%			4,690 70.0%			6,220 7.6%	10,600 5.3%
高木	2,155 33.1%	200 22.0%		2,672 25.1%	1,816 12.1%	7 0.7%	250 5.4%				541 6.9%	2,614 3.2%	20,438 10.2%
御着	340 5.2%		200 65.6%	1,490 14.0%	330 2.2%	20 2.1%	200 4.3%	50 0.1%			1,510 19.3%	2,110 2.6%	9,167 4.6%
川西	120 1.8%	120 13.2%		336 3.2%	450 3.0%							450 0.6%	5,080 2.5%
大阪他				165 1.5%	20 0.1%		135 2.9%					155 0.2%	2,600 1.3%
和歌山	700 10.7%		25 8.2%	1,445 13.6%	1,200 8.0%							1,200 1.5%	7,539 3.8%
関西計	4,616 70.8%	560 61.5%	305 100.0%	8,189 76.9%	14,027 93.3%	277 29.3%	1,245 27.0%	50 0.1%	6,699 100.0%	0 -	2,091 26.8%	24,389 29.9%	93,058 46.4%
東京	1,251 19.2%			1,309 12.3%	1,007 6.7%	670 70.7%	100 2.2%				4,301 55.1%	6,078 7.5%	44,036 22.0%
埼玉他	650 10.0%	350 38.5%		1,150 10.8%			3,260 70.8%	46,400 99.9%			1,420 18.2%	51,080 62.6%	63,447 31.6%
関東計	1,901 29.2%	350 38.5%	0 -	2,459 23.1%	1,007 6.7%	670 70.7%	3,360 73.0%	46,400 99.9%	0 -	0 -	5,721 73.2%	57,158 70.1%	107,483 53.6%
全国計	6,517 100.0%	910 100.0%	305 100.0%	10,648 100.0%	15,034 100.0%	947 100.0%	4,605 100.0%	46,450 100.0%	6,699 100.0%	0 -	7,812 100.0%	81,547 100.0%	200,541 100.0%

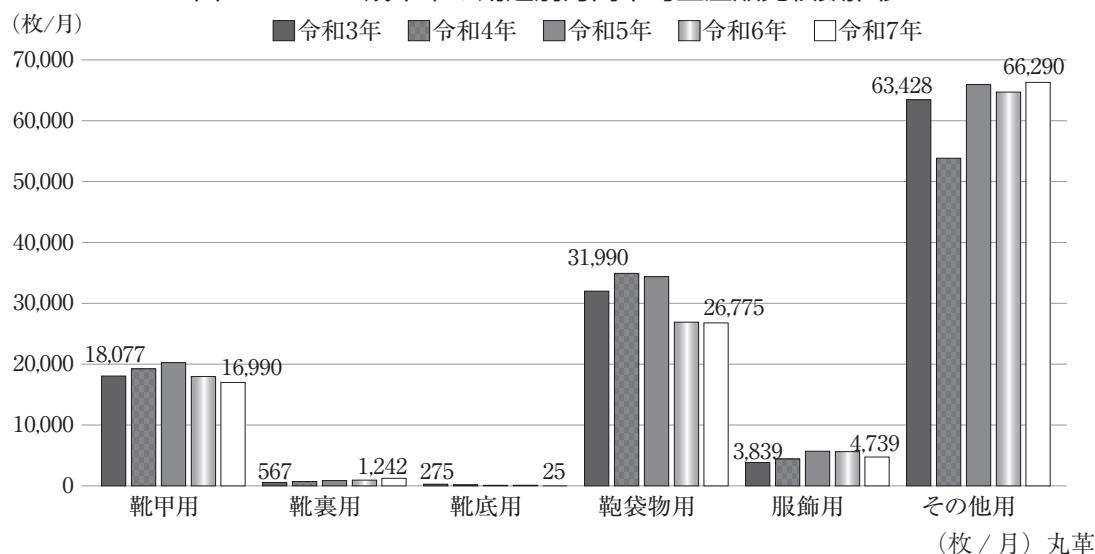
3-3. 主要革種別地域別・用途別月間平均生産販売動向（詳細）

ここでは日本で生産している主要な革種ごとに、生産販売枚数の集計結果詳細をまとめた。

① 成牛革

まず、＜成牛革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和3年から経年で集計したものが図3-13である。革全体の需要が低迷している中で、＜成牛革＞の需要は堅調に推移している。用途としては毎年「その他用」の生産販売枚数が最も多く、令和7年で66,290枚/月となり、前年（64,698枚/月）よりわずかではあるが増加し、令和3年時との比較においても4.5%の増加になるなど、安定的に推移している。次いで用途が多い「鞆袋物用」は令和7年の生産販売枚数は26,775枚/月となり、こちらは逆に僅かに前年（26,897枚/月）の枚数を下回った。「鞆袋物用」については令和6年に大きく減少しており、そこからの回復はならなかった。また令和3年時と比較しても16.3%の減少という結果となっている。「靴甲用」の生産販売枚数も大きく減少した前年（17,973枚/月）からさらに減少し、16,990枚/月となった。ただし令和3年時との比較においては6.0%の減少に留まっている。その他「服飾用」も前年からは減少したが、令和3年時との比較では23.4%の増加となっている。「靴裏用」は毎年増加しており、数量がまだ少量であることもあって、増加率も令和3年時から119%の増加となっている。

図3-13. 成牛革の用途別月間平均生産販売枚数推移



	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和3年	18,077	567	275	31,990	3,839	63,428	118,176
令和4年	19,263	710	160	34,912	4,415	53,832	113,292
令和5年	20,252	865	95	34,371	5,693	65,935	127,211
令和6年	17,973	942	105	26,897	5,625	64,698	116,240
令和7年	16,990	1,242	25	26,775	4,739	66,290	116,061
令7/令3	-6.0%	+119.0%	-90.9%	-16.3%	+23.4%	+4.5%	-1.8%

図3-14は、成牛革の国内向け出荷枚数の地区別比率と、輸出枚数の地区別比率を表したものである。国内向け出荷枚数113,809枚/月の生産地区の内訳としては、埼玉他地区が45.8%を占め

ており、前年よりもさらにシェアは拡大している。次いで松原地区が20.4%の比率となっており、この上位2地区で全体のおおよそ3分の2（66.2%）を占めている。それ以外の地区はいずれも10%以下の比率で、御着地区（7.4%）、高木地区（7.1%）などが続いている。輸出に関しては国内の4地区で行われており、輸出枚数は前年から増加した。輸出用の令和7年の生産販売枚数2,252枚/月の地区別の内訳としては、松原地区が全体の40.0%、高木地区が全体の37.8%、埼玉他地区が17.8%、誉田地区が4.4%となっている。

図3-14. 成牛革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率(令和7年)

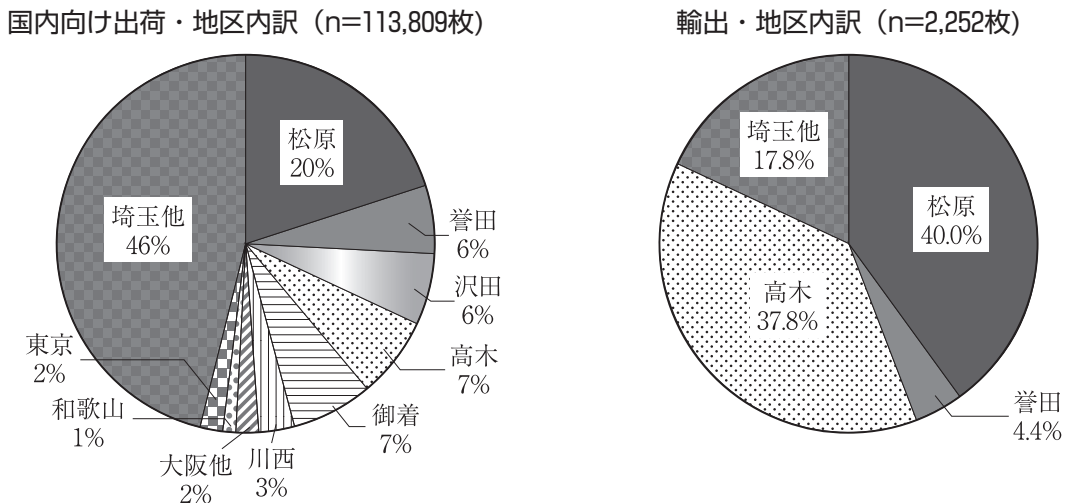


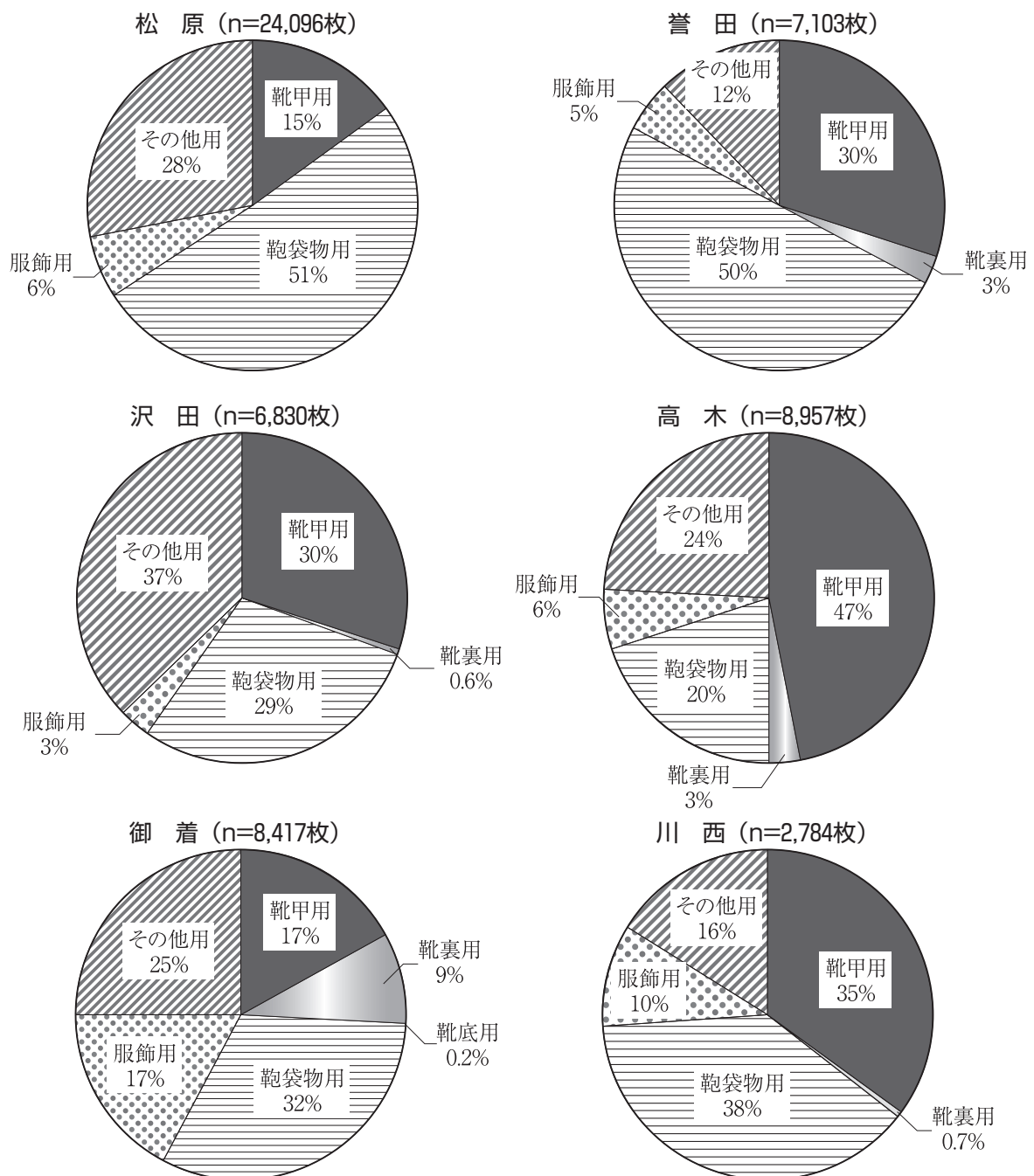
図3-15及び表3-6では、＜成牛革＞の地区別に月間平均生産販売枚数を用途別に集計したものである。＜成牛革＞の生産販売枚数が最も多い埼玉他地区は、令和7年の生産販売枚数が52,530枚/月となり、前年の47,940枚/月から回復している。今回の内訳をみると「その他用」が94.7%を占めており、「鞆袋物」が5.1%という結果となっている。毎年多少の変化こそあるが、埼玉他地区の＜成牛革＞はほぼ「その他用」として生産されているといってもよい。次いで生産販売枚数の多い松原地区の令和7年の生産販売枚数は24,096枚/月となり、前年（26,281枚/月）に続いて今回も減少した。その内訳としては「鞆袋物用」が50.8%（前年52.0%）、「その他用」が28.0%（同25.4%）、「靴甲用」が15.2%（同15.1%）、「服飾用」が6.0%（同7.6%）となっており、前年から大きな変化はない。ここ数年、＜成牛革＞の生産販売量を落としている高木地区は令和7年も8,957枚/月（前年10,661枚/月）と減少し、ついに1万枚を切っている。主要用途の「靴甲用」「鞆袋物用」の生産販売量が減少し、シェアを落としていることがその要因となっている。

それ以外の地区の傾向として、次いで生産販売量が多い御着地区は、令和7年の生産販売枚数が8,417枚/月となり、前年（9,613枚/月）からは減少した。構成比に関してはほとんど変化がなく、特定の用途に偏らず万遍に対応している。誉田地区の令和7年の生産販売枚数は7,103枚/月となり、前年（7,113枚/月）からは微減となった。その構成比に関しては「靴甲用」と「鞆袋物用」がシェアを拡大している。逆に沢田地区の令和7年の生産販売枚数は6,830枚/月となり、前年（6,645枚/月）から増加している。その内訳としてはここも「靴甲用」「鞆袋物用」のシェアが拡大している。その他の地区では、東京地区が2,120枚/月（前年1,880枚/月）、川西地区が2,784枚/月（前年2,490枚/月）と前年から生産販売量を増やしており、川西地区は「鞆袋物用」のシェアが最も大きくなっている。

また＜成牛革＞における令和7年の輸出に関しては、「その他用」が1,450枚/月となり、最も生産販売量が大きく、松原、誉田、高木の3地区で輸出用の生産が行われている。また「靴用」は高木地区で、「鞆袋物用」及び「服飾用」は埼玉他地区でそれぞれ輸出用の生産が行われている。

表3-7は各地区の＜成牛革＞の用途別月間平均生産販売枚数を経年で比較している。この5年間という期間で見れば、全体の生産販売量も大きな変化はなく、安定的な供給ができているが、用途別の構成比をみると「靴甲用」「鞆袋物用」などの生産販売量の減少傾向が続いていることがわかる。また地区別では高木地区の減少、埼玉他地区の増加がこの5年間では顕著になっているといえよう。

図3-15. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率(令和7年)



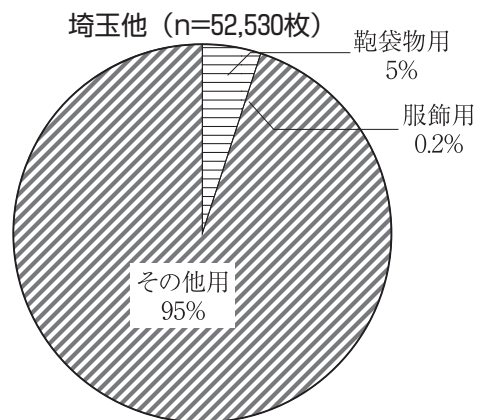
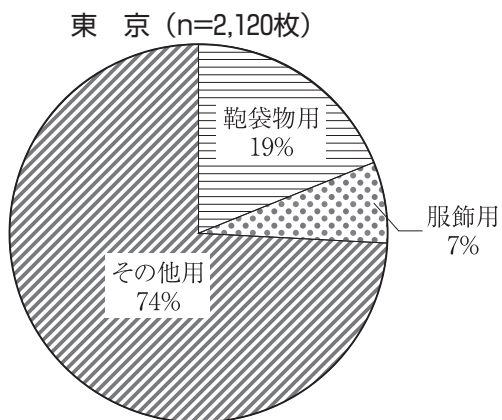
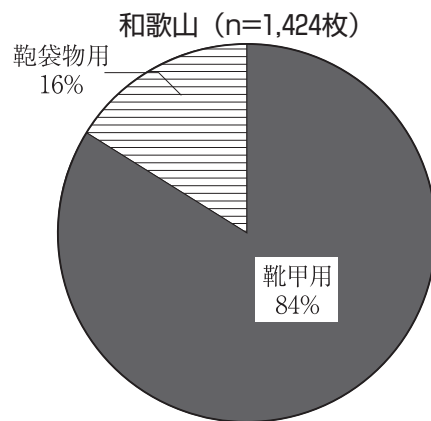
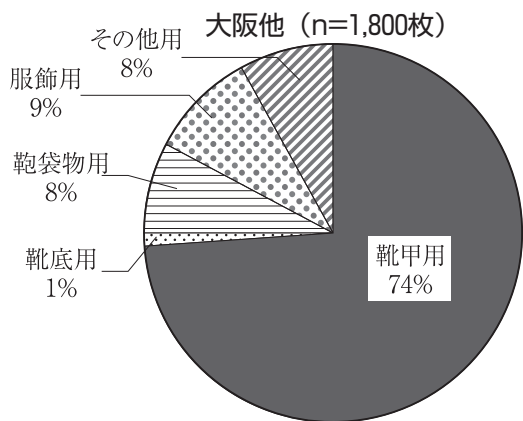


表 3 - 6. 成牛革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年) (枚) 丸革 / 月産

用途 地区	靴 用		鞆袋物用		服 飾 用		その他用		合 計		総合計
	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	国 内	輸 出	
松 原	3,659		12,243		1,441		5,853	900	23,196 (96.3%)	900 (3.7%)	24,096 (20.8%)
誉 田	2,350		3,551		380		722	100	7,003 (98.6%)	100 (1.4%)	7,103 (6.1%)
沢 田	2,080		2,000		200		2,550		6,830 (100.0%)	0 -	6,830 (5.9%)
高 木	4,022	402	1,800		573		1,710	450	8,105 (90.5%)	852 (9.5%)	8,957 (7.7%)
御 着	2,194		2,673		1,440		2,110		8,417 (100.0%)	0 -	8,417 (7.3%)
川 西	1,000		1,044		290		450		2,784 (100.0%)	0 -	2,784 (2.4%)
大阪他	1,350		140		165		145		1,800 (100.0%)	0 -	1,800 (1.6%)
和歌山	1,200		224						1,424 (100.0%)	0 -	1,424 (1.2%)
関西計	17,855 (97.8%)	402 (2.2%)	23,675 (100.0%)	0 -	4,489 (100.0%)	0 -	13,540 (90.3%)	1,450 (9.7%)	59,559 (97.0%)	1,852 (3.0%)	61,411 (52.9%)
	18,257 (29.7%)		23,675 (38.6%)		4,489 (7.3%)		14,990 (24.4%)		61,411 (100.0%)		
東 京			400		150		1,570		2,120 (100.0%)	0 -	2,120 (1.8%)
埼玉他			2,350	350	50	50	49,730		52,130 (99.2%)	400 (0.8%)	52,530 (45.3%)
関東計	0 -	0 -	2,750 (88.7%)	350 (11.3%)	200 (80.0%)	50 (20.0%)	51,300 (100.0%)	0 -	54,250 (99.3%)	400 (0.7%)	54,650 (47.1%)
	0 -		3,100 (5.7%)		250 (0.5%)		51,300 (93.9%)		54,650 (100.0%)		
全国計	17,855 (97.8%)	402 (2.2%)	26,425 (98.7%)	350 (1.3%)	4,689 (98.9%)	50 (1.1%)	64,840 (97.8%)	1,450 (2.2%)	113,809 (98.1%)	2,252 (1.9%)	116,061 (100.0%)
	18,257 (15.7%)		26,775 (23.1%)		4,739 (4.1%)		66,290 (57.1%)		116,061 (100.0%)		

表 3 - 7. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数5年間推移

九革 / 月産

地区 及び年	革種	靴甲用		靴裏用		靴底用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計	
		枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	用途別(%)	枚数	地区別(%)
松原	令 3	3,691	20.4					11,505	36.0	1,323	34.5	7,116	11.2	23,635	20.0
	令 4	4,438	23.0					12,929	37.0	1,483	33.6	6,834	12.7	25,684	22.7
	令 5	4,251	21.0					14,751	42.9	1,840	32.3	6,936	10.5	27,778	21.8
	令 6	3,958	22.0					13,668	50.8	1,985	35.3	6,670	10.3	26,281	22.6
	令 7	3,659	21.5					12,243	45.7	1,441	30.4	6,753	10.2	24,096	20.8
誉田	令 3	2,545	14.1					5,080	15.9	362	9.4	450	0.7	8,437	7.1
	令 4	2,210	11.5	200	28.2			4,220	12.1	570	12.9	1,045	1.9	8,245	7.3
	令 5	2,395	11.8	350	40.5			4,751	13.8	630	11.1	1,250	1.9	9,376	7.4
	令 6	1,920	10.7			50	47.6	3,283	12.2	500	8.9	1,360	2.1	7,113	6.1
	令 7	2,150	12.7	200	16.1			3,551	13.3	380	8.0	822	1.2	7,103	6.1
沢田	令 3	1,770	9.6					1,800	5.5	230	5.5	3,850	6.0	7,650	6.5
	令 4	700	3.6					1,550	4.2	200	4.1	2,200	4.1	4,650	4.1
	令 5	1,650	8.5	50	9.7			1,730	5.4	110	1.9	2,740	4.2	6,280	4.9
	令 6	1,440	11.9	55	5.8	30	54.5	1,250	12.6	300	9.6	3,570	6.3	6,645	5.7
	令 7	2,040	12.0	40	3.2			2,000	7.5	200	4.2	2,550	3.8	6,830	5.9
高木	令 3	6,070	33.6	10	1.8			2,360	7.4	213	5.5	3,034	4.8	11,687	9.9
	令 4	6,825	35.4	10	1.4			5,634	16.1	275	6.2	2,571	4.8	15,315	13.5
	令 5	6,180	30.5	20	2.3			2,920	8.5	393	6.9	1,470	2.2	10,983	8.6
	令 6	5,221	29.0	330	35.0			2,911	10.8	604	10.7	1,595	2.5	10,661	9.2
	令 7	4,164	24.5	260	20.9			1,800	6.7	573	12.1	2,160	3.3	8,957	7.7
御着	令 3	1,376	7.6	507	89.4	215	78.2	3,737	11.7	1,005	26.2	4,716	7.4	11,556	9.8
	令 4	1,800	9.3	500	70.4	140	87.5	2,650	7.6	1,425	32.3	3,135	5.8	9,650	8.5
	令 5	1,771	8.7	415	48.0	70	73.7	3,068	8.9	1,325	23.3	3,079	4.7	9,728	7.6
	令 6	1,813	10.1	557	59.1	20	19.0	3,090	11.5	1,410	25.1	2,723	4.2	9,613	8.3
	令 7	1,457	8.6	722	58.1	15	60.0	2,673	10.0	1,440	30.4	2,110	3.2	8,417	7.3
川西	令 3	500	2.8					1,410	4.4	379	9.9	80	0.1	2,369	2.0
	令 4	800	4.2					760	2.2	180	4.1	30	0.1	1,770	1.6
	令 5	980	4.8	30	3.5			1,015	3.0	235	4.1	235	0.4	2,495	2.0
	令 6	950	5.3					770	2.9	680	12.1	90	0.1	2,490	2.1
	令 7	980	5.8	20	1.6			1,044	3.9	290	6.1	450	0.7	2,784	2.4
大阪他	令 3	1,425	7.9	50	8.8	10	3.6	564	1.8	99	2.6	409	0.6	2,557	2.2
	令 4	1,680	8.7			20	12.5	700	2.0	85	1.9	485	0.9	2,970	2.6
	令 5	1,405	6.9			25	26.3	790	2.3	160	2.8	350	0.5	2,730	2.1
	令 6	1,381	7.7			5	4.8	445	1.7	106	1.9	160	0.2	2,097	1.8
	令 7	1,340	7.9			10	40.0	140	0.5	165	3.5	145	0.2	1,800	1.6
和歌山	令 3	550	3.0					680	2.1					1,230	1.0
	令 4	800	4.2					140	0.4					940	0.8
	令 5	1,620	8.0					236	0.7					1,856	1.5
	令 6	1,290	7.2					230	0.9					1,520	1.3
	令 7	1,200	7.1					224	0.8					1,424	1.2
関西計	令 3	17,927	99.2	567	100.0	225	81.8	27,136	84.8	3,611	94.1	19,655	31.0	69,121	58.5
	令 4	19,253	99.9	710	100.0	160	100.0	28,583	81.9	4,218	95.5	16,300	30.3	69,224	61.1
	令 5	20,252	100.0	865	100.0	95	100.0	29,261	85.1	4,693	82.4	16,060	24.4	71,226	56.0
	令 6	17,973	100.0	942	100.0	105	100.0	25,647	95.4	5,585	99.3	16,168	25.0	66,420	57.1
	令 7	16,990	100.0	1,242	100.0	25	100.0	23,675	88.4	4,489	94.7	14,990	22.6	61,411	52.9
東京	令 3							504	1.6	28	0.7	1,403	2.2	1,935	1.6
	令 4							504	1.4	72	1.6	1,372	2.5	1,948	1.7
	令 5							310	0.9			1,355	2.1	1,665	1.3
	令 6							150	0.6			1,730	2.7	1,880	1.6
	令 7							400	1.5	150	3.2	1,570	2.4	2,120	1.8
埼玉他	令 3	150	0.8			50	18.2	4,350	13.6	200	5.2	42,370	66.8	47,120	39.9
	令 4	10	0.1					5,825	16.7	125	2.8	36,160	67.2	42,120	37.2
	令 5							4,800	14.0	1,000	17.6	48,520	73.6	54,320	42.7
	令 6							1,100	4.1	40	0.7	46,800	72.3	47,940	41.2
	令 7							2,700	10.1	100	2.1	49,730	75.0	52,530	45.3
関東計	令 3	150	0.8	0	-	50	18.2	4,854	15.2	228	5.9	43,773	69.0	49,055	41.5
	令 4	10	0.1	0	-	0	-	6,329	18.1	197	4.5	37,532	69.7	44,068	38.9
	令 5	0	-	0	-	0	-	5,110	14.9	1,000	17.6	49,875	75.6	55,985	44.0
	令 6	0	-	0	-	0	-	1,250	4.6	40	0.7	48,530	75.0	49,820	42.9
	令 7	0	-	0	-	0	-	3,100	11.6	250	5.3	51,300	77.4	54,650	47.1
全国計	令 3	18,077	100.0	567	100.0	275	100.0	31,990	100.0	3,839	100.0	63,428	100.0	118,176	100.0
	令 4	19,263	100.0	710	100.0	160	100.0	34,912	100.0	4,415	100.0	53,832	100.0	113,292	100.0
	令 5	20,252	100.0	865	100.0	95	100.0	34,371	100.0	5,693	100.0	65,935	100.0	127,211	100.0
	令 6	17,973	100.0	942	100.0	105	100.0	26,897	100.0	5,625	100.0	64,698	100.0	116,240	100.0
	令 7	16,990	100.0	1,242	100.0	25	100.0	26,775	100.0	4,739	100.0	66,290	100.0	116,061	100.0

その用途の詳細を表した表3-8をみると、＜成牛革＞の生産販売枚数において、最も大きい用途は「カーシート用」で、令和7年は46,500枚/月となり、前年（43,200枚/月）から増加している。その「カーシート用」の大部分が埼玉他地区で生産されている。次いで「靴甲用」が13,561枚/月となり、こちらは前年（15,232枚/月）より減少した結果となった。「靴甲用」は関西の全地区で生産されている。次いで「カバン用」で10,092枚/月となっており、ここまでが1万枚以上の生産となっている。「カバン用」は松原地区、誉田地区、沢田地区などが中心の産地となっている。その他、「ハンドバッグ用」「小物用」「グローブミット等運動具用」などは松原地区での生産が多く、「家具、インテリア用」は埼玉他地区での生産が中心となっている。

表 3 - 8. 成牛革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和7年/ 詳細) 上段: (枚) 丸革/月産 下段: 用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松 原	3,659 27.0%						3,659 20.0%	50 3.5%	2,914 28.9%	4,880 68.1%	4,399 54.3%	12,243 45.7%	360 20.1%
誉 田	1,750 12.9%		300 52.0%	100 83.3%	200 16.1%		2,350 12.9%	310 21.9%	2,144 21.2%	525 7.3%	572 7.1%	3,551 13.3%	100 5.6%
沢 田	520 3.8%	1,520 55.6%			40 3.2%		2,080 11.4%		1,700 16.8%	200 2.8%	100 1.2%	2,000 7.5%	
高 木	3,455 25.5%	512 18.7%	177 30.7%	20 16.7%	260 20.9%		4,424 24.2%		852 8.4%	330 4.6%	618 7.6%	1,800 6.7%	63 3.5%
御 着	1,357 10.0%		100 17.3%		722 58.1%	15 60.0%	2,194 12.0%		690 6.8%	600 8.4%	1,383 17.1%	2,673 10.0%	950 53.1%
川 西	980 7.2%				20 1.6%		1,000 5.5%		414 4.1%	500 7.0%	130 1.6%	1,044 3.9%	50 2.8%
大阪他	1,340 9.9%					10 40.0%	1,350 7.4%	5 0.4%	70 0.7%	15 0.2%	50 0.6%	140 0.5%	165 9.2%
和歌山	500 3.7%	700 25.6%					1,200 6.6%		208 2.1%	16 0.2%		224 0.8%	
関西計	13,561 100.0%	2,732 100.0%	577 100.0%	120 100.0%	1,242 100.0%	25 100.0%	18,257 100.0%	365 25.8%	8,992 89.1%	7,066 98.6%	7,252 89.5%	23,675 88.4%	1,688 94.4%
東 京							0 -		100 1.0%	100 1.4%	200 2.5%	400 1.5%	
埼玉他							0 -	1,050 74.2%	1,000 9.9%		650 8.0%	2,700 10.1%	100 5.6%
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1,050 74.2%	1,100 10.9%	100 1.4%	850 10.5%	3,100 11.6%	100 5.6%
全国計	13,561 100.0%	2,732 100.0%	577 100.0%	120 100.0%	1,242 100.0%	25 100.0%	18,257 100.0%	1,415 100.0%	10,092 100.0%	7,166 100.0%	8,102 100.0%	26,775 100.0%	1,788 100.0%

	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用等	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松 原	881 38.1%	200 55.6%		1,441 30.4%	6,100 55.9%		460 10.0%		153 8.2%		40 8.2%	6,753 10.2%	24,096 20.8%
誉 田	280 12.1%			380 8.0%	422 3.9%	200 57.8%	200 4.3%					822 1.2%	7,103 6.1%
沢 田	80 3.5%	40 11.1%	80 28.6%	200 4.2%	780 7.2%	50 14.5%			1,720 91.8%			2,550 3.8%	6,830 5.9%
高 木	510 22.1%			573 12.1%	1,813 16.6%	6 1.7%	250 5.4%				91 4.3%	2,160 3.3%	8,957 7.7%
御 着	290 12.5%		200 71.4%	1,440 30.4%	330 3.0%	20 5.8%	200 4.3%	50 0.1%			1,510 71.5%	2,110 3.2%	8,417 7.3%
川 西	120 5.2%	120 33.3%		290 6.1%	450 4.1%							450 0.7%	2,784 2.4%
大阪他				165 3.5%	10 0.1%		135 2.9%					145 0.2%	1,800 1.6%
和歌山				0 -								0 -	1,424 1.2%
関西計	2,161 93.5%	360 100.0%	280 100.0%	4,489 94.7%	9,905 90.8%	276 79.8%	1,245 27.0%	50 0.1%	1,873 100.0%	0 -	1,641 77.7%	14,990 22.6%	61,411 52.9%
東 京	150 6.5%			150 3.2%	1,000 9.2%	70 20.2%	100 2.2%				400 18.9%	1,570 2.4%	2,120 1.8%
埼玉他				100 2.1%			3,260 70.8%	46,400 99.9%			70 3.3%	49,730 75.0%	52,530 45.3%
関東計	150 6.5%	0 -	0 -	250 5.3%	1,000 9.2%	70 20.2%	3,360 73.0%	46,400 99.9%	0 -	0 -	470 22.3%	51,300 77.4%	54,650 47.1%
全国計	2,311 100.0%	360 100.0%	280 100.0%	4,739 100.0%	10,905 100.0%	346 100.0%	4,605 100.0%	46,450 100.0%	1,873 100.0%	0 -	2,111 106.3%	66,290 100.0%	116,061 100.0%

次に＜成牛革＞の生産について、各地区で月間平均生産販売枚数別に製革業者数をカウントしたのが表3-9である。今回の調査においても無回答の企業が96社あり、一概に企業数の増減だけで地区ごとの評価はできない点もあるが、全体のバランスをみると、1-99枚/月の小規模企業が20社（前年21社）、100-499枚/月の企業が56社（同55社）、500-999枚/月の企業が26社（同26社）、そして1,000枚以上/月の規模の大きい企業数が20社（前年26社）となっている。また地区別にバランスを見ると、誉田地区、高木地区などが小規模な企業が多いことが分かる。

表3-9. 成牛革の地区別月間平均生産販売枚数別企業数 (社)

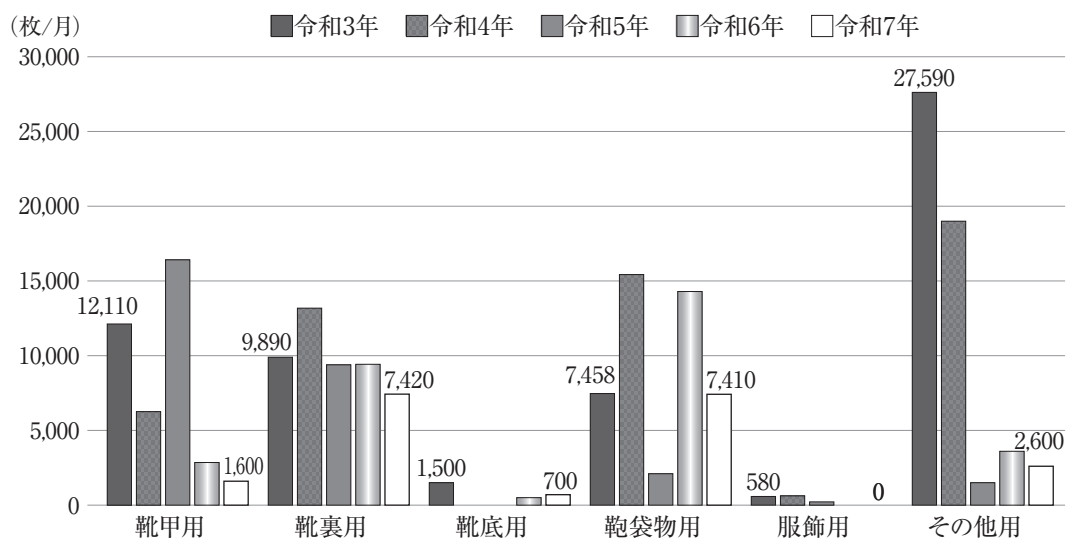
	企業数	1-99枚	100-499枚	500-999枚	1000枚以上	扱いなし	無回答	休業中
松原	67	4	15	6	8	3	31	13
誉田	43	0	11	6	1	3	22	11
沢田	12	1	4	3	1	3	0	0
高木	57	11	10	6	1	12	17	7
御着	25	1	7	2	3	4	8	3
川西	10	1	4	1	1	0	3	0
大阪他	11	0	2	0	1	2	6	2
和歌山	6	1	1	0	1	3	0	0
東京	26	0	1	1	1	17	6	0
埼玉他	9	1	1	1	2	2	2	0
計	266	20	56	26	20	49	96	36

② 豚 革

＜豚革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和3年から経年で集計したものが図3-16である。豚革の全体の生産販売枚数としては、令和7年で19,730枚/月（前年30,645枚/月）となり、再び大幅な減少となった。令和3年時との比較では66.6%の減少となって、3分の1の生産量にまで落ち込んでいる。令和5年時はそれまで10,000枚/月を越す輸出があったものが全てなくなったことでこの1,2年大きく落ち込んでおり、今回は前年の「鞆袋物用」の需要が半減したことが大きく影響している。

用途別にみると、前年から大きく落ち込んだにも関わらず、今回も最も大きな生産販売枚数となったのは「鞆袋物用」で、7,410枚/月（前年14,280枚/月）となった。この5年間の用途別の状況をみると、例えば「靴甲用」では令和3年と令和5年、「靴裏用」では令和4年、「鞆袋物用」では令和4年と令和6年の急激な増加を示すなど、1年だけ突発的な需要が発生し、翌年はその需要がなくなっているといった状況を繰り返している。他革種にはあまり見られない現象で、＜豚革＞特有の現象といえる。

図3-16. 豚革の用途別月間平均生産販売枚数推移



(枚/月) 丸革

	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和3年	12,110	9,890	1,500	7,458	580	27,590	59,128
令和4年	6,250	13,167	0	15,411	620	18,980	54,428
令和5年	16,398	9,380	0	2,100	220	1,500	29,598
令和6年	2,850	9,415	500	14,280	0	3,600	30,645
令和7年	1,600	7,420	700	7,410	0	2,600	19,730
令7/令3	-86.8%	-25.0%	-53.3%	-0.6%	-100.0%	-90.6%	-66.6%

＜豚革＞の地区別の生産販売枚数比率と輸出の地区別比率をまとめたのが図3-17である。地区別の生産販売枚数比率をみると、東京地区が全体の95.9%を占めており、残りは埼玉他地区と沢田地区で少量生産されている。この状況は以前から変化はなく、＜豚革＞の生産地は東京地区というイメージが定着しているが、その生産量は大きく減少している。また輸出は全体の0.9%の170枚/月となったが、すべてが東京地区で生産されたものとなっている。

図3-17. 豚革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率(令和7年)

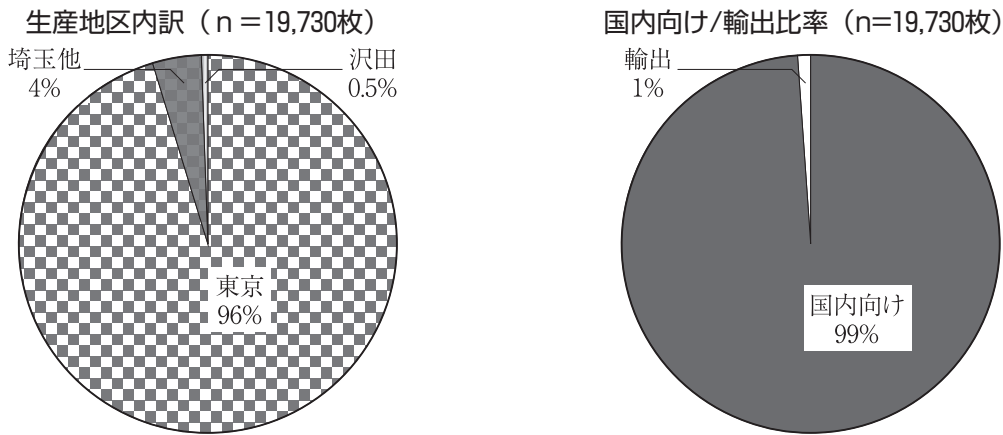


図3-18は、＜豚革＞を生産している地区ごとの用途の構成を表したものである。沢田地区、埼玉他地区はいずれも「靴用」の生産が100%となっており、東京地区は「靴用」の生産が47.1%、「鞆袋物用」が39.1%、「その他用」が13.7%という構成になっている。

表3-10は、それらの地区で生産されている＜豚革＞が用途別に国内向け及び輸出の振り分けを表したもので、表3-11は＜豚革＞の用途をさらに詳細に記したものである。今回調査結果では、「靴裏用」として生産されているものが最も多く、7,420枚/月（前年9,415枚/月）となった。次いで「カバン用」で3,350枚/月（同880枚/月）、「ハンドバッグ用」が2,380枚/月（同1,100枚/月）となっている。前年最も多かった「小物用」は1,580枚/月（同11,000枚/月）となっている。「カバン用」「ハンドバッグ用」は増加したものの、「小物用」は大きな減少となった。また「靴用」「鞆袋物用」以外の用途では、「手芸工芸用」としても生産されている。

図3-18. 豚革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率(令和7年)

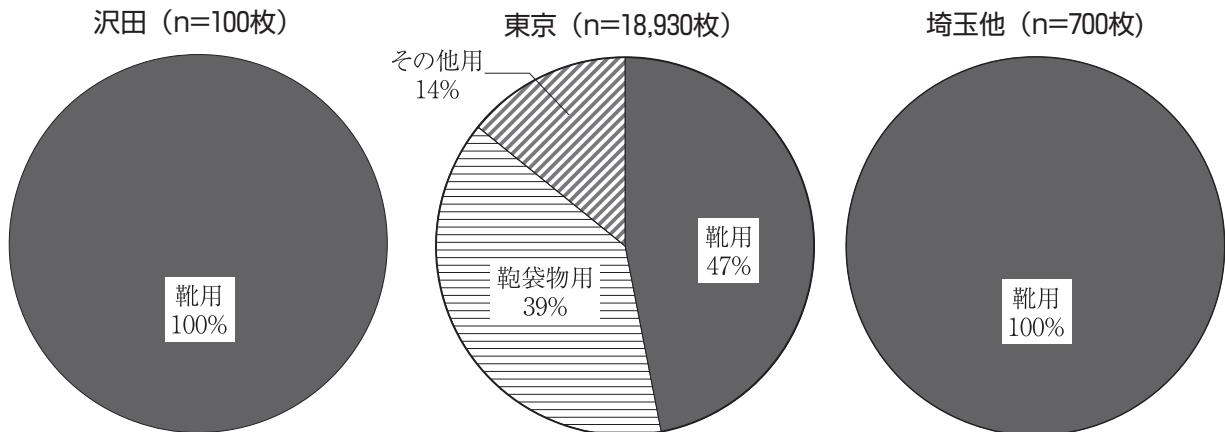


表3-10. 豚革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年) (枚) 丸革/月産

用途 地区	靴用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計		総合計
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	
松原									0 -	0 -	0 -
誉田									0 -	0 -	0 -
沢田	100								100 (100.0%)	0 -	100 (0.5%)
高木									0 -	0 -	0 -
御着									0 -	0 -	0 -
川西									0 -	0 -	0 -
大阪他									0 -	0 -	0 -
和歌山									0 -	0 -	0 -
関西計	100 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	100 (100.0%)	0 -	100 (0.5%)
	100 (100.0%)		0 -		0 -		0 -		100 (100.0%)		
東京	8,920		7,240	170			2,600		18,760 (99.1%)	170 (0.9%)	18,930 (95.9%)
埼玉他	700								700 (100.0%)	0 -	700 (3.5%)
関東計	9,620 (100.0%)	0 -	7,240 (97.7%)	170 (2.3%)	0 -	0 -	2,600 (100.0%)	0 -	19,460 (99.1%)	170 (0.9%)	19,630 (99.5%)
	9,620 (49.0%)		7,410 (37.7%)		0 -		2,600 (13.2%)		19,630 (100.0%)		
全国計	9,720 (100.0%)	0 -	7,240 (97.7%)	170 (2.3%)	0 -	0 -	2,600 (100.0%)	0 -	19,560 (99.1%)	170 (0.9%)	19,730 (100.0%)
	9,720 (49.3%)		7,410 (37.6%)		0 -		2,600 (13.2%)		19,730 (100.0%)		

表3-11. 豚革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和7年/詳細) 上段:(枚)丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0					0	
誉田							0					0	
沢田					100		100					0	
高木					1.3%		1.0%					-	
御着							0					0	
川西							0					0	
大阪他							0					0	
和歌山							0					0	
関西計	0	0	0	0	100	0	100	0	0	0	0	0	0
	-	-	-	-	1.3%	-	1.0%	-	-	-	-	-	-
東京	1,600				7,320		8,920	100	3,350	2,380	1,580	7,410	
	100.0%				98.7%		91.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
埼玉他						700	700					0	
						100.0%	7.2%					-	
関東計	1,600	0	0	0	7,320	700	9,620	100	3,350	2,380	1,580	7,410	0
	100.0%	-	-	-	98.7%	100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-
全国計	1,600	0	0	0	7,420	700	9,720	100	3,350	2,380	1,580	7,410	0
	100.0%	-	-	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-

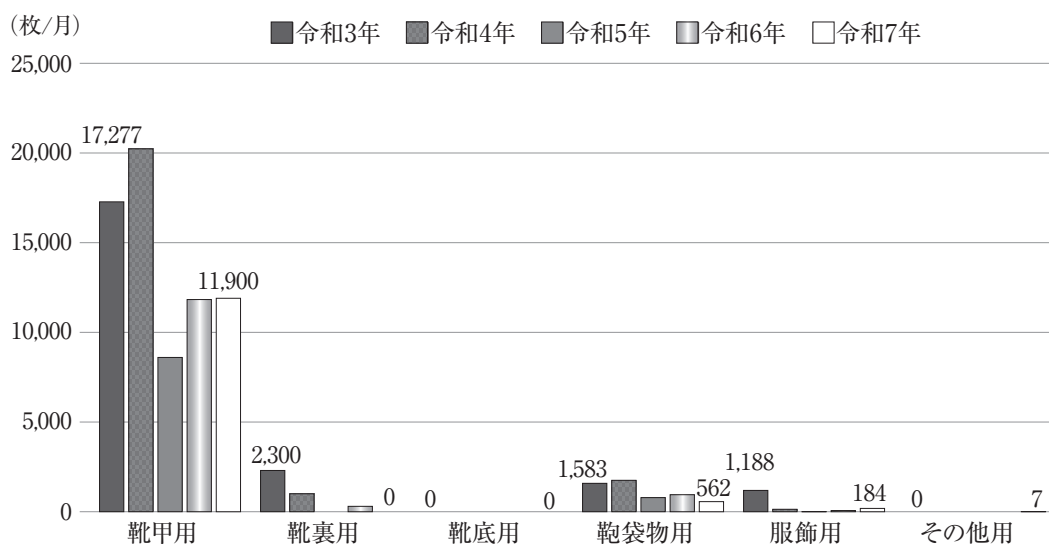
	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、インテ リア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用等	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0								0	0
				-								-	-
誉田				0								0	0
				-								-	-
沢田				0								0	100
				-								-	0.5%
高木				0								0	0
				-								-	-
御着				0								0	0
				-								-	-
川西				0								0	0
				-								-	-
大阪他				0								0	0
				-								-	-
和歌山				0								0	0
				-								-	-
関西計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5%
東京				0		600					2,000	2,600	18,930
				-		100.0%					100.0%	100.0%	95.9%
埼玉他				0								0	700
				-								-	3.5%
関東計	0	0	0	0	0	600	0	0	0	0	2,000	2,600	19,630
	-	-	-	-	-	100.0%	-	-	-	-	100.0%	100.0%	99.5%
全国計	0	0	0	0	0	600	0	0	0	0	2,000	2,600	19,730
	-	-	-	-	-	100.0%	-	-	-	-	100.0%	100.0%	100.0%

③ 山羊革

＜山羊革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和3年から経年で集計したものが図3-19である。＜山羊革＞の令和7年の全体の月間平均生産販売枚数は12,653枚/月（前年13,143枚/月）となり、前年からやや減少した結果となった。また令和3年時との比較では43.4%の減少となっている。令和5年に大きく減少した後はやや持ち直した状態となっているが、今後大きく回復する様相は感じられない。

令和7年調査時の用途としては、「靴甲用」「鞆袋物用」「服飾用」のほぼ3つの用途で生産されており、中でも「靴甲用」が11,900枚/月（前年11,829枚/月）の生産が行われ、全体の94%を占めている。ただその「靴甲用」も令和3年時との比較では、31.1%の減少となっており、前年からはほぼ横ばいで推移したものの、減少トレンドになっている。「鞆袋物用」や「服飾用」は数量が少ないため、毎年の変化率は大きくなるが、令和3年時との比較においては両方とも大きな減少となっている。

図3-19. 山羊革の用途別月間平均生産販売枚数推移



(枚/月) 丸革

	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和3年	17,277	2,300	0	1,583	1,188	0	22,348
令和4年	20,232	1,000	0	1,751	136	0	23,119
令和5年	8,601	0	0	786	5	0	9,392
令和6年	11,829	300	0	948	66	0	13,143
令和7年	11,900	0	0	562	184	7	12,653
令7/令3	-31.1%	-100.0%	-	-64.5%	-84.5%	-	-43.4%

図3-20は<山羊革>の月間平均生産販売枚数の地区別比率を表したものであるが、その結果としては東京地区が全体の56.7%を占めているが、その比率は前年より縮小している。次いで誉田地区と高木地区がともに15.8%を占めた。また「靴用」以外の用途として出荷しているのは東京地区だけとなっている。仕向け先としては令和7年も前年に引き続き国内向けが100%となり、輸出は行われていない。

図3-20. 山羊革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率(令和7年)

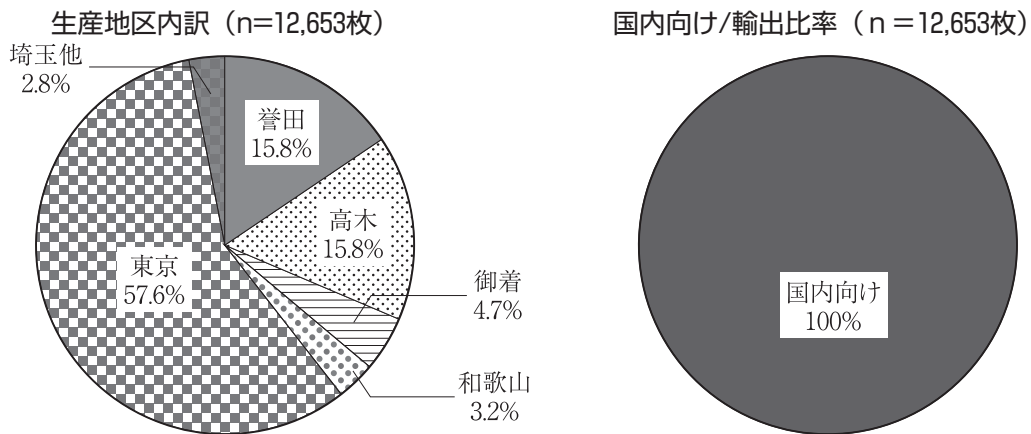
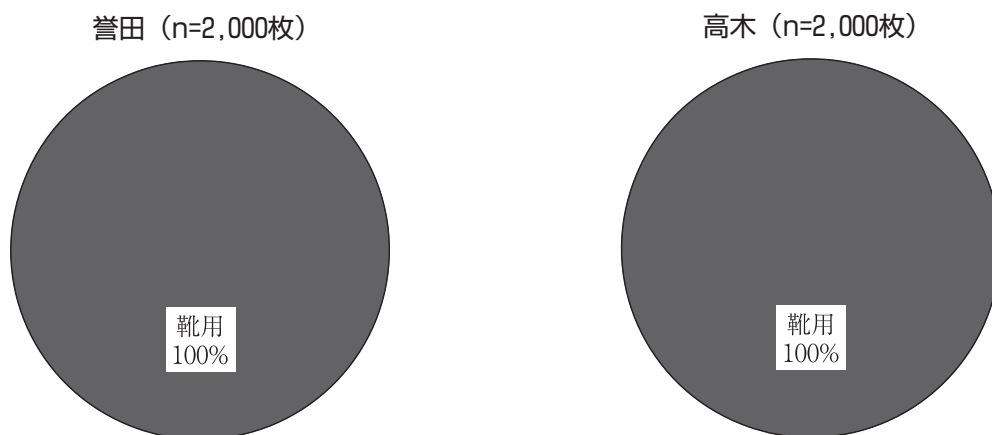
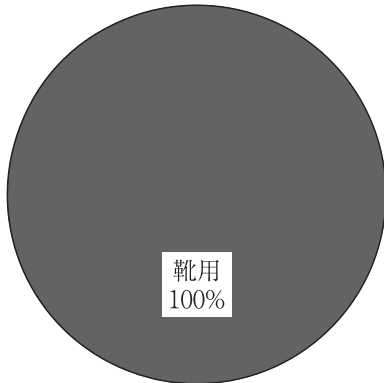


図3-21は、地区ごとの用途別比率を表したものである。<山羊革>を生産している誉田地区、高木地区、御着地区、及び和歌山地区は「靴用」が100%となり、埼玉他地区は「鞆袋物用」が100%となった。最も生産販売枚数の多い東京地区だけが複数の用途に対応しているが、「靴用」が94.6%を占めており、残り「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」で5.4%となっている。

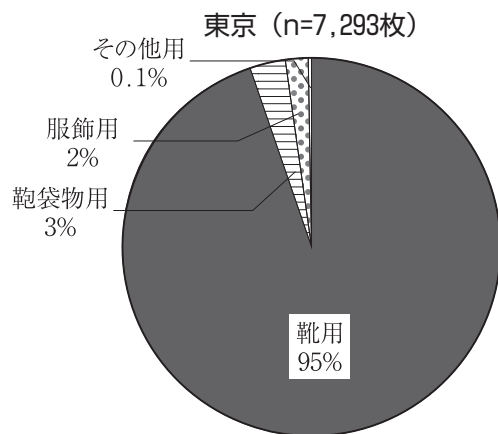
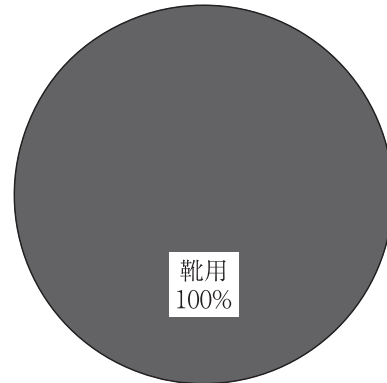
図3-21. 山羊革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率(令和7年)



御着 (n=600枚)



和歌山 (n=400枚)



埼玉他 (n=360枚)

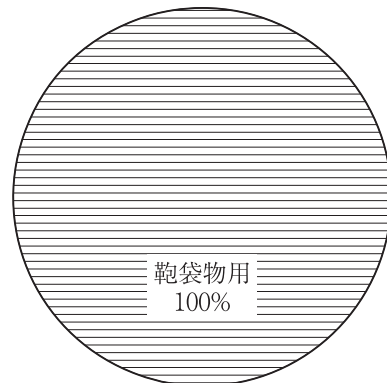


表3-12は、それぞれの地区で生産されている<山羊革>が用途別に国内向け及び輸出の割り振りを表したもので、表3-13は用途の詳細を記したものである。令和7年はどの用途においても<山羊革>の輸出はなかったが、国内向けの用途の詳細をみると、「靴甲用」が10,100枚/月と全体の79.8%を占め、生産量は前年から大きく減少したが、シェアは前年より拡大している。次いで、「スポーツ靴甲用」が1,800枚/月となっている。その他少量であるが「小物用」「衣料用」「ハンドバッグ用」「グローブミット等運動具用」が生産されている。

表3-12. 山羊革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年) (枚) 丸革/月産

用途 地区	靴用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計		総合計
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	
松原									0	0	0
誉田	2,000								2,000 (100.0%)	0	2,000 (15.8%)
沢田									0	0	0
高木	2,000								2,000 (100.0%)	0	2,000 (15.8%)
御着	600								600 (100.0%)	0	600 (4.7%)
川西									0	0	0
大阪他									0	0	0
和歌山	400								400 (100.0%)	0	400 (3.2%)
関西計	5,000 (100.0%)	0	0	0	0	0	0	0	5,000 (100.0%)	0	5,000 (39.5%)
	5,000 (100.0%)	-	0	-	0	-	0	-	5,000 (100.0%)	-	
東京	6,900		202		184		7		7,293 (100.0%)	0	7,293 (57.6%)
埼玉他			360						360 (100.0%)	0	360 (2.8%)
関東計	6,900 (100.0%)	0	562 (100.0%)	0	184 (100.0%)	0	7 (100.0%)	0	7,653 (100.0%)	0	7,653 (60.5%)
	6,900 (90.2%)	-	562 (7.3%)	-	184 (2.4%)	-	7 (0.1%)	-	7,653 (100.0%)	-	
全国計	11,900 (100.0%)	0	562 (100.0%)	0	184 (100.0%)	0	7 (100.0%)	0	12,653 (100.0%)	0	12,653 (100.0%)
	11,900 (94.0%)	-	562 (4.4%)	-	184 (1.5%)	-	7 (0.1%)	-	12,653 (100.0%)	-	

表3-13. 山羊革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和7年/詳細) 上段:(枚)丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0 -					0 -	
誉田	2,000 19.8%						2,000 16.8%					0 -	
沢田							0 -					0 -	
高木	2,000 19.8%						2,000 16.8%					0 -	
御着			600 33.3%				600 5.0%					0 -	
川西							0 -					0 -	
大阪他							0 -					0 -	
和歌山	400 4.0%						400 3.4%					0 -	
関西計	4,400 43.6%	0 -	600 33.3%	0 -	0 -	0 -	5,000 42.0%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
東京	5,700 56.4%		1,200 66.7%				6,900 58.0%			30 100.0%	172 32.3%	202 35.9%	
埼玉他							0 -				360 67.7%	360 64.1%	
関東計	5,700 56.4%	0 -	1,200 66.7%	0 -	0 -	0 -	6,900 58.0%	0 -	0 -	30 100.0%	532 100.0%	562 100.0%	0 -
全国計	10,100 100.0%	0 -	1,800 100.0%	0 -	0 -	0 -	11,900 100.0%	0 -	0 -	30 100.0%	532 100.0%	562 100.0%	0 -

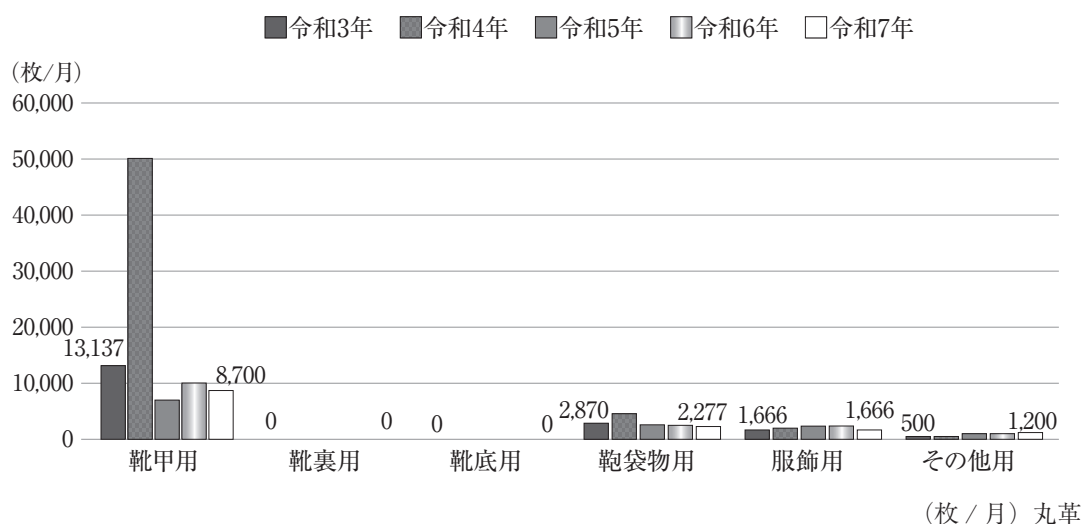
	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用等	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0 -								0 -	0 -
誉田				0 -								0 -	2,000 15.8%
沢田				0 -								0 -	0 -
高木				0 -								0 -	2,000 15.8%
御着				0 -								0 -	600 4.7%
川西				0 -								0 -	0 -
大阪他				0 -								0 -	0 -
和歌山				0 -								0 -	400 3.2%
関西計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	5,000 39.5%
東京	184 100.0%			184 100.0%	7 100.0%							7 100.0%	7,293 57.6%
埼玉他				0 -								0 -	360 2.8%
関東計	184 100.0%	0 -	0 -	184 100.0%	7 100.0%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	7 100.0%	7,653 60.5%
全国計	184 100.0%	0 -	0 -	184 100.0%	7 100.0%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	7 100.0%	12,653 100.0%

④ 羊 革

＜羊革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和3年から経年で集計したものが図3-22である。＜羊革＞の令和7年の全体の月間平均生産販売枚数は13,843枚/月（前年15,896枚/月）となり、前年から減少した。また令和3年時との比較では23.8%の減少となっている。＜羊革＞は令和4年時に特需といえる突出した生産量となっているため、この令和4年時の生産量を例外とすれば、ここ数年はおおよそ12,000枚/月から18,000枚/月程度の間で推移している。

令和7年調査時の用途としては、「靴甲用」「鞆袋物用」「服飾用」「その他用」の用途で生産されており、「靴甲用」が8,700枚/月（前年10,036枚/月）の生産が行われ、全体の62.8%を占めている。次いで「鞆袋物用」が2,277枚/月（前年2,490枚/月）、「服飾用」が1,666枚/月（前年2,370枚/月）、「その他用」が1,200枚/月（前年1,000枚/月）となっている。「その他用」を除いても前年から減少している。また令和3年時の生産量との比較では、「靴甲用」が33.8%の減少、「鞆袋物用」が20.7%の減少、「服飾用」が横ばい、「その他用」だけは140%の増加となっている。

図3-22. 羊革の用途別月間平均生産販売枚数推移



	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和3年	13,137	0	0	2,870	1,666	500	18,173
令和4年	50,113	0	0	4,563	1,986	500	57,162
令和5年	6,995	0	0	2,584	2,349	1,000	12,928
令和6年	10,036	0	0	2,490	2,370	1,000	15,896
令和7年	8,700	0	0	2,277	1,666	1,200	13,843
令7/令3	-33.8%	-	-	-20.7%	0.0%	+140.0%	-23.8%

図3-23は＜羊革＞の月間平均生産販売枚数の地区別比率を表したものであるが、その結果としては東京地区が全体の68.1%を占め、次いで埼玉他地区が21.7%となっており、関東エリアだけでおおよそ9割を占める結果となった。残り1割が和歌山地区と高木地区で生産されている。仕向け先としては、令和7年は国内向けが91.3%、輸出が8.7%という結果となっている。前年は輸出がなかったが、今回は和歌山地区において、1,200枚/月の輸出用としての生産が発生している。

図 3 - 23. 羊革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率(令和7年)

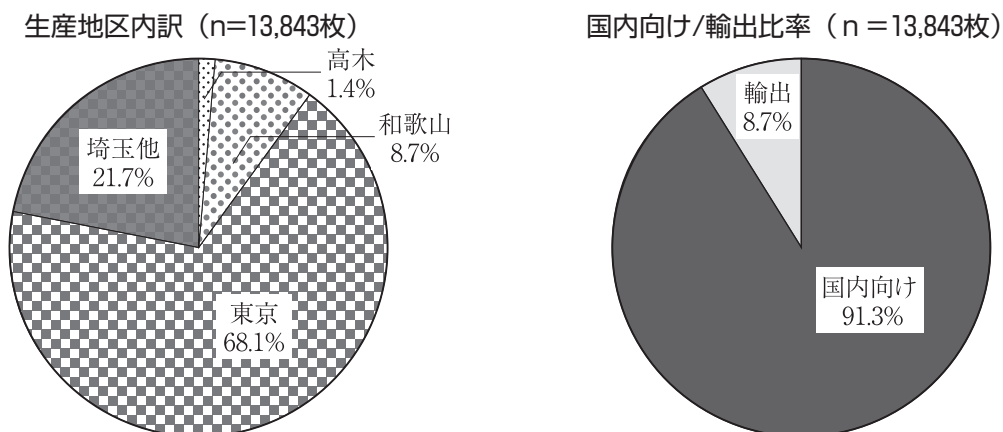


図 3 - 24は、地区ごとの用途別比率を表したものである。＜羊革＞を最も生産している東京地区では、「靴用」が生産の92.2%と大部分を占め、その他「服飾用」「鞆袋物用」を生産している。埼玉他地区では「鞆袋物用」が生産の73.3%で、残りの26.7%は「服飾用」として生産されている。和歌山地区では「その他用」が大部分で、生産の99.2%を占めており、その他僅かに「鞆袋物用」として生産されている。高木地区では少量であるが、「服飾用」として生産されている。

図 3 - 24. 羊革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率(令和7年)

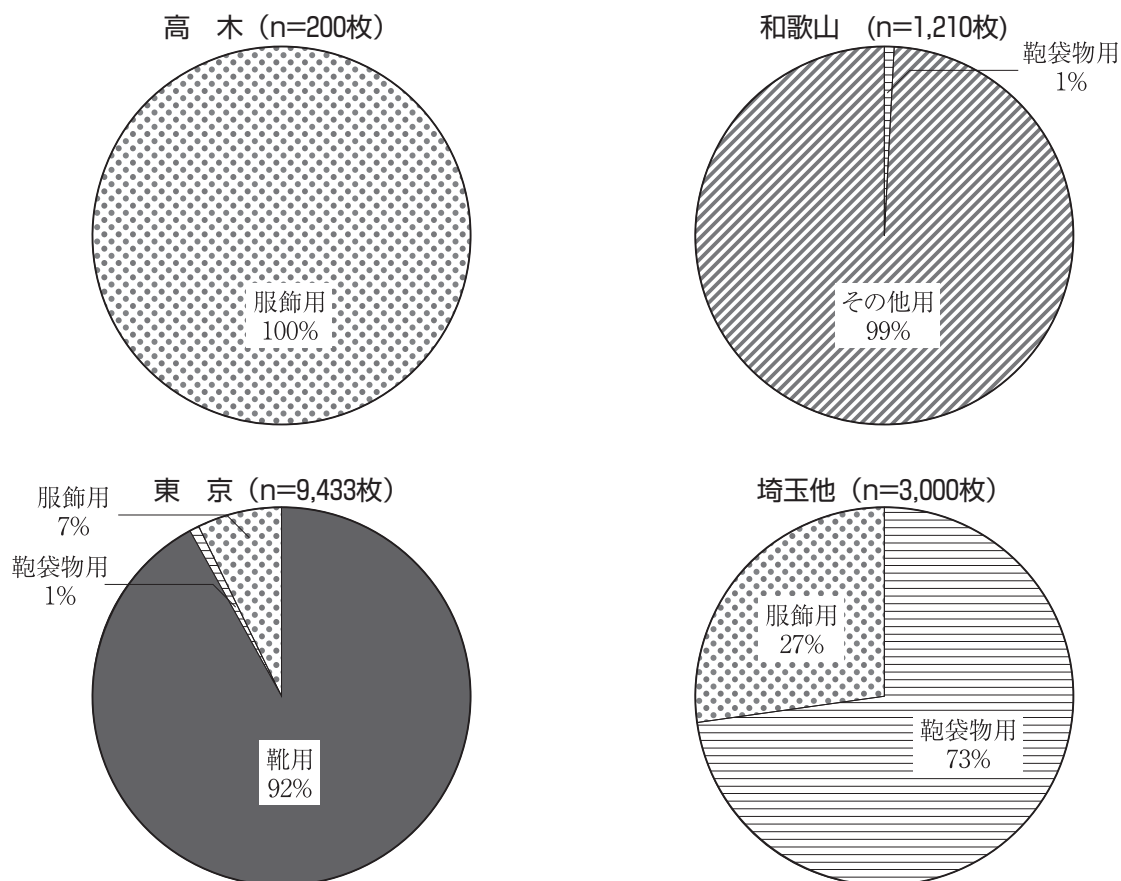


表3-14は、それぞれの地区で生産されている<羊革>が用途別に国内向け及び輸出の割り振りを表したもので、表3-15は用途の詳細を記したものである。令和7年は前記したように、和歌山地区において「その他用（グローブミット等）」として輸出が行われている。輸出はそれだけとなったが、国内向けの用途の詳細をみると、「靴甲用」が8,700枚/月と全体の62.8%を占めている。次いで「小物用」が2,277枚/月、「グローブミット等運動具用」として1,200枚/月、「衣料用」として1,116枚/月、「服飾手袋用」として550枚/月が生産されている。

表3-14. 羊革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年) (枚) 丸革/月産

地区	靴用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計		総合計
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	
松原									0	0	0
									-	-	-
誉田									0	0	0
									-	-	-
沢田									0	0	0
									-	-	-
高木					200				200	0	200
									(100.0%)	-	(1.4%)
御着									0	0	0
									-	-	-
川西									0	0	0
									-	-	-
大阪他									0	0	0
									-	-	-
和歌山			10					1,200	10	1,200	1,210
									(0.8%)	(99.2%)	(8.7%)
関西計	0	0	10	0	200	0	0	1,200	210	1,200	1,410
	-	-	(100.0%)	-	(100.0%)	-	-	(100.0%)	(14.9%)	(85.1%)	
	0		10		200		1,200		1,410		
	-		(0.7%)		(14.2%)		(85.1%)		(100.0%)		
東京	8,700		67		666				9,433	0	9,433
									(100.0%)	-	(68.1%)
埼玉他			2,200		800				3,000	0	3,000
									(100.0%)	-	(21.7%)
関東計	8,700	0	2,267	0	1,466	0	0	0	12,433	0	12,433
	(100.0%)	-	(100.0%)	-	(100.0%)	-	-	-	(100.0%)	-	
	8,700		2,267		1,466		0		12,433		
	(70.0%)		(18.2%)		(11.8%)		-		(100.0%)		
全国計	8,700	0	2,277	0	1,666	0	0	1,200	12,643	1,200	13,843
	(100.0%)	-	(100.0%)	-	(100.0%)	-	-	(100.0%)	(91.3%)	(8.7%)	
	8,700		2,277		1,666		1,200		13,843		
	(62.8%)		(16.4%)		(12.0%)		(8.7%)		(100.0%)		

表3-15. 羊革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和7年/詳細) 上段:(枚)丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0					0	
誉田							0					0	
沢田							0					0	
高木							0					0	
御着							0					0	
川西							0					0	
大阪他							0					0	
和歌山							0				10	10	
							-				0.4%	0.4%	
関西計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	0
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4%	0.4%	-
東京	8,700						8,700				67	67	
	100.0%						100.0%				2.9%	2.9%	
埼玉他							0				2,200	2,200	
							-				96.6%	96.6%	
関東計	8,700	0	0	0	0	0	8,700	0	0	0	2,267	2,267	0
	100.0%	-	-	-	-	-	100.0%	-	-	-	99.6%	99.6%	-
全国計	8,700	0	0	0	0	0	8,700	0	0	0	2,277	2,277	0
	100.0%	-	-	-	-	-	100.0%	-	-	-	100.0%	100.0%	-

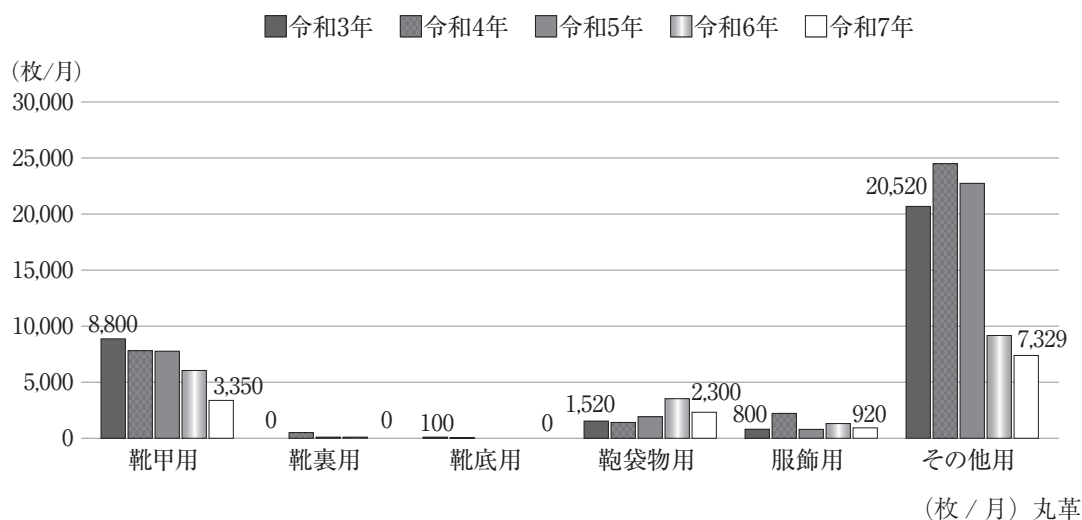
	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用等	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0								0	0
				-								-	-
誉田				0								0	0
				-								-	-
沢田				0								0	0
				-								-	-
高木		200		200								0	200
		36.4%		12.0%								-	1.4%
御着				0								0	0
				-								-	-
川西				0								0	0
				-								-	-
大阪他				0								0	0
				-								-	-
和歌山				0	1,200							1,200	1,210
				-	100.0%							100.0%	8.7%
関西計	0	200	0	200	1,200	0	0	0	0	0	0	1,200	1,410
	-	36.4%	-	12.0%	100.0%	-	-	-	-	-	-	100.0%	10.2%
東京	666			666								0	9,433
	59.7%			40.0%								-	68.1%
埼玉他	450	350		800								0	3,000
	40.3%	63.6%		48.0%								-	21.7%
関東計	1,116	350	0	1,466	0	0	0	0	0	0	0	0	12,433
	100.0%	63.6%	-	88.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	89.8%
全国計	1,116	550	0	1,666	1,200	0	0	0	0	0	0	1,200	13,843
	100.0%	100.0%	-	100.0%	100.0%	-	-	-	-	-	-	100.0%	100.0%

⑤ 牛床革

＜牛床革＞の用途別月間平均生産販売枚数を令和3年から経年で集計したものが図3-25である。令和7年の＜牛床革＞の全体の生産販売枚数としては13,899枚/月（前年19,993枚/月）となり、前年からさらに減少という結果となった。

また用途としては「その他用」の生産販売枚数が最も多く、令和7年で7,329枚/月（前年9,093枚/月）の生産販売枚数となっている。また「靴甲用」も同様に減少が続いており、令和7年は3,350枚/月（前年6,000枚/月）となった。「鞆袋物用」は2,300枚/月（前年3,500枚/月）となり前年より減少しているが、令和3年時と比べると51.3%の増加となっている。「服飾用」は920枚/月（前年1,300枚/月）となり、ここ数年、減少と増加を繰り返している。

図3-25. 牛床革の用途別月間平均生産販売枚数推移



	靴甲用	靴裏用	靴底用	鞆袋物用	服飾用	その他用	計
令和3年	8,800	0	100	1,520	800	20,520	31,740
令和4年	7,750	500	50	1,400	2,200	24,303	36,203
令和5年	7,705	100	0	1,906	785	22,563	33,059
令和6年	6,000	100	0	3,500	1,300	9,093	19,993
令和7年	3,350	0	0	2,300	920	7,329	13,899
令7/令3	-61.9%	-	-100.0%	+51.3%	+15.0%	-64.3%	-56.2%

図3-26は、＜牛床革＞の生産地区の内訳と仕向け先別比率を表したものであるが、まず＜牛床革＞の生産地区別の比率を見ると、高木地区、沢田地区、和歌山地区の3地区の生産シェアが競っており、高木地区が全体の26.1%の3,603枚/月、沢田地区が25.1%の3,470枚/月、和歌山地区が23.0%の3,170枚/月となっている。ただいずれの地区の生産量も前年から大幅に減少しており、＜牛床革＞の全体の生産量の減少に繋がっている。松原地区は全体の11.9%で1,656枚/月となったが、ここは前年の生産量（1,690枚/月）とほとんど変わっていない。また令和7年は埼玉他地区でも1,000枚/月の生産が行われている。生産販売枚数全体に対する輸出の比率は全体の5.0%となり、前年の29.0%から大幅に縮小している。令和7年はその輸出を行っている地区が沢田地区のみとなっている。

図3-26. 牛床革の仕向け先別月間平均生産販売枚数における地区比率(令和7年)

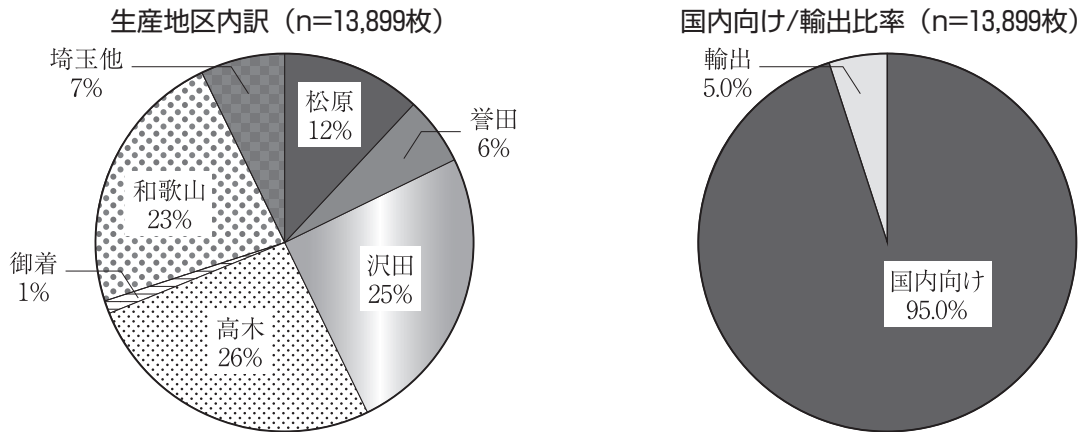
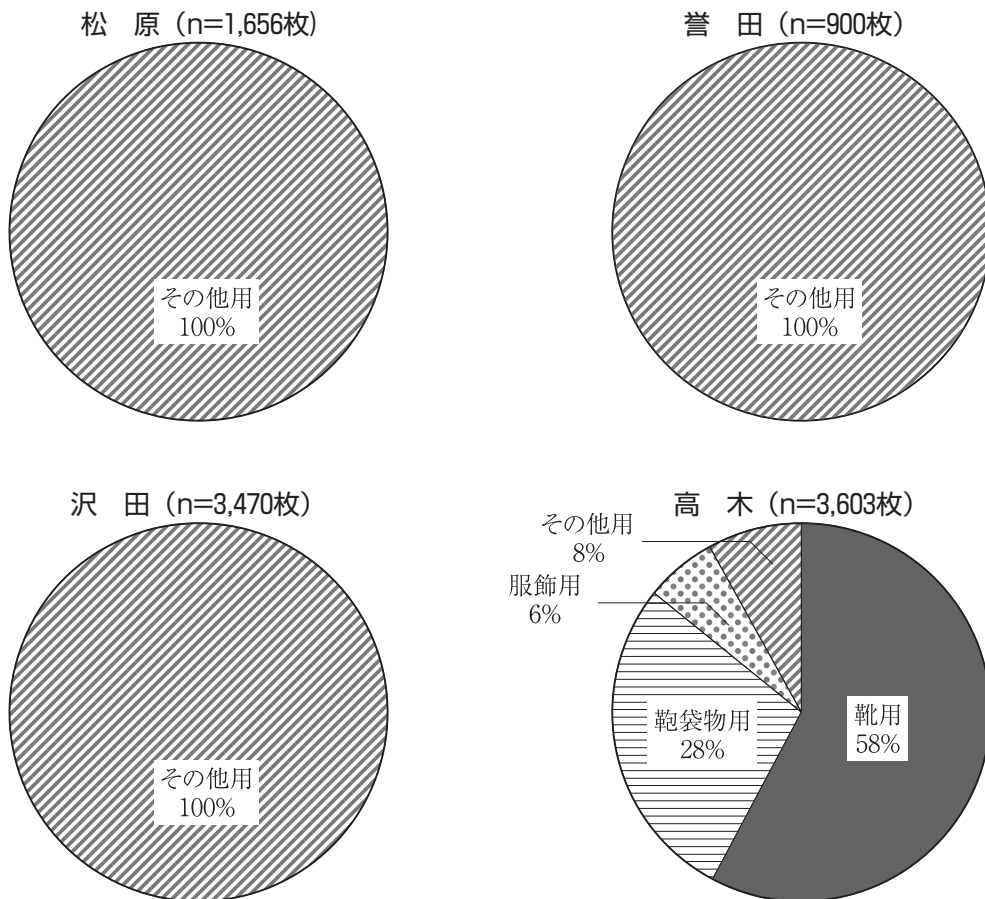


図3-27では、＜牛床革＞を生産している地区の用途別生産販売枚数の比率を表したものである。高木地区は「靴用」が最も多く、生産の58.3%を占めているが、「鞆袋物用」が27.8%、「その他用」が8.4%、「服飾用」が5.6%と一通りの用途で生産されている。一方で沢田地区は「その他用」が100%となり、それ以外の用途では生産されていない。また和歌山地区は「鞆袋物用」が41.0%で最も多くなっているが、「靴用」が36.3%、「服飾用」が22.7%と比較的均等に生産されている。その他松原地区、埼玉他地区、誉田地区はいずれも「その他用」だけが生産されている。

図3-27. 牛床革の地区別月間平均生産販売枚数における用途比率(令和7年)



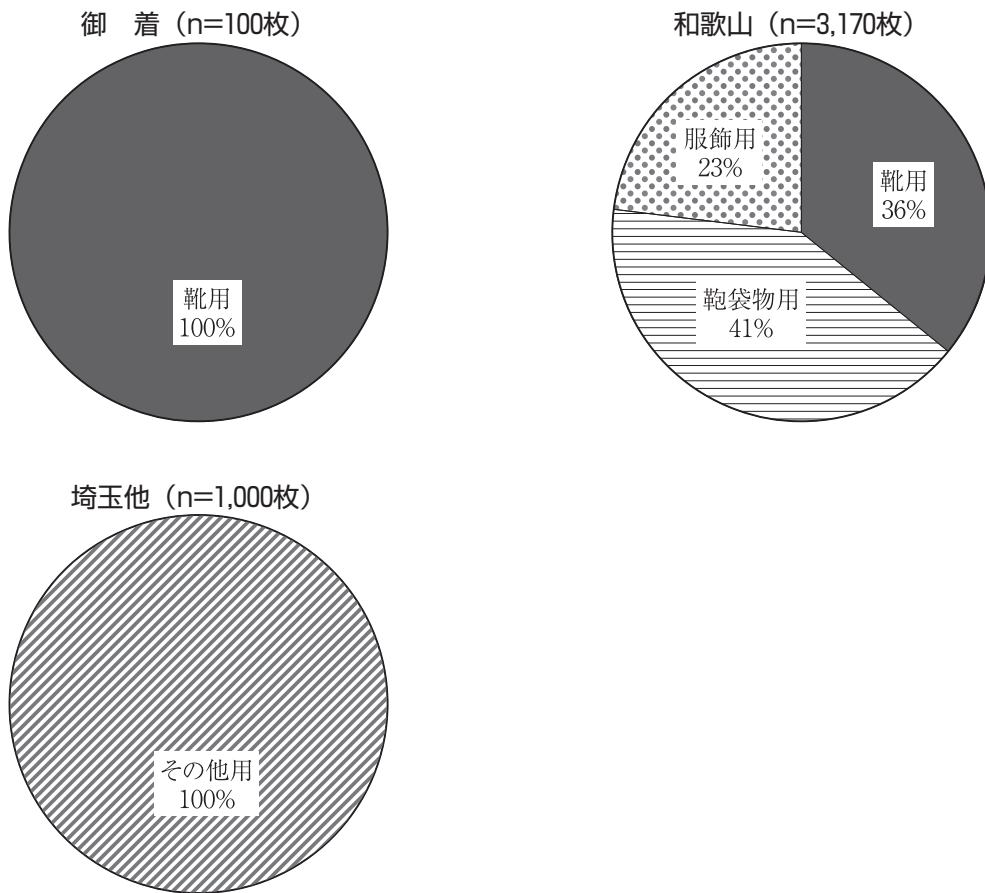


表3-16及び表3-17は、用途別の生産内容をまとめたものであるが、表3-17の用途の詳細をみると、最も多いのは前年に続いて「工業手袋等安全具用」で4,626枚/月（前年7,890枚/月）となったが、前年から生産量を大きく落としている。それ以外では「靴甲用」が1,450枚/月（前年4,000枚/月）、「グローブミット等運動具用」が1,403枚/月（前年1,203枚/月）、「スポーツ靴甲用」「カバン用」「その他用」がそれぞれ1,300枚/月となっている。「靴甲用」の生産も大きく減少している。それ以外でも「服飾ベルト用」「ランドセル用」「安全・官需靴甲用」「小物用」など、幅広い用途として生産されているのも「牛床革」の特徴である。

表3-16. 牛床革の地区別用途別仕向け先別月間平均生産販売枚数(令和7年) (枚) 丸革/月産

用途 地区	靴用		鞆袋物用		服飾用		その他用		合計		総合計
	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	国内	輸出	
松原							1,656		1,656 (100.0%)	0 -	1,656 (11.9%)
誉田							900		900 (100.0%)	0 -	900 (6.5%)
沢田							2,770	700	2,770 (79.8%)	700 (20.2%)	3,470 (25.0%)
高木	2,100		1,000		200		303		3,603 (100.0%)	0 -	3,603 (25.9%)
御着	100								100 (100.0%)	0 -	100 (0.7%)
川西									0 -	0 -	0 -
大阪他									0 -	0 -	0 -
和歌山	1,150		1,300		720				3,170 (100.0%)	0 -	3,170 (22.8%)
関西計	3,350 (100.0%)	0 -	2,300 (100.0%)	0 -	920 (100.0%)	0 -	5,629 (88.9%)	700 (11.1%)	12,199 (94.6%)	700 (5.4%)	12,899 (92.8%)
	3,350 (26.0%)		2,300 (17.8%)		920 (7.1%)		6,329 (49.1%)		12,899 (100.0%)		
東京									0 -	0 -	0 -
埼玉他							1,000		1,000 (100.0%)	0 -	1,000 (7.2%)
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1,000 (100.0%)	0 -	1,000 (100.0%)	0 -	1,000 (7.2%)
	0 -		0 -		0 -		1,000 (100.0%)		1,000 (100.0%)		
全国計	3,350 (100.0%)	0 -	2,300 (100.0%)	0 -	920 (100.0%)	0 -	6,629 (90.4%)	700 (9.6%)	13,199 (95.0%)	700 (5.0%)	13,899 (100.0%)
	3,350 (24.1%)		2,300 (16.5%)		920 (6.6%)		7,329 (52.7%)		13,899 (100.0%)		

表3-17. 牛床革の地区別用途別月間平均生産販売枚数(令和7年/詳細) 上段:(枚)丸革/月産 下段:用途別地区シェア

	靴甲用	安全・官 需靴甲用	スポーツ 靴甲用	その他の 靴甲用	靴裏用	靴底用	靴用計	ランド セル用	カバン 用	ハンド バッグ用	小物用	鞆袋物 用計	服飾ベ ルト用
松原							0					0	
誉田							0					0	
沢田							0					0	
高木	300 20.7%	600 100.0%	1,200 92.3%				2,100 62.7%		1,000 76.9%			1,000 43.5%	200 21.7%
御着			100 7.7%				100 3.0%					0	
川西							0					0	
大阪他							0					0	
和歌山	1,150 79.3%						1,150 34.3%	850 100.0%	300 23.1%		150 100.0%	1,300 56.5%	720 78.3%
関西計	1,450 100.0%	600 100.0%	1,300 100.0%	0 -	0 -	0 -	3,350 100.0%	850 100.0%	1,300 100.0%	0 -	150 100.0%	2,300 100.0%	920 100.0%
東京							0					0	
埼玉他							0					0	
関東計	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
全国計	1,450 100.0%	600 100.0%	1,300 100.0%	0 -	0 -	0 -	3,350 100.0%	850 100.0%	1,300 100.0%	0 -	150 100.0%	2,300 100.0%	920 100.0%

	衣料用	服飾 手袋用	草履用	服飾用計	グローブ ミット等	手芸工 芸用	家具、イン テリア用	カーシート 用	工業手袋等 安全具用等	ウェット ブルー	その他	その他 計	総計
松原				0	400				1,256			1,656	1,656
				-	28.5%				27.2%			22.6%	11.9%
誉田				0	300				600			900	900
				-	21.4%				13.0%			12.3%	6.5%
沢田				0	700				2,770			3,470	3,470
				-	49.9%				59.9%			47.3%	25.0%
高木				200	3						300	303	3,603
				21.7%	0.2%						23.1%	4.1%	25.9%
御着				0								0	100
				-								-	0.7%
川西				0								0	0
				-								-	-
大阪他				0								0	0
				-								-	-
和歌山				720								0	3,170
				78.3%								-	22.8%
関西計	0	0	0	920	1,403	0	0	0	4,626	0	300	6,329	12,899
	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	-	100.0%	-	23.1%	86.4%	92.8%
東京				0								0	0
				-								-	-
埼玉他				0							1,000	1,000	1,000
				-							76.9%	13.6%	7.2%
関東計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,000	1,000
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76.9%	13.6%	7.2%
全国計	0	0	0	920	1,403	0	0	0	4,626	0	1,300	7,329	13,899
	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	-	100.0%	-	100.0%	100.0%	100.0%

4. 日本の製革業者の生産能力と生産実績

4-1. 生産能力と生産実績

生産能力は各企業がフル操業した場合に生産できる月産平均枚数であり、生産実績は令和7年1月～令和7年7月の間に生産した実績の1ヶ月平均を求めた枚数である。そして、操業率は生産実績÷生産能力で算出している。

① 生産能力と生産実績の経年変化及び操業率

図4-1は、全国のなめし革の月間平均生産能力と月間平均生産実績の令和2年から令和7年の調査集計結果を表したものである。令和7年は月間平均生産能力48万2,686枚/月、月間平均生産実績が20万4,959枚/月となり、操業率は42.5%という結果となった。生産能力、生産実績、そして操業率とも前年をさらに下回った。今回は令和5年に大きく落ち込んだ水準に戻った感じとなったが、令和2年からの推移をみると、生産実績に比べて生産能力の減少幅が大きく、ここ数年は生産キャパ（生産能力）を無理のない程度に縮小して、効率の良い生産を進めようとするトレンドを形成した感じである。

図4-2は令和2年から令和7年までの、生産能力に対する生産実績の比率（操業率）推移である。令和7年は42.5%という操業率となり、コロナ禍の影響で大きく落ち込んだ令和2年の状況から、毎年徐々に回復基調にあった生産実績比率は令和6年、令和7年と再び低下している。

図4-1. 月間平均生産能力 / 月間平均生産実績(丸革・全革種計)

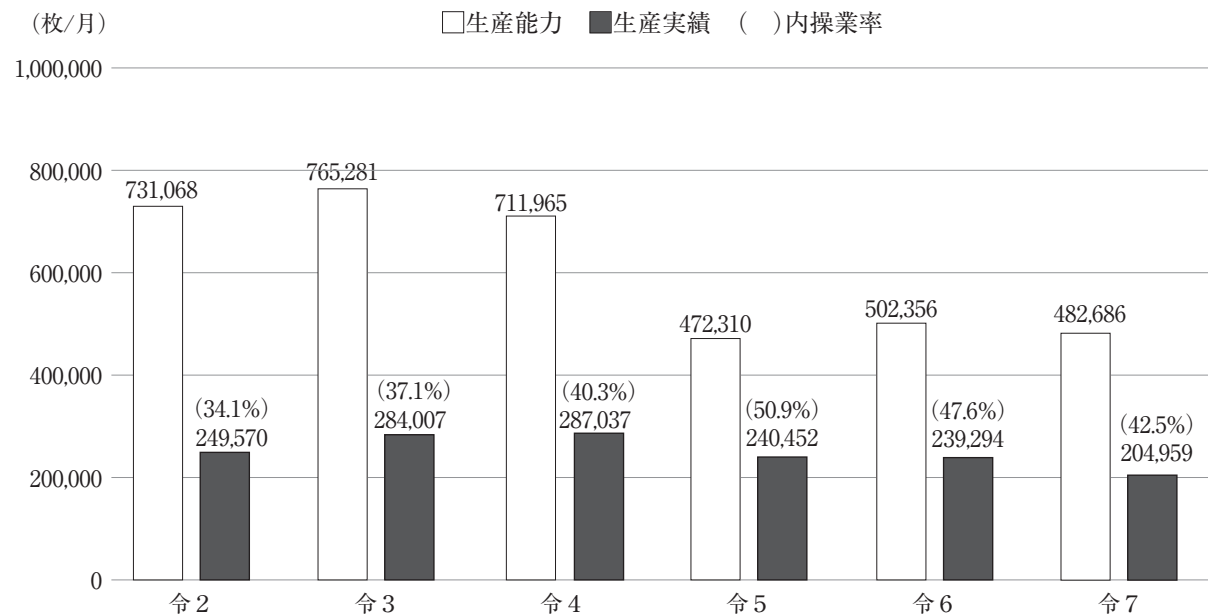


図4-2. 生産能力に対する生産実績比率推移

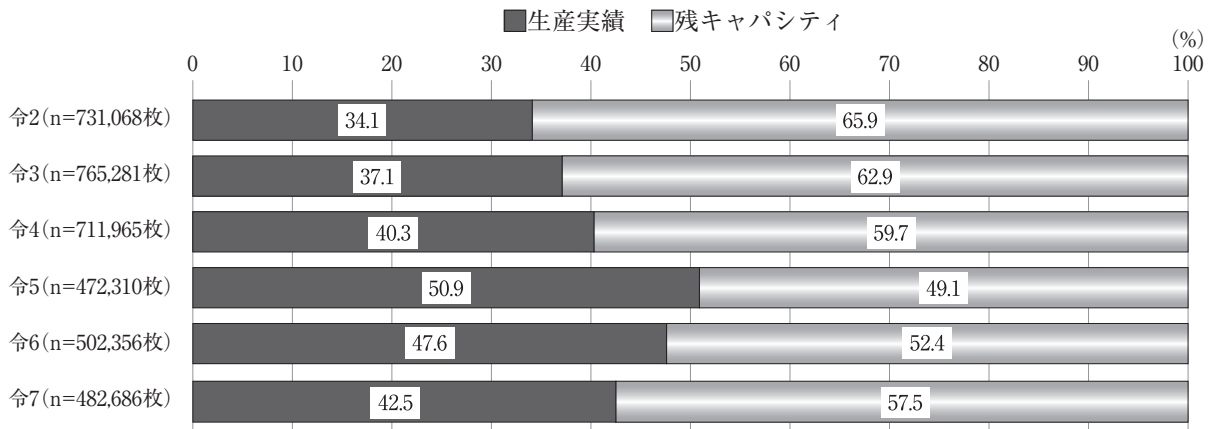


図4-3及び表4-1は革種別に生産能力と生産実績の経年変化をグラフ化したものである。

成牛革の令和7年の月間平均生産能力は22万8,606枚/月、月間平均生産実績は11万8,631枚/月、操業率51.9%という結果となった。生産能力、生産実績は前年を上回ったが、操業率は低下した結果となった。ここ数年緩やかに右肩下がりのトレンドになっていたが、令和7年はそのトレンドにストップをかけている。

中小牛革の令和7年の月間平均生産能力は1万3,135枚/月、月間平均生産実績が5,930枚/月、操業率は45.1%という結果となった。こちらは生産能力、生産実績、そして操業率いずれも前年より低下している。ここ数年、中小牛革はコロナ禍以降、生産キャパシティを調整している感じで、操業率を高める狙いがあったと思われるが、その操業率も低下傾向にあることは今後の懸念材料である。

豚革の令和7年の月間平均生産能力は9万5,900枚/月、月間平均生産実績が2万1,600枚/月、操業率は22.5%という結果となった。前年との比較では、生産能力、生産実績、操業率とも減少した結果となったが、特に生産実績が大幅に低下しており、合わせて操業率も大きく低下している。令和2年からの6年間で見ても、令和5年から生産能力を大きく減らし、需要に見合った体制に持っていったことがわかるが、それでも操業率がさらに低下傾向にあることは、今後さらに調整を掛けていく必要が生じるものと思われる。

山羊革の令和7年の月間平均生産能力は4万5,580枚/月、月間平均生産実績が1万1,983枚/月、操業率は26.3%という結果となった。こちらも前年から生産能力、生産実績、操業率とも低下している。生産能力を大幅に低下させた令和5年から、再び5万枚程度のキャパシティに戻しているが、生産実績は思うように回復せず、操業率も令和4年に次ぐ低水準となっている。

羊革の令和7年の月間平均生産能力は2万4,920枚/月、月間平均生産実績が1万3,741枚/月、操業率は55.1%という結果となった。羊革に関しては、生産能力、生産実績とも前年を上回っている。操業率はやや低下した。ただ操業率は他の革種との比較では高い水準にあり、令和5年以降の生産調整がうまく出来ているとみられる。

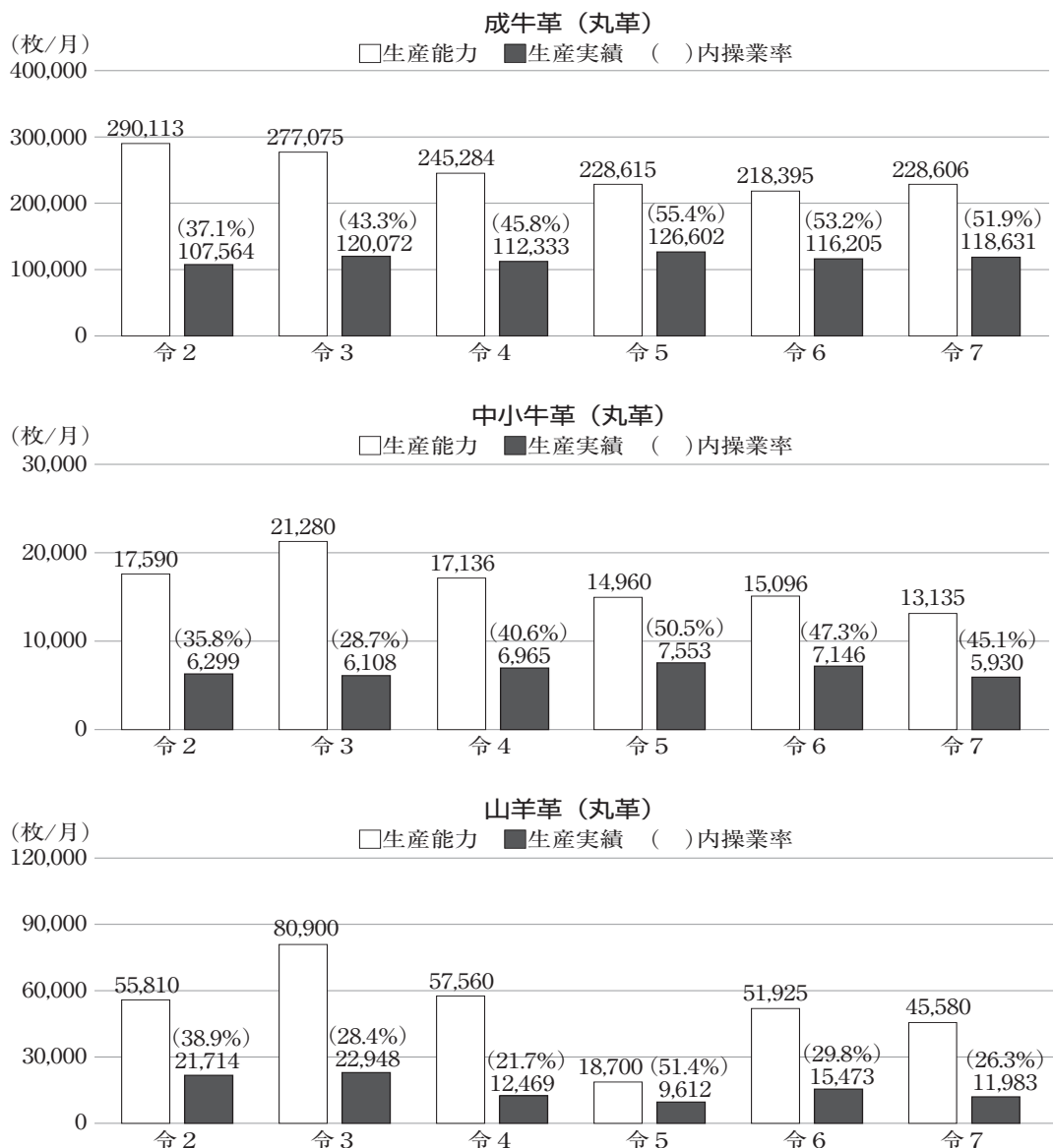
馬革の令和7年の月間平均生産能力が7,280枚/月、月間平均生産実績が3,338枚/月、操業率は45.9%という結果となった。いずれの数字も前年から低下しており、令和2年からのトレンドをみると、生産能力、生産実績とも年々低下している状況にある。操業率こそある一定の水準がキープされているものの、馬革に関しては生産実績をみるかぎり、現在の需要の状況がそのまま反映されているとみられる。

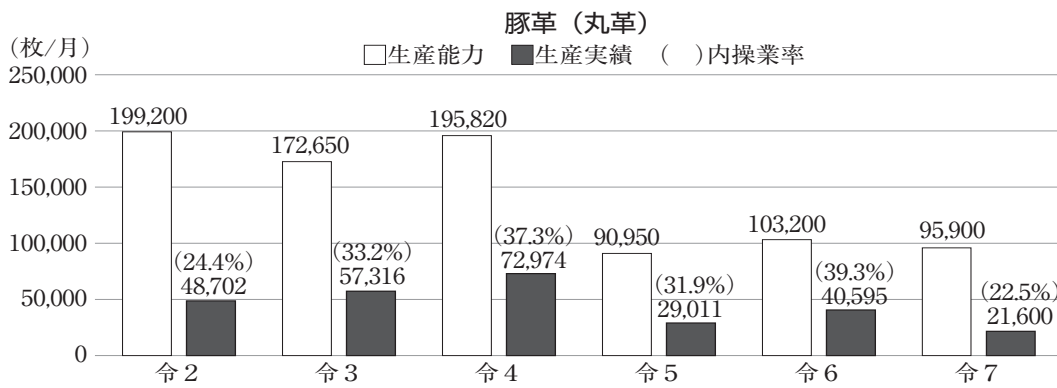
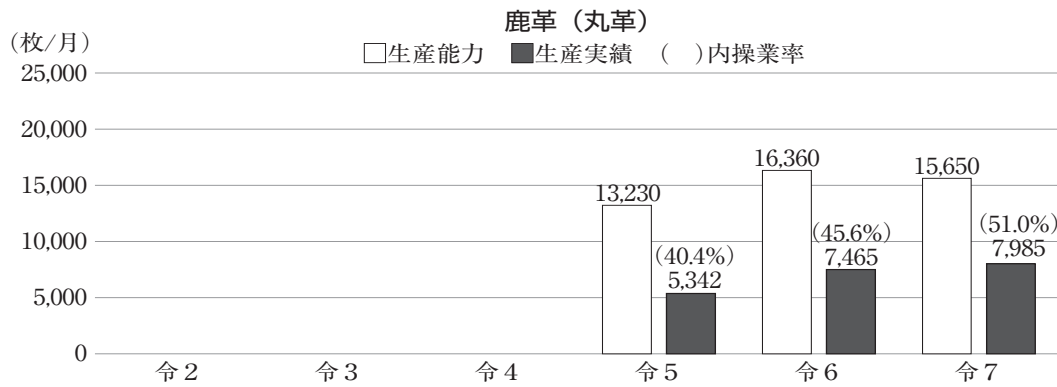
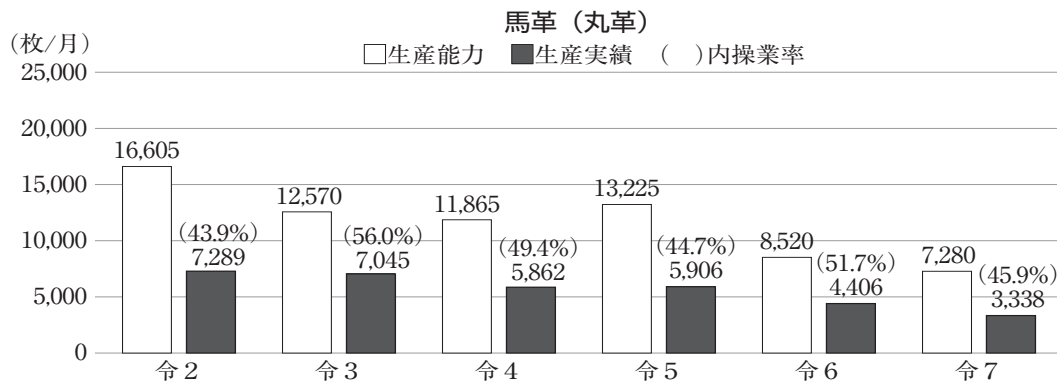
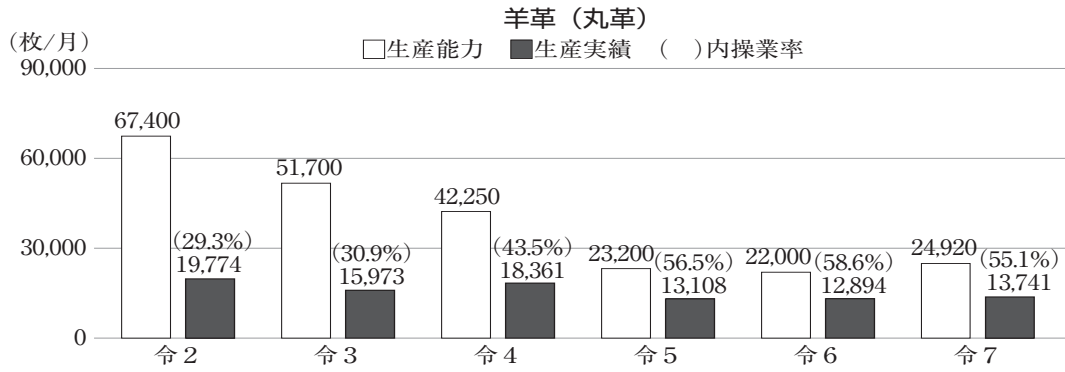
鹿革の令和7年の月間平均生産能力が15,650枚/月、月間平均生産実績が7,985枚/月、操業率は51.0%という結果となった。鹿革に関しては、令和5年以降のデータとなるため、3年間のトレンドでしか判断できないが、獣害対策として生産が増えてきたことや、それに伴い製品としての需要も増えたことで、なめし革生産の実績も徐々に拡大している状況にある。操業率も50%をキープしており、唯一増加が見込める革種となっている。

牛床革は、令和7年の月間平均生産能力が3万2,335枚/月、月間平均生産実績が1万4,426枚/月、操業率は44.6%という結果となった。今回の調査結果としては、前年から生産能力、生産実績とも縮小し、令和2年以降、生産能力、生産実績とも低下トレンドが継続している。

その他革に関しては、令和4年までは鹿革なども含まれているため、令和5年からの3年間のデータでの見解となるが、生産能力、生産実績とも令和6年に一度大きく拡大したが、令和7年は再び令和5年当時の水準に戻っている。ただ生産実績は令和5年当時にも及ばず、結果操業率が大きく低下している。また豚床革に関しては、令和7年は生産能力が100枚/月、生産実績も100枚/月となっており、少量の受注に応じた結果とみられる。

図4-3. 主要革種別月間平均生産能力/月間平均生産実績(令和2年~令和7年)





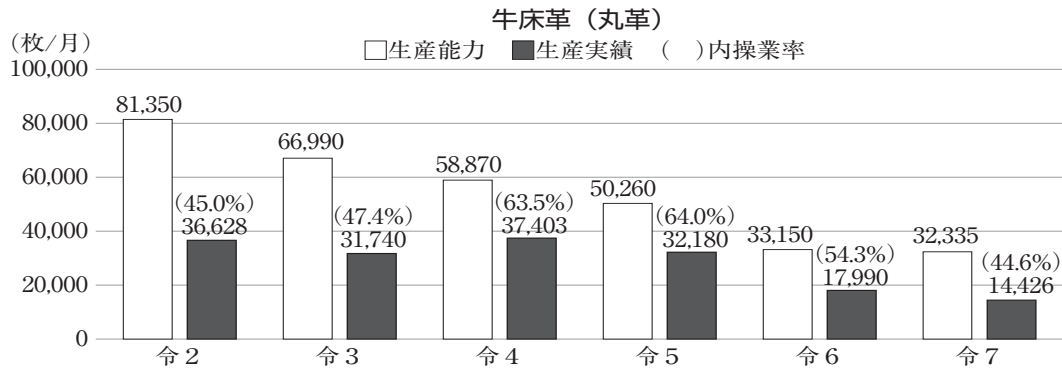


表 4 - 1. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産実績の対比

(枚) 丸革 / 月産

年 革種	生産能力					生産実績					操業率 (%)				
	令 4	令 5	令 6	令 7	令7/令4 (%)	令 4	令 5	令 6	令 7	令7/令4 (%)	令 4	令 5	令 6	令 7	令7/令4 (%)
成牛革	245,284	228,615	218,395	228,606	-6.8	112,323	126,602	116,205	118,631	+5.6	45.8	55.4	53.2	51.9	+6.1
中小牛革	17,136	14,960	15,096	13,135	-23.3	6,965	7,553	7,146	5,930	-14.9	40.6	50.5	47.3	45.1	+4.5
豚革	195,820	90,950	103,200	95,900	-51.0	72,974	29,011	40,595	21,600	-70.4	37.3	31.9	39.3	22.5	-14.7
山羊革	57,560	18,700	51,925	45,580	-20.8	12,469	9,612	15,473	11,983	-3.9	21.7	51.4	29.8	26.3	+4.6
羊革	42,250	23,200	22,000	24,920	-41.0	18,361	13,108	12,894	13,741	-25.2	43.5	56.5	58.6	55.1	+11.7
馬革	11,865	13,225	8,520	7,280	-38.6	5,862	5,906	4,406	3,338	-43.1	49.4	44.7	51.7	45.9	-3.6
鹿革	※	13,230	16,360	15,650	-	※	5,342	7,465	7,985	-	-	40.4	45.6	51.0	-
牛床革	58,870	50,260	33,150	32,335	-45.1	37,403	32,180	17,990	14,426	-61.4	63.5	64.0	54.3	44.6	-18.9
豚床革	51,800	3,700	-	100	-99.8	11,200	1,900	-	100	-99.1	21.6	51.4	-	100.0	+78.4
その他革	31,380	15,470	33,710	19,180	-38.9	9,480	9,238	17,120	7,225	-23.8	30.2	59.7	50.8	37.7	+7.5
合計	711,965	472,310	502,356	482,686	-32.2	287,037	240,452	239,294	204,959	-28.6	40.3	50.9	47.6	42.5	+2.1

※「鹿革」は、令和4年度までは「その他革」に含まれる

② 地区別・革種別生産能力と生産実績

表4-2において令和7年の地区別の月間平均生産能力と月間平均生産実績をまとめた。また表4-3ではその5年間の推移をまとめている。

松原地区の令和7年の月間平均生産能力は5万5,305枚/月（前年6万1,185枚/月）、月間平均生産実績が2万7,002枚/月（同2万9,975枚/月）で、操業率48.8%（同49.0%）という結果となった。生産能力、生産実績とも関西エリアでは最も大きい生産地区としての地位は維持した形となったが、令和3年からの推移をみると、生産能力、生産実績とも徐々に落としているが、操業率はさほど変わらないレベルで推移している。

誉田地区の令和7年の月間平均生産能力は2万5,320枚/月（前年2万3,650枚/月）、月間平均生産実績が1万9,12枚/月（同9,670枚/月）で、操業率43.1%（同40.9%）という結果となった。前年から生産能力、生産実績、操業率も上昇している。ここ数年の状況としては、主力の「成牛革」は減少傾向にあるが、「山羊革」の生産が前年から始まり、そこを補填している形になっていることが今回の結果に影響しているとみられる。

沢田地区の令和7年の月間平均生産能力は1万9,740枚/月（前年2万3,380枚/月）、月間平均生産実績が1万600枚/月（同1万3,510枚/月）で、操業率53.7%（同57.8%）という結果となった。生産能力、生産実績、操業率とも前年からやや低下した結果となったが、令和3年からのトレンドをみると、生産能力、生産実績が他地区と比べて安定的に推移しており、「鹿革」の生産もまだ少量ながら徐々に増えてきている。

高木地区の令和7年の月間平均生産能力は6万4,791枚/月（前年5万4,956枚/月）、月間平均生産実績が2万1,448枚/月（同2万4,111枚/月）で、操業率33.1%（同43.9%）という結果となった。今回は生産能力は上昇したが、生産実績は低下、また操業率が大きく低下している。令和4年までは生産していた「豚革」や「豚床革」の生産が現在はなくなっているため、令和3年からの全体トレンドでは大きく低下しているが、令和4年以降のトレンドをみると、いずれの革種の数字も安定的に推移していることがわかる。

御着地区の令和7年の月間平均生産能力は1万6,940枚/月（前年1万6,415枚/月）、月間平均生産実績が9,530枚/月（同1万8枚/月）で、操業率56.3%（同61.0%）という結果となった。前年と比較して生産能力はやや拡大、生産実績、操業率はやや低下という結果となった。令和3年からのトレンドをみても、「成牛革」の生産能力、実績とも徐々に低下傾向にあり、またそれ以外の革種も年によって生産の有無があるため、「成牛革」の低下分を埋め切れていない。

川西地区の令和7年の月間平均生産能力は1万3,550枚/月（前年1万1,380枚/月）、月間平均生産実績が5,110枚/月（同4,140枚/月）、操業率37.7%（同36.4%）という結果となった。生産能力は微減となったが、生産実績、操業率は前年から上昇している。令和3年からのトレンドをみても、主力の「成牛革」が生産能力、実績とも増加していることや、令和5年から生産が始まっている「鹿革」の生産が安定的に行われていることで、地区全体としても他地区よりも安定した状況にあるといえる。

大阪他地区の令和7年の月間平均生産能力は6,750枚/月（前年6,700枚/月）、月間平均生産実績が2,950枚/月（同3,110枚/月）、操業率は43.7%（同46.4%）という結果となり、生産能力は微増、生産実績、操業率はやや低下した結果となった。同地区では現状、成牛革と中小牛革の二種しか生産していないが、令和3年からのトレンドを見ると、両種とも生産能力、生産実績を徐々に落としている。

和歌山地区の令和7年の月間平均生産能力は1万3,680枚/月（前年1万7,950枚/月）、月間平均生産実績が5,793枚/月（同6,766枚/月）、操業率は42.3%（同37.7%）となり、生産能力、生産実績とも前年から低下した。令和3年からのトレンドでは、生産実績に関しては、いずれの革種も比較的安定した推移となっているが、生産能力は年によって増減を繰り返しており、その分、操業

率の変化が大きい状況となっている。

東京地区の令和7年の月間平均生産能力は17万650枚/月（前年20万1,330枚/月）、月間平均生産実績が4万6,862枚/月（同7万8,734枚/月）で、操業率27.5%（同39.1%）となった。生産能力及び生産実績とも最大の生産販売枚数を誇る地区であるが、前年から生産能力、生産実績とも大きく落とした。ただ前年は生産能力、生産実績とも大きく増加した年であったため、結果的に令和5年当時の水準に戻った形となったが、それでも操業率が大きく低下している点が気になる点である。また令和3年からのトレンドをみると、やはり「豚革」の生産実績の低下が地区全体の実績に大きく影響しているとみられる。

埼玉他地区の令和7年の月間平均生産能力は9万5,960枚/月（前年8万5,410枚/月）、月間平均生産実績が6万4,752枚/月（同5万9,270枚/月）で、操業率67.5%（同69.4%）という結果となり、生産能力、生産実績とも前年から増加した結果となった。また操業率は僅かに落としている。規模の大きい企業が存在し、その実績に左右されやすいということもあるが、令和3年からの革種別の状況をみても、年によってどの革種の生産に力を入れているという状況が窺えるが、安定感ほどの地区よりも高いといえる。また操業率も、今回はやや落としたが、地区間で最も高い数字となっている。

表4-2. 地区別月間平均生産能力/月間平均生産実績(令和7年)

(枚/月)

＜松原＞	生産能力	生産実績	操業率	＜誉田＞	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	51,400	24,176	47.0%	成牛革	18,600	7,453	40.1%
中小牛革	1,135	1,100	96.9%	中小牛革	720	459	63.8%
豚革			-	豚革			-
山羊革			-	山羊革	3,000	2,000	66.7%
羊革			-	羊革			-
馬革	70	70	100.0%	馬革			-
鹿革			-	鹿革			-
牛床革	2,700	1,656	61.3%	牛床革	3,000	1,000	33.3%
豚床革			-	豚床革			-
その他革			-	その他革			-
計	55,305	27,002	48.8%	計	25,320	10,912	43.1%

＜沢田＞	生産能力	生産実績	操業率	＜高木＞	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	11,780	6,830	58.0%	成牛革	35,526	10,953	30.8%
中小牛革			-	中小牛革	3,380	1,545	45.7%
豚革	100	100	100.0%	豚革			-
山羊革			-	山羊革	4,000	2,000	50.0%
羊革			-	羊革	360	200	55.6%
馬革			-	馬革	6,510	2,918	44.8%
鹿革	500	200	40.0%	鹿革	1,140	132	11.6%
牛床革	7,360	3,470	47.1%	牛床革	13,675	3,600	26.3%
豚床革			-	豚床革	100	100	100.0%
その他革			-	その他革	100	0	0.0%
計	19,740	10,600	53.7%	計	64,791	21,448	33.1%

<御着>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	15,840	8,930	56.4%
中小牛革			-
豚革			-
山羊革			-
羊革	500	400	80.0%
馬革			-
鹿革	300	100	33.3%
牛床革	300	100	33.3%
豚床革			-
その他革			-
計	16,940	9,530	56.3%

<川西>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	9,350	2,814	30.1%
中小牛革	200	96	48.0%
豚革			-
山羊革			-
羊革			-
馬革			-
鹿革	4,000	2,200	55.0%
牛床革			-
豚床革			-
その他革			-
計	13,550	5,110	37.7%

<大阪他>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	5,550	2,150	38.7%
中小牛革	1,200	800	66.7%
豚革			-
山羊革			-
羊革			-
馬革			-
鹿革			-
牛床革			-
豚床革			-
その他革			-
計	6,750	2,950	43.7%

<和歌山>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	3,000	925	30.8%
中小牛革	2,600	580	22.3%
豚革			-
山羊革	1,300	400	30.8%
羊革	2,000	208	10.4%
馬革			-
鹿革			-
牛床革	4,300	3,600	83.7%
豚床革			-
その他革	480	80	16.7%
計	13,680	5,793	42.3%

<東京>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	3,800	1,390	36.6%
中小牛革	3,500	1,150	32.9%
豚革	94,600	20,800	22.0%
山羊革	36,380	7,223	19.9%
羊革	16,060	9,933	61.8%
馬革			-
鹿革	2,310	883	38.2%
牛床革			-
豚床革			-
その他革	14,000	5,483	39.2%
計	170,650	46,862	27.5%

<埼玉他>	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	73,760	53,010	71.9%
中小牛革	400	200	50.0%
豚革	1,200	700	58.3%
山羊革	900	360	40.0%
羊革	6,000	3,000	50.0%
馬革	700	350	50.0%
鹿革	7,400	4,470	60.4%
牛床革	1,000	1,000	100.0%
豚床革			-
その他革	4,600	1,662	36.1%
計	95,960	64,752	67.5%

表4-3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の5年間推移①

(枚) 丸革 / 月産

地区 及び年	革種	成 牛 革			中 小 牛 革			豚 革			山 羊 革			羊 革		
		生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)
松 原	令3	63,190	25,638	40.6	400	360	90.0									
	令4	61,090	27,216	44.6	1,050	950	90.5	1,000	1,000	100.0						
	令5	57,080	27,980	49.0	1,150	1,050	91.3									
	令6	55,720	26,465	47.5	1,375	1,250	90.9									
誉 田	令3	33,050	10,550	31.9												
	令4	27,100	8,900	32.8	1,000	650	65.0									
	令5	21,750	9,805	45.1	730	580	79.5				1,000	600	60.0			
	令6	18,550	7,390	39.8	1,100	480	43.6				3,000	2,000	66.7			
沢 田	令3	17,450	7,650	43.8												
	令4	8,300	4,650	56.0												
	令5	11,260	6,280	55.8				300	250	83.3						
	令6	12,280	6,760	55.0				500	450	90.0						
高 木	令3	51,155	11,689	22.9	6,280	1,911	30.4	70,000	20,000	28.6	1,000	500	50.0	400	200	50.0
	令4	44,564	15,289	34.3	3,636	1,463	40.2	70,000	20,000	28.6	660	200	30.3	600	300	50.0
	令5	32,670	11,847	36.3	3,300	1,820	55.2				4,100	2,020	49.3	200	100	50.0
	令6	28,825	10,977	38.1	3,671	1,682	45.8				4,000	2,000	50.0	400	200	50.0
御 着	令3	19,540	9,616	49.2	1,000	200	20.0				1,500	1,200	80.0	500	50	10.0
	令4	16,240	9,460	58.3									500	50	10.0	
	令5	17,345	9,653	55.7							1,100	500	45.5			
	令6	15,190	9,408	61.9							925	500	54.1			
川 西	令3	7,320	2,369	32.4	2,000	600	30.0									
	令4	5,230	1,770	33.8							7,500	1,200	16.0	7,500	1,500	20.0
	令5	6,150	2,450	39.8	300	150	50.0									
	令6	7,280	2,540	34.9	100	100	100.0									
大 阪 他	令3	7,100	2,815	39.6	2,100	896	42.7									
	令4	6,190	2,710	43.8	2,600	1,800	69.2									
	令5	5,700	2,527	44.3	1,630	1,430	87.7									
	令6	5,500	2,110	38.4	1,200	1,000	83.3									
和 歌 山	令3	2,500	680	27.2	5,650	550	9.7				21,300	1,400	6.6	1,000	500	50.0
	令4	2,400	940	39.2	4,650	480	10.3				1,300	400	30.8	1,500	500	33.3
	令5	2,400	1,240	51.7	4,650	680	14.6				1,300	700	53.8	2,000	1,000	50.0
	令6	3,000	925	30.8	2,650	600	22.6				1,300	400	30.8	3,000	1,008	33.6
関 西 計	令3	201,305	71,007	35.3	17,430	4,517	25.9	70,000	20,000	28.6	23,800	3,100	13.0	1,900	750	39.5
	令4	171,114	70,935	41.5	12,936	5,343	41.3	71,000	21,000	29.6	9,460	1,800	19.0	10,100	2,350	23.3
	令5	154,355	71,782	46.5	11,760	5,710	48.6	300	250	83.3	6,500	3,220	49.5	2,200	1,100	50.0
	令6	146,345	66,575	45.5	10,096	5,112	50.6	500	450	90.0	7,225	3,500	48.4	3,400	1,208	35.5
東 京	令3	3,520	1,945	55.3	3,250	1,411	43.4	101,150	36,316	35.9	55,600	19,508	35.1	41,800	11,683	27.9
	令4	3,320	1,928	58.1	3,800	1,442	37.9	124,020	51,374	41.4	46,600	10,209	21.9	26,150	12,151	46.5
	令5	2,625	1,700	64.8	2,800	1,553	55.5	89,400	28,761	32.2	10,700	6,142	57.4	15,000	7,648	51.0
	令6	6,100	1,590	26.1	4,100	1,504	36.7	101,800	39,545	38.8	43,200	11,713	27.1	12,600	7,746	61.5
埼 玉 他	令3	72,250	47,120	65.2	600	180	30.0	1,500	1,000	66.7	1,500	340	22.7	8,000	3,540	44.3
	令4	70,850	39,460	55.7	400	180	45.0	800	600	75.0	1,500	460	30.7	6,000	3,860	64.3
	令5	71,635	53,120	74.2	400	290	72.5	1,250			1,500	250	16.7	6,000	4,360	72.7
	令6	65,950	48,040	72.8	900	530	58.9	900	600	66.7	1,500	260	17.3	6,000	3,940	65.7
関 東 計	令3	75,770	49,065	64.8	3,850	1,591	41.3	102,650	37,316	36.4	57,100	19,848	34.8	49,800	15,223	30.6
	令4	74,170	41,388	55.8	4,200	1,622	38.6	124,820	51,974	41.6	48,100	10,669	22.2	32,150	16,011	49.8
	令5	74,260	54,820	73.8	3,200	1,843	57.6	90,650	28,761	31.7	12,200	6,392	52.4	21,000	12,008	57.2
	令6	72,050	49,630	68.9	5,000	2,034	40.7	102,700	40,145	39.1	44,700	11,973	26.8	18,600	11,686	62.8
全 国 計	令3	277,075	120,072	43.3	21,280	6,108	28.7	172,650	57,316	33.2	80,900	22,948	28.4	51,700	15,973	30.9
	令4	245,284	112,323	45.8	17,136	6,965	40.6	195,820	72,974	37.3	57,560	12,469	21.7	42,250	18,361	43.5
	令5	228,615	126,602	55.4	14,960	7,553	50.5	90,950	29,011	31.9	18,700	9,612	51.4	23,200	13,108	56.5
	令6	218,395	116,205	53.2	15,096	7,146	47.3	103,200	40,595	39.3	51,925	15,473	29.8	22,000	12,894	58.6
令7	228,606	118,631	51.9	13,135	5,930	45.1	95,900	21,600	22.5	45,580	11,983	26.3	24,920	13,741	55.1	

表 4 - 3. 地区別月間平均生産能力と月間平均生産実績の5年間推移②

(枚) 丸革 / 月産

地区 及び年	革種	馬 革			鹿 革			牛 床 革			豚 床 革			そ の 他 革		
		生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)	生産能力	生産実績	操業率(%)
松 原	令3	500	50	10.0	※	※	-	38,860	17,620	45.3				150	150	100.0
	令4				※	※	-	21,250	18,900	88.9				1,650	500	30.3
	令5				1,000	500	50.0	21,700	18,000	82.9						
	令6	140	70	50.0	1,000	500	50.0	2,900	1,690	58.3				50		-
誉 田	令3				※	※	-									
	令4				※	※	-	5,500	1,000	18.2						
	令5							2,300	1,400	60.9						
	令6							3,000	1,200	40.0						
沢 田	令3				※	※	-	3,450	1,800	52.2						
	令4				※	※	-	8,200	4,300	52.4				160	100	62.5
	令5				100	20	20.0	7,360	3,730	50.7						
	令6				350	200	57.1	10,250	6,100	59.5						
高 木	令3	9,300	5,283	56.8	※	※	-	17,180	7,920	46.1	50,000	10,000	20.0	1,180	90	7.6
	令4	8,500	3,652	43.0	※	※	-	15,220	8,403	55.2	50,000	10,000	20.0	12,230	356	2.9
	令5	7,550	3,647	48.3	1,330	366	27.5	12,900	6,450	50.0				300	150	50.0
	令6	6,180	3,286	53.2	1,280	406	31.7	10,000	5,300	53.0				600	260	43.3
御 着	令3				※	※	-	500	200	40.0				300	50	16.7
	令4				※	※	-	200	100	50.0				300	70	23.3
	令5				300	100	33.3	1,500	100	6.7						
	令6				300	100	33.3									
川 西	令3				※	※	-									
	令4				※	※	-									
	令5				4,000	1,500	37.5							4,000	1,500	37.5
	令6				4,000	1,500	37.5									
大 阪 他	令3				※	※	-									
	令4				※	※	-									
	令5															
	令6															
和 歌 山	令3	400	100	25.0	※	※	-	7,000	4,200	60.0						
	令4	500	200	40.0	※	※	-	6,000	3,500	58.3				800	16	2.0
	令5	500	200	40.0				4,500	2,500	55.6						
	令6	500	50	10.0				7,000	3,700	52.9				500	83	16.6
関 西 計	令3	10,200	5,433	53.3	※	※	-	66,990	31,740	47.4	50,000	10,000	20.0	1,630	290	17.8
	令4	9,000	3,852	42.8	※	※	-	56,370	36,203	64.2	50,000	10,000	20.0	19,140	2,542	13.3
	令5	8,050	3,847	47.8	6,730	2,486	36.9	50,260	32,180	64.0	0	0	-	300	150	50.0
	令6	6,820	3,406	49.9	6,930	2,706	39.0	33,150	17,990	54.3	0	0	-	1,150	343	20.0
東 京	令3	20	18	90.0	※	※	-				3,200	1,200	37.5	9,286	4,505	48.5
	令4	15	10	66.7	※	※	-	2,500	1,200	48.0	1,800	1,200	66.7	9,100	5,518	60.6
	令5	2,040	130	6.4	500	156	31.2				2,500	1,000	40.0	12,370	8,117	65.6
	令6	1,200	500	41.7	1,330	459	34.5							31,000	15,677	50.6
埼 玉 他	令3	2,350	1,594	67.8	※	※	-							18,000	6,810	37.8
	令4	2,850	2,000	70.2	※	※	-							3,140	1,420	45.2
	令5	3,135	1,929	61.5	6,000	2,700	45.0				1,200	900	75.0	2,800	971	34.7
	令6	500	500	100.0	8,100	4,300	53.1							1,560	1,100	70.5
関 東 計	令3	2,370	1,612	68.0	※	※	-	0	0	-	3,200	1,200	37.5	27,286	11,315	41.5
	令4	2,865	2,010	70.2	※	※	-	2,500	1,200	48.0	1,800	1,200	66.7	12,240	6,938	56.7
	令5	5,175	2,059	39.8	6,500	2,856	43.9	0	0	-	3,700	1,900	51.4	15,170	9,088	59.9
	令6	1,700	1,000	58.8	9,430	4,759	50.5	0	0	-	0	0	-	32,560	16,777	51.5
全 国 計	令3	12,570	7,045	56.0	※	※	-	66,990	31,740	47.4	53,200	11,200	21.1	28,916	11,605	40.1
	令4	11,865	5,862	49.4	※	※	-	58,870	37,403	63.5	51,800	11,200	21.6	31,380	9,480	30.2
	令5	13,225	5,906	44.7	13,230	5,342	40.4	50,260	32,180	64.0	3,700	1,900	51.4	15,470	9,238	59.7
	令6	8,520	4,406	51.7	16,360	7,465	45.6	33,150	17,990	54.3	0	0	-	33,710	17,120	50.8
令7	7,280	3,338	45.9	15,650	7,935	50.7	32,335	14,426	44.6	100	100	100.0	19,180	7,225	37.7	

※鹿革は令和4年度まで集計なし

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和7年実績①

成 牛 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原	43,600	6,250	1,450	100	51,400	20,131	2,925	1,070	50	24,176	47.0%
誉 田	16,800	1,500		300	18,600	6,511	842		100	7,453	40.1%
沢 田	11,400	280	100		11,780	6,550	230	50		6,830	58.0%
たつの 計	71,800	8,030	1,550	400	81,780	33,192	3,997	1,120	150	38,459	47.0%
高 木	20,540	1,370	3,016	10,600	35,526	8,234	230	1,089	1,400	10,953	30.8%
御 着	13,050	2,790			15,840	7,475	1,455			8,930	56.4%
姫路 計	33,590	4,160	3,016	10,600	51,366	15,709	1,685	1,089	1,400	19,883	38.7%
川 西	9,350				9,350	2,814				2,814	30.1%
大阪 他	4,100	1,450			5,550	1,770	380			2,150	38.7%
和 歌 山				3,000	3,000				925	925	30.8%
関 計	118,840	13,640	4,566	14,000	151,046	53,485	6,062	2,209	2,475	64,231	42.5%
西 操業率						45.0%	44.4%	48.4%	17.7%	42.5%	-
東 京		100	1,700	2,000	3,800		40	1,150	200	1,390	36.6%
埼玉 他	13,860	2,800	100	57,000	73,760	8,660	2,080	70	42,200	53,010	71.9%
関 計	13,860	2,900	1,800	59,000	77,560	8,660	2,120	1,220	42,400	54,400	70.1%
東 操業率						62.5%	73.1%	67.8%	71.9%	70.1%	-
全 合 計	132,700	16,540	6,366	73,000	228,606	62,145	8,182	3,429	44,875	118,631	51.9%
国 操業率						46.8%	49.5%	53.9%	61.5%	51.9%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

中 小 牛 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原	885		250		1,135	850		250		1,100	96.9%
誉 田	720				720	459				459	63.8%
沢 田					0					0	-
たつの 計	1,605	0	250	0	1,855	1,309	0	250	0	1,559	84.0%
高 木	1,980	200		1,200	3,380	995	200		350	1,545	45.7%
御 着					0					0	-
姫路 計	1,980	200	0	1,200	3,380	995	200	0	350	1,545	45.7%
川 西	200				200	96				96	48.0%
大阪 他	1,200				1,200	800				800	66.7%
和 歌 山				2,600	2,600				580	580	22.3%
関 計	4,985	200	250	3,800	9,235	3,200	200	250	930	4,580	49.6%
西 操業率						64.2%	100.0%	100.0%	24.5%	49.6%	-
東 京				3,500	3,500				1,150	1,150	32.9%
埼玉 他	400				400	200				200	50.0%
関 計	400	0	0	3,500	3,900	200	0	0	1,150	1,350	34.6%
東 操業率						50.0%	-	-	32.9%	34.6%	-
全 合 計	5,385	200	250	7,300	13,135	3,400	200	250	2,080	5,930	45.1%
国 操業率						63.1%	100.0%	100.0%	28.5%	45.1%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和7年実績②

豚 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原					0					0	-
誉 田					0					0	-
沢 田	100				100	100				100	100.0%
たつの 計	100	0	0	0	100	100	0	0	0	100	100.0%
高 木					0					0	-
御 着					0					0	-
姫路 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
川 西					0					0	-
大阪 他					0					0	-
和 歌 山					0					0	-
関 西 計	100	0	0	0	100	100	0	0	0	100	100.0%
操業率						100.0%	-	-		100.0%	-
東 京	84,600	6,400	600	3,000	94,600	15,220	4,180	400	1,000	20,800	22.0%
埼玉 他		1,200			1,200		700			700	58.3%
関 東 計	84,600	7,600	600	3,000	95,800	15,220	4,880	400	1,000	21,500	22.4%
操業率						18.0%	64.2%	66.7%	33.3%	22.4%	-
全 国 合 計	84,700	7,600	600	3,000	95,900	15,320	4,880	400	1,000	21,600	22.5%
操業率						18.1%	64.2%	66.7%	33.3%	22.5%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

山 羊 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原					0					0	-
誉 田				3,000	3,000				2,000	2,000	66.7%
沢 田					0					0	-
たつの 計	0	0	0	3,000	3,000	0	0	0	2,000	2,000	66.7%
高 木				4,000	4,000				2,000	2,000	50.0%
御 着					0					0	-
姫路 計	0	0	0	4,000	4,000	0	0	0	2,000	2,000	50.0%
川 西					0					0	-
大阪 他					0					0	-
和 歌 山				1,300	1,300				400	400	30.8%
関 西 計	0	0	0	8,300	8,300	0	0	0	4,400	4,400	53.0%
操業率						-	-	-	53.0%	-	-
東 京	1,000			35,380	36,380	600			6,623	7,223	19.9%
埼玉 他				900	900				360	360	40.0%
関 東 計	1,000	0	0	36,280	37,280	600	0	0	6,983	7,583	20.3%
操業率						60.0%	-	-	19.2%	20.3%	-
全 国 合 計	1,000	0	0	44,580	45,580	600	0	0	11,383	11,983	26.3%
操業率						60.0%	-	-	25.5%	26.3%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和7年実績③

羊 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム鞣し	タンニン鞣し	その他鞣し	クラストから	合計	クロム鞣し	タンニン鞣し	その他鞣し	クラストから	合計	
松原					0					0	-
誉田					0					0	-
沢田					0					0	-
たつの計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
高木				360	360				200	200	55.6%
御着				500	500				400	400	80.0%
姫路計	0	0	0	860	860	0	0	0	600	600	-
川西					0					0	-
大阪他					0					0	-
和歌山	1,000			1,000	2,000	200			8	208	10.4%
関西計	1,000	0	0	1,860	2,860	200	0	0	608	808	28.3%
関西操業率						20.0%	-	-	32.7%	28.3%	-
東京	3,560			12,500	16,060	2,367			7,566	9,933	61.8%
埼玉他	2,000			4,000	6,000	800			2,200	3,000	50.0%
関東計	5,560	0	0	16,500	22,060	3,167	0	0	9,766	12,933	58.6%
関東操業率						57.0%	-	-	57.0%	58.6%	-
全国合計	6,560	0	0	18,360	24,920	3,367	0	0	10,374	13,741	55.1%
全国操業率						51.3%	-	-	56.5%	55.1%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

馬 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム鞣し	タンニン鞣し	その他鞣し	クラストから	合計	クロム鞣し	タンニン鞣し	その他鞣し	クラストから	合計	
松原		70			70		70			70	100.0%
誉田					0					0	-
沢田					0					0	-
たつの計	0	70	0	0	70	0	70	0	0	70	100.0%
高木	4,610	1,850		50	6,510	1,517	1,401			2,918	44.8%
御着					0					0	-
姫路計	4,610	1,850	0	50	6,510	1,517	1,401	0	0	2,918	44.8%
川西					0					0	-
大阪他					0					0	-
和歌山					0					0	-
関西計	4,610	1,920	0	50	6,580	1,517	1,471	0	0	2,988	45.4%
関西操業率						32.9%	76.6%	-	-	45.4%	-
東京					0					0	-
埼玉他	600		100		700	300		50		350	50.0%
関東計	600	0	100	0	700	300	0	50	0	350	50.0%
関東操業率						-	-	50.0%	-	50.0%	-
全国合計	5,210	1,920	100	50	7,280	1,817	1,471	50	0	3,338	45.9%
全国操業率						34.9%	76.6%	50.0%	-	45.9%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和7年実績④

鹿 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原					0					0	-
誉 田					0					0	-
沢 田	500				500	200				200	40.0%
たつの 計	500	0	0	0	500	200	0	0	0	200	40.0%
高 木	500	200	340	100	1,140	40	62	30		132	11.6%
御 着	150	150			300	50	50			100	33.3%
姫 路 計	650	350	340	100	1,440	90	112	30	0	232	16.1%
川 西	4,000				4,000	2,200				2,200	55.0%
大 阪 他					0					0	-
和 歌 山					0					0	-
関 西 計	5,150	350	340	100	5,940	2,490	112	30	0	2,632	44.3%
操 業 率						48.3%	32.0%	8.8%	-	44.3%	-
東 京	1,910			400	2,310	503			380	883	38.2%
埼 玉 他	300	5,100		2,000	7,400	270	3,100		1,100	4,470	60.4%
関 東 計	2,210	5,100	0	2,400	9,710	773	3,100	0	1,480	5,353	55.1%
操 業 率						35.0%	60.8%	-	61.7%	55.1%	-
全 国 合 計	7,360	5,450	340	2,500	15,650	3,263	3,212	30	1,480	7,985	51.0%
操 業 率						44.3%	58.9%	8.8%	59.2%	51.0%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

牛 床 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原	2,700			-	2,700	1,656			-	1,656	61.3%
誉 田	3,000			-	3,000	1,000			-	1,000	33.3%
沢 田	5,860		1,500	-	7,360	2,770		700	-	3,470	47.1%
たつの 計	11,560	0	1,500	-	13,060	5,426	0	700	-	6,126	46.9%
高 木	13,675			-	13,675	3,600			-	3,600	26.3%
御 着	300			-	300	100			-	100	33.3%
姫 路 計	13,975	0	0	-	13,975	3,700	0	0	-	3,700	26.5%
川 西				-	0				-	0	-
大 阪 他				-	0				-	0	-
和 歌 山	4,300			-	4,300	3,600			-	3,600	83.7%
関 西 計	29,835	0	1,500	-	31,335	12,726	0	700	-	13,426	42.8%
操 業 率						42.7%	-	46.7%	-	42.8%	-
東 京				-	0				-	0	-
埼 玉 他		1,000		-	1,000		1,000		-	1,000	100.0%
関 東 計	0	1,000	0	-	1,000	0	1,000	0	-	1,000	100.0%
操 業 率						-	100.0%	-	-	-	-
全 国 合 計	29,835	1,000	1,500	-	32,335	12,726	1,000	700	-	14,426	44.6%
操 業 率						42.7%	100.0%	46.7%	-	44.6%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

表4-4. 革種別月間平均生産能力と月間平均生産令和7年実績⑤

豚 床 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原				-	0				-	0	-
誉 田				-	0				-	0	-
沢 田				-	0				-	0	-
たつの 計	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	-
高 木		100		-	100		100		-	100	100.0%
御 着				-	0				-	0	-
姫 路 計	0	100	0	-	100	0	100	0	-	100	100.0%
川 西				-	0				-	0	-
大 阪 他				-	0				-	0	-
和 歌 山				-	0				-	0	-
関 計	0	100	0	-	100	0	100	0	-	100	100.0%
西 操業率						-	100.0%	-	-	100.0%	-
東 京				-	0				-	0	-
埼 玉 他				-	0				-	0	-
関 計	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	-
東 操業率						-	-	-	-	-	-
全 合 計	0	100	0	-	100	0	100	0	-	100	100.0%
国 操業率						-	100.0%	-	-	100.0%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

そ の 他 革

(枚) 丸革 / 月産

	生産能力					生産実績					操業率
	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	クロム 鞣し	タンニン 鞣し	その他 鞣し	クラスト から	合 計	
松 原					0					0	-
誉 田					0					0	-
沢 田					0					0	-
たつの 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
高 木				100	100					0	0.0%
御 着					0					0	-
姫 路 計	0	0	0	100	100	0	0	0	0	0	0.0%
川 西					0					0	-
大 阪 他					0					0	-
和 歌 山				480	480				80	80	16.7%
関 計	0	0	0	580	580	0	0	0	80	80	13.8%
西 操業率						-	-	-	13.8%	13.8%	-
東 京	7,600	1,000	1,200	4,200	14,000	2,344	500	1,097	1,542	5,483	39.2%
埼 玉 他	600	3,300	300	400	4,600	267	973	131	291	1,662	36.1%
関 計	8,200	4,300	1,500	4,600	18,600	2,611	1,473	1,228	1,833	7,145	38.4%
東 操業率						31.8%	34.3%	81.9%	39.8%	38.4%	-
全 合 計	8,200	4,300	1,500	5,180	19,180	2,611	1,473	1,228	1,913	7,225	37.7%
国 操業率						31.8%	34.3%	81.9%	36.9%	37.7%	-

注:操業率=生産実績÷生産能力

③ 革種別なめし工法・なめし製造工程比率

ここでは革種別に、なめし工法となめし製造工程の比率を算出している。まず、なめし工法別にみると、依然として「クロムなめし」による生産が多勢を占めており、「山羊革」「羊革」においては100%「クロムなめし」で生産が行われている。逆に「馬革」「鹿革」においては「タンニンなめし」による生産が比較的多く行われている。

なめし製造工程の比率に関しては、革の性質上、また原皮の調達背景などの影響で、それぞれの革種に適している工程からの生産が多くなっているため、毎年その比率に大きな変化は生じにくい。その上で、前年からの変化で目立つ処としては、「馬革」や「鹿革」においては「原皮から」の生産が、また「成牛革」や「牛床革」は「ウェットブルーから」の生産が、「山羊革」や「その他革」においては「クラストから」の生産が少しシェアを拡大している。

図4-4. 革種別なめし比率(令和7年)

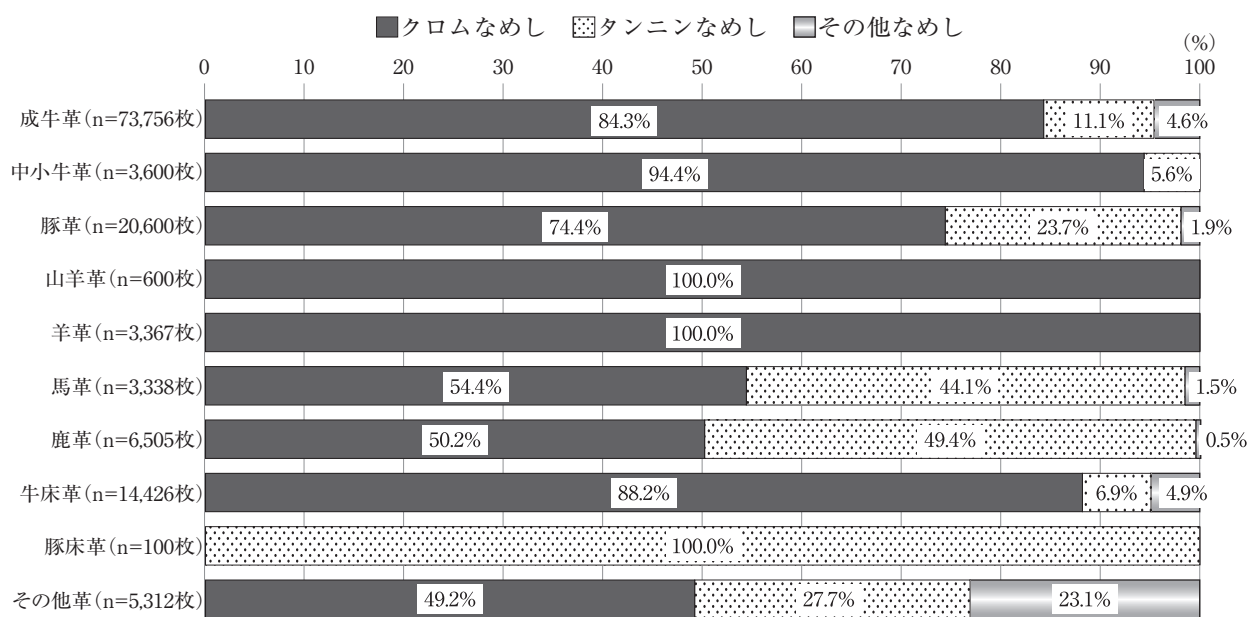
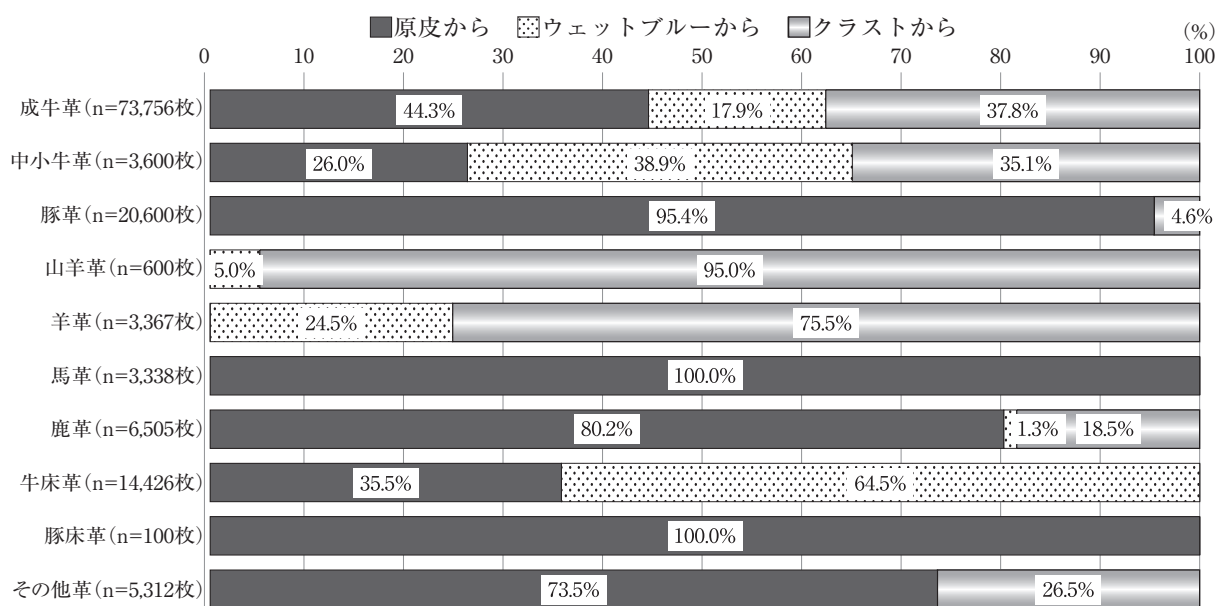


図4-5. 革種別原材料比率(令和7年)



5. 日本の製革業者の経営についての意識

5-1. 今後の経営について

この項では各企業の経営者が現在の経営状態についてどのように考えているか、またその主な理由は何かなどを知るために、今後の経営に対するアンケートによる調査を行った。主な理由に関する回答については複数回答である。

① 経営に対する考え方

図5-1は今後の経営についてどのように考えるかに関して、「1. 経営維持に確信」、「2. 経営維持に努力」、「3. 経営維持に限界」、「4. 転廃休業を考える」、「5. 既に休業している」の5つの選択肢のいずれに自社が該当するかを問うた結果、製革業者261社全社の回答を得た。その結果、令和7年の各製革業者の状況としては、「経営は維持できる」が全体の5.7%（15社）、「経営維持の努力をしている」が全体の57.5%（150社）、「経営維持に限界を感じている」が全体の17.2%（45社）、「事業の転換、廃業、休業を考えている」が5.4%（14社）という結果となった。尚、全体の13.8%（36社）が「既に休業をしている」という回答となった。

尚、「1. 経営維持に確信」、「2. 経営維持に努力」の回答の合計は、全体の63.2%（165社）となり、前年の回答率（62.9%）からはやや上昇した。「3. 経営維持に限界」と「4. 事業の転換、廃業、休業を考えている」の合計は全体の22.6%（59社）となり、こちらも前年（23.3%）から回答率がやや上昇している。少しではあるが、経営に目途が立っている企業とより厳しくなっている企業の2極化が進んでいると感じられる。また「既に休業している」が全体の13.8%という回答率は前年（13.7%）からの変化はほとんどないが、回答企業数が毎年減少していること、つまり廃業している企業が毎年何社かあることを踏まえて回答企業数の増減に注目して考えると、製革業界全体としては状況が芳しくない状態で横ばいが続いているとみられる。

図5-1. 経営に対する考え方(令和7年)
(全国計・n=261社)

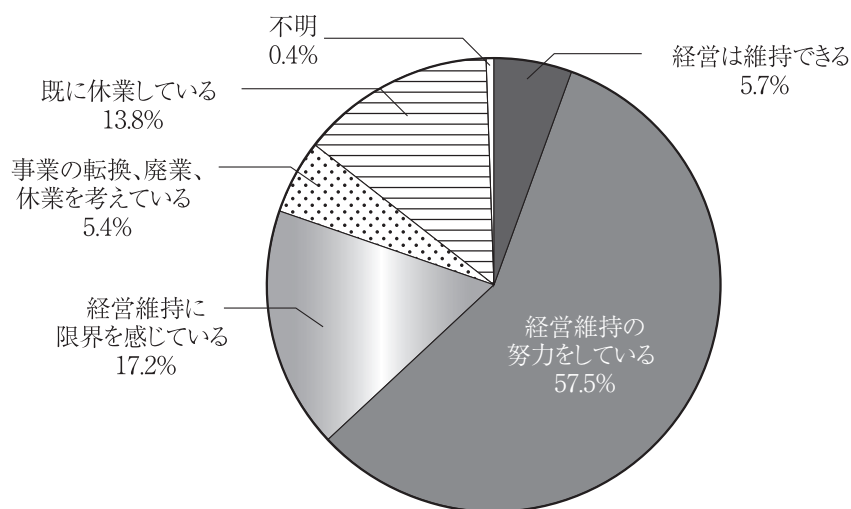
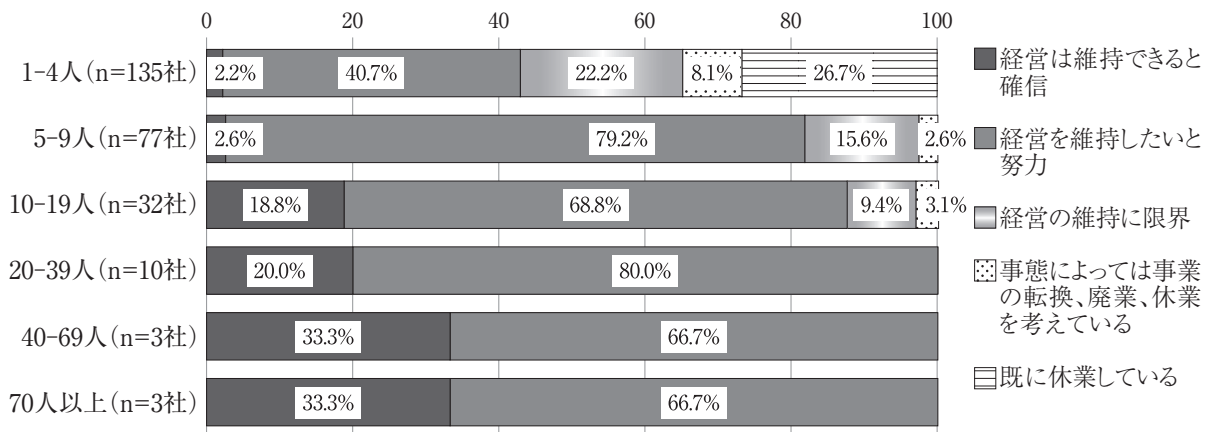


表5-1. 「経営に対する考え方」の4年間回答対比

考え方 及び年	回答企業数				1. 経営は維持出来る と確信している				2. 経営は維持したいと 努力している				3. 経営の維持に限界を 感じている				4. 事業の転換、廃業、 休業を考える				5. 既に休業している				
	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	令4	令5	令6	令7	
たつの	松原	74	74	69	67	2	3	3	6	44	39	38	37	12	15	13	9	3	3	2	2	13	14	13	13
	誉田	44	43	42	43	1	3			20	17	19	17	13	11	14	13	1	3	1	2	9	9	8	11
	沢田	16	14	12	12	4	1	1	2	7	10	8	7			2	1	1	1	1	1	4	2		
	小計	134	131	123	122	7	7	4	8	71	66	65	61	25	26	29	23	5	7	4	5	26	25	21	24
姫路	高木	68	61	62	57	5	2	2	3	41	37	37	34	8	8	5	9	6	6	8	4	8	8	10	7
	御着	22	23	22	22	1				13	16	16	14	2	2	2	4	3	2		1	3	3	4	3
	小計	90	84	84	79	6	2	2	3	54	53	53	48	10	10	7	13	9	8	8	5	11	11	14	10
川西	8	10	10	10		1	1	1	7	7	7	4		2	2	3	1			2					
大阪他	7	7	8	9	1	1	4		5	5	2	6					1	1	1	1			1	2	
和歌山	7	7	7	6		1			6	4	4	4		2	3	2	1								
関西計	246	239	232	226	14	12	11	12	143	135	131	123	35	40	41	41	17	16	13	13	37	36	36	36	
東京	31	26	29	26	1	3	2	3	23	14	18	18	3	4	4	4	3	4	4	1	1	1	1		
埼玉他	13	12	9	9	1				9	10	8	9	1	2	1		2								
関東計	44	38	38	35	2	3	2	3	32	24	26	27	4	6	5	4	5	4	4	1	1	1	1	0	
合計	290	277	270	261	16	15	13	15	175	159	157	150	39	46	46	45	22	20	17	14	38	37	37	36	

また、この回答を従業員数別に集計した図5-2をみると、「経営を維持できるレベル（選択肢1.+2.）」と回答した企業は、＜20人以上の規模の企業＞においては100%、また＜10-19人＞規模の企業で87.6%、＜5-9人＞規模の企業で81.8%、＜1-4人＞規模の企業で42.9%となった。前年の回答率と比べると、＜1-4人＞規模の企業を除いて「経営を維持できるレベル」の回答率が好転している。そして＜1-4人＞の企業の回答で、「経営の維持に限界を感じている（選択肢3.+4.）」と回答したのは135社中の30.3%という結果となり、これは前年との比較においては僅かに上昇している。つまり、＜1-4人＞規模の零細企業にとっての環境は依然として厳しく、今後も休業する企業が増えていく可能性が高いと思われる。

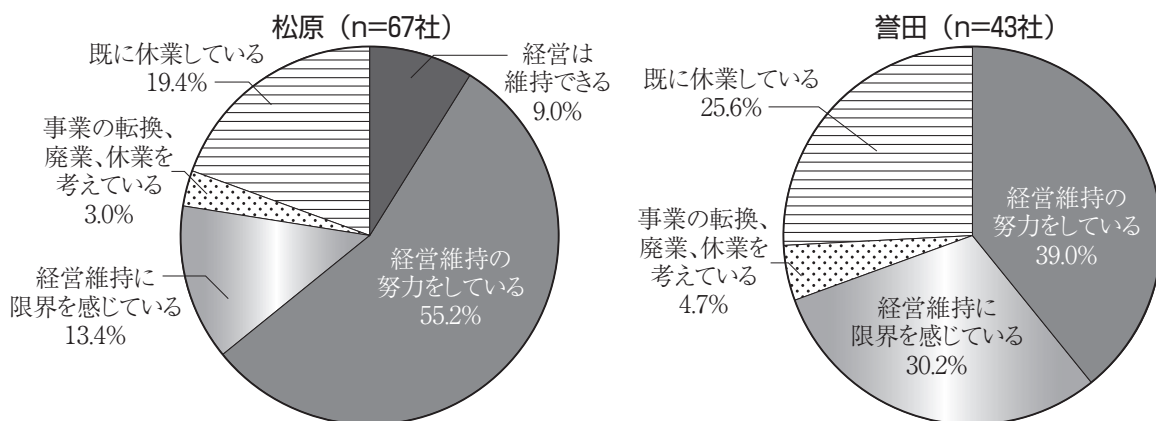
図5-2. 従業員数別にみる経営に対する考え方(令和7年)

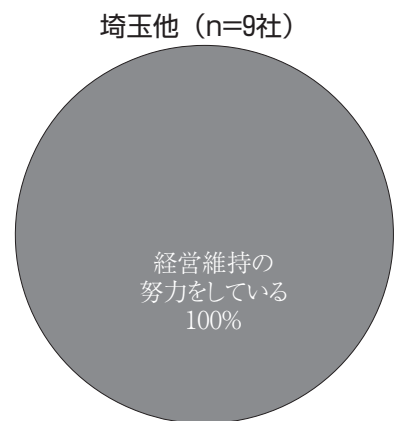
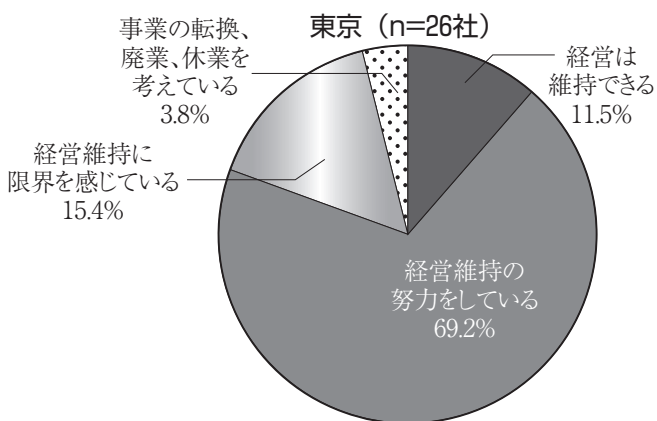
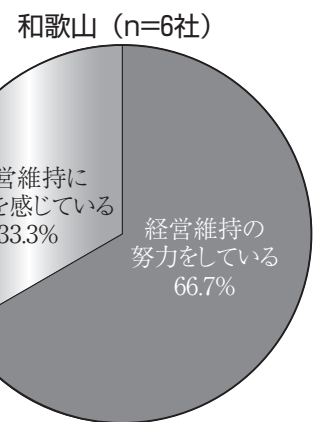
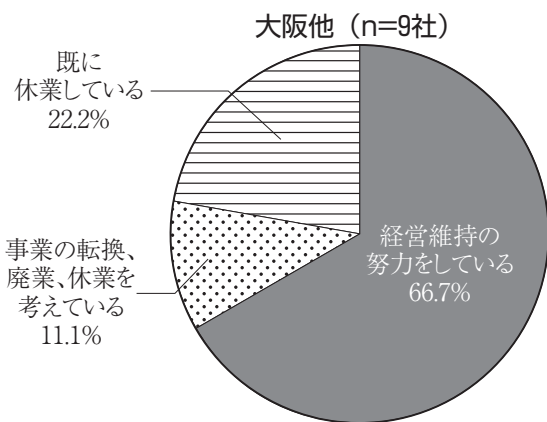
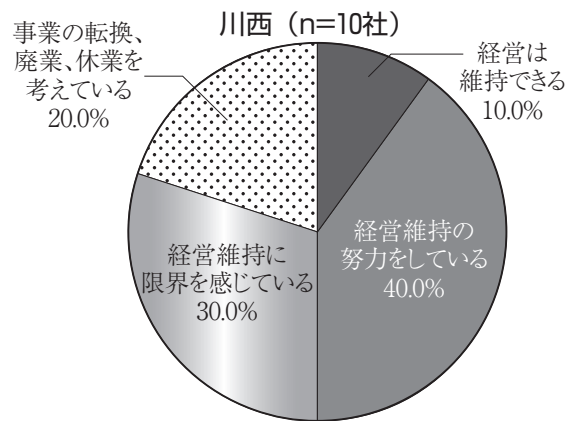
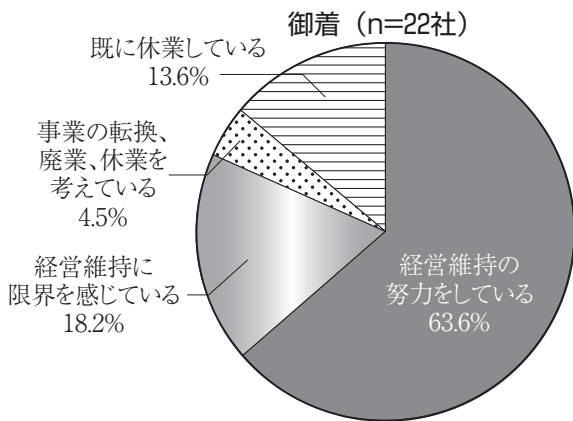
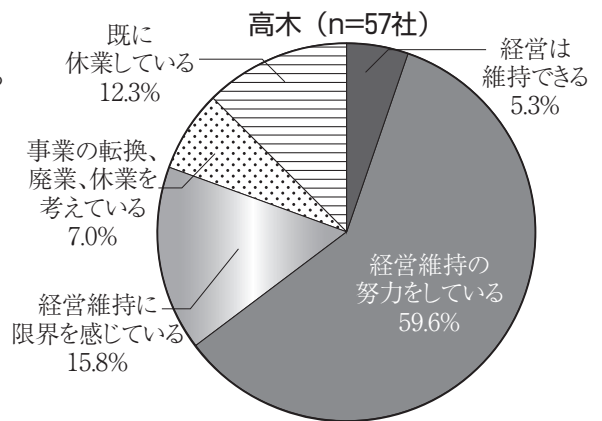
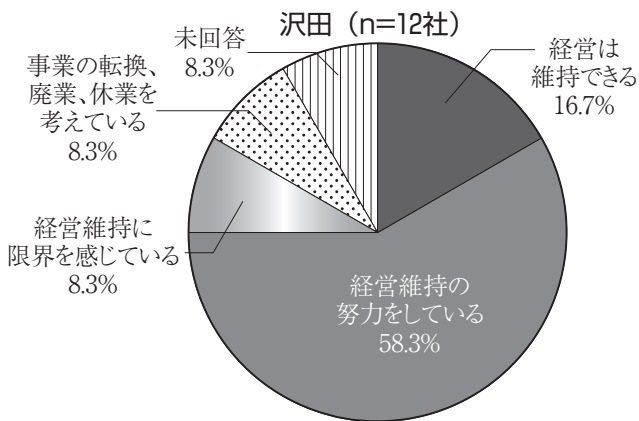


次に図5-3で、地区別でその回答結果を見ると、「経営を維持できるレベル（選択肢1.+2.）」の回答率が50%を割り込んでいるのが誉田地区で全体の39.0%となっている。次いで川西地区の50.0%が低い回答率となっている。その他、松原地区の64.2%や高木地区の64.9%も比較的低い回答率である。逆に「経営に限界を感じている(選択肢3.+4.)」の回答結果から状況を見ると、ここでも川西地区の回答率が50.0%で最も高くなり、次いで誉田地区の34.9%、和歌山地区の33.3%という回答率となっている。この結果からは誉田地区、川西地区等の状況の厳しさがよりみて取れる。

また前年の調査結果との比較において、改善傾向が窺えるのは、松原地区、沢田地区、大阪他地区、和歌山地区、埼玉他地区などが挙げられる。東京地区もその傾向はあるが、休業した企業が数社あるため、その結果が良くみえていとみられる。それ以外の誉田地区などは休業している企業も増え、且つ「経営維持の努力をしている」の回答率も落ちている。高木地区は「経営維持（選択肢1.+2.）」の回答率はやや増えているが、「経営に限界（選択肢3.+4.）」の回答率も増えている。御着地区は明らかに経営状態が悪くなっている企業の比率が高まっている。川西地区は「経営に限界（選択肢3.+4.）」の回答率が大幅に拡大している。

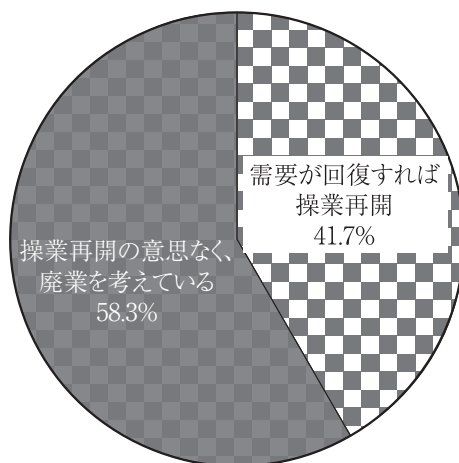
図5-3. 地区別経営に対する考え方・回答構成比(令和7年)





また、図5-4で、「既に休業している」36社（いずれも1-4人規模の企業）に対し、今後の意向も確認したが、36社中、41.7%にあたる15社が「需要が回復すれば操業再開する」と回答しており、前年より2社、回答企業数が増えている。

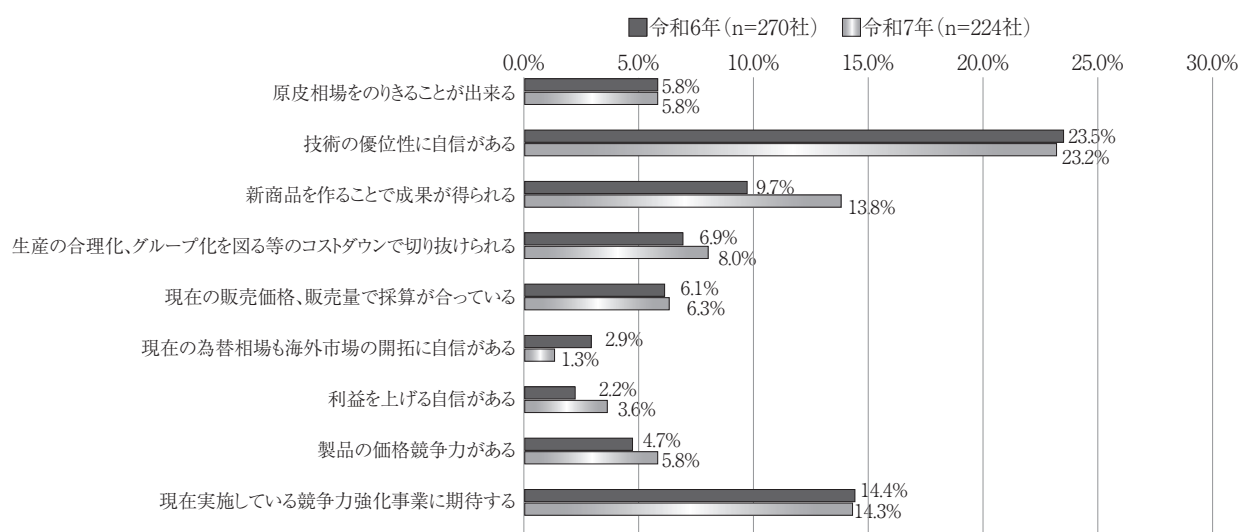
図5-4. 休業後の意向(令和7年)
(n=36社)



② 経営に対する考え方の理由

ここでは、現在、また今後の経営に対する考え方を質問し、224社の回答を得た。まず、経営に前向きな要因について集計した結果が図5-5である。グラフでは令和7年調査と前年の令和6年調査の結果を並べて表した。その結果、最も多い回答率となっている「技術の優位性に自信がある」は、令和7年の全体の回答率は23.2%となり前年の23.5%を僅かに下回った。次いで「現在実施している競争力強化事業に期待する」が14.3%の回答率となり、こちらは前年の14.4%とほぼ同等の回答率となっている。前年より回答率を伸ばしたのは「新商品を作ることで成果が得られる」で、回答率は13.8%となり、前年の回答率から4.1ポイントの上昇となった。「生産の合理化、グループ化を図る等、コストダウンで切り抜けられる」も8.0%となり、前年から1.1ポイントの上昇となっている。その他の選択肢は、ほぼ前年と変わらない回答率となっている。

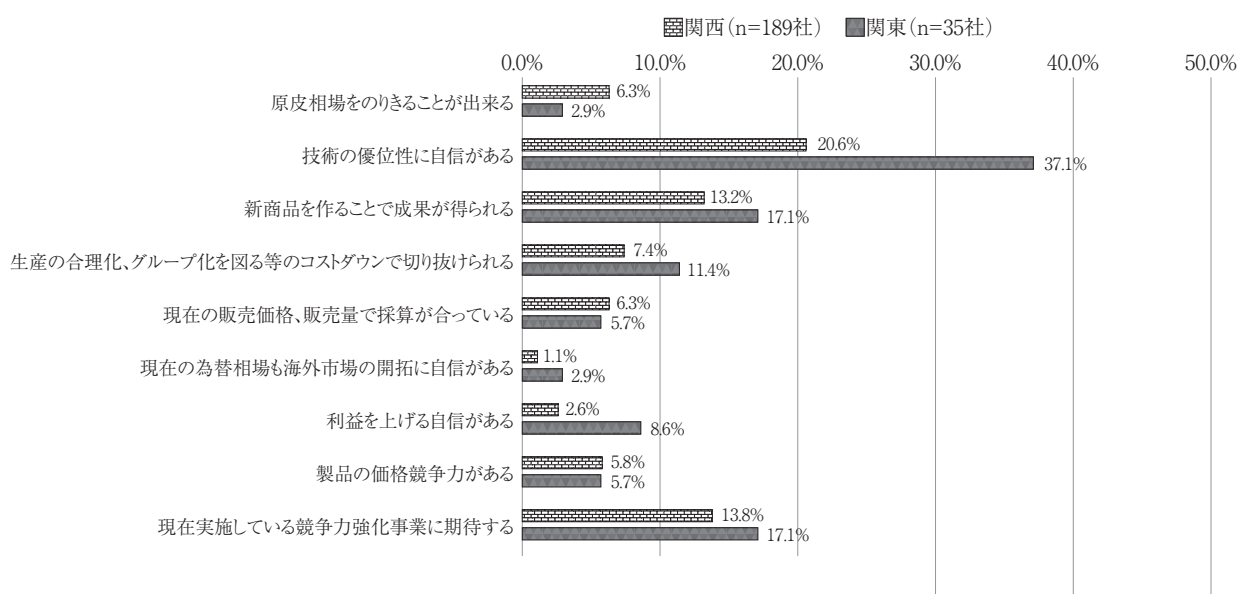
図5-5. 経営に前向きな要因



また図5-6では、令和7年調査結果の関東エリアと関西エリアの回答率の差をみたものである。両地区で最も高い回答率となったのが「技術の優位性に自信がある」であるが、関西と関東の差は大きく、関西エリアの回答率が20.6%、関東エリアの回答率が37.1%と前年に続いて大きな差が表れている。その他の選択肢で関西エリアと関東エリアの差が付いたのは「利益を上げる自信がある」で、全体的な回答率は高くないものの、6.0ポイントの差が付いている。

逆に関西エリアの回答率が関東エリアを上回ったのは「原皮相場を乗り切ることができる」で3.4ポイントの差、また「現在の販売価格、販売量で採算が合っている」は0.6ポイント差で関西エリアの回答率が上回っている。

図5-6. 経営に前向きな要因(令和7年・関西/関東比較)



次に経営の不安材料について、こちらも令和7年調査結果と令和6年調査結果を並べてグラフ化した。その結果、今回の回答結果において高い回答率となった選択肢は前年とほぼ似た結果となり、その中で最も高い回答率となったのは「コスト高で採算が取れない」で、前年の回答率44.8%から、今回は49.1%とさらに上昇しており、現実的にコスト高はさらに進んでいるとみられる。次いで「注文が不安定」との回答で42.9%となり、こちらも前年の回答率(36.5%)からさらに高まった。その次が「製品価格を上げられない」が27.2%となり、ここも前年の24.2%の回答率から高くなっている。また人材面の課題として、「人手の確保が困難」が20.1%、「技術者の確保が困難」が15.2%となり、特に後者は前年から5.5ポイント回答率が上昇している。今回の回答率で、前年から回答率がダウンした選択肢は「人手の確保が困難」と「TPPや日EU・日中韓などのEPAやFTAの影響が不安」の2項目だけとなった。

また図5-8で関西と関東の比較をみると、回答率の最も高い「コスト高で採算が取れない」が関西地区で68.6%の回答率に対し、関東地区は45.5%と23.1ポイントの差となった。また次いで回答率の差が大きくなったのは「人手の確保が困難」で、関東エリアは31.4%、関西エリアは18.0%と、13.4ポイントの差となっている。逆に関西地区の回答率が上回ったのが「製品価格を上げられない」の8.6ポイント差、「下請け会社や周辺産業が不安」が8.2ポイント差となっている。

これも前年と同様の回答傾向であるが、前記した経営に前向きな要因の回答率と経営の不安材料の両方とも関東地区の製革業者の方が反応しており、一見、矛盾を感じるが、関東地区の製革業者の方が、色々と模索して新たな施策を検討しているからこそその回答率という見方もできる。

図5-7. 経営の不安材料

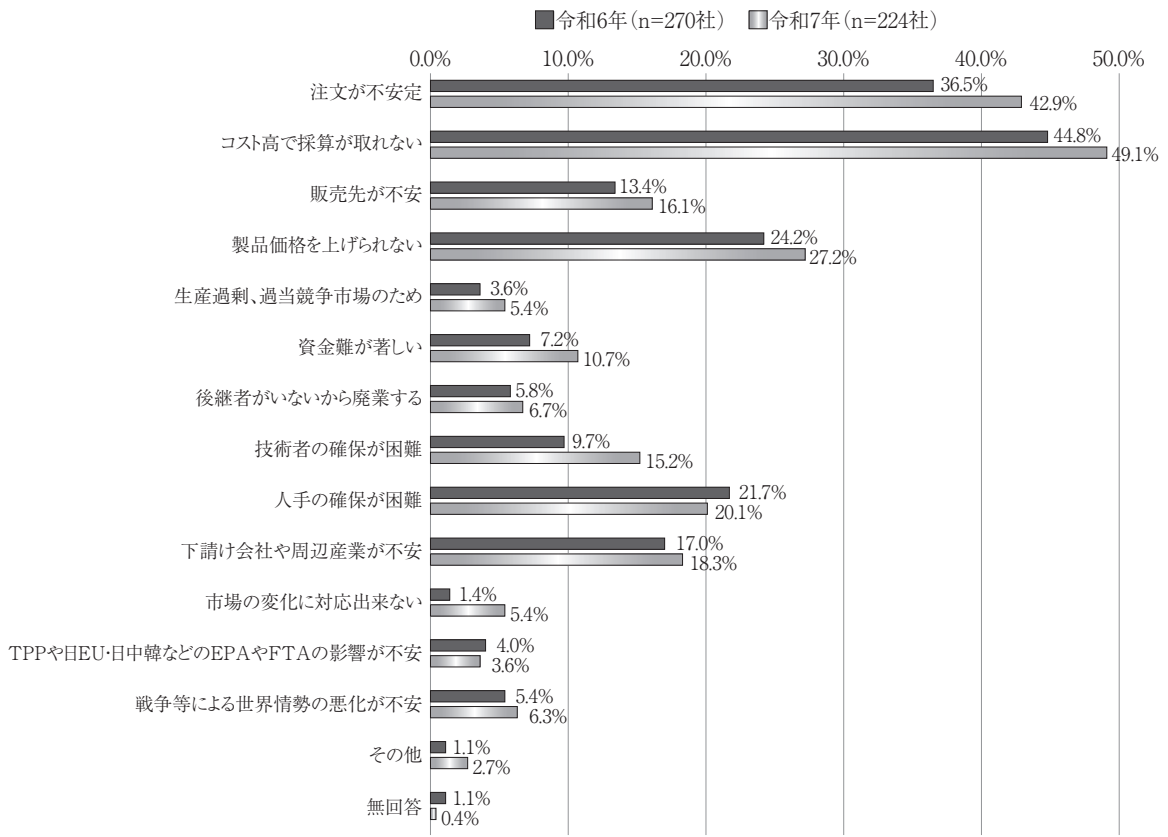


図5-8. 経営の不安材料(令和7年・関西/関東比較)

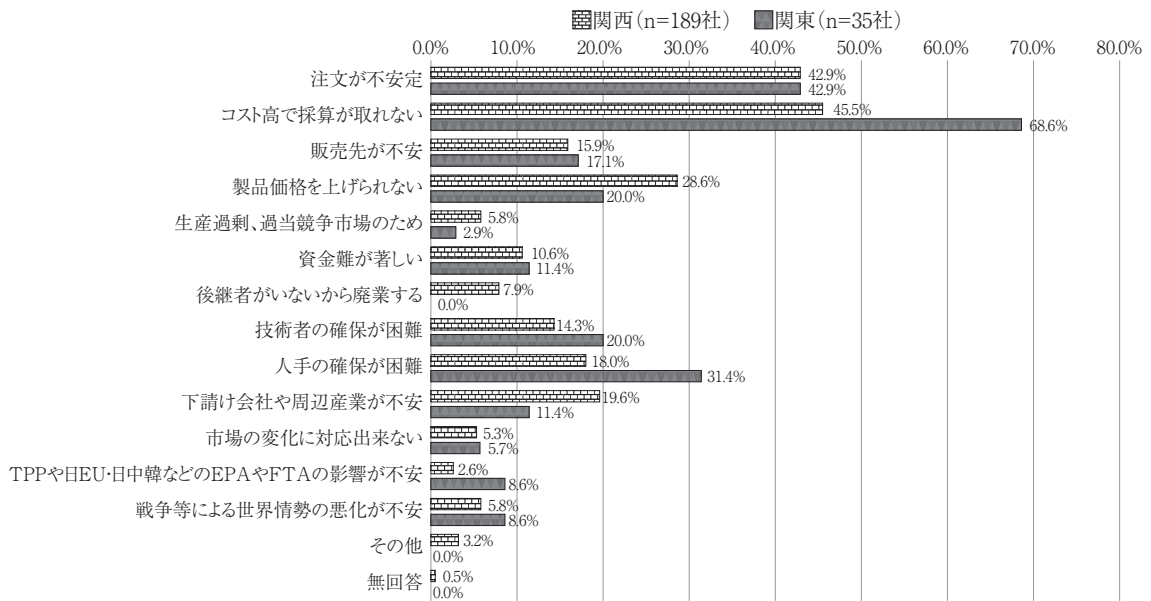
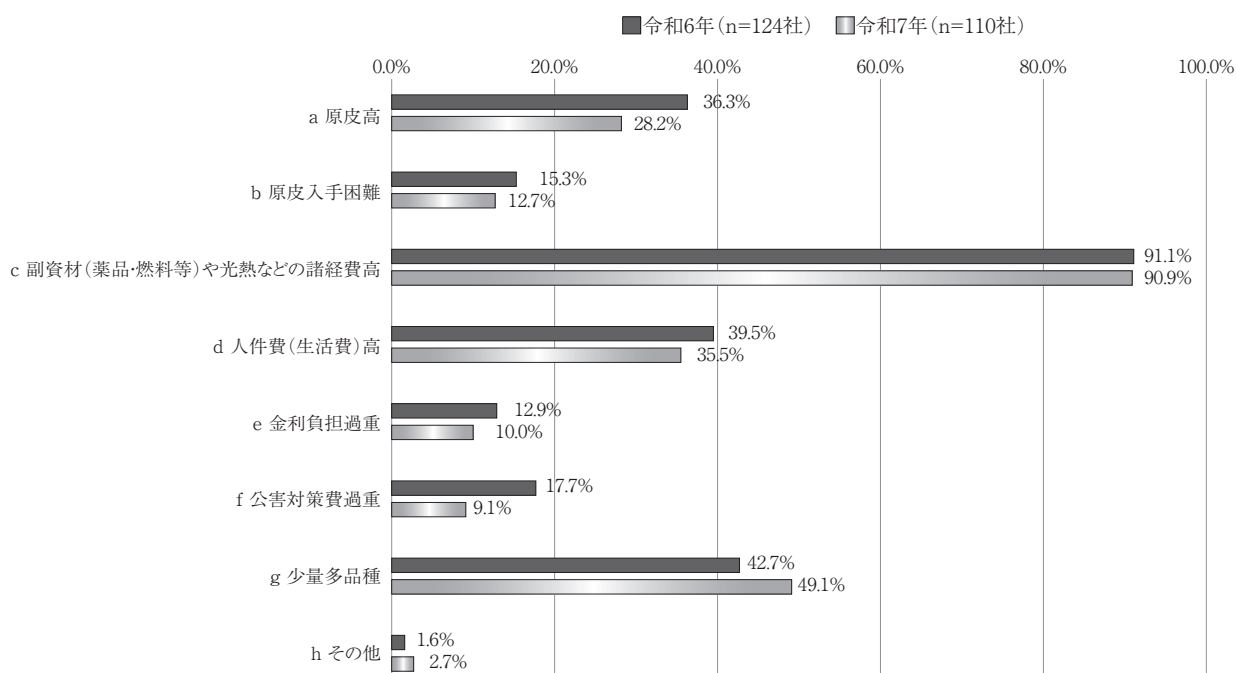


図5-9は前質問で「コスト高で採算が取れない」と回答した110社に対し、改めてその要因を確認した結果で、ここも前年調査結果との比較を行った。

その結果、前年の回答傾向とほぼ変わらない結果となったが、最も高い回答率となったのは「副資材（薬品・燃料等）や光熱などの諸経費高」で90.9%（前年91.1%）、となり、大部分の企業がこの要因を挙げている。次いで「少量多品種」で49.1%（同42.7%）となった。こちらは前年よりも回答率が高くなっている。その他では、「人件費高」が35.5%（同39.5%）、「原皮高」が28.2%（同36.3%）などが高い回答率となっているが、前年との比較において回答率そのものは低くなっている。

図5-9. コスト高で採算が取れない要因



5-2. 利益向上に向けての取り組みについて

現在の厳しい現況において、如何に利益を向上、確保していくか、どの製革業者でも抱える課題であるが、今回、製革業者に対し、その対応策を確認する質問を行い、261社から回答を得た。

図5-10が全体の集計結果であるが、最も高い回答率となったのが「価格の見直しを行っている」で、46.0%の回答率となった。次に「価格を上げるために生産する革に付加価値を付けるよう努力している」の35.6%となり、この二項目が30%以上の高い回答率となった。価格に関する選択肢が上位の回答率となった。やはりコストの上昇で、利益を確保するためには値上げを検討していくことが一番の対応策となることは容易に想像できる。一方で「原料（原皮・薬品等）を他社との連携で仕入れるなど、コストダウンを図っている」の回答率は10.7%となり、コストダウンを図ることが容易ではないことも共通の認識であり、こちらの回答率の低さは当然の結果とも言えよう。その他「新規の販売先を増やしている」16.9%、「メーカーとの取引を増やしている」11.5%の回答率となっており、新たに取引先を獲得することも必要であるが、こちらも簡単ではないことであり、回答率の低さに繋がっているとみられる。また、その他の意見として、「Made in Japan」であることをアピールしている」「オンリーワン革製品を国内外で発信している」などの意見も挙がっている。

図5-11、図5-12では、関西エリアの製革業者だけの回答と関東エリアの製革業者だけの回答をグラフ化したものである。その結果、回答率の高い選択肢の傾向はほとんど同じであるが、ここもその度合いに差があり、大部分の選択肢で、関東エリアの回答率の方が関西エリアの回答率よりも高い結果となっている。その差が大きいのは「価格の見直しを行っている」で26.1ポイントの差、次に「価格を上げるために生産する革に付加価値を付けるよう努力している」で21.6ポイントの差、そして「新規の販売先を増やしている」も20.1ポイントの差がついている。特に「新規の販売先を増やしている」の回答率の差から、関東エリアの製革業者の方が前向きな選択肢を選んでいる傾向が窺える。その中で唯一逆転しているのは、「原料（原皮・薬品等）を他社との連携で仕入れるなど、コストダウンを図っている」で、関西エリアの回答率が11.5%、関東エリアが5.7%と、6ポイント近い差となっている。

図5-10. 利益向上に向けての取り組み(全体・令和7年/n=261社)

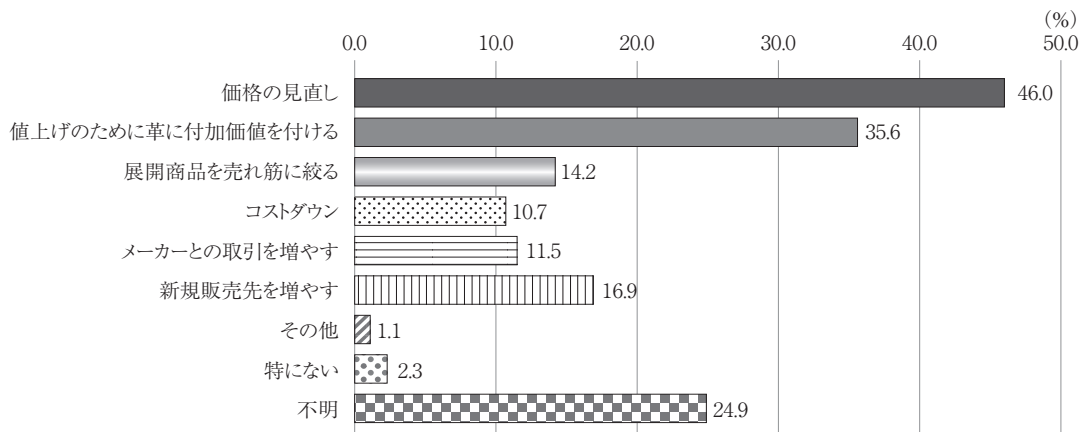


図5-11. 利益向上に向けての取り組み(関西・令和7年/n=226社)

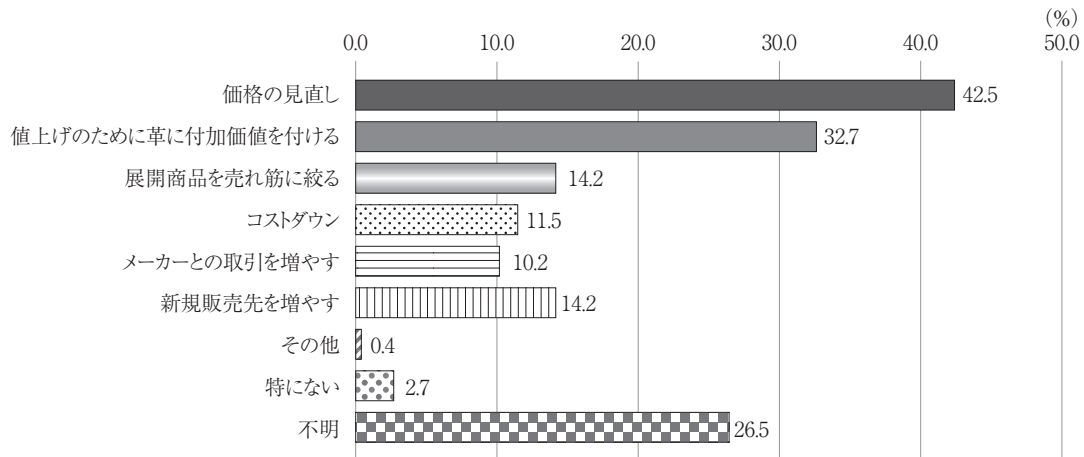
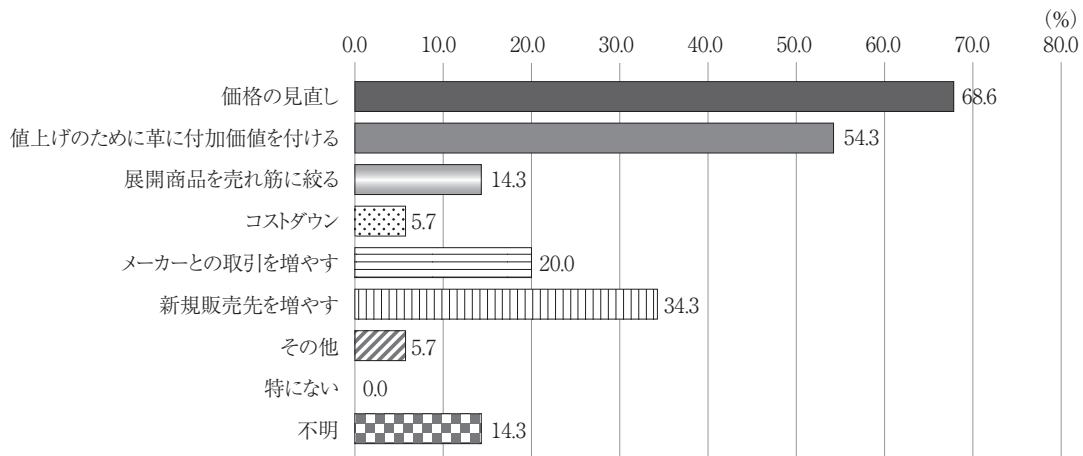


図5-12. 利益向上に向けての取り組み(関東・令和7年/n=35社)



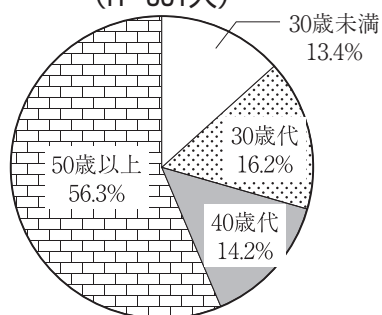
6. 地区別集計：①松原地区

①製革業者データ(令和7年)

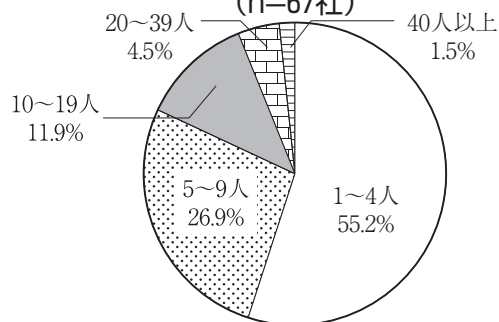
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	67社 (会員 67社 / 非会員 - 社)
従業者数	501人 (前年比: +10人)
性別構成	男性: 287人 女性: 214人
平均従業者数 / 1社	7.5人 (前年比 +0.4人)

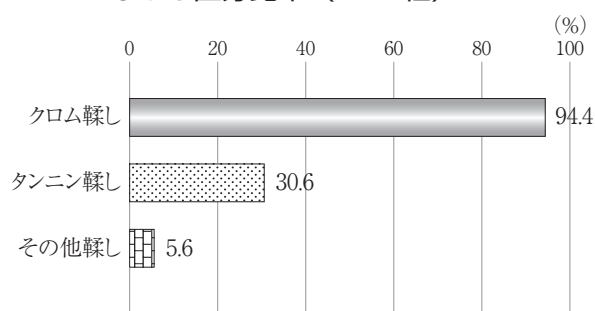
従業者年代別構成比
(n=501人)



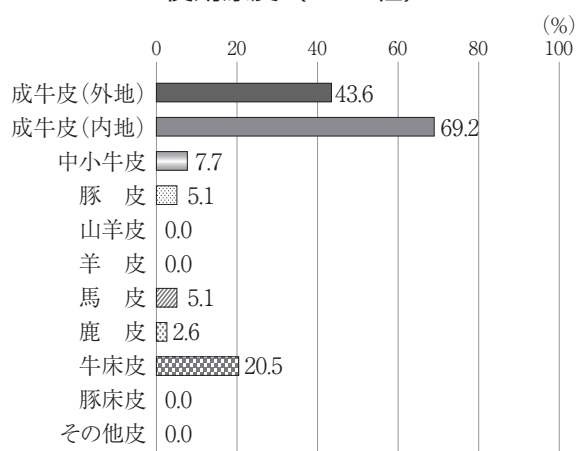
従業者数規模別構成比
(n=67社)



なめし区分比率 (n=36社)

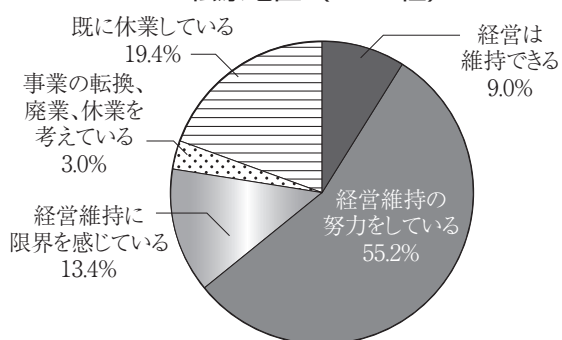


使用原皮 (n=39社)

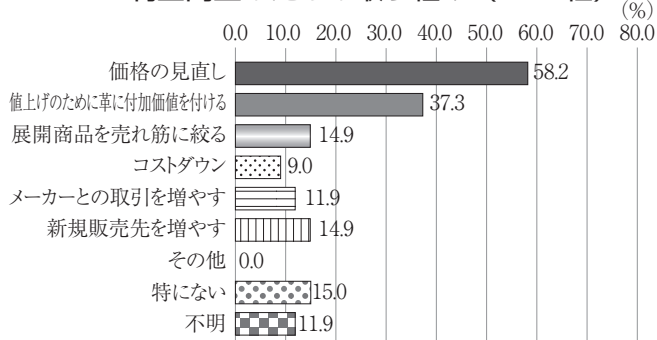


〈経営状況・取組み〉

松原地区 (n=67社)

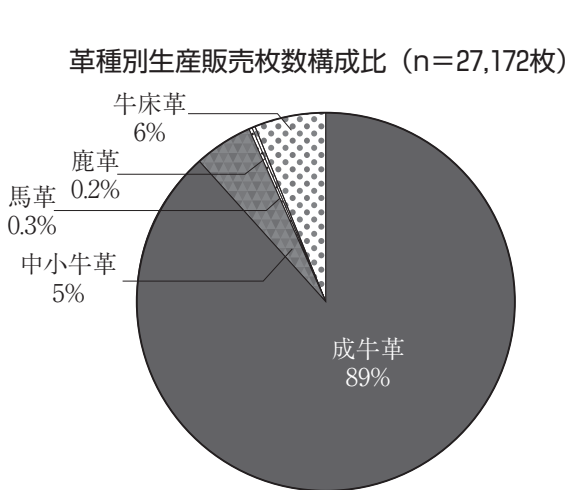


利益向上のための取組み (n=67社)



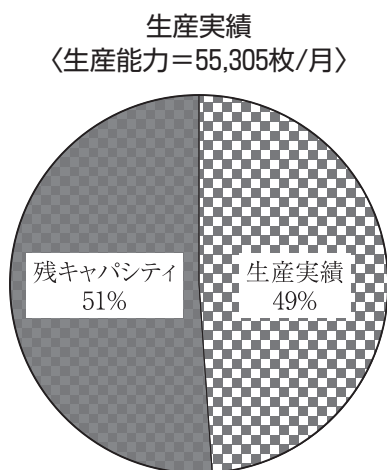
②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数(月産/丸革)	27,172枚/月(前年比▲2,524枚/月)
仕向け先構成比	国内向け:94.8% 輸出:5.2%



(枚/月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	24,096	88.7%
中小牛革	1,300	4.8%
豚革	0	-
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	70	0.3%
鹿革	50	0.2%
牛床革	1,656	6.1%
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	27,172	100.0%

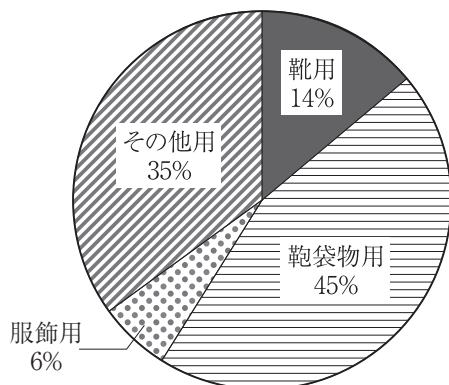


(枚/月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	51,400	24,176	47.0%
中小牛革	1,135	1,100	96.9%
豚革	0	0	-
山羊革	0	0	-
羊革	0	0	-
馬革	70	70	100.0%
鹿革	0	0	-
牛床革	2,700	1,656	61.3%
豚床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	55,305	27,002	48.8%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=27,172枚)



(枚/月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	3,909	14.4%
鞆袋物用	12,303	45.3%
服飾用	1,501	5.5%
その他用	9,459	34.8%
計	27,172	100.0%

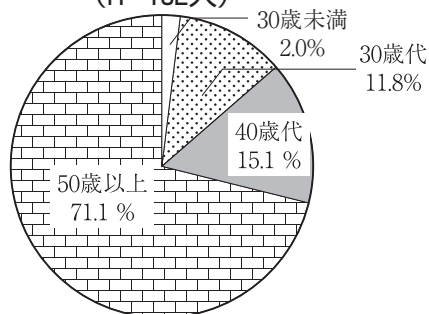
6. 地区別集計：②誉田地区

①製革業者データ(令和7年)

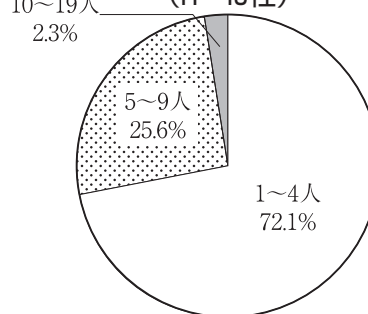
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	43 社 (会員 43 社 / 非会員 - 社)
従業者数	152 人 (前年比: +9 人)
性別構成	男性: 96 人 女性: 56 人
平均従業者数 / 1 社	3.5 人 (前年比 +0.1 人)

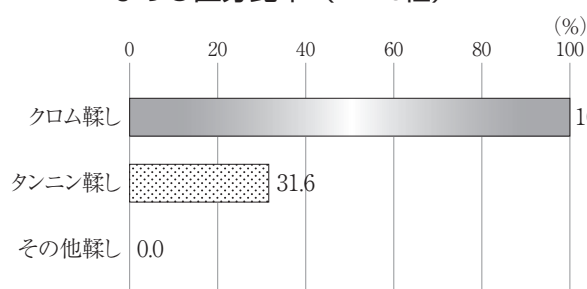
従業者年代別構成比
(n=152人)



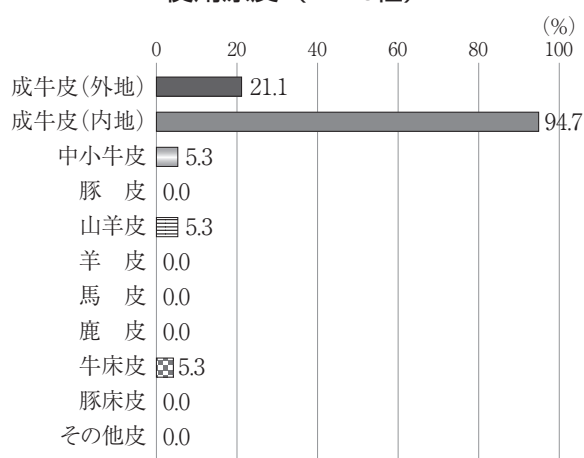
従業者数規模別構成比
(n=43社)



なめし区分比率 (n=19社)

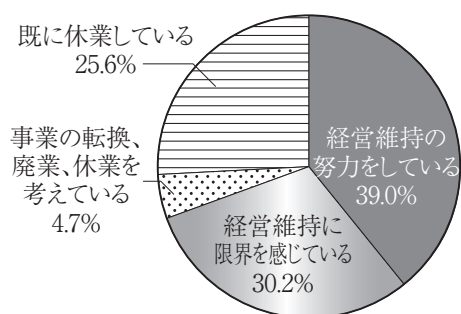


使用原皮 (n=19社)

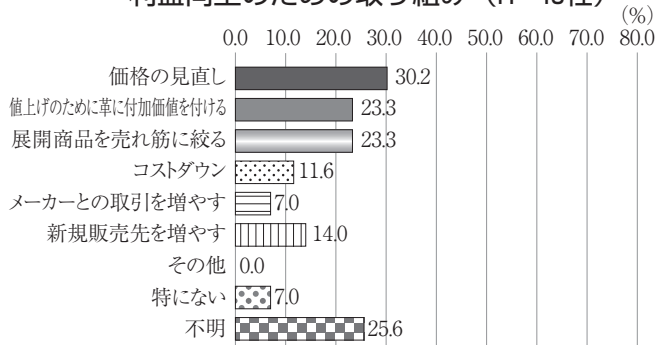


〈経営状況・取組み〉

誉田地区 (n=43社)

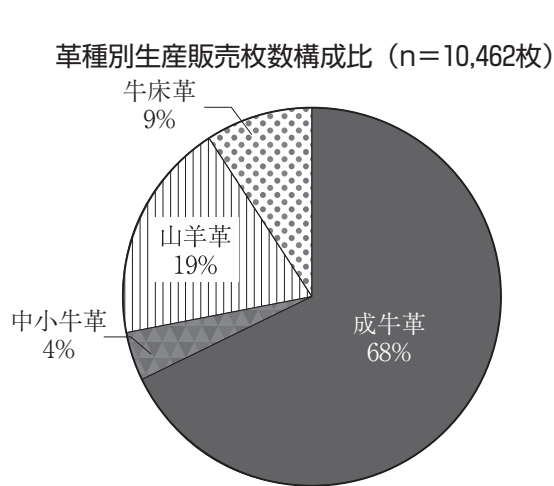


利益向上のための取組み (n=43社)



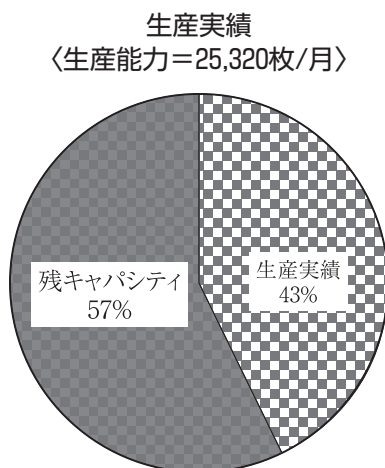
②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数(月産/丸革)	10,462枚/月(前年比+1,269枚/月)
仕向け先構成比	国内向け:99.0% 輸出:1.0%



(枚/月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	7,103	67.9%
中小牛革	459	4.4%
豚革	0	-
山羊革	2,000	19.1%
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	0	-
牛床革	900	8.6%
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	10,462	100.0%

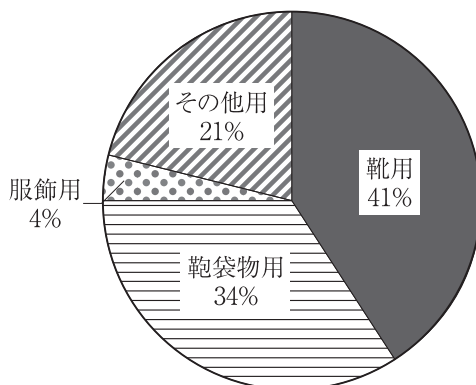


(枚/月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	18,600	7,453	40.1%
中小牛革	720	459	63.8%
豚革	0	0	-
山羊革	3,000	2,000	66.7%
羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	0	0	-
牛床革	3,000	1,000	33.3%
豚床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	25,320	10,912	43.1%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=10,462枚)



(枚/月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	4,350	41.6%
鞆袋物用	3,551	33.9%
服飾用	380	3.6%
その他用	2,181	20.8%
計	10,462	100.0%

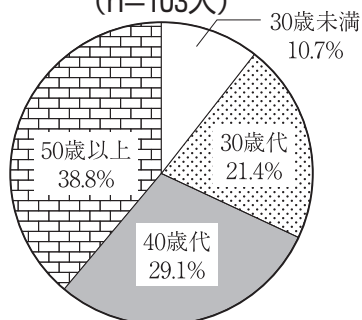
6. 地区別集計：③沢田地区

①製革業者データ(令和7年)

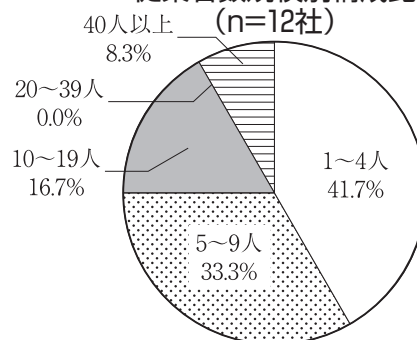
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	12社 (会員12社 / 非会員-社)
従業者数	103人 (前年比：+3人)
性別構成	男性：64人 女性：39人
平均従業者数 / 1社	8.6人 (前年比+0.3人)

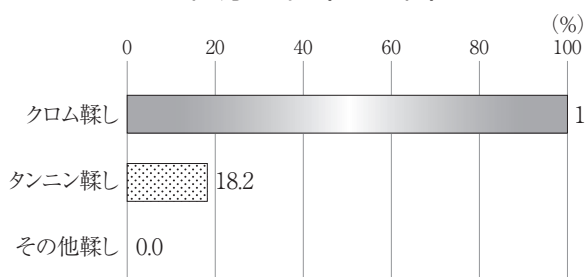
従業者年代別構成比
(n=103人)



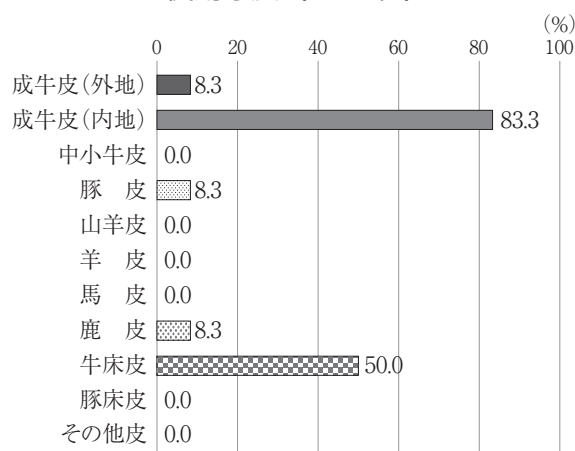
従業者数規模別構成比
(n=12社)



なめし区分比率 (n=11社)

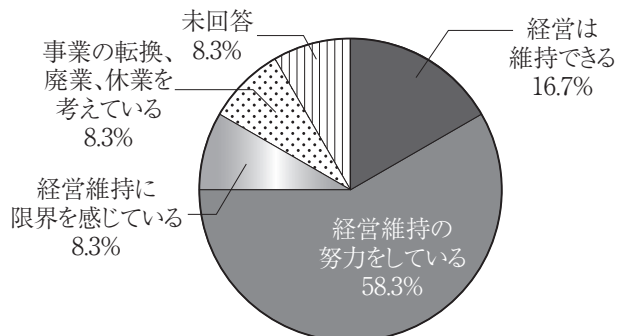


使用原皮 (n=12社)

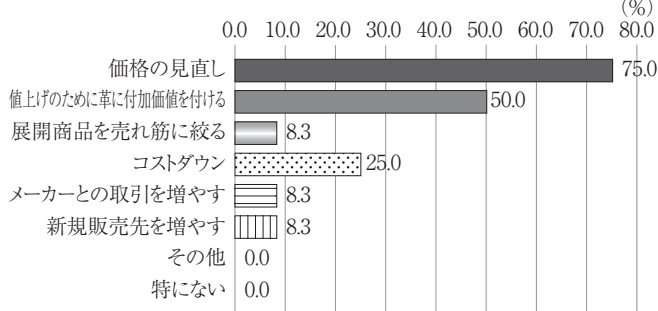


〈経営状況・取組み〉

沢田地区 (n=12社)



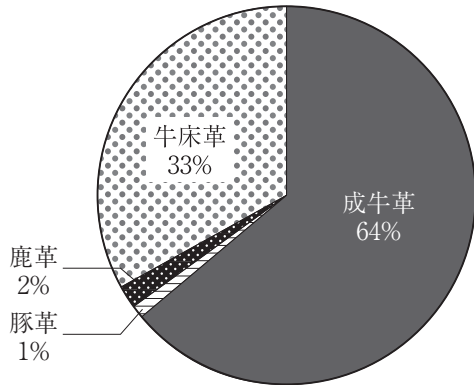
利益向上のための取組み (n=12社)



②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数 (月産 / 丸革)	10,600 枚 / 月 (前年比▲ 2,795 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：93.4% 輸出：6.6%

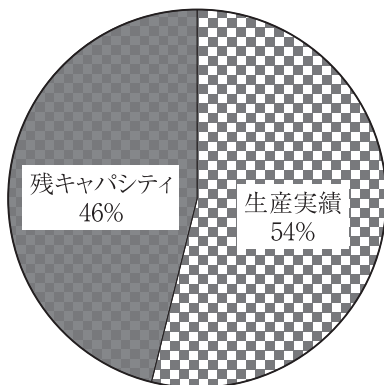
革種別生産販売枚数構成比 (n=10,600枚)



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	6,830	64.4%
中小牛革	0	-
豚革	100	0.9%
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	200	1.9%
牛床革	3,470	32.7%
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	10,600	100.0%

生産実績
〈生産能力=19,740枚/月〉

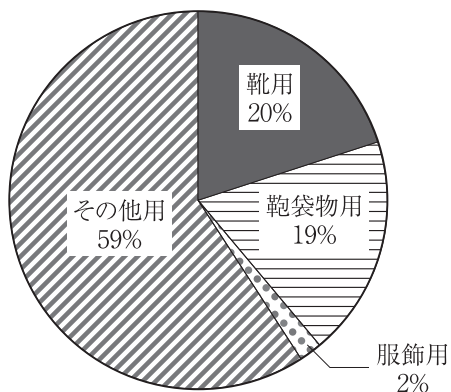


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	11,780	6,830	58.0%
中小牛革	0	0	-
豚革	100	100	100.0%
山羊革	0	0	-
羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	500	200	40.0%
牛床革	7,360	3,470	47.1%
豚床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	19,740	10,600	53.7%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=10,600枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,180	20.6%
鞆袋物用	2,000	18.9%
服飾用	200	1.9%
その他用	6,220	58.7%
計	10,600	100.0%

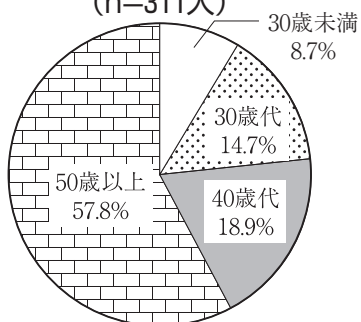
6. 地区別集計：④高木地区

①製革業者データ(令和7年)

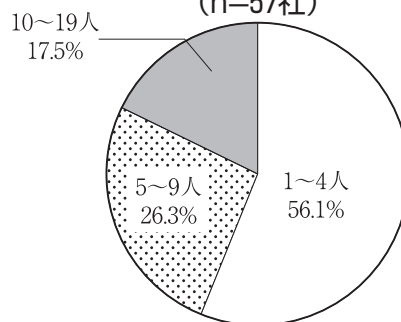
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	57社 (会員 56社 / 非会員 1社)
従業者数	311人 (前年比：-23人)
性別構成	男性：205人 女性：106人
平均従業者数 / 1社	5.5人 (前年比 +0.1人)

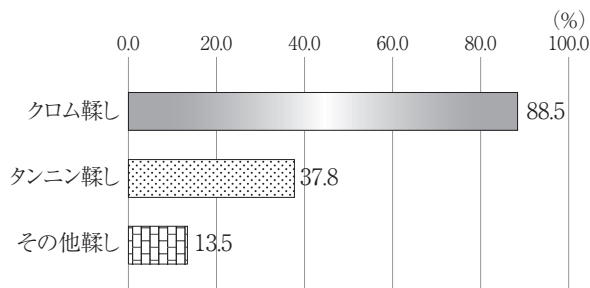
従業者年代別構成比
(n=311人)



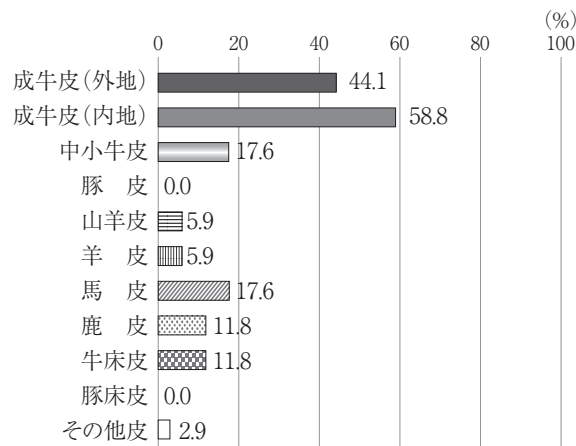
従業者数規模別構成比
(n=57社)



なめし区分比率 (n=35社)

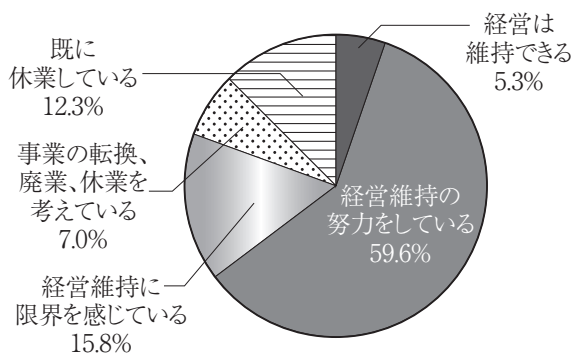


使用原皮 (n=34社)

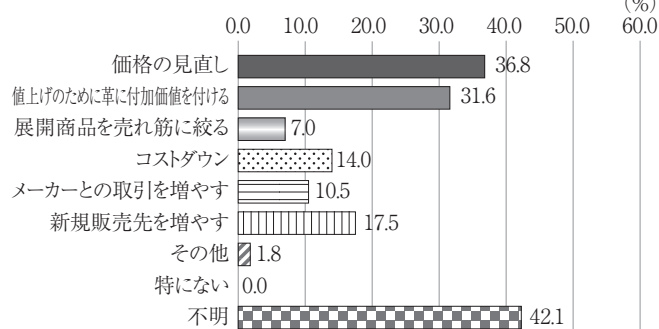


〈経営状況・取組み〉

高木地区 (n=57社)



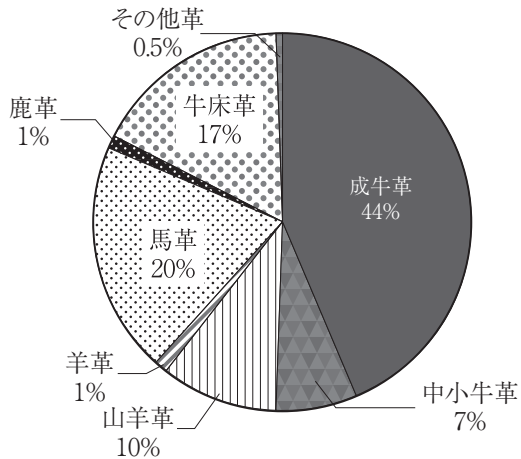
利益向上のための取組み (n=57社)



②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数 (月産 / 丸革)	20,438 枚 / 月 (前年比▲ 4,311 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：95.8% 輸出：4.2%

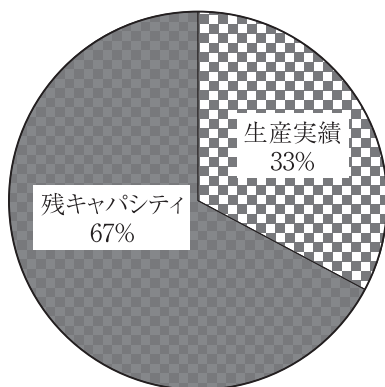
革種別生産販売枚数構成比 (n=20,438枚)



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	8,957	43.8%
中小牛革	1,395	6.8%
豚革	0	-
山羊革	2,000	9.8%
羊革	200	1.0%
馬革	4,051	19.8%
鹿革	132	0.6%
牛床革	3,603	17.6%
豚床革	0	-
その他革	100	0.5%
計	20,438	100.0%

生産実績
〈生産能力=64,791枚/月〉

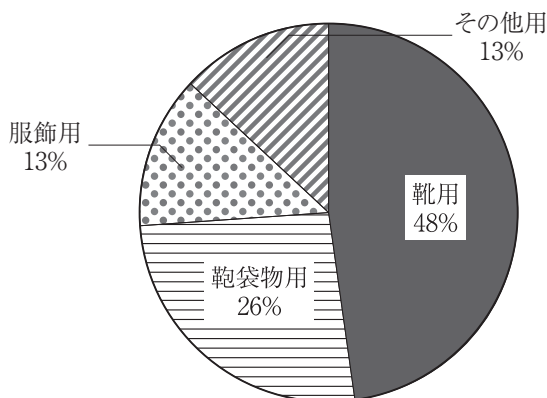


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	35,526	10,953	30.8%
中小牛革	3,380	1,545	45.7%
豚革	0	0	-
山羊革	4,000	2,000	50.0%
羊革	360	200	55.6%
馬革	6,510	2,918	44.8%
鹿革	1,140	132	11.6%
牛床革	13,675	3,600	26.3%
豚床革	100	100	100.0%
その他革	100	0	0.0%
計	64,791	21,448	33.1%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=20,438枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	9,886	48.4%
鞆袋物用	5,266	25.8%
服飾用	2,672	13.1%
その他用	2,614	12.8%
計	20,438	100.0%

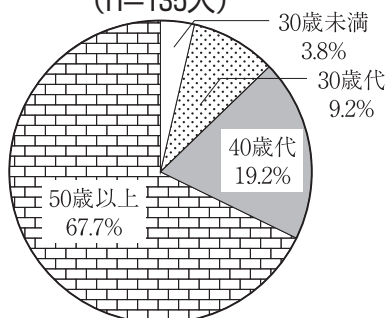
6. 地区別集計：⑤御着地区

①製革業者データ(令和7年)

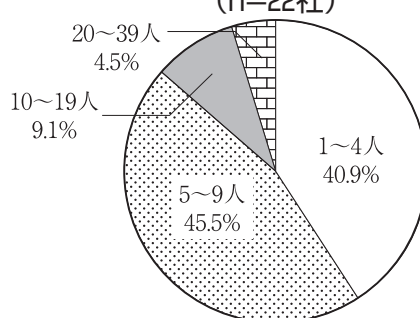
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	22 社 (会員 22 社 / 非会員 - 社)
従業者数	130 人 (前年比：- 5 人)
性別構成	男性：88 人 女性：42 人
平均従業者数 / 1 社	5.9 人 (前年比 - 0.2 人)

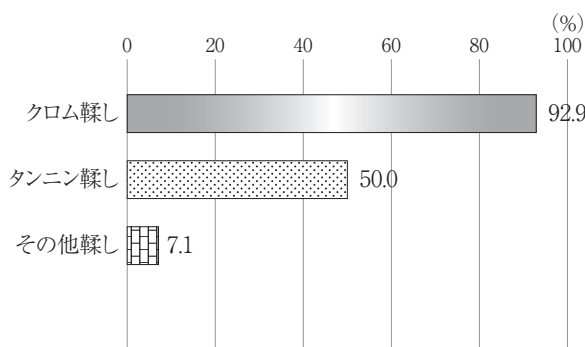
従業者年代別構成比
(n=135人)



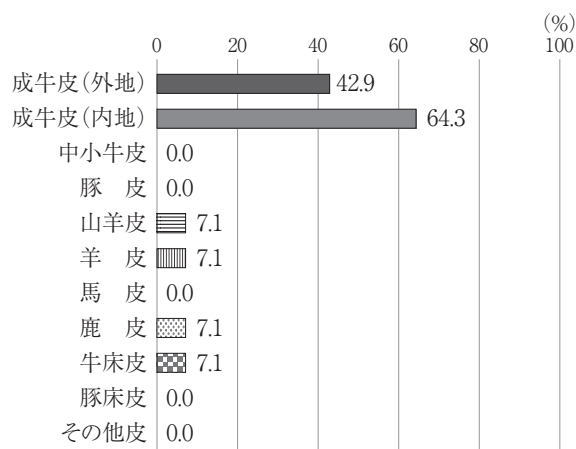
従業者数規模別構成比
(n=22社)



なめし区分比率 (n=14社)

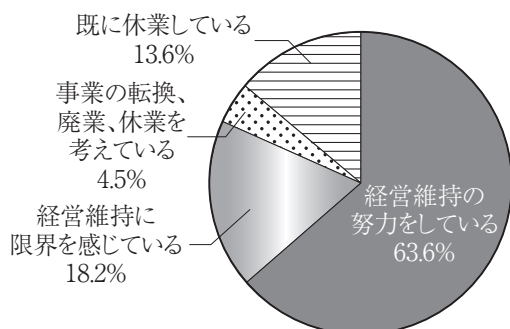


使用原皮 (n=14社)

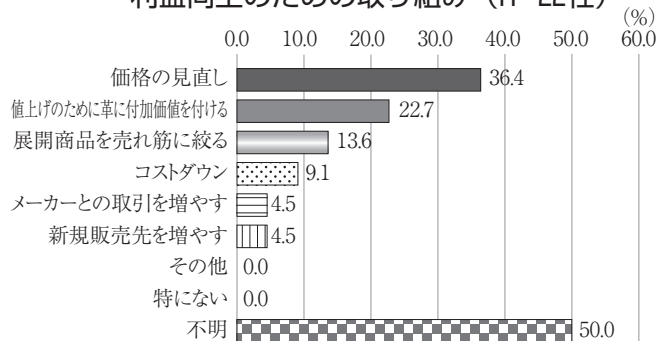


〈経営状況・取組み〉

御着 (n=22社)

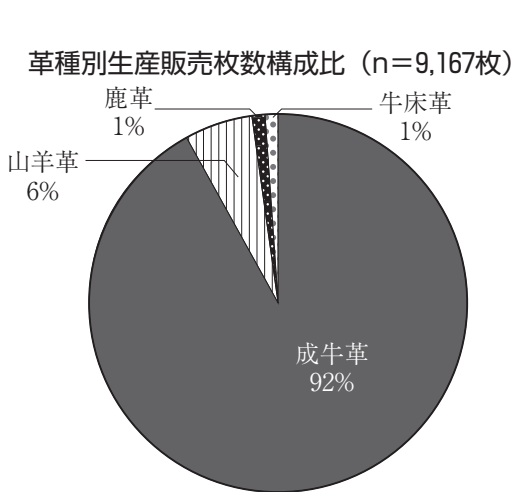


利益向上のための取組み (n=22社)



②生産販売データ(令和7年)

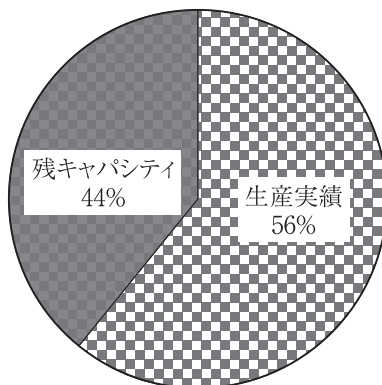
生産販売枚数 (月産 / 丸革)	9,167 枚 / 月 (前年比▲ 816 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：100.0% 輸出：0.0%



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	8,417	91.8%
中小牛革	0	-
豚革	0	-
山羊革	600	6.5%
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	50	0.5%
牛床革	100	1.1%
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	9,167	100.0%

生産実績
(生産能力=16,940枚/月)

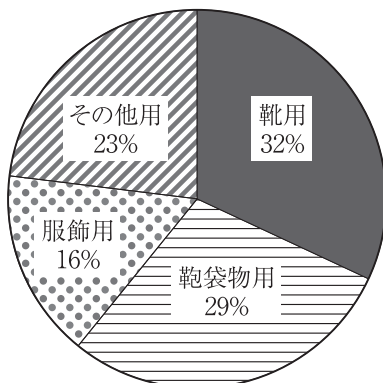


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	15,840	8,930	56.4%
中小牛革	0	0	-
豚革	0	0	-
山羊革	0	0	-
羊革	500	400	80.0%
馬革	0	0	-
鹿革	300	100	33.3%
牛床革	300	100	33.3%
豚床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	16,940	9,530	56.3%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=9,167枚)



(枚 / 月産) 丸革

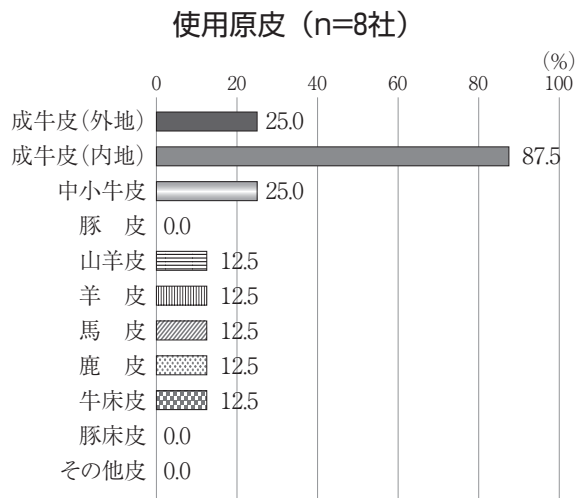
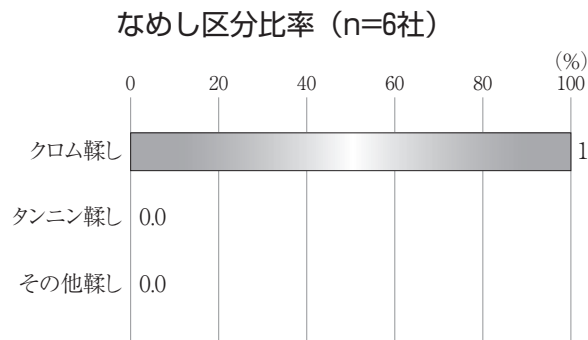
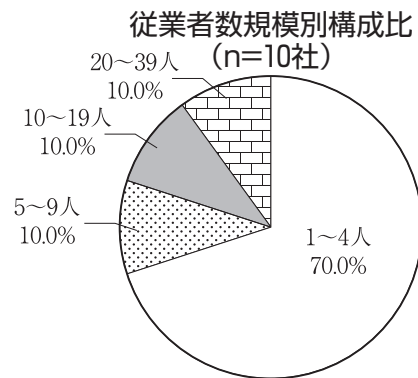
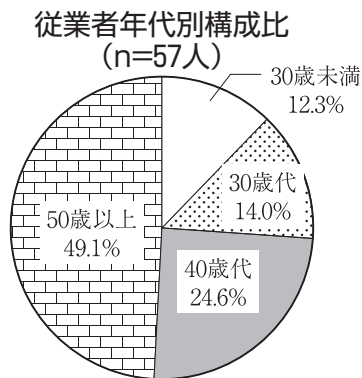
用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,894	31.6%
鞆袋物用	2,673	29.2%
服飾用	1,490	16.3%
その他用	2,110	23.0%
計	9,167	100.0%

6. 地区別集計：⑥川西地区

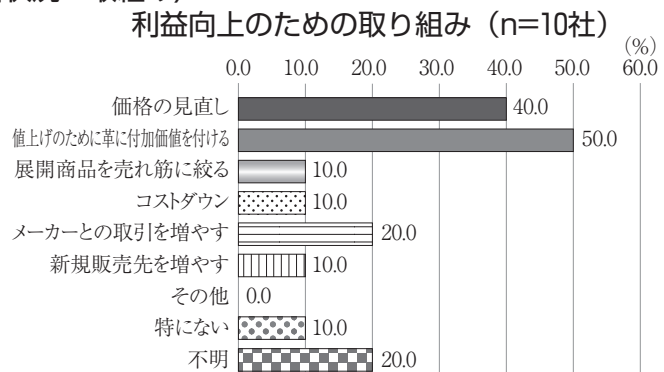
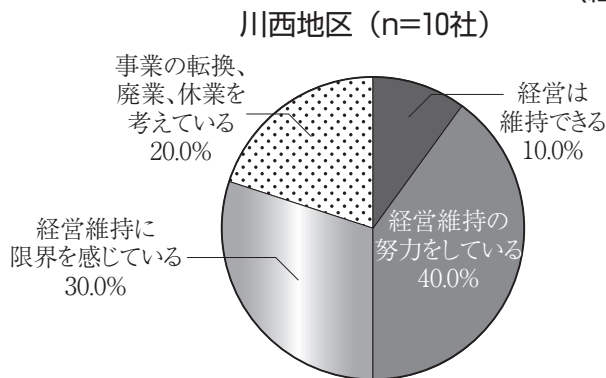
①製革業者データ(令和7年)

※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	10社 (会員10社 / 非会員-社)
従業者数	57人 (前年比: +2人)
性別構成	男性: 39人 女性: 18人
平均従業者数 / 1社	5.7人 (前年比 +0.2人)



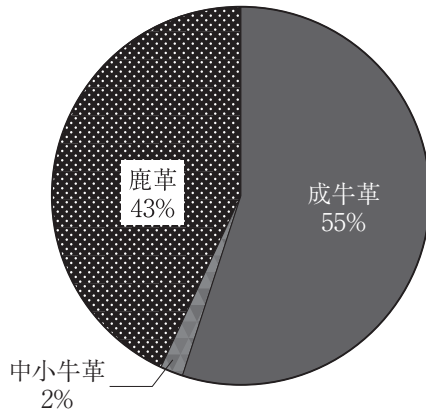
〈経営状況・取組み〉



②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数 (月産 / 丸革)	5,080 枚 / 月 (前年比 +990 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：100.0% 輸出：0.0%

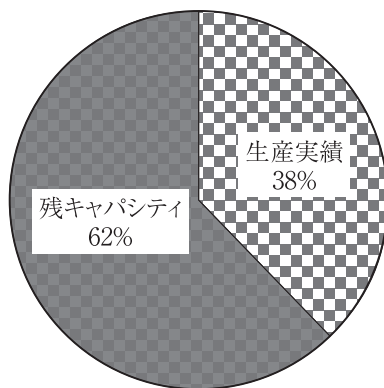
革種別生産販売枚数構成比 (n=5,080枚)



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	2,784	54.8%
中小牛革	96	1.9%
豚革	0	-
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	2,200	43.3%
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	5,080	100.0%

生産実績
〈生産能力=13,550枚/月〉

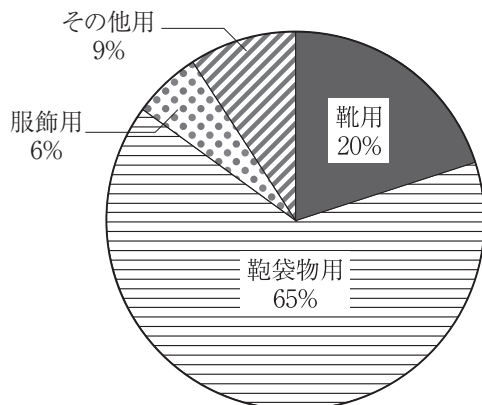


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	9,350	2,814	30.1%
中小牛革	200	96	48.0%
豚革	0	0	-
山羊革	0	0	-
羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	4,000	2,200	55.0%
牛床革	0	0	-
豚床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	13,550	5,110	37.7%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=5,080枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	1,000	19.7%
鞆袋物用	3,294	64.8%
服飾用	336	6.6%
その他用	450	8.9%
計	5,080	100.0%

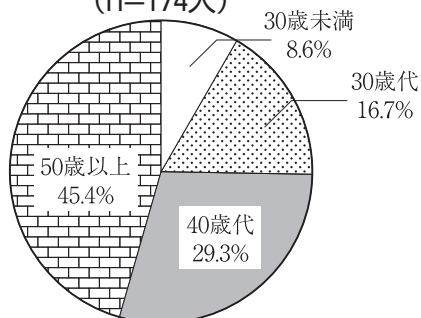
6. 地区別集計：⑦大阪他地区

①製革業者データ(令和7年)

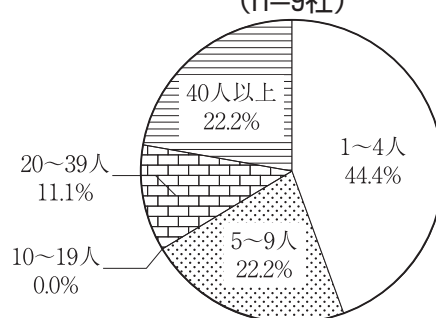
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	9社(会員9社/非会員-社)
従業者数	174人(前年比:-10人)
性別構成	男性:130人 女性:44人
平均従業者数/1社	19.3人(前年比-2.7人)

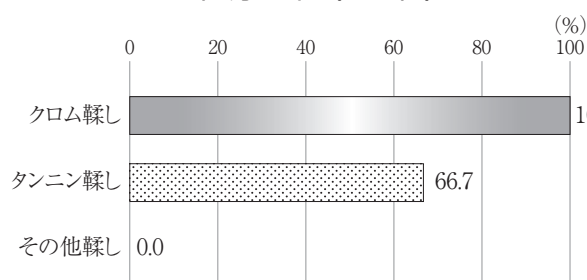
従業者年代別構成比
(n=174人)



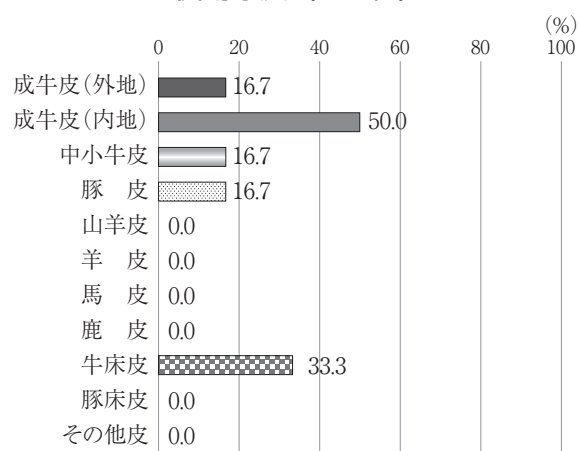
従業者数規模別構成比
(n=9社)



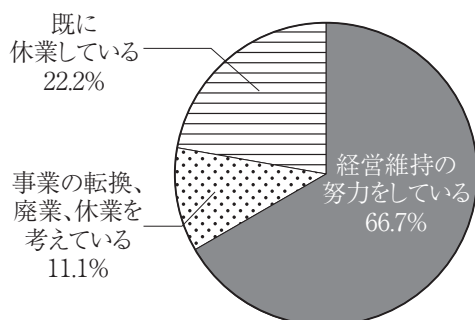
なめし区分比率 (n=3社)



使用原皮 (n=6社)

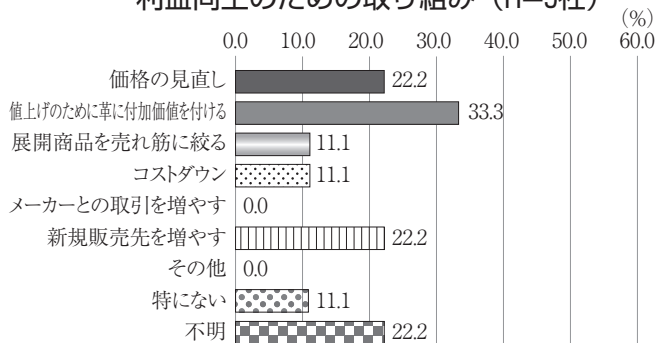


大阪他 (n=9社)



〈経営状況・取組み〉

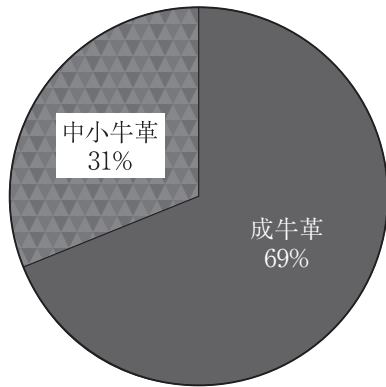
利益向上のための取組み (n=9社)



②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数 (月産 / 丸革)	2,600 枚 / 月 (前年比▲ 503 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：99.8% 輸出：0.2%

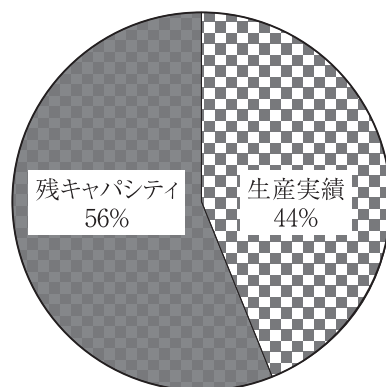
革種別生産販売枚数構成比 (n=2,600枚)



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	1,800	69.2%
中小牛革	800	30.8%
豚革	0	-
山羊革	0	-
羊革	0	-
馬革	0	-
鹿革	0	-
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	0	-
計	2,600	100.0%

生産実績
〈生産能力=6,750枚/月〉

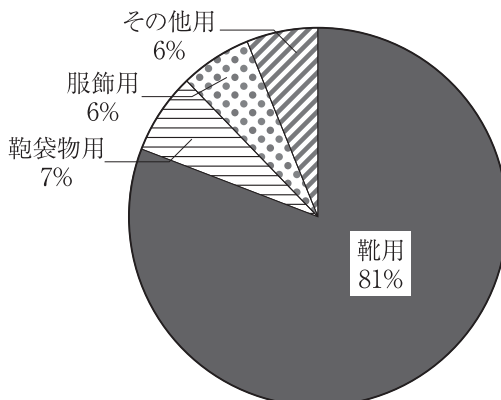


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	5,550	2,150	38.7%
中小牛革	1,200	800	66.7%
豚革	0	0	-
山羊革	0	0	-
羊革	0	0	-
馬革	0	0	-
鹿革	0	0	-
牛床革	0	0	-
豚床革	0	0	-
その他革	0	0	-
計	6,750	2,950	43.7%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=2,600枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	2,115	81.3%
鞆袋物用	165	6.3%
服飾用	165	6.3%
その他用	155	6.0%
計	2,600	100.0%

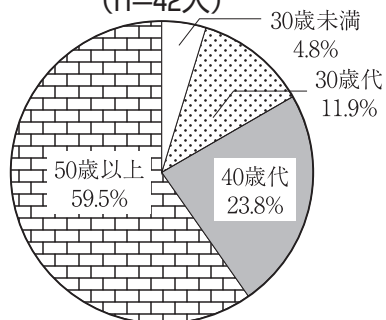
6. 地区別集計：⑧和歌山地区

①製革業者データ(令和7年)

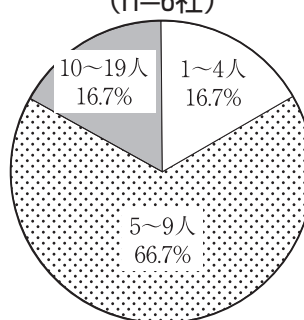
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	6社(会員6社/非会員-社)
従業者数	42人(前年比:-6人)
性別構成	男性:32人 女性:10人
平均従業者数/1社	7.0人(前年比+0.1人)

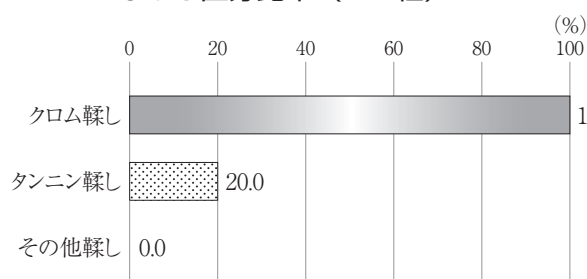
従業者年代別構成比
(n=42人)



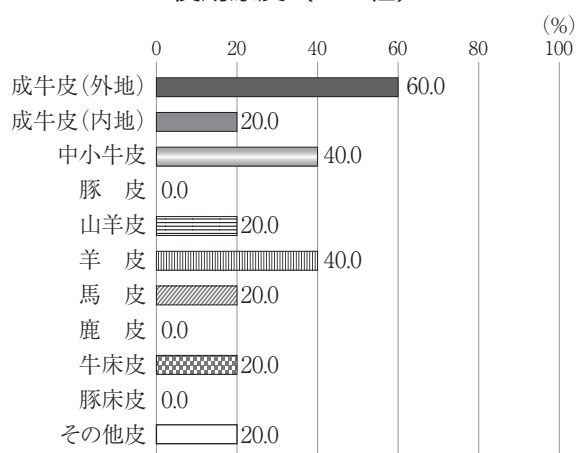
従業者数規模別構成比
(n=6社)



なめし区分比率 (n=5社)

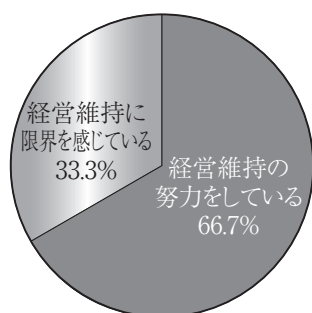


使用原皮 (n=5社)

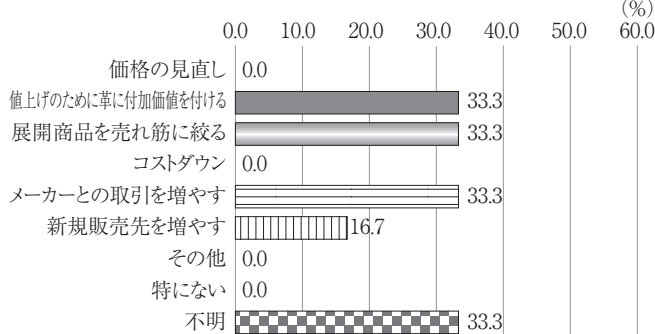


〈経営状況・取組み〉

和歌山(n=6社)



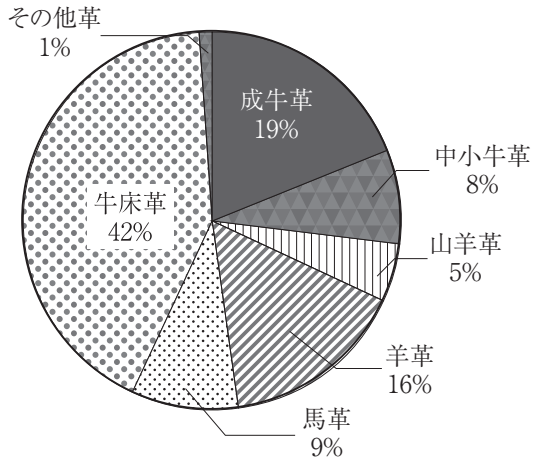
利益向上のための取組み (n=6社)



②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数 (月産 / 丸革)	7,539 枚 / 月 (前年比▲ 1,976 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：84.1% 輸出：15.9%

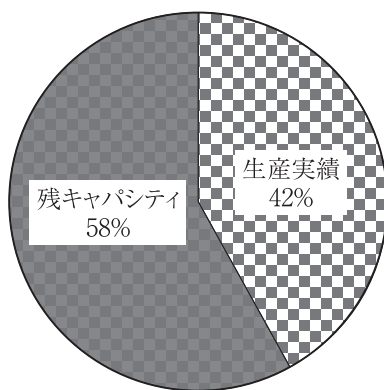
革種別生産販売枚数構成比 (n=7,539枚)



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	1,424	18.9%
中小牛革	555	7.4%
豚革	0	-
山羊革	400	5.3%
羊革	1,210	16.0%
馬革	700	9.3%
鹿革	0	-
牛床革	3,170	42.0%
豚床革	0	-
その他革	80	1.1%
計	7,539	100.0%

生産実績
〈生産能力=13,680枚/月〉

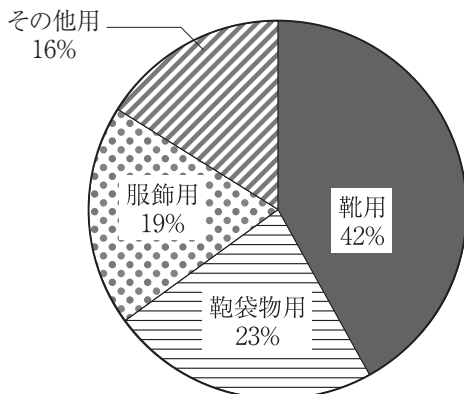


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	3,000	925	30.8%
中小牛革	2,600	580	22.3%
豚革	0	0	-
山羊革	1,300	400	30.8%
羊革	2,000	208	10.4%
馬革	0	0	-
鹿革	0	0	-
牛床革	4,300	3,600	83.7%
豚床革	0	0	-
その他革	480	80	16.7%
計	13,680	5,793	42.3%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=7,539枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	3,130	41.5%
鞆袋物用	1,764	23.4%
服飾用	1,445	19.2%
その他用	1,200	15.9%
計	7,539	100.0%

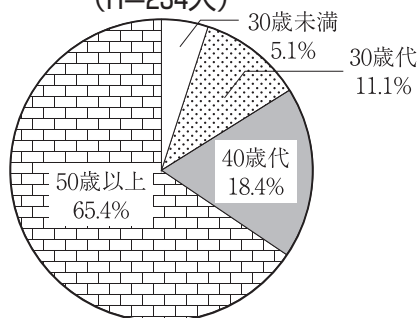
6. 地区別集計：⑨東京地区

①製革業者データ(令和7年)

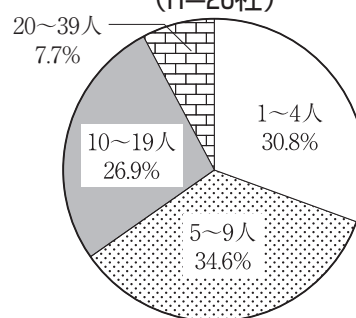
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	26 社 (会員 25 社 / 非会員 1 社)
従業者数	234 人 (前年比：- 13 人)
性別構成	男性：184 人 女性：50 人
平均従業者数 / 1 社	9.0 人 (前年比 +0.5 人)

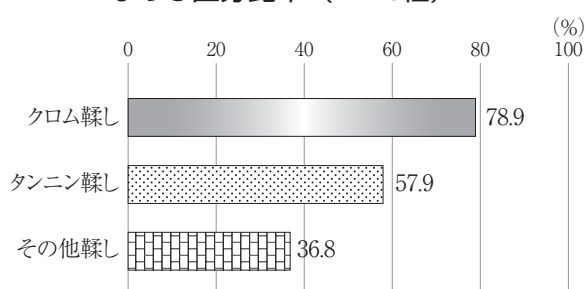
従業者年代別構成比
(n=234人)



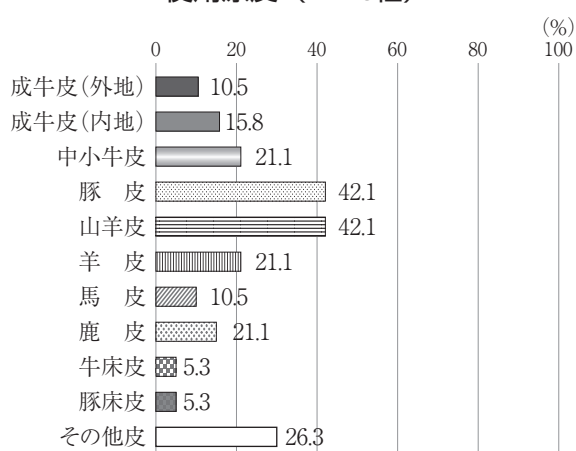
従業者数規模別構成比
(n=26社)



なめし区分比率 (n=19社)

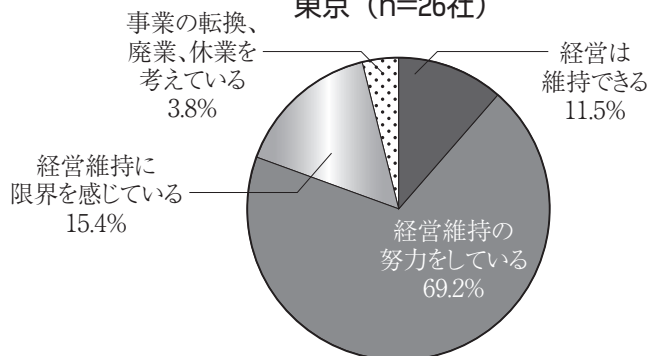


使用原皮 (n=19社)

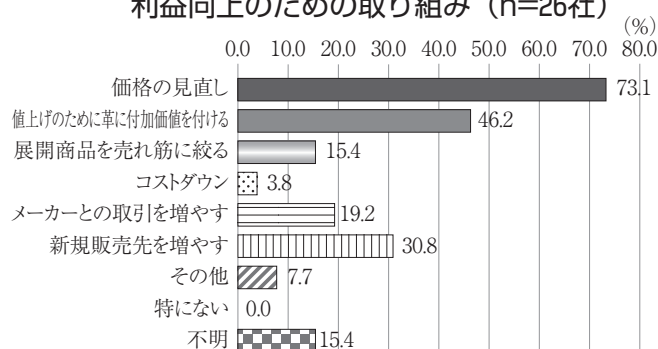


〈経営状況・取組み〉

東京 (n=26社)



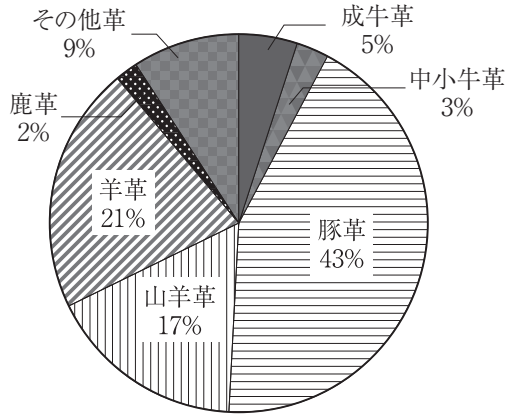
利益向上のための取組み (n=26社)



②生産販売データ(令和7年)

生産販売枚数 (月産 / 丸革)	44,036 枚 / 月 (前年比▲ 25,238 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：95.2% 輸出：4.8%

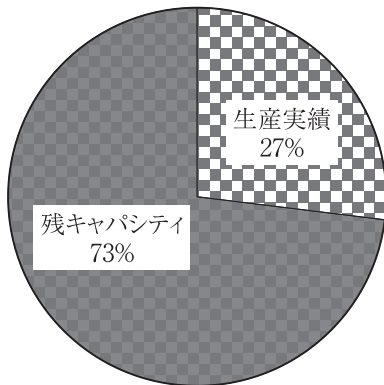
革種別生産販売枚数構成比 (n=44,036枚)



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	2,120	4.8%
中小牛革	1,250	2.8%
豚革	18,930	43.0%
山羊革	7,293	16.6%
羊革	9,433	21.4%
馬革	0	-
鹿革	853	1.9%
牛床革	0	-
豚床革	0	-
その他革	4,157	9.4%
計	44,036	100.0%

生産実績
〈生産能力=170,650枚/月〉

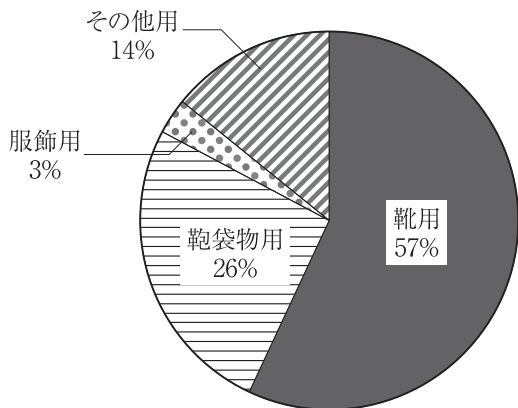


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	3,800	1,390	36.6%
中小牛革	3,500	1,150	32.9%
豚革	94,600	20,800	22.0%
山羊革	36,380	7,223	19.9%
羊革	16,060	9,933	61.8%
馬革	0	0	-
鹿革	2,310	883	38.2%
牛床革	0	0	-
豚床革	0	0	-
その他革	14,000	5,483	39.2%
計	170,650	46,862	27.5%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=44,036枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	25,070	56.9%
鞆袋物用	11,579	26.3%
服飾用	1,309	3.0%
その他用	6,078	13.8%
計	44,036	100.0%

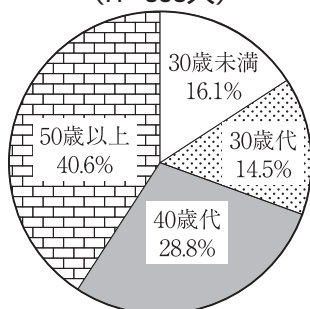
6. 地区別集計：⑩埼玉他地区

①製革業者データ(令和7年)

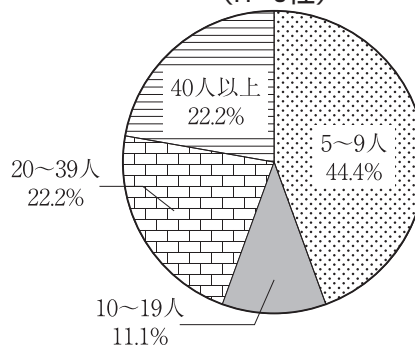
※ n 数は無回答を除く回答企業数

回答企業数	9社(会員9社/非会員-社)
従業者数	598人(前年比:±0人)
性別構成	男性:436人 女性:162人
平均従業者数/1社	66.4人(前年比±0人)

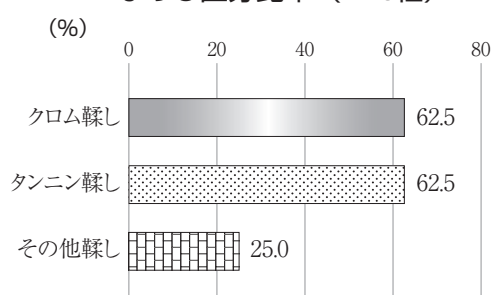
従業者年代別構成比
(n=598人)



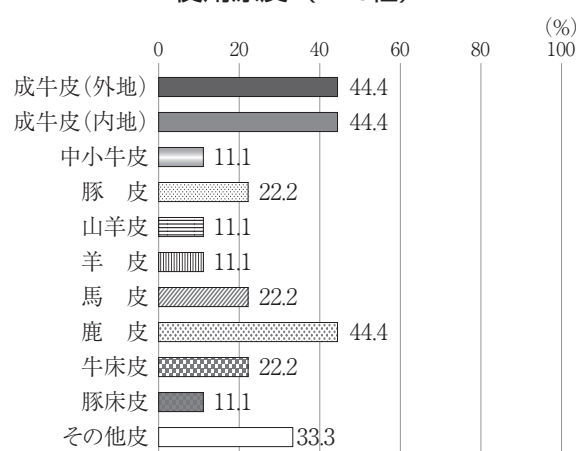
従業者数規模別構成比
(n=9社)



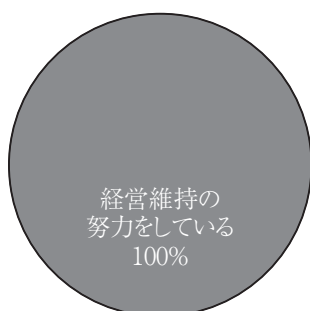
なめし区分比率 (n=8社)



使用原皮 (n=9社)

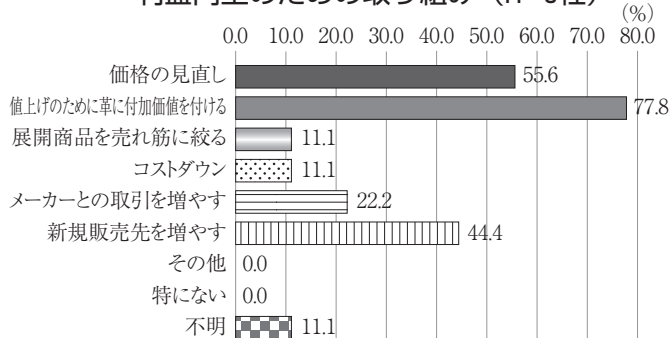


埼玉他 (n=9社)



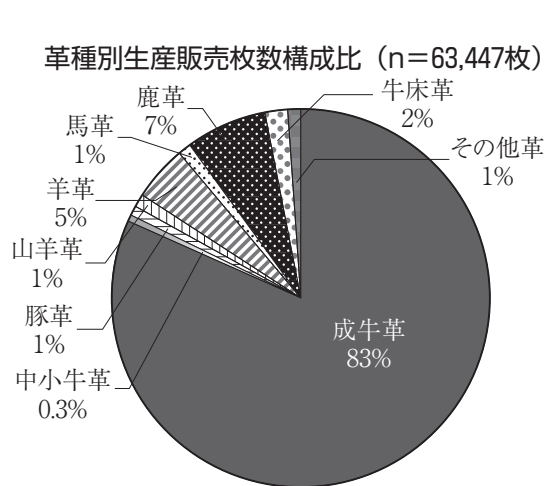
〈経営状況・取組み〉

利益向上のための取組み (n=9社)



②生産販売データ(令和7年)

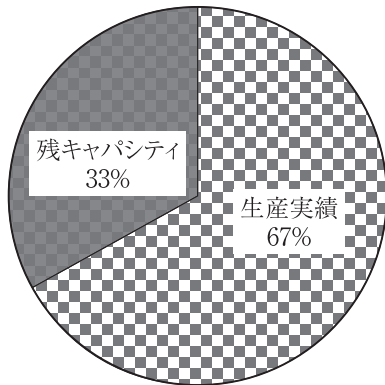
生産販売枚数 (月産 / 丸革)	63,447 枚 / 月 (前年比 +4,277 枚 / 月)
仕向け先構成比	国内向け：98.9% 輸出：1.1%



(枚 / 月産) 丸革

	販売枚数	構成比
成牛革	52,530	82.8%
中小牛革	200	0.3%
豚革	700	1.1%
山羊革	360	0.6%
羊革	3,000	4.7%
馬革	350	0.6%
鹿革	4,420	7.0%
牛床革	1,000	1.6%
豚床革	0	-
その他革	887	1.4%
計	63,447	100.0%

生産実績
〈生産能力=95,960枚/月〉

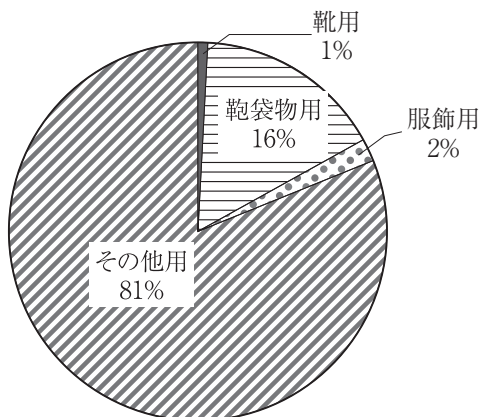


(枚 / 月産) 丸革

	生産能力	生産実績	操業率
成牛革	73,760	53,010	71.9%
中小牛革	400	200	50.0%
豚革	1,200	700	58.3%
山羊革	900	360	40.0%
羊革	6,000	3,000	50.0%
馬革	700	350	50.0%
鹿革	7,400	4,470	60.4%
牛床革	1,000	1,000	100.0%
豚床革	0	0	-
その他革	4,600	1,662	36.1%
計	95,960	64,752	67.5%

※生産実績は上記生産販売枚数とは異なる

用途別生産販売枚数構成比 (n=63,447枚)



(枚 / 月産) 丸革

用途	生産販売枚数	構成比
靴用	800	1.3%
鞆袋物用	10,417	16.4%
服飾用	1,150	1.8%
その他用	51,080	80.5%
計	63,447	100.0%

7. 卷末資料

表 7-1. 生産販売実績

(枚)月産/丸革

用途	地区 需要先	松		原		誉		田		沢		田		高		木		御		着		川		西		和歌山		東		京		埼玉		他						
		国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用	国内用	輸出用							
靴	紳士靴	318		250		500		1,770	285	788		450		1,290																										
	婦人靴	3,341		1,500		20		1,400		569		530		50																										
	安全・官需靴					1,520		395	117																															
	スポーツ靴			300				177																																
	その他の靴			100				20																																
	靴裏			200		40		260					20																											
	靴底														10																									
	ランドセル		50		310										5																		1,050							
	かばん		2,914		2,144		1,700		852		690		414		70																				800	200				
	ハンズバッグ		4,880		525		200		330		600		500		15																									
小物		4,399		572		100		618		1,383		130		50																										
服飾ベルト		360		100				63		950		50		165																										
服料		881		280		80		510		290		120																												
服飾手袋		200				40						120																												
草履						50																																		
草履底						30																																		
グローブミット等運動具		5,200	900	322	100	780		1,363	450	330		450		10																										
手芸工芸				200		50		6		20																														
家具、インテリア		460		200				250		200				135																										
カーシート																																								
工業手袋等安全具		153				1,720																																		
伝導ベルトサドル																																								
パッキング等工業用																																								
ウエットブルー																																								
その他の		40						91		1,500																														
合計		23,196	900	7,003	100	6,830		8,105	852	8,417		2,784		1,800																										

表 7-2. 生産実績内訳

生産実績内訳①

(枚)丸革/月産

地区	成牛革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原	20,131		2,925	30	1,040	50	24,176
誉田	5,361	1,150	842			100	7,453
沢田	5,050	1,500	230	50			6,830
高木	3,810	4,424	230	1,039	50	1,400	10,953
御着	4,665	2,810	1,455				8,930
川西	2,564	250					2,814
大阪他	420	1,350	380				2,150
和歌山						925	925
関西計	42,001	11,484	6,062	1,119	1,090	2,475	64,231
東京			40	1,150		200	1,390
埼玉他		8,660	2,080	70		42,200	53,010
関東計	0	8,660	2,120	1,220	0	42,400	54,400
全国計	42,001	20,144	8,182	2,339	1,090	44,875	118,631

(枚)丸革/月産

地区	中小牛革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原	850				250		1,100
誉田	395	64					459
沢田							0
高木		995	200			350	1,545
御着							0
川西	96						96
大阪他		800					800
和歌山						580	580
関西計	1,341	1,859	200	0	250	930	4,580
東京						1,150	1,150
埼玉他		200					200
関東計	0	200	0	0	0	1,150	1,350
全国計	1,341	2,059	200	0	250	2,080	5,930

(枚)丸革/月産

地区	豚革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原							0
誉田							0
沢田	100						100
高木							0
御着							0
川西							0
大阪他							0
和歌山							0
関西計	100	0	0	0	0	0	100
東京	15,220		4,180	400		1,000	20,800
埼玉他			700				700
関東計	15,220	0	4,880	400	0	1,000	21,500
全国計	15,320	0	4,880	400	0	1,000	21,600

生産実績内訳②

(枚)丸革/月産

地区	山羊革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原							0
誉田						2,000	2,000
沢田							0
高木						2,000	2,000
御着							0
川西							0
大阪他							0
和歌山						400	400
関西計	0	0	0	0	0	4,400	4,400
東京		600				6,623	7,223
埼玉他						360	360
関東計	0	600	0	0	0	6,983	7,583
全国計	0	600	0	0	0	11,383	11,983

(枚)丸革/月産

地区	羊革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原							0
誉田							0
沢田							0
高木						200	200
御着						400	400
川西							0
大阪他							0
和歌山		200				8	208
関西計	0	200	0	0	0	608	808
東京		2,367				7,566	9,933
埼玉他		800				2,200	3,000
関東計	0	3,167	0	0	0	9,766	12,933
全国計	0	3,367	0	0	0	10,374	13,741

(枚)丸革/月産

地区	馬革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原			70				70
誉田							0
沢田							0
高木	1,517		1,401				2,918
御着							0
川西							0
大阪他							0
和歌山							0
関西計	1,517	0	1,471	0	0	0	2,988
東京							0
埼玉他	300			50			350
関東計	300	0	0	50	0	0	350
全国計	1,817	0	1,471	50	0	0	3,338

生産実績内訳③

(枚)丸革/月産

地区	鹿 革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原							0
誉田							0
沢田	200						200
高木	40		62	30			132
御着		50	50				100
川西	2,200						2,200
大阪他							0
和歌山							0
関西計	2,440	50	112	30	0	0	2,632
東京	453	50				380	883
埼玉他	270		3,100			1,100	4,470
関東計	723	50	3,100	0	0	1,480	5,353
全国計	3,163	100	3,212	30	0	1,480	7,985

(枚)丸革/月産

地区	牛 床 革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原	1,656						1,656
誉田		1,000					1,000
沢田	1,870	900			700		3,470
高木	600	3,000					3,600
御着		100					100
川西							0
大阪他							0
和歌山		3,600					3,600
関西計	4,126	8,600	0	0	700	0	13,426
東京							0
埼玉他			1,000				1,000
関東計	0	0	1,000	0	0	0	1,000
全国計	4,126	8,600	1,000	0	700	0	14,426

(枚)丸革/月産

地区	豚 床 革						
	クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
	原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松原							0
誉田							0
沢田							0
高木			100				100
御着							0
川西							0
大阪他							0
和歌山							0
関西計	0	0	100	0	0	0	100
東京							0
埼玉他							0
関東計	0	0	0	0	0	0	0
全国計	0	0	100	0	0	0	100

生産実績内訳④

(枚)丸革/月産

地区	種類	その他 革						
		クロムなめし		タンニンなめし	その他鞣し		クラストから	合計枚数
		原皮から	ウェットブルーから	原皮から	原皮から	ウェットブルーから		
松 原							0	
誉 田							0	
沢 田							0	
高 木							0	
御 着							0	
川 西							0	
大阪他							0	
和歌山						80	80	
関西計		0	0	0	0	80	80	
東 京		2,344		500	1,097	1,542	5,483	
埼玉他		267		973	131	291	1,662	
関東 計		2,611	0	1,473	1,228	1,833	7,145	
全国 計		2,611	0	1,473	1,228	1,913	7,225	

表 7 - 3. なめし革輸入統計 (HSコード : 41.04~41.13の集計)

※数量 (㎡) は判明分のみ集計

	単位	2020	2021	2022	2023	2024	2025
総計	数量 (㎡)	3,664,373	2,261,465	2,060,329	4,581,012	4,349,988	3,744,978
	数量 (kg)	5,149,565	2,955,647	2,795,842	6,057,176	6,428,050	5,031,953
	金額 (1,000 円)	7,209,362	7,612,157	8,483,486	13,987,927	15,514,462	12,451,388
中華人民共和国	数量 (㎡)	39,997	573,012	572,045	157,627	223,451	97,441
	数量 (kg)	58,914	580,410	555,393	355,303	492,387	70,057
	金額 (1,000 円)	249,312	2,170,560	2,352,822	785,571	1,100,928	447,454
韓国	数量 (㎡)	34,497	30,952	34,620	39,871	27,078	25,797
	数量 (kg)	36,042	52,026	68,996	42,557	35,951	42,705
	金額 (1,000 円)	121,859	130,432	134,265	181,144	126,406	107,424
タイ	数量 (㎡)	218,577	186,097	170,465	116,291	137,356	131,143
	数量 (kg)	565,817	162,093	166,881	213,992	335,399	261,913
	金額 (1,000 円)	388,941	861,815	691,437	212,648	301,059	381,906
バングラディシュ	数量 (㎡)	243,038	12,330	18,404	242,234	217,353	173,396
	数量 (kg)	216,966	11,655	18,382	218,930	202,287	158,856
	金額 (1,000 円)	579,035	52,935	99,673	712,578	664,935	499,962
パキスタン	数量 (㎡)	96,492	93,235	94,466	76,024	72,607	78,212
	数量 (kg)	68,192	70,559	71,213	57,068	55,076	56,031
	金額 (1,000 円)	174,598	185,240	239,133	187,933	193,019	200,052
インド	数量 (㎡)	103,142	5,255	12,641	112,665	108,932	109,115
	数量 (kg)	89,687	2,889	82,921	90,041	98,176	104,416
	金額 (1,000 円)	186,848	9,699	12,853	305,833	302,533	302,381
イギリス	数量 (㎡)	36,058	2,751	1,871	55,334	53,664	45,968
	数量 (kg)	108,009	1,989	1,121	167,088	180,304	141,303
	金額 (1,000 円)	148,516	16,001	14,320	343,218	247,848	239,660
フランス	数量 (㎡)	24,451	160	190	32,699	26,699	32,325
	数量 (kg)	24,910	162	230	38,044	32,126	38,121
	金額 (1,000 円)	259,022	9,344	12,317	562,781	578,362	564,400
イタリア	数量 (㎡)	363,855	127	741	436,094	481,570	459,711
	数量 (kg)	539,161	60	206	652,606	727,026	687,764
	金額 (1,000 円)	1,879,312	617	3,798	3,074,905	3,552,816	3,528,494
トルコ	数量 (㎡)	36,365	-	-	200,532	280,616	209,464
	数量 (kg)	32,084	-	-	426,685	633,741	485,507
	金額 (1,000 円)	116,595	-	-	576,394	820,213	539,235
アメリカ	数量 (㎡)	62,201	2,569	6,529	44,051	60,424	77,015
	数量 (kg)	184,056	1,845	3,905	123,694	224,982	322,504
	金額 (1,000 円)	245,639	17,101	27,482	290,311	380,849	452,048
メキシコ	数量 (㎡)	1,834,096	112	17	2,311,484	2,112,618	1,717,350
	数量 (kg)	2,046,852	101	30	2,114,504	1,955,969	1,403,077
	金額 (1,000 円)	1,633,564	290	495	4,383,894	5,113,280	3,142,058
ブラジル	数量 (㎡)	84,725	161,283	195,442	205,873	71,481	227,378
	数量 (kg)	206,878	388,144	412,120	258,771	189,083	300,279
	金額 (1,000 円)	84,772	225,394	383,398	359,490	111,644	343,450
オーストラリア	数量 (㎡)	202,146	618	583	253,410	191,490	164,466
	数量 (kg)	521,464	301	208	682,929	612,366	532,070
	金額 (1,000 円)	228,372	2,067	2,543	573,421	558,317	581,212

■革種別集計

※「その他革」の数量（㎡）は判明分のみ集計

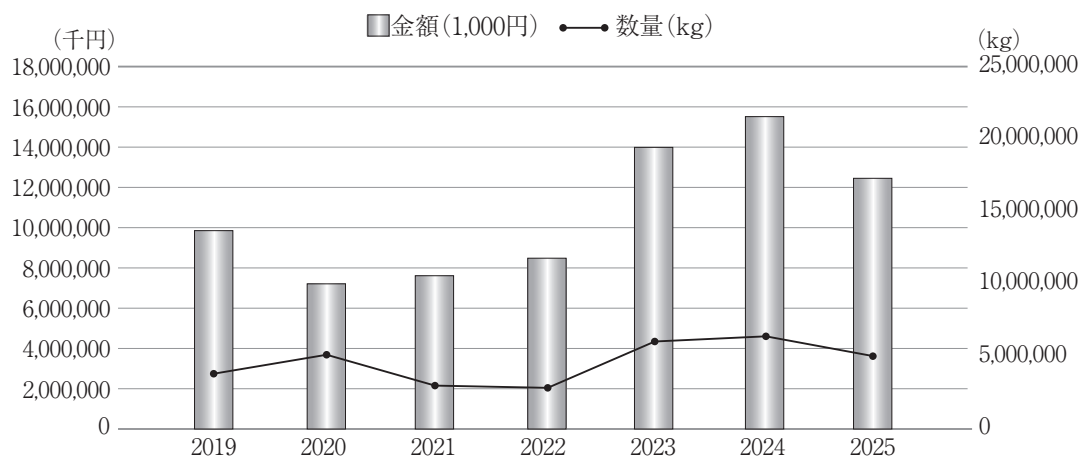
	単位	2020	2021	2022	2023	2024	2025
牛・馬革 41.04、41.07	数量（㎡）	3,361,332	1,638,787	1,706,254	4,281,691	4,096,628	3,491,993
	数量（kg）	4,904,701	1,987,599	1,966,495	5,782,922	6,175,974	4,780,827
	金額（1,000円）	6,019,943	6,968,861	7,857,501	12,242,302	13,552,703	10,647,004
羊革 41.05、41.12	数量（㎡）	178,231	20,804	26,034	208,383	164,844	160,557
	数量（kg）	123,070	8,004	9,948	158,242	134,131	130,223
	金額（1,000円）	400,110	119,118	169,363	644,211	588,040	558,844
その他革 41.06、41.13	数量（㎡）	124,810	601,874	328,041	90,938	88,516	92,428
	数量（kg）	121,794	960,044	819,399	116,012	117,945	120,903
	金額（1,000円）	789,309	524,178	456,622	1,101,414	1,373,719	1,245,540

■地域別集計

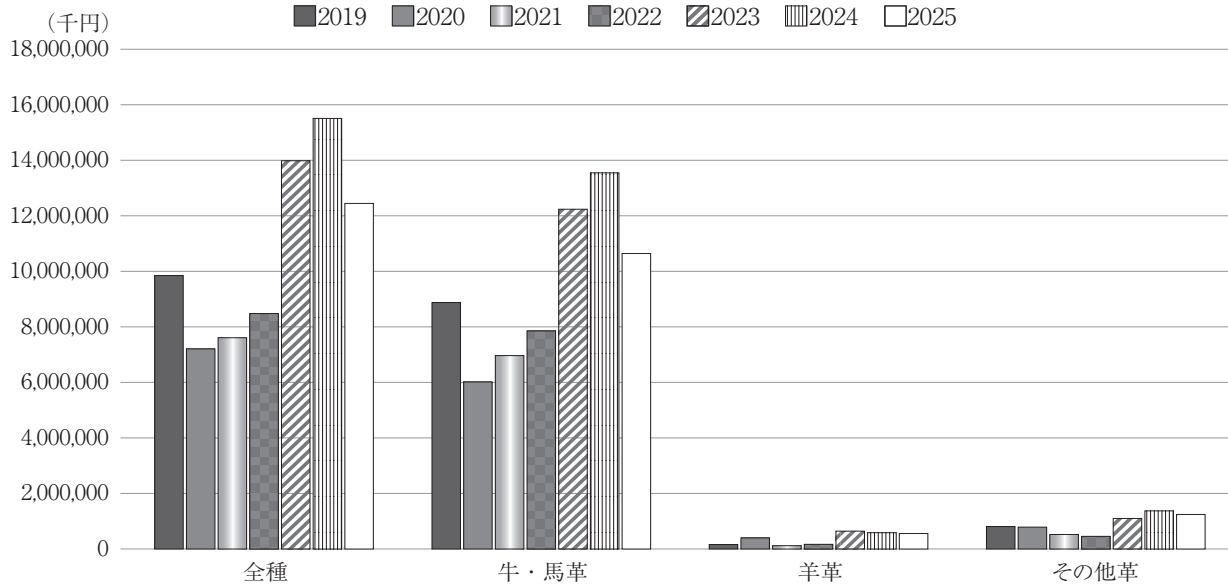
※数量（㎡）は判明分のみ集計

	単位	2020	2021	2022	2023	2024	2025
東アジア	数量（㎡）	97,295	1,091,633	951,517	199,993	254,909	135,813
	数量（kg）	139,672	1,670,398	1,347,198	400,874	533,230	140,018
	金額（1,000円）	389,850	3,175,454	3,285,182	972,925	1,235,701	586,179
東南アジア	数量（㎡）	276,653	1,102,521	1,013,400	162,849	162,511	156,976
	数量（kg）	589,609	1,230,538	1,292,822	234,946	347,941	275,391
	金額（1,000円）	539,985	4,185,169	4,862,750	393,851	475,398	532,511
西アジア	数量（㎡）	442,672	54,613	74,006	443,812	405,766	360,815
	数量（kg）	374,845	46,928	137,624	384,769	367,408	319,390
	金額（1,000円）	940,481	190,340	257,786	1,235,718	1,176,771	1,002,611
欧州	数量（㎡）	640,031	4,481	9,282	942,597	1,060,293	898,709
	数量（kg）	1,050,612	2,711	10,413	1,817,488	2,102,334	1,728,818
	金額（1,000円）	2,976,891	34,865	40,382	5,605,014	6,207,866	5,683,659
北アメリカ	数量（㎡）	1,896,297	7,599	9,231	2,356,293	2,182,468	1,794,365
	数量（kg）	2,230,908	4,771	5,570	2,239,969	2,216,189	1,725,581
	金額（1,000円）	1,879,203	24,262	33,991	4,676,762	5,515,905	3,594,106
オセアニア	数量（㎡）	202,146	618	583	253,410	191,490	164,466
	数量（kg）	521,464	301	208	682,930	612,372	532,070
	金額（1,000円）	228,372	2,067	2,543	574,378	560,126	581,212

なめし革輸入数量・金額推移（世界計）



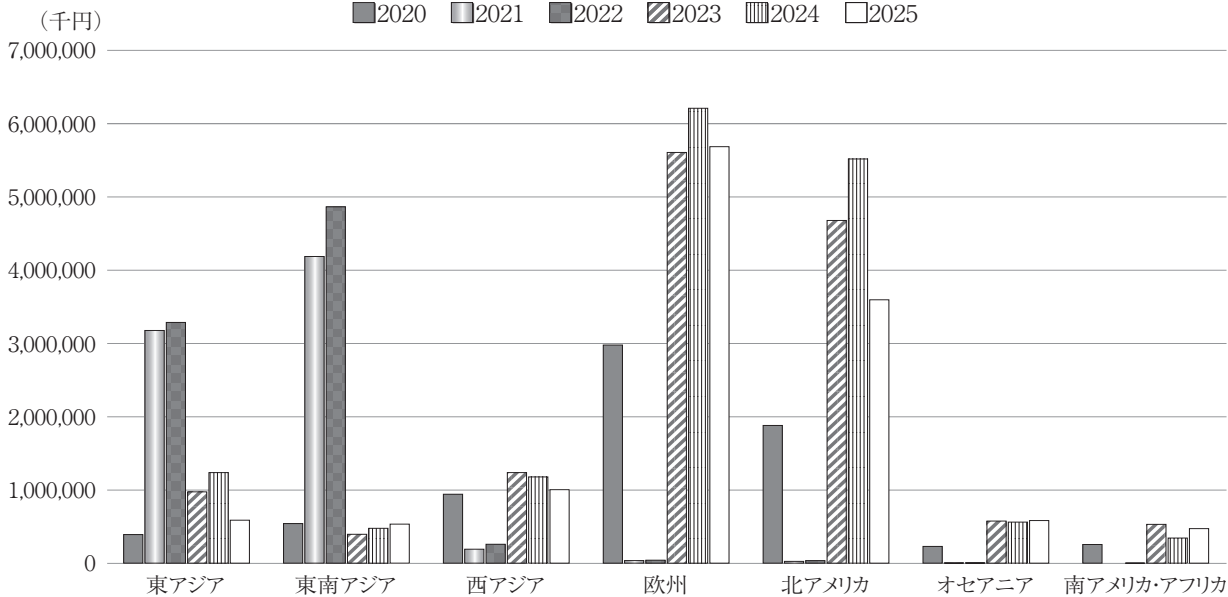
革種別なめし革輸入金額推移



単位：千円

	2020	2021	2022	2023	2024	2025
全 種	7,209,362	7,612,157	8,483,486	13,987,927	15,514,462	12,451,388
牛・馬革	6,019,943	6,968,861	7,857,501	12,242,302	13,552,703	10,647,004
羊 革	400,110	119,118	169,363	644,211	588,040	558,844
その他革	789,309	524,178	456,622	1,101,414	1,373,719	1,245,540

地域別なめし革輸入金額推移



単位：千円

	2020	2021	2022	2023	2024	2025
東アジア	389,850	3,175,454	3,285,182	972,925	1,235,701	586,179
東南アジア	539,985	4,185,169	4,862,750	393,851	475,398	532,511
西アジア	940,481	190,340	257,786	1,235,718	1,176,771	1,002,611
欧州	2,976,891	34,865	40,382	5,605,014	6,207,866	5,683,659
北アメリカ	1,879,203	24,262	33,991	4,676,762	5,515,905	3,594,106
オセアニア	228,372	2,067	2,543	574,378	560,126	581,212
南アメリカ・アフリカ	254,580	0	852	529,279	342,695	471,110

令和 7 年 度

製革業実態調査面接調査票

(一社)日本タンナーズ協会

1. 事業の概要について

企 業 名		年代別従業員数 (代表者及び家族従業員を含める)						
代 表 者 名	(歳)		男	女	計			
事業所所在地		20歳未満	人	人	人			
電 話 番 号	- -	20 歳 代	人	人	人			
		30 歳 代	人	人	人			
創 立 年 月	大・昭 平・令 年 月	40 歳 代	人	人	人			
		50歳以上	人	人	人			
		合 計	人	人	人			
社用メールアドレス：()・なし								
<p>該当する方は、○をつけて下さい。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <p>1. 部分工程のみ ()</p> <p>2. 海外生産のみ</p> <p>3. 休業中</p> </td> <td style="width: 5%; border: none; text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="width: 45%; border: none;"> <p>7ページの【現状及び今後について】へ進んで下さい。</p> </td> </tr> </table> <p>それ以外の方は、このまま続けて回答して下さい。</p>						<p>1. 部分工程のみ ()</p> <p>2. 海外生産のみ</p> <p>3. 休業中</p>	}	<p>7ページの【現状及び今後について】へ進んで下さい。</p>
<p>1. 部分工程のみ ()</p> <p>2. 海外生産のみ</p> <p>3. 休業中</p>	}	<p>7ページの【現状及び今後について】へ進んで下さい。</p>						
なめしの区分 (○印をつけ て下さい)	<p>1. クロム鞣 (コンビを含む)</p> <p>2. タンニン鞣</p> <p>3. その他の鞣</p>							
<p>主な使用原皮 (ウェットブルーも含む)</p> <p>〔該当するものに○印をつけて下さい。〕</p>	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <p>1. 牝牛皮(ブル)</p> <p>2. ヘビーステア</p> <p>3. ライトステア</p> <p>4. カウヘッファー</p> <p>5. デイリーステア</p> <p>6. デイリーカウ</p> <p>7. ジャージー(豪州、ニュージー)</p> <p>8. カウ・オックス(豪州、ニュージー)</p> <p>9. ホルス(内地)</p> <p>10. 一毛(内地)</p> </td> <td style="width: 5%; border: none;"></td> <td style="width: 45%; border: none;"> <p>11. 中小牛皮</p> <p>12. 豚皮</p> <p>13. 山羊皮(ゴート、キッド)</p> <p>14. 羊皮(シープ、ラム)</p> <p>15. 馬皮</p> <p>16. 鹿皮</p> <p>17. 牛床皮</p> <p>18. 豚床皮</p> <p>19. その他の皮_____</p> </td> </tr> </table>					<p>1. 牝牛皮(ブル)</p> <p>2. ヘビーステア</p> <p>3. ライトステア</p> <p>4. カウヘッファー</p> <p>5. デイリーステア</p> <p>6. デイリーカウ</p> <p>7. ジャージー(豪州、ニュージー)</p> <p>8. カウ・オックス(豪州、ニュージー)</p> <p>9. ホルス(内地)</p> <p>10. 一毛(内地)</p>		<p>11. 中小牛皮</p> <p>12. 豚皮</p> <p>13. 山羊皮(ゴート、キッド)</p> <p>14. 羊皮(シープ、ラム)</p> <p>15. 馬皮</p> <p>16. 鹿皮</p> <p>17. 牛床皮</p> <p>18. 豚床皮</p> <p>19. その他の皮_____</p>
<p>1. 牝牛皮(ブル)</p> <p>2. ヘビーステア</p> <p>3. ライトステア</p> <p>4. カウヘッファー</p> <p>5. デイリーステア</p> <p>6. デイリーカウ</p> <p>7. ジャージー(豪州、ニュージー)</p> <p>8. カウ・オックス(豪州、ニュージー)</p> <p>9. ホルス(内地)</p> <p>10. 一毛(内地)</p>		<p>11. 中小牛皮</p> <p>12. 豚皮</p> <p>13. 山羊皮(ゴート、キッド)</p> <p>14. 羊皮(シープ、ラム)</p> <p>15. 馬皮</p> <p>16. 鹿皮</p> <p>17. 牛床皮</p> <p>18. 豚床皮</p> <p>19. その他の皮_____</p>						

2. 生産販売動向について

国内において自社で生産販売したもののみ記入して下さい。

下請工場(業者)は最終製品迄製造したものを記入し、部分工程の場合は記入しないで下さい。

本年1月～7月の1ヵ月平均で該当する欄にご記入下さい。

用途		革種 需要先	成牛革(丸革)		中小牛革(丸革)	
			国内用	輸出用	国内用	輸出用
靴 用	紳士靴甲用		枚	枚	枚	枚
	婦人靴甲用		枚	枚	枚	枚
	安全・官需靴甲用		枚	枚	枚	枚
	スポーツ靴甲用		枚	枚	枚	枚
	その他の靴甲用		枚	枚	枚	枚
	靴裏用		枚	枚	枚	枚
	靴底用		枚	枚	枚	枚
鞆袋物用	ランドセル用		枚	枚	枚	枚
	かばん用		枚	枚	枚	枚
	ハンドバッグ用		枚	枚	枚	枚
	小物用		枚	枚	枚	枚
服 飾 用	服飾ベルト用		枚	枚	枚	枚
	衣料用		枚	枚	枚	枚
	服飾手袋用		枚	枚	枚	枚
	草履用		枚	枚	枚	枚
	草履底用		枚	枚	枚	枚
そ の 他 用	グローブミット等 運動具用		枚	枚	枚	枚
	手芸工芸用		枚	枚	枚	枚
	家具、インテリア用		枚	枚	枚	枚
	カーシート用		枚	枚	枚	枚
	工業手袋等安全具用		枚	枚	枚	枚
	伝導ベルトサドル パッキング等工業用		枚	枚	枚	枚
	ウェットブルー (国内向販売は記入しない)			枚		枚
	その他 ()		枚	枚	枚	枚
合計			枚	枚	枚	枚

(注) 用途不明の場合はその他用の欄にご記入下さい。

用途		革種 需要先	馬 革 (丸革)		鹿 革	
			国内用	輸出用	国内用	輸出用
靴 用	紳士靴甲用		枚	枚	枚	枚
	婦人靴甲用		枚	枚	枚	枚
	安全・官需靴甲用		枚	枚	枚	枚
	スポーツ靴甲用		枚	枚	枚	枚
	その他の靴甲用		枚	枚	枚	枚
	靴裏用		枚	枚	枚	枚
	靴底用		枚	枚	枚	枚
鞆袋物用	ランドセル用		枚	枚	枚	枚
	かばん用		枚	枚	枚	枚
	ハンドバッグ用		枚	枚	枚	枚
	小物用		枚	枚	枚	枚
服 飾 用	服飾ベルト用		枚	枚	枚	枚
	衣料用		枚	枚	枚	枚
	服飾手袋用		枚	枚	枚	枚
	草履用		枚	枚	枚	枚
	草履底用		枚	枚	枚	枚
そ の 他 用	グローブミット等 運動具用		枚	枚	枚	枚
	手芸工芸用		枚	枚	枚	枚
	家具、インテリア用		枚	枚	枚	枚
	カーシート用		枚	枚	枚	枚
	工業手袋等安全具用		枚	枚	枚	枚
	伝導ベルトサドル パッキング等工業用		枚	枚	枚	枚
	ウェットブルー (国内向販売は記入しない)			枚		枚
	その他 ()		枚	枚	枚	枚
合 計			枚	枚	枚	枚

(注) 用途不明の場合はその他用の欄にご記入下さい。

現在の 操業率	%
------------	---

3. 生産能力及び最近の生産実績について

何れも1ヵ月当りの「まる革」生産枚数で表示して下さい。
 生産能力は設備をフル稼働した場合の生産出来る枚数を示して下さい。
 生産実績は本年1月～7月の1ヵ月平均で示して下さい。

単位：枚(丸革)

原皮	区分 鞣他	最近の生産実績			生産能力		
		クロム鞣 (コンビを含む)	タンニン鞣	その他の鞣 染色	クロム鞣 (コンビを含む)	タンニン鞣	その他の鞣 染色
成牛皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
中小牛皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
豚皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
山羊皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
羊皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
馬皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
鹿皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
牛床皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
豚床皮	原皮からの生産						
	ウェットブルーからの生産						
その他皮 ()							

クラストからの生産

単位：枚(丸革)

	最近の生産実績	生産能力
成牛皮		
中小牛皮		
豚皮		
山羊皮		
羊皮		
馬皮		
鹿皮		
その他皮()		

4. 現状及び今後について

●利益向上に向けて行っている取り組みについて 現在、利益向上に向けて行っている取り組みはどのようなものですか？（複数回答可）

1. 価格の見直し（値上げ）を行っている
2. 価格を上げるために生産する革に付加価値をつけるよう努力している
3. 展開する商品を売れ筋に絞り込んでいる
4. 原料（原皮・薬品等）を他社との連携で仕入れるなど、コストダウンを図っている
5. メーカーとの取引を増やしている
6. 新規の販売先を増やしている
7. その他（ ）

●今後の経営（製革業）について、どのようなお考えですか。

（ I～Vの内いずれか1つに○印をつけて下さい。）

I. 経営（製革業）は維持できると確信している。

II. 経営（製革業）を維持したいと努力している。

III. 経営（製革業）の維持に限界を感じている。

IV. 事態によっては事業の転換、または廃業、休業を考えている。

V. 既に休業している。

IからIVのいずれかに○印をつけた方は、

右の1～23の理由の内、できるだけ5項目以内で○印をつけて下さい。

Vに○印をつけた方は、右の1～3の理由のいずれか1つに○印をつけて下さい。

1. 原皮相場をのりきることができる。
2. 技術の優位性に自信がある。
3. 新商品を作ることで成果が得られる。
4. 生産の合理化及びグループ化を図るなどのコストダウンで切り抜ける。
5. 現在の販売価格、販売量で採算が合っている。
6. 今の為替相場でも海外の市場開拓に自信がある（輸出を積極的に行う）。
7. 利益を上げる自信がある。
8. 製品の価格競争力がある。
9. 現在実施している競争力強化事業に期待する。
10. 注文が不安定。
11. コスト高（特に次の）で採算がとれない。
 I1. に○印をつけた方は

a	原皮高
b	原皮入手困難
c	副資材(薬品・燃料等)や光熱などの諸経費高
d	人件費(生活費)高
e	金利負担過重
f	公害対策費過重
g	少量多品種
h	その他（ ）
12. 販売先が不安。
13. 製品価格が上げられない。
14. 生産過剰、過当競争市場のため。
15. 資金難が著しい。
16. 後継者がいないから廃業する。
17. 技術者の確保が困難。
18. 人手(従業員)の確保が困難。
19. 下請け会社や周辺産業(フレッシング・シェーピング)が不安。
20. 市場の変化に対応できない。
21. EPA・FTAなど経済連携協定の影響が不安。
22. 戦争等による世界情勢の悪化が不安。
23. その他（ ）

1. 需要が回復すれば操業再開。
2. 操業再開の意思なく、廃業を考えている。
3. その他（ ）

令和7（2025）年度

製革業実態調査報告書

令和8年3月 発行

発行者 一般社団法人 日本タンナーズ協会

中嶋 幹夫

〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町129番地

あさひビル3階

電話 姫路(079)282-6701番

FAX 姫路(079)282-6703番
